

(案)

# 原子力発電所周辺環境放射能測定結果

(令和 6 年度 第 1 四半期)

福 島 県

# 目次

第1	測定結果の概要	1
	用語の解説	9
第2	測定項目	12
第3	測定方法	18
第4	測定結果	
4-1	空間放射線	
4-1-1	空間線量率	
(1)	ガンマ線	26
(2)	中性子線	27
4-1-2	空間積算線量	27
4-2	環境試料	
4-2-1	大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能	
(1)	6時間連続集じん・6時間放置後測定	28
(2)	集じん中測定	29
4-2-2	環境試料中の核種濃度（ガンマ線放出核種）	29
4-2-3	環境試料中の核種濃度（ベータ線放出核種）	32
4-2-4	環境試料中の核種濃度（アルファ線放出核種）	34
第5	原子力発電所周辺環境放射能測定値一覧表	
5-1	空間放射線	
5-1-1	空間線量率	
(1)	ガンマ線	37
(2)	ガンマ線（比較対照地点）	40
(3)	中性子線	41
5-1-2	空間積算線量	42
5-2	環境試料	
5-2-1	大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能	45
5-2-2 (1)	大気浮遊じんの核種濃度	47
5-2-2 (2)	大気浮遊じんの核種濃度（比較対照地点）	51
5-2-3 (1)	大気中水分のトリチウム濃度	52
5-2-3 (2)	大気中水分のトリチウム濃度（比較対照地点）	53
5-2-4 (1)	降下物の核種濃度	54
5-2-4 (2)	降下物の核種濃度（比較対照地点）	55
5-2-5 (1)	環境試料中の核種濃度	56
5-2-5 (2)	環境試料中の核種濃度（比較対照地点）	59
5-2-5 (3)	環境試料中の核種濃度（速報のためのトリチウム迅速分析結果）	60
5-3	試料採取時の付帯データ集	61
第6	参考資料	
6-1	福島第一原子力発電所における地下水バイパス水等の海域への排出に伴う 海水モニタリング結果（公表資料）	68
第7	グラフ集	77

必要に応じて、福島県原子力安全対策課のホームページに掲載している原子力用語集をご活用下さい。

○URL

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16025c/genan183.html>

○または、

福島県原子力安全対策課トップページ → 参考資料 → 原子力用語集

# 第 1 測定結果の概要

福島県が「令和 6 年度福島県原子力発電所周辺環境放射能等測定計画書」に基づき、令和 6 年度第 1 四半期（令和 6 年 4 月～令和 6 年 6 月）に実施した原子力発電所周辺の環境放射能測定結果は以下に示すとおりです。空間線量率については東京電力㈱福島第一原子力発電所事故前の測定値の範囲を上回り、環境試料については一部を除いて事故前の測定値の範囲を上回っています。しかし、これらは、年月の経過とともに減少する傾向にありました。

## 1 空間放射線

- 空間線量率（ガンマ線）について、今期の測定値（月間平均値 0.041～3.490  $\mu\text{Gy/h}$ ）は、事故前の測定値（月間平均値 0.033～0.054  $\mu\text{Gy/h}$ ）を上回っていますが、年月の経過とともに減少する傾向にありました。
- 空間線量率（中性子線）について、今期の測定値（月間平均値 4 nSv/h）は、事故前の県内の測定結果<sup>\*1</sup>と同程度<sup>\*</sup>であり、中性子線量率の異常は確認されませんでした。
- 空間積算線量（90 日換算値）については、今期の測定値（0.14～9.6 mGy）は、事故前の測定値（0.10～0.14 mGy）を上回っていますが、年月の経過とともに減少する傾向にありました。

## 2 環境試料の核種濃度

- 降下物及び海底土の 2 品目の試料からセシウム-134 及びセシウム-137 が検出され、大気浮遊じん、降下物、上水、海水、海底土及びほんだわらの試料からはセシウム-137 が検出されました。事故の影響により多くの試料で事故前の測定値を上回りましたが、事故直後と比較すると大幅に低下しており、令和 3 年度から前四半期までの測定値（以下「令和 3 年度以降」という。）と同程度<sup>\*</sup>でした。

上水の一部（水源は表流水）からセシウム-137 が検出（0.017 Bq/L）されています。この値は、食品中の放射性セシウムの基準値のうち、飲料水の基準値<sup>\*</sup>である 10 Bq/kg（10 Bq/L）を大きく下回っています。

- 海水の全ベータ放射能を調査した結果、事故前の測定値（ND～0.05 Bq/L）と同程度<sup>\*</sup>でした。
- 大気中水分、上水及び海水の試料からトリチウムが検出されました。大気中水分、上水及び海水のトリチウムの測定値は、事故前の測定値（大気中水分：ND～23 mBq/m<sup>3</sup>、上水：ND～1.3 Bq/L、海水：ND～2.9 Bq/L）とほぼ同程度でした。

ALPS 処理水の海洋放出後に実施した海水モニタリングにおいて、速報のためのトリチウムの迅速分析の結果は、全て検出下限値未満でした。

- 土壌、海水、海底土及びほんだわらの試料からストロンチウム-90 が検出されました。海底土のストロンチウム-90 の測定値は、令和 3 年度以降の測定値（ND～0.51 Bq/kg 乾）を上回りましたが、事故直後と比較すると低下しており、平成 26 年度から令和 2 年度までの測定値（ND～4.6 Bq/kg 乾）と同程度でした。土壌のストロンチウム-90 の測定値は、一部の地点で令和 3 年度以降の測定値（ND～3.4 Bq/kg 乾）を上回りましたが、測定地点の変更によるものであるため、今後の推移を確認していきます。海水のストロンチウム-90 の測定値は、一部の地点でこれまでの測定値の範囲を上回りましたが、他の地点も含めた令和 3 年度以降の測定値（ND～0.035 Bq/L）と同程度<sup>\*</sup>でした。ほ

んだわらのストロンチウム-90 の測定値は、事故前の測定値 (0.04~0.19 Bq/kg 生) を上回りましたが、令和3年度以降の測定値 (ND~0.14 Bq/kg 生) と同程度\*でした。

- 土壌の試料からウラン-234 (3.5~24 Bq/kg 乾)、ウラン-235 (0.13~1.6 Bq/kg 乾)、ウラン 238 (3.2~36 Bq/kg 乾) が検出されました。いずれの核種の放射能比も天然ウランの放射能比※2 と同程度であり、土壌中のウランは天然ウランに由来するものと考えられます。
- 土壌の試料からプルトニウム-238 が検出されました。土壌のプルトニウム-238 の測定値は、事故前の測定値 (ND~0.08 Bq/L 乾) と同程度\*でした。

土壌、海水、海底土及びほんだわらの試料からプルトニウム-239+240 が検出されました。土壌、海水、海底土及びほんだわらのプルトニウム-239+240 の測定値は、事故前の測定値 (土壌: ND~2.6 Bq/kg 乾、海水: ND~0.013 Bq/L、海底土: 0.15~0.61 Bq/kg 乾、ほんだわら: 0.0035~0.022 Bq/kg 生) と同程度\*でした。

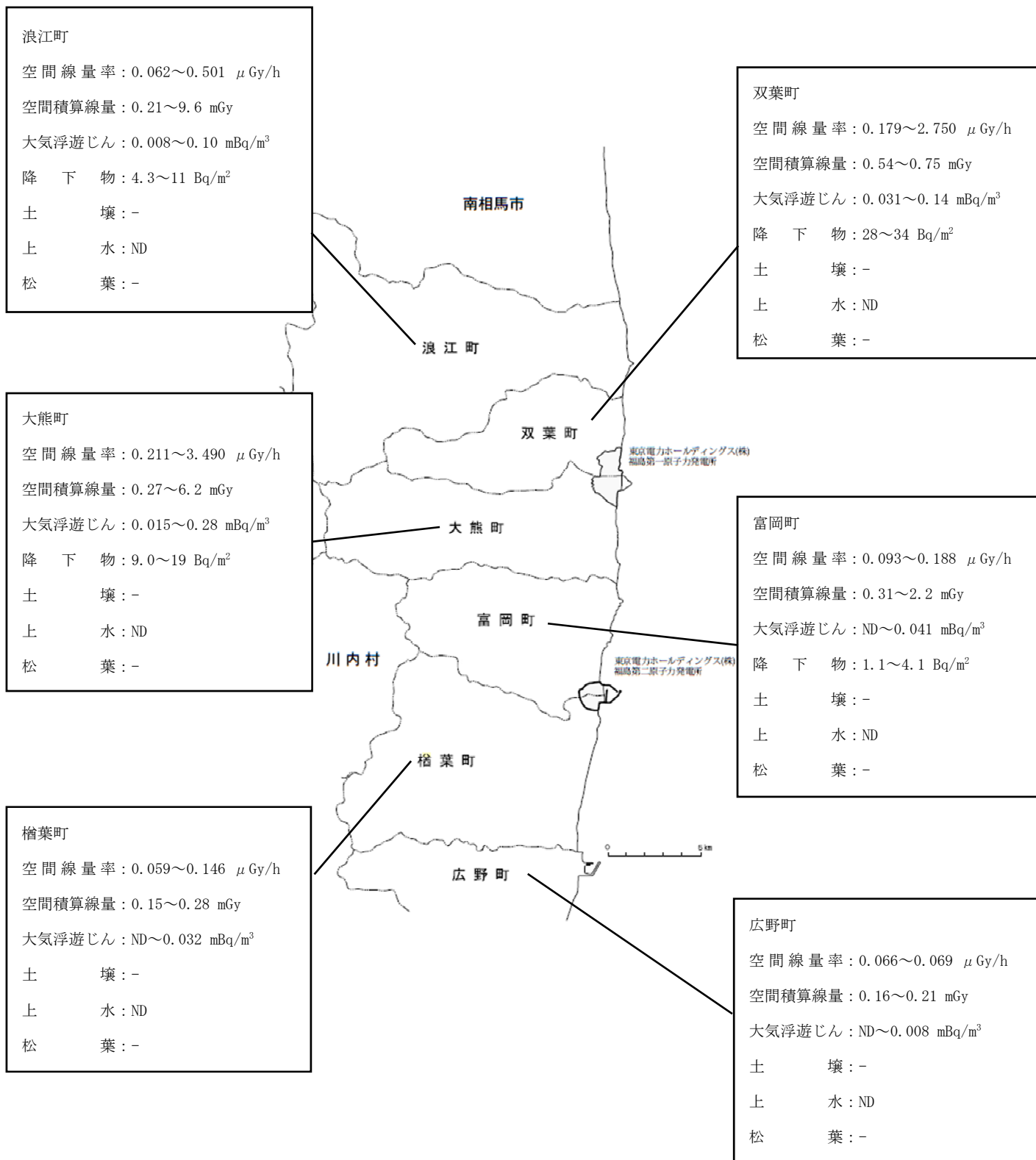
- ※1 環境における中性子線量率の測定結果 (平成14年度文部科学省実施): 4.6~14 nSv/h  
県内5地点 (福島市、猪苗代町、西会津町、いわき市) において、サーベイメータ型レムカウンタ (直径2インチ5気圧<sup>3</sup>He比例計数管) を使用し、地表面より約1mの高さで測定。  
URL:<https://www.kankyo-hoshano.go.jp/> (環境放射線データベース)  
URL:[https://www.kankyo-hoshano.go.jp/wp-content/themes/jcac/pdf/ers\\_abs45.pdf](https://www.kankyo-hoshano.go.jp/wp-content/themes/jcac/pdf/ers_abs45.pdf) (「第45回環境放射能調査研究成果論文抄録集 (平成14年度) 文部科学省」I-20 環境における中性子線量率の全国調査)

(注) ※については、用語の解説 (9~11 ページ) を参照してください。



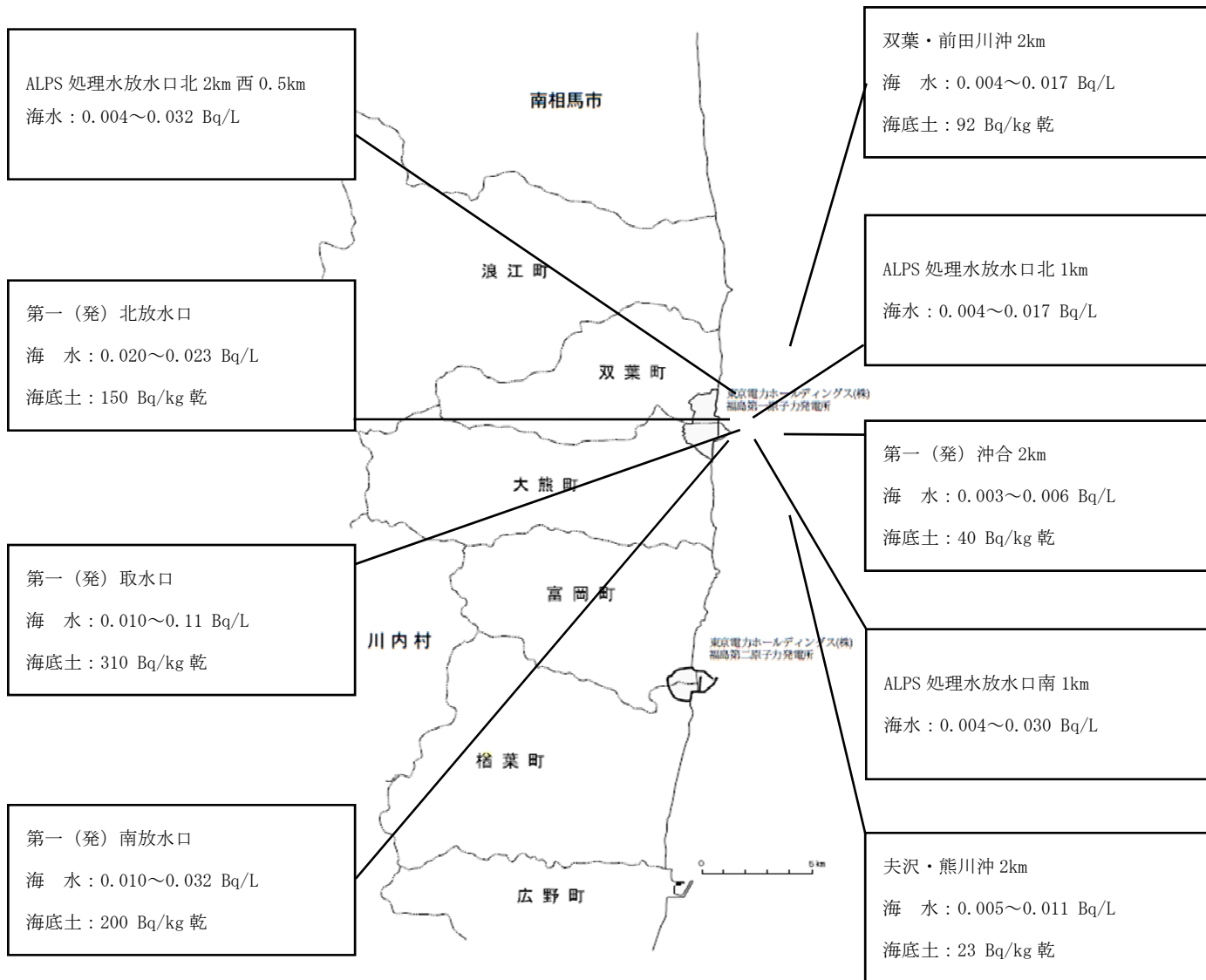
【町別の空間放射線及び環境試料のセシウム-137 濃度】

※ 詳細な地点は p.13 図 2-1 環境放射能等測定地点及び p.15 図 2-3 環境試料採取地点を参照してください。

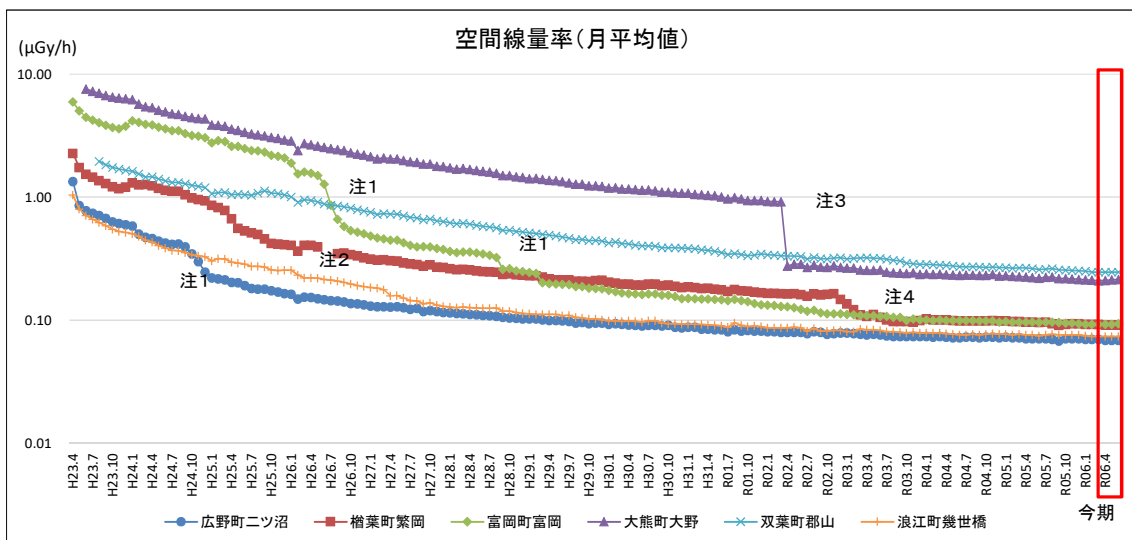


【福島第一原子力発電所沿岸海域の海水及び海底土のセシウム-137濃度】

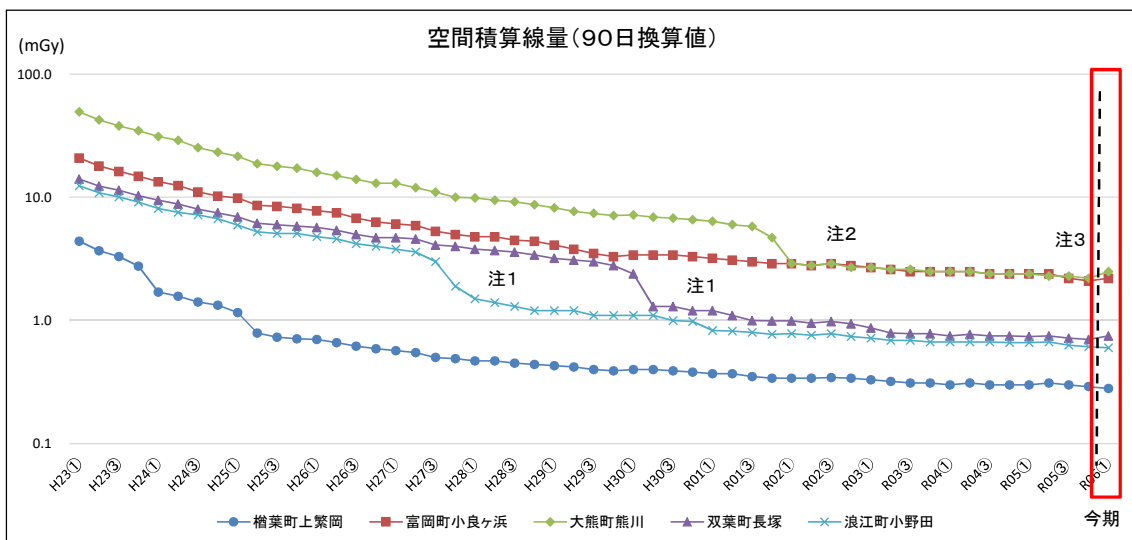
※ 詳細な地点は p.15 図2-3 環境試料採取地点を参照してください。



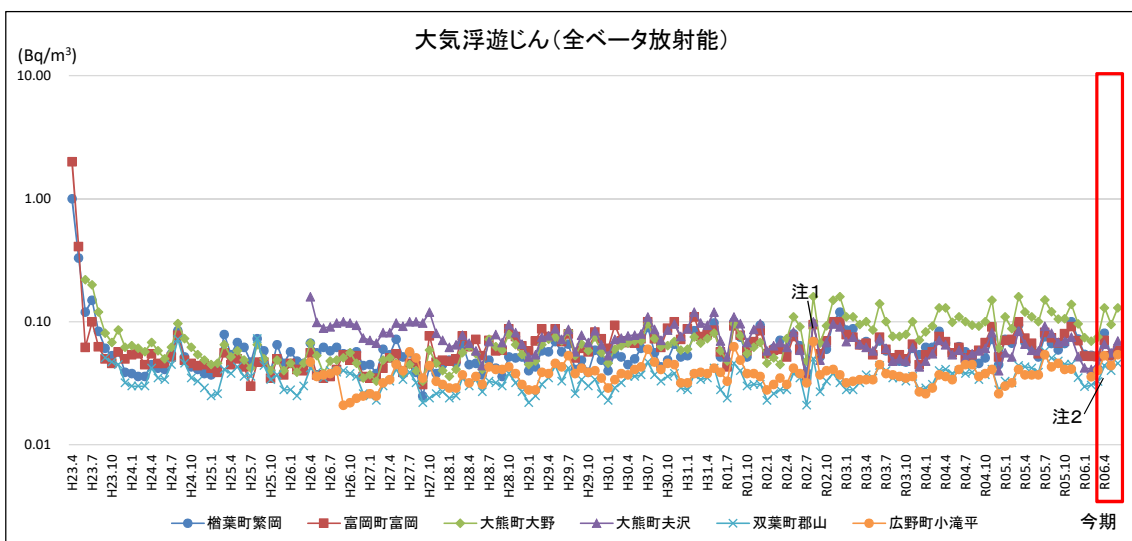
# 事故後の各項目毎のトレンドグラフ



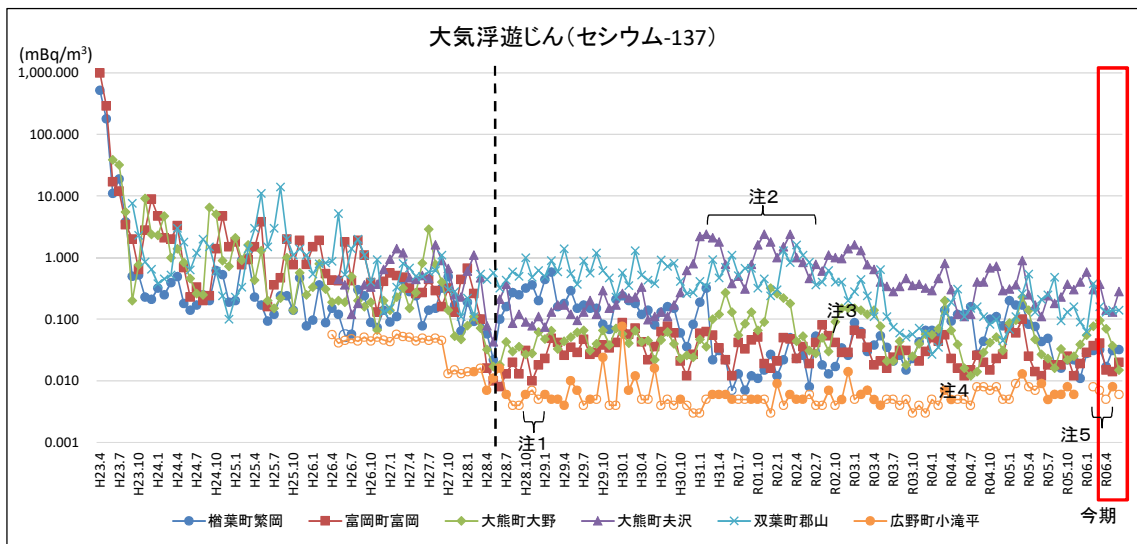
注1: 除染による減少、注2: 欠測  
 注3: 大熊町大野は令和元年度末に局舎を移設したため、令和2年度より旧大熊町役場敷地内で測定を行っている。  
 注4: 隣地において造成工事が行われたことによる低下



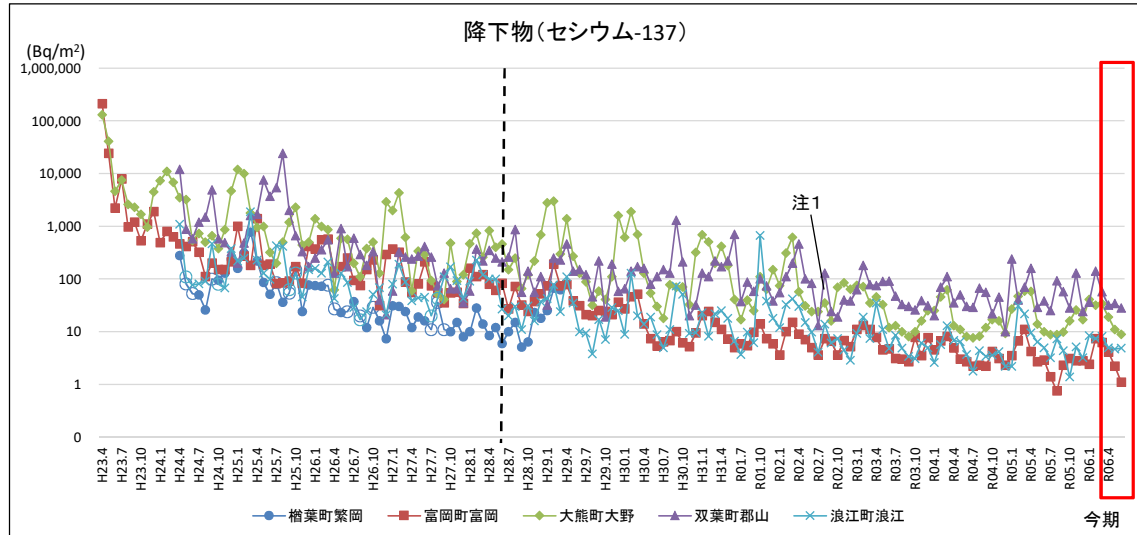
注1: 除染による減少  
 注2: 周辺において造成工事が行われたことによる低下  
 注3: 令和5年度までは蛍光ガラス線量計により測定していたが、令和6年度より電子式線量計による測定に変更した



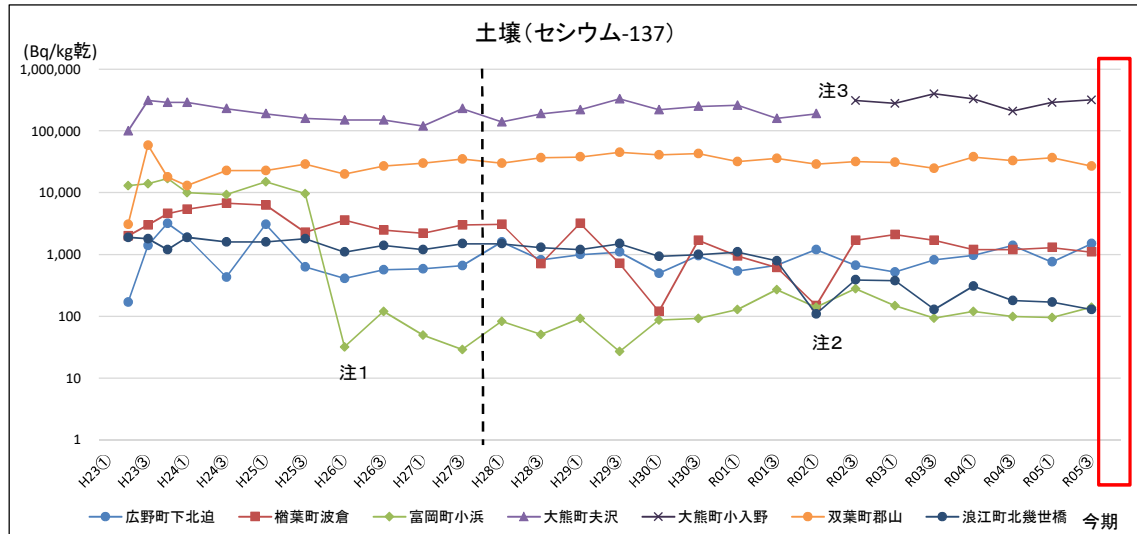
注1: 大熊町大野は令和元年度末に局舎を移設したため、令和2年度より旧大熊町役場敷地内で測定を行っている。  
 注2: 広野町小滝平局において局舎耐震化作業に伴い連続ダストモニタを停止し、ハイボリュームエアサンプラの代替測定による参考値のため、プロットしていない。



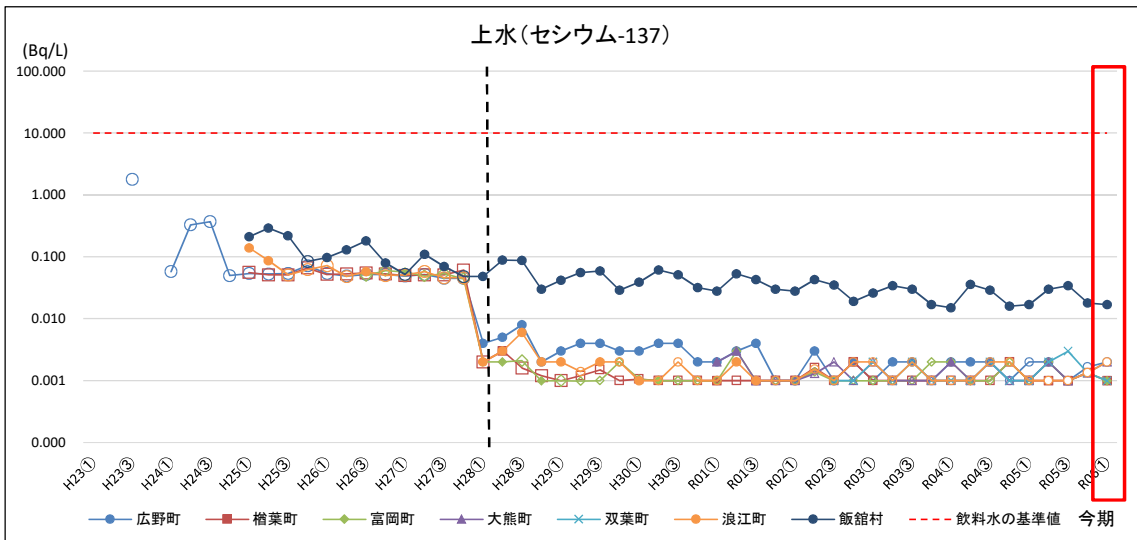
・白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。  
 ・事故後は緊急時の簡易法で分析しており検出下限値が高かったが、平成28年4月(点線)から分析方法を従来の方法に戻し、検出下限値が低下。  
 注1: 富岡町富岡は機器不具合のため平成28年7月から10月は参考値  
 注2: 大熊町夫沢が平成30年度及び令和元年度の秋期～冬期にかけてセシウム-137濃度が上昇した要因は、土木工事により局舎周辺が裸地化し、風によって微細な土壌粒子が浮遊しやすい環境となり、強風により浮遊した土壌粒子を捕集した影響と考えられる。  
 注3: 測定地点を、福島県旧原子力センターから大熊町旧役場庁舎に令和2年4月1日から変更した。  
 注4: 富岡町富岡は令和3年10月6日に実施した屋上の防水塗装作業時、粉じんを吸引したと考えられるため、令和3年10月を欠測とした。  
 注5: 広野町小滝平局において局舎耐震化作業に伴い連続ダストモニタを停止し、ハイボリュームエアサンプラの代替測定による参考値のため、プロットしていない。



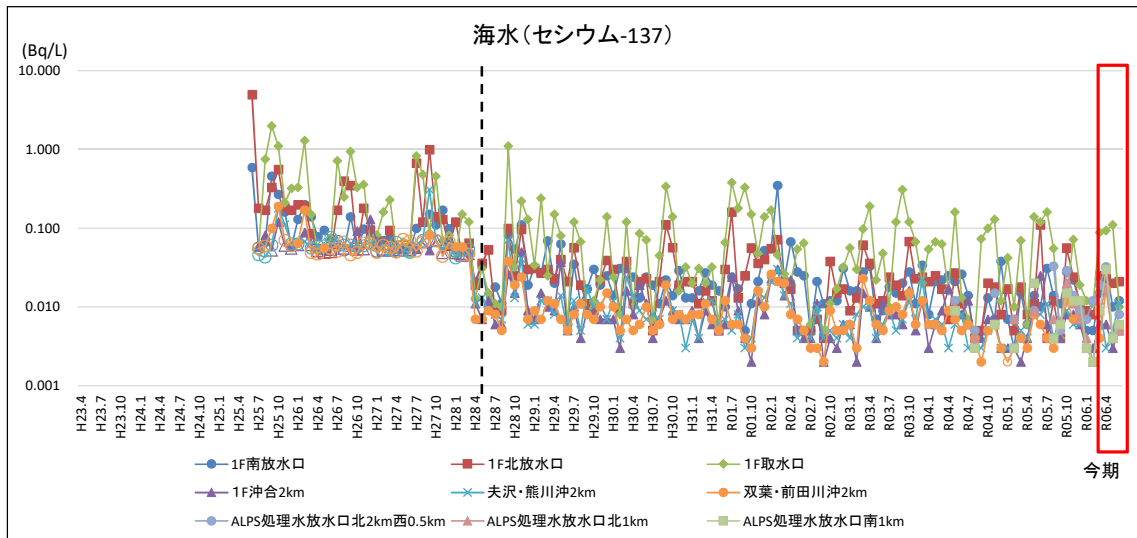
・白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。  
 ・事故後は緊急時の簡易法で分析しており検出下限値が高かったが、平成28年4月(点線)から分析方法を従来の方法に戻し、検出下限値が低下。  
 注1: 測定地点を、福島県旧原子力センターから大熊町旧役場庁舎に令和2年4月1日から変更した。



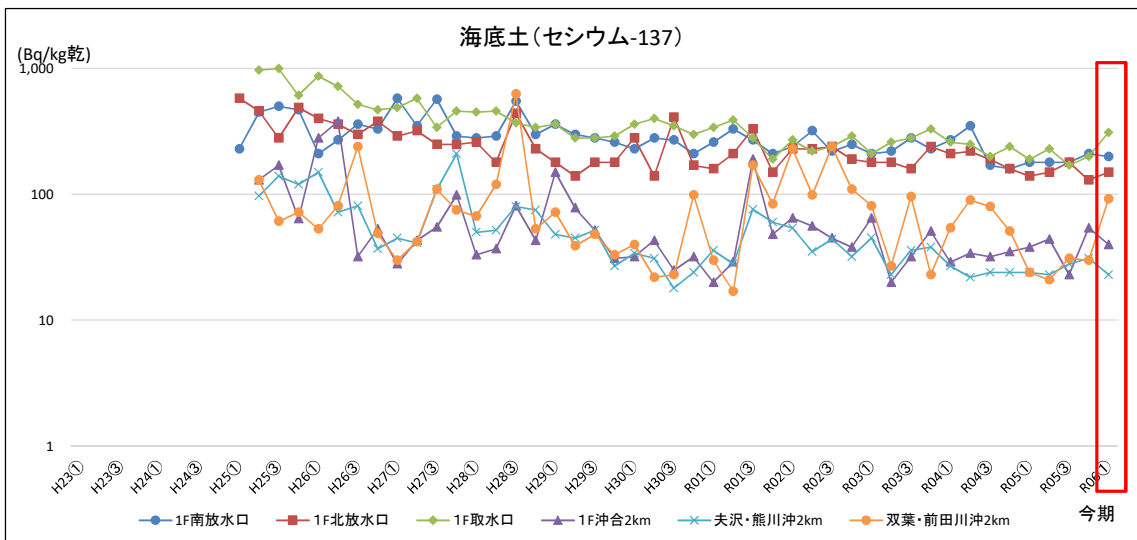
・事故後は緊急時の簡易法で分析しており検出下限値が高かったが、平成28年4月(点線)から分析方法を従来の方法に戻し、検出下限値が低下。  
 注1: 除染による減少  
 注2: 浪江町北幾世橋は、従来の採取地が耕作により採取不可能になったため、同地点内で採取地を変更して除染終了後の土壌を採取した。  
 注3: 大熊町夫沢は中間貯蔵施設工事により採取不可能となったため、令和2年度第3四半期より大熊町小入野で試料採取を行っている。

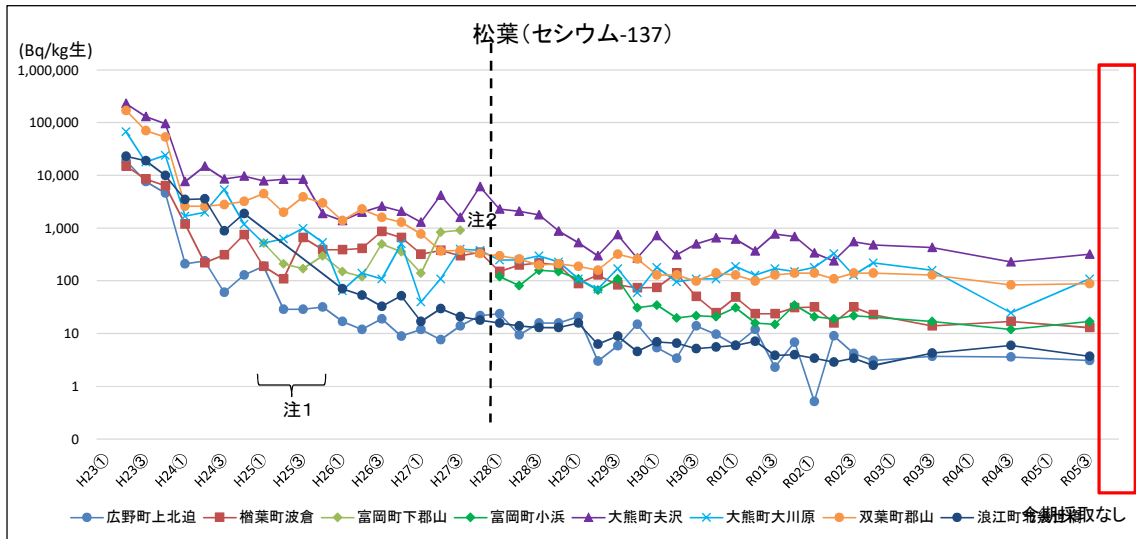


・白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。  
 ・事故後は緊急時の簡易法で分析しており検出下限値が高かったが、平成28年4月(点線)から分析方法を従来の方法に戻し、検出下限値が低下。

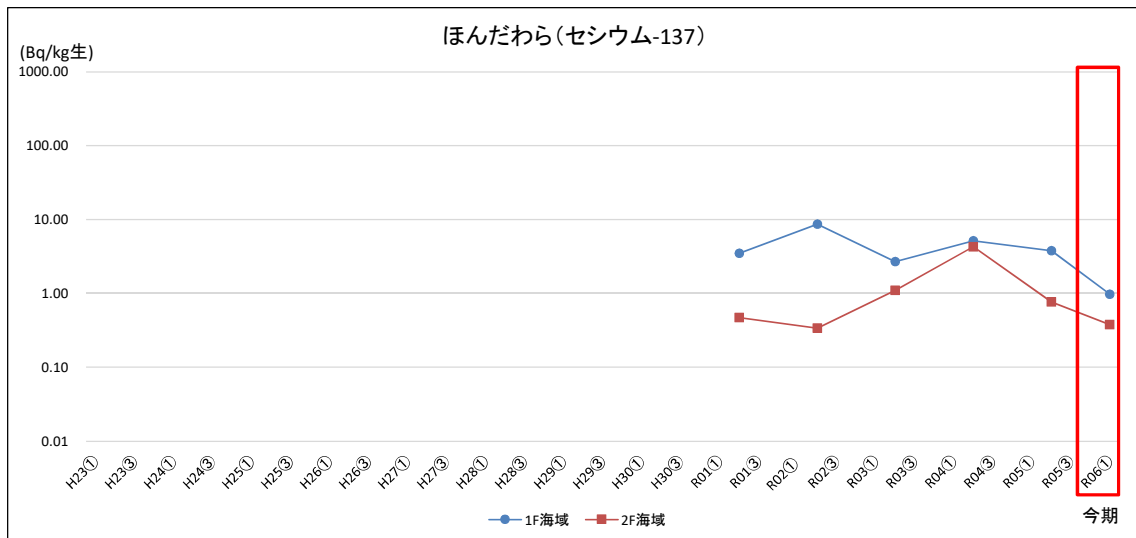


・白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。  
 ・事故後は緊急時の簡易法で分析しており検出下限値が高かったが、平成28年4月(点線)から分析方法を従来の方法に戻し、検出下限値が低下。





・事故後は緊急時の簡易法で分析しており検出下限値が高かったが、平成28年4月(点線)から分析方法を従来の方法に戻し、検出下限値が低下。  
 注1: 浪江町北幾世橋は平成25年度は調査未実施  
 注2: 富岡町下郡山は平成27年度第4四半期以降試料採取が困難となったため、平成28年度より富岡町小浜で試料採取を行っている。



## 用語の解説

### 1 同程度

空間線量率の測定値は、測定装置の設置場所周辺の環境変化、測定機器の更新等により変動するため、それぞれの測定地点における測定値が同様の測定を実施しているとみなせる期間の値の範囲内であったとき又はその範囲を下回った場合において、測定器系のトラブルが認められない場合には、同程度とします。空間積算線量、環境試料も同様です。

### 2 降雨雪による自然放射線レベルの変動

一般に降雨雪時には、空気中に舞い上がっているラドン<sup>※1</sup>、トロン<sup>※2</sup>及びその子孫核種並びに大気浮遊じん等に含まれる自然の放射性物質が、雨滴等に取り込まれ地表付近に降下し、降り始めの一時に空間線量率が上昇します。また、降雨雪が多くなると地表の水分による放射線の吸収作用により、大地からの放射線が遮へいされ、空間線量率が低下することがあります。

福島県においては、福島第一原子力発電所事故の影響により、およそ300 nGy/h以下の地域では、自然の放射性物質が地表付近に降下するため、一時的に空間線量率が上昇しますが、300 nGy/hを超える地域では、自然の放射性物質による上昇に比べ、降雨雪による遮へい効果が大きいため、一時的に低下する傾向が見られます。

※1 ラドン 大地に由来するウラン-238 から始まる壊変（ウラン系列）で生成されたラジウム-226 が壊変した放射性の希ガス（ラドン-222）です。

※2 トロン 大地に由来するトリウム-232 から始まる壊変（トリウム系列）で生成されたラジウム-224 が壊変した放射性の希ガス（ラドン-220）です。

### 3 ガンマ線放出核種

原子力発電所からの影響を評価するため、環境試料に含まれるクロム-51、マンガン-54、コバルト-58、鉄-59、コバルト-60、ジルコニウム-95、ニオブ-95、ルテニウム-106<sup>※3</sup>、アンチモン-125、セシウム-134、セシウム-137<sup>※4</sup>及びセリウム-144等の核種について、放出されるガンマ線を測定し、定量しています。また、松葉、ほんだわらについては、これらに加えてヨウ素-131も対象としています。

※3 ルテニウム-106 は純ベータ核種であるため、子孫核種であるロジウム-106のガンマ線を測定し、定量しています。

※4 セシウム-137 は純ベータ核種であるため、子孫核種であるバリウム-137mのガンマ線を測定し、定量しています。

### 4 ベータ線放出核種

環境試料に含まれるベータ線を放出する核種のうち、原子力発電所からの影響を評価するため、トリチウム及びストロンチウム-90を測定対象としています。

### 5 アルファ線放出核種

環境試料に含まれるアルファ線を放出する核種のうち、原子力発電所からの影響を評価するため、プルトニウム-238、プルトニウム-239+240を測定対象としています。また、土壌については、これらに加えてウラン-234、ウラン-235、ウラン-238、アメリシウム-241、キュリウム-244も対象としてい

ます。

## 6 原子力発電所等に由来する影響

環境試料の核種濃度については、昭和55年以前に行われた中国の大気圏核実験の影響により、セシウム-137の放射能レベルの上昇が松葉などに見られるとともに、ほうれんそうなどの試料からジルコニウム-95、ニオブ-95、セシウム-137、セリウム-144などが検出されました。

その後、中国の大気圏核実験の停止に伴い、全体的に環境試料の放射能レベルは減少していましたが、現在に至っても、半減期の長いセシウム-137、ストロンチウム-90、プルトニウムが全国的に微量ながら検出されています。

昭和61年に起きた旧ソ連チェルノブイリ原子力発電所の事故により、県内でもヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137などが一時的に検出されましたが、現在ではその影響は極めて小さなものとなっています。

福島第一原子力発電所の事故の影響により、現在は多くの試料からセシウム-134、セシウム137などが検出されています。また、土壌などの試料からはコバルト-60、アンチモン-125も検出されています。空間線量率の上昇が確認された場合は、これまでの空間線量率の推移、原子力施設の測定値等の異常、気象、自然放射性核種等の影響、測定器等の異常、外部要因の影響の有無を確認し、原子力発電所等に由来する影響の有無を判断しています。

## 7 大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能の相関関係

通常、一般環境の大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能濃度は、大気が安定し、風が弱いときは高い傾向を示し、降雨雪時や強風の時は低い、というように変動していますが、自然界のラドン、トロン濃度を反映し、一定の相関をもっていることが知られています。これに対して、人工の放射性物質を含む浮遊じんが降下すると、この相関から外れます。

これまで、中国の核実験や旧ソ連チェルノブイリ原子力発電所事故、福島第一原子力発電所事故の事故直後の際には、浮遊じん中の全ベータ放射能が高くなり、この相関から大きくずれた事例が見られました。

## 8 確認開始設定値

大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能の測定において、測定値が上昇した場合、その測定値に施設寄与があったかどうかを判断する（施設寄与があった可能性を否定できないと判断した場合を含む）ために、要因調査を開始するための設定値です。

ラドン・トロン壊変生成物の影響により、全アルファ放射能及び全ベータ放射能の経時的な変動は大きいですが、両者の比である $\beta/\alpha$ 比（全ベータ放射能を全アルファ放射能で除した比）はほぼ一定になります。

それを利用して、県では各測定地点における前月の全アルファ放射能及び全ベータ放射能の10分値をもとに $\beta/\alpha$ 比の平均値を算出し、 $\beta/\alpha$ 比の平均値+（10×標準偏差）を確認開始設定値としています。

## 9 検出下限値

放射能測定において、検出可能な最小の量又は濃度をいいます。測定値が検出下限値以上であれば、



その数値は十分に信頼性があるものとされます。

検出下限値は測定試料の種類や量、測定条件の違い等により、測定ごとに変動します。

同じ種類の複数の試料で測定値が検出下限値未満であった場合でも、それぞれの試料の検出下限値は異なるため、本報告書においては、これらを一律に「ND」（Not Detected の略）と表記しています。「ND～（数値）」は、測定結果に検出下限値未満のものと検出下限値以上のものが存在することを表しています。この場合、右側の数値は「検出下限値以上の数値の最大値」を表しています。

#### 10 飲料水の基準値

「WHO飲料水水質ガイドライン」で定められている飲料水中の放射性核種のガイダンスレベルのことで、セシウム-134、セシウム-137ともに10Bq/Lと定められています。

#### 11 降下物

雨水及びちりを捕集し、その中に含まれる放射性物質を調査しています。これまで、過去に行われていた大気圏内での核爆発実験の影響、チェルノブイリ原子力発電所の事故、福島第一原子力発電所の事故の影響により核分裂生成物が確認されています。

#### 12 大気浮遊じん

原子力発電所から放出される粒子状の放射性物質を把握するため、大気中に浮遊するじん埃（ほこり）を捕集し、その放射能を測定しています。福島第一原子力発電所の事故の影響により、セシウム-134、セシウム-137が検出されています。

#### 13 土壌

原子力発電所から放出された放射性物質の蓄積状況を把握するため、土壌を採取し、その放射能を測定しています。福島第一原子力発電所の事故の影響により、コバルト-60、ストロンチウム-90、アンチモン-125、セシウム-134、セシウム-137、プルトニウム-238、プルトニウム-239+240、アメリカシウム-241、キュリウム-244が検出されています。

#### 14 指標生物

環境中の微量元素の濃縮効果が期待でき、かつ、その地域で容易に採取できる生物であって、その放射能監視を行うことが簡便かつ有効である生物をいいます。陸上では松葉、海洋ではほんだわらがあります。

## 第2 測定項目

令和6年度第1四半期（令和6年4月～令和6年6月） 測定分

### 1 測定項目

#### (1) 空間放射線

項目	計画地点数	調査地点数 (今期)	測定頻度	実施機関
空間線量率(ガンマ線)	39	39	連続	環境創造センター
空間線量率(中性子線)	3	3	連続	
空間積算線量	64	64	3ヵ月積算	

#### (2) 環境試料

区分	試料名	採取方法等	計画地点数	調査地点数 (今期)	採取回数 (今期)	採取頻度	測定試料数(今期)										実施機関		
							全α	全β	γ	<sup>131</sup> I	<sup>3</sup> H	Sr	U	Pu	Am,Cm				
大気	大気浮遊じん	連続 ダストモニタ	17	17	3	毎月	連続	連続	51										
		リアルタイム ダストモニタ	9	9	3		連続	連続	27										
		ダストサンプラー	9	9	3				27										
		簡易型 ダストサンプラー	7	7	3				21										
	大気中水分	シリカゲル	5	5	3	毎月					15								
降下物	降下物	大型水盤	6	6	3	毎月			18										
		小型水盤	4	4	3	毎月			12										
土壌	土壌	裸未耕土の表層	15	15	1	年2回			15										
					1	年1回					15	15	15	15					
陸水	上水	蛇口から採取	13	13	13	年4回			13		13								
					0	年1回					0		0						
海水	海水	表層水 (1F周辺海域) トリチウムの 迅速分析	9	9	3	毎月		27	27		27	27			27				
					6	-					54								
		表層水 (2F周辺海域)	2	2	1	年4回		2	2		2								
					1	年1回					2			2					
海底土	海底土	海砂又は海底土 (1F周辺海域)	6	6	1	年4回			6			6			6				
					1	年4回			2										
		海砂又は海底土 (2F周辺海域)	2	2	1	年1回					2			2					
指標植物	松葉	2年葉を採取	15	0	0	年1回			0	0									
指標海洋植物	ほんだわら	葉茎部を採取	2	1	1	年1回			2	2		2			2				

### 2 測定項目(比較対照地点調査)

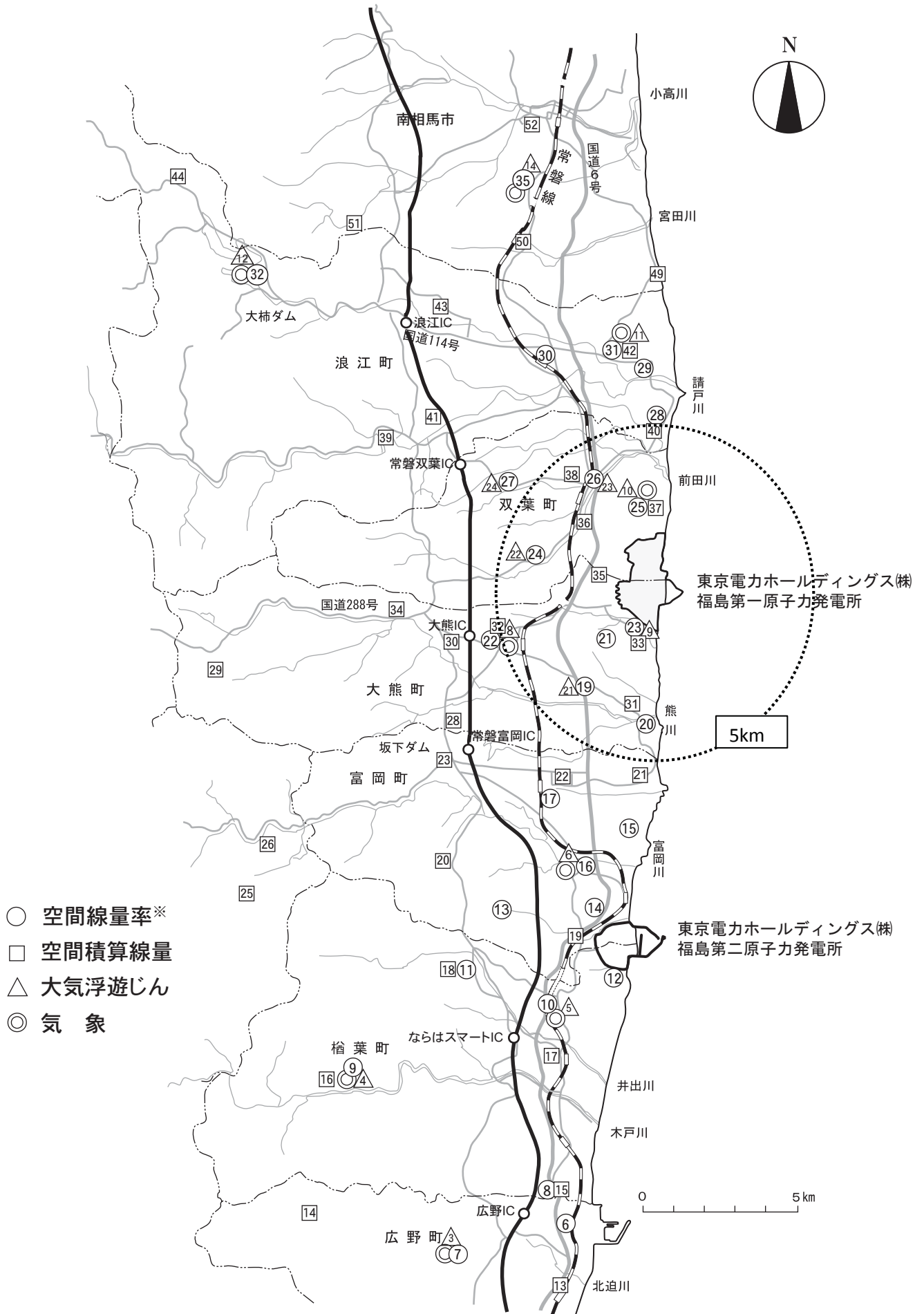
#### (1) 空間放射線

項目	計画地点数	調査地点数 (今期)	測定頻度	実施機関
空間線量率	3	3	連続	環境創造センター

#### (2) 環境試料

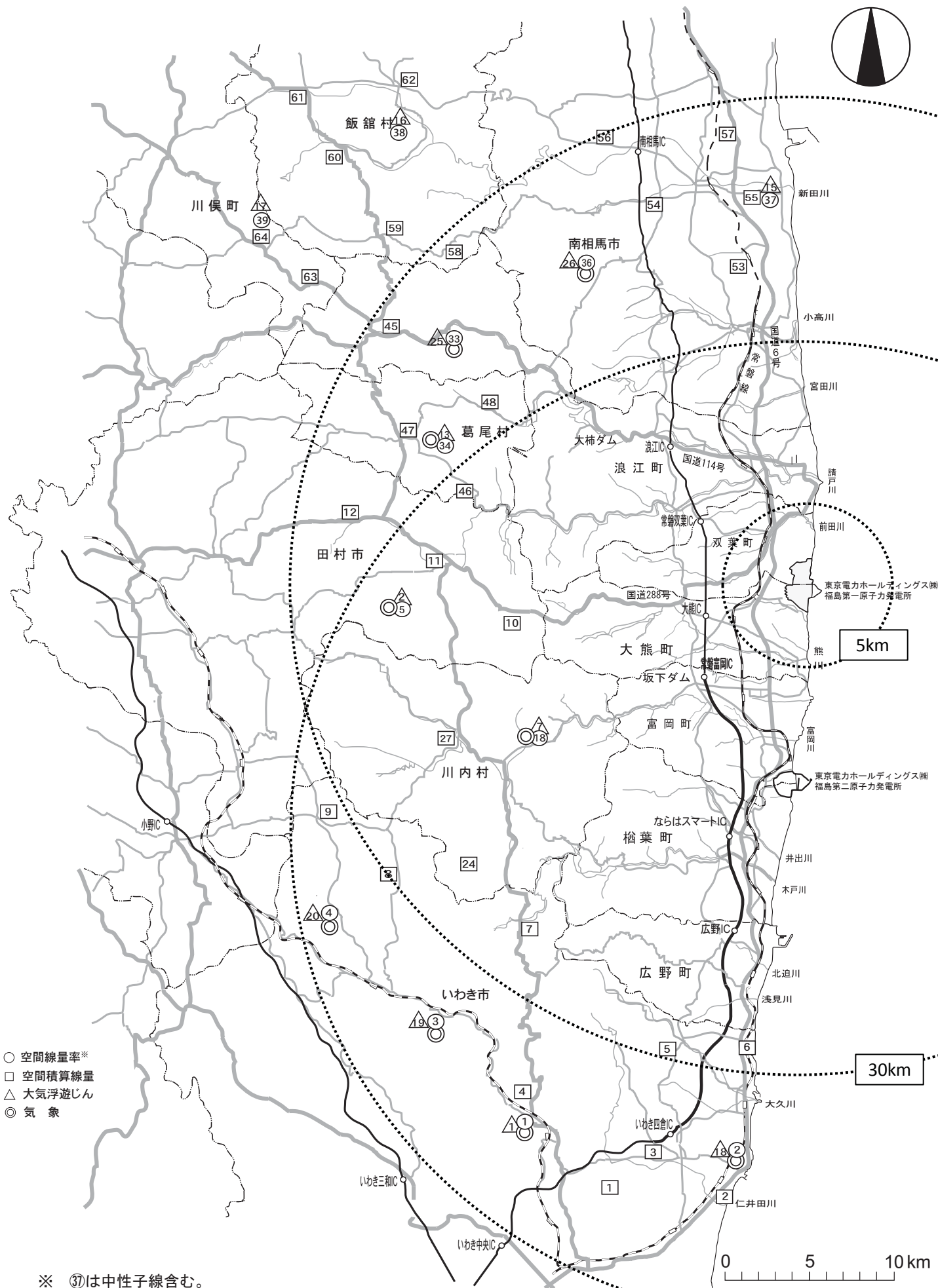
区分	試料名	採取方法等	計画地点数	調査地点数 (今期)	採取回数 (今期)	採取頻度	測定試料数(今期)										実施機関	
							全β	γ	<sup>131</sup> I	<sup>3</sup> H	Sr	U	Pu	Am,Cm				
大気	大気浮遊じん	簡易型 ダストサンプラー	7	7	3	毎月		7										
									1									
	大気中水分	シリカゲル	1	1	3	毎月				1								
降下物	降下物	大型水盤	2	2	3	毎月		0										
土壌	土壌	裸未耕土の表層	7	7	1	年1回		7			7			7				
							1	1				1		1				
陸水	上水	蛇口から採取	2	0	0	年1回		0		0								
							1	0		0		0		0				
海水	海水	表層水	1	0	0	年1回	0	0		0	0			0				
海底土	海底土	海砂又は海底土	1	0	0	年1回		0			0			0				
指標植物	松葉	2年葉を採取	5	0	0	年1回		0	0									

図2-1 環境放射能等測定地点（福島第一・第二原子力発電所周辺）



※ ②②、②③は中性子線含む。

図2-2 環境放射能等測定地点（広域）



- 空間線量率※
- 空間積算線量
- △ 大気浮遊じん
- ◎ 気象

※ ③⑦は中性子線含む。

図2-3 環境試料採取地点（福島第一・第二原子力発電所周辺）

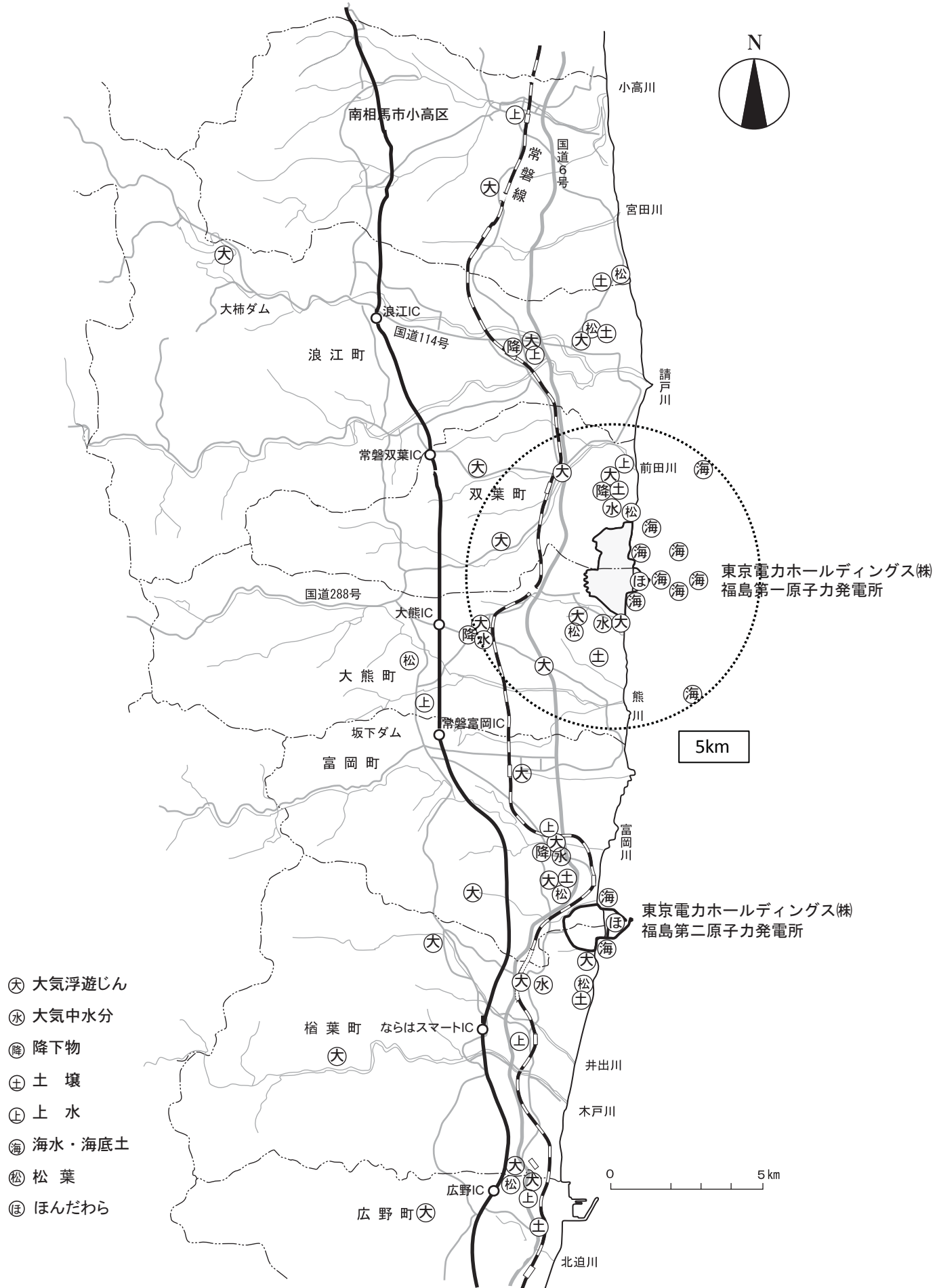
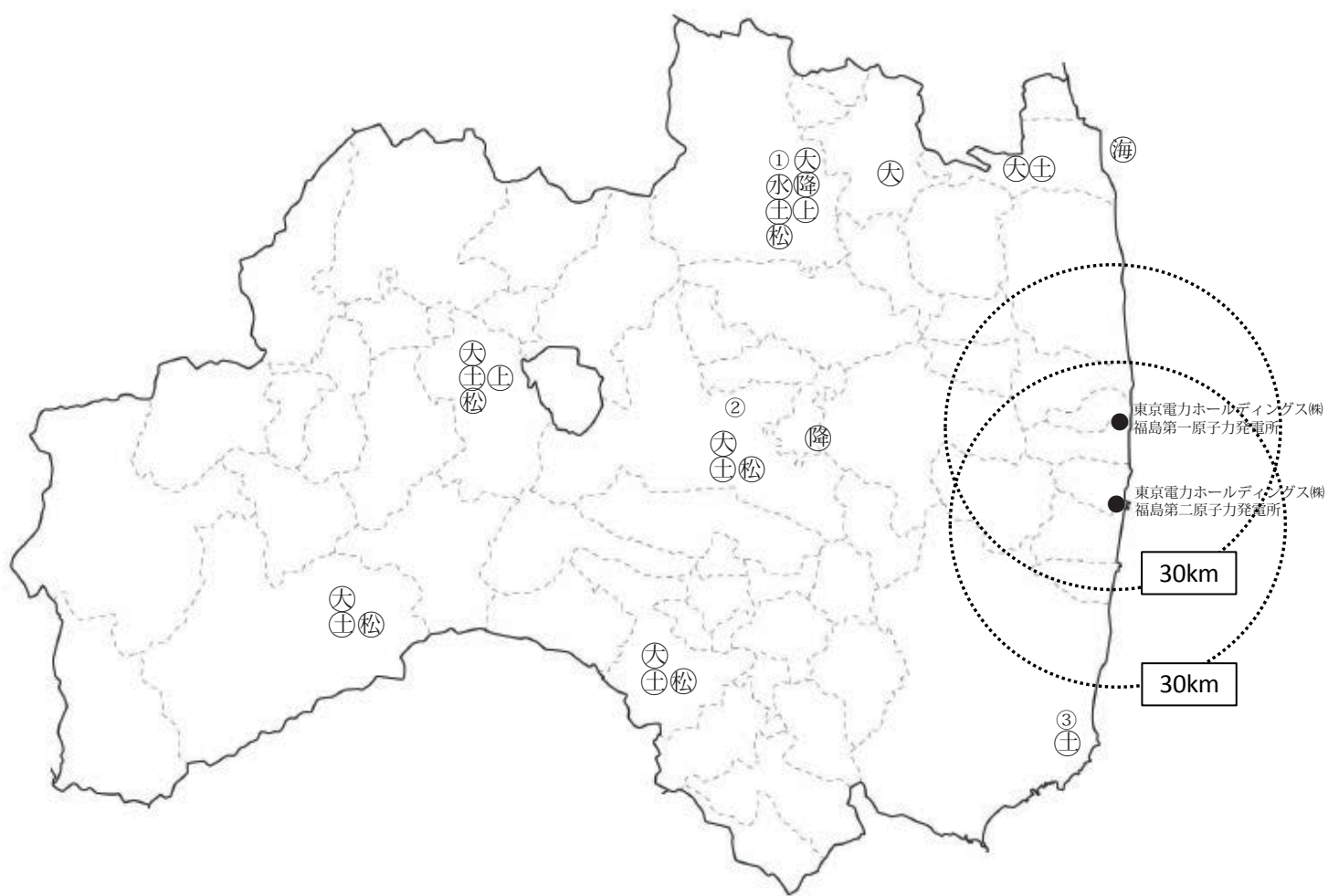


図2-4 環境試料採取地点（広域）





図2-5 環境放射能等測定地点及び環境試料採取地点（県内全域）



- 空間線量率
- ⊕ 大気浮遊じん
- ⊖ 大気中水分
- ⊙ 降下物
- ⊕ 土壌
- ⊖ 海水・海底土
- ⊕ 上水
- ⊖ 松葉

### 第 3 測定方法

#### 1 空間放射線

測定項目	測定装置	測定方法
空間線量率	モニタリングポスト	<p>測定法：原子力規制委員会編「連続モニタによる環境γ線測定法」（平成29年改訂）</p> <p>検出器：低線量計 2"φ×2"NaI(Tl)シンチレーション検出器または半導体検出器            （日立製作所製 ADP-1122型他）</p> <p>高線量計 14Lアルミ製加圧型球形電離箱検出器            （日立製作所製 RIC-348型他）</p> <p>中性子線量計 3He比例計数管検出器</p> <p>測定位置：地表上約3m、約1m</p> <p>校正線源：60Co、137Cs及び226Ra</p>
空間積算線量	電子式線量計	<p>検出器：電子式線量計</p> <p>測定位置：地表上約1m</p> <p>測定方法：連続、3か月積算（各地点1台配置、回収後測定）</p> <p>校正線源：137Cs</p>



2 環境試料

(全α放射能、全β放射能、Cs-134、Cs-137濃度・H-3濃度・Sr-90濃度・U-234、U-235、U-238濃度・Pu-238、Pu-239+240濃度・Am-241、Cm-244濃度)

項目	試料名	大気降塵じん				
		福島第一原子力発電所から30km圏内 (連続ダストモニタ)		福島第一原子力発電所から30km圏内 (リアルタイムダストモニタ)		福島第一原子力発電所から30km圏内 (連続ダストサンブラー)
		全アルファ放射能 全ベータ放射能	Cs-134、Cs-137	全アルファ放射能 全ベータ放射能	Cs-134、Cs-137	Cs-134、Cs-137
試料採取	採取方法	ダストモニタによる連続採取(ろ紙ステップ式) ・採取位置:地表上約3m、約2.3m		ダストモニタによる連続採取(ろ紙ステップ式) ・採取位置:地表上約2m		ダストサンブラーによる連続採取 ・採取位置:地表上約2m
	採取容器等	ろ紙(アドバンテック東洋製 HE-40T)				
	採取量	約11,000m <sup>3</sup> (吸引量:約90m <sup>3</sup> /6時間)		約2,200m <sup>3</sup> (吸引量:約18m <sup>3</sup> /6時間)		約2,000m <sup>3</sup>
	前処理 (酸などの薬品添加を実施しているか)	なし				
	採取器具のコンタミ防止 (試料採取器具を適切に使用しているか)	試料毎に分けて採取している。				
前処理	方法	なし	1ヶ月分の集じんろ紙を電気炉にて加熱分解し灰にする。	なし	1ヶ月分の集じんろ紙を電気炉にて加熱分解し灰にする。	約1週間毎に回収した集じんろ紙の集じん箇所を打ち抜き型を用いて打ち抜き、1ヶ月分をU8容器に収納する。
	分取、縮分の代表性 (高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	なし	灰にした試料全量をU8容器に充填する。	なし	灰にした試料全量をU8容器に充填する。	50φmmの円の中心から46φmmを打ち抜き84.64%を採取する。ろ紙には均一に採取されている。これを1ヶ月分まとめU8容器底面に収納する。
	前処理でのコンタミ防止とその確認法	なし	・加熱分解に用いる磁性皿は、検体毎に洗浄及び空焼き(500℃)。 ・充填する時に用いる器具類はポリエチレンフィルムで養生して使用。 ・U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。	なし	・加熱分解に用いる磁性皿は、検体毎に洗浄及び空焼き(500℃)。 ・充填する時に用いる器具類はポリエチレンフィルムで養生して使用。 ・U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。	U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。
測定	測定法	6時間連続集じん、6時間放置後全アルファ及び全ベータ放射能を6時間同時測定		全アルファ及び全ベータ放射能を6時間連続集じん同時測定		原子力規制委員会編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメータ」(令和2年9月改訂)
	測定装置	ダストモニタ	ゲルマニウム半導体検出器を用いたγ線スペクトロメータ	ダストモニタ	ゲルマニウム半導体検出器を用いたγ線スペクトロメータ	
	検出器等	ZnS(Ag)シンチレータとプラスチックシンチレータの吹きつけ検出器・貼合せ検出器(日立製作所製ADC-2121他)	ゲルマニウム半導体検出器(キャンベラ製GC3018型他)多波高分析器(キャンベラ製LYNX DSA MCA型他)	ZnS(Ag)シンチレータとプラスチックシンチレータの吹きつけ検出器(日立製作所製ADC-2121)	ゲルマニウム半導体検出器(キャンベラ製GC3018型他)多波高分析器(キャンベラ製LYNX DSA MCA型他)	
	測定試料状態	生	灰	生	灰	生
	測定容器	なし	U8容器	なし	U8容器	U8容器
	供試料量	約11,000m <sup>3</sup>		約2,200m <sup>3</sup>		約1,700m <sup>3</sup>
	測定時間	連続	80,000秒	連続	80,000秒	80,000秒
	検出下限値	全アルファ放射能 約0.2mBq/m <sup>3</sup> 全ベータ放射能 約0.1mBq/m <sup>3</sup> (6時間捕集、6時間計数時の値)	約0.003~0.01mBq/m <sup>3</sup>	全アルファ放射能 約300mBq/m <sup>3</sup> 全ベータ放射能 約10,000mBq/m <sup>3</sup>	約0.02~0.06mBq/m <sup>3</sup>	約0.01~0.03mBq/m <sup>3</sup>
	測定におけるコンタミ防止とその確認法	保守点検時にBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	保守点検時にBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。
	校正	使用線源	Am-241、Cl-36	Cd-109、Co-57.60、Ce-139、Cr-51、Sr-85、Cs-137、Mn-54、Y-88	Am-241、Cl-36	Cd-109、Co-57.60、Ce-139、Cr-51、Sr-85、Cs-137、Mn-54、Y-88
線源校正頻度		(年1回)Am-241及びCl-36を用い計数効率校正を実施。	(年1回)Co線源や混合線源(U8・マリネリ)で幾何効率校正と計数効率校正を実施	(年1回)Am-241及びCl-36を用い計数効率校正を実施。	(年1回)Co線源や混合線源(U8・マリネリ)で幾何効率校正と計数効率校正を実施	(年1回)Co線源や混合線源(U8・マリネリ)で幾何効率校正と計数効率校正を実施
BG測定頻度		年1回 900秒	月1回 試料測定時間の2倍以上	年1回 300秒	月1回 200,000秒	月1回 試料測定時間の2倍以上
備考		平成27年10月:測定時間変更(3,600秒→21,600秒) 平成28年4月:前処理変更(生一灰化)、測定時間変更(21,600秒→80,000秒)			平成28年4月:測定開始 平成30年4月:1ヶ月毎の測定に切り換え 令和2年4月:測定時間変更(15,000秒→80,000秒)	

2 環境試料

(全α放射能、全β放射能、Cs-134、Cs-137濃度・H-3濃度・Sr-90濃度・U-234、U-235、U-238濃度・Pu-238、Pu-239+240濃度・Am-241、Cm-244濃度)

項目	試料名	大気浮遊じん		大気中水分		降下物	
		福島第一原子力発電所から30km圏内(福島型ダストサンプラー)		福島第一原子力発電所から30km圏内		福島第一原子力発電所から30km圏内	
		Cs-134、Cs-137		H-3		Cs-134、Cs-137	
試料採取	採取方法	ハイボリウムエアサンプラーによる連続採取 ・採取位置:地表上約1m	ハイボリウムエアサンプラーによる24時間採取 ・採取位置:地表上約1m	シリカゲルを充填したカラムに大気を通して、大気に含まれる水分を捕集する。		建物屋上等に水盤を設置し、1ヶ月後に盤内の水を全量採取する。	
	採取容器等	ろ紙(GB-100R)		シリカゲルを充填した、ガラスカラム(φ55mm×H400mm)2本		大型水盤または小型水盤(SUS製バケツ)	
	採取量	約34,500m <sup>3</sup>	約1,150m <sup>3</sup>	約4.5~45m <sup>3</sup>		0.5m <sup>2</sup> (大型水盤) または 0.0855m <sup>2</sup> (小型水盤)	
	前処理(酸などの薬品添加を実施しているか)	なし		なし		採取後、降下物1Lに対し1mLの濃硫酸を添加	
採取器具のコンタミ防止(試料採取器具を適切に使用しているか)	・地点毎に採取器具を専用としている。 ・ろ紙が触れる部分を使用毎に洗浄している。		シリカゲルを充填したガラスカラムは地点毎に専用としている。		容器は据え置き又は地点毎に専用としている。		
前処理	方法	約1週間毎に回収したろ紙を打ち抜き型を用いて打ち抜き1ヶ月分をU8容器に収納する。	24時間集塵し、ろ紙を全量丸めてU8容器に収納する。	減圧蒸留法		全量をガスコンロまたはマントルヒータ等で濃縮し、残渣をU8容器に採取する。	
	分取、縮分の代表性(高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	1週間分の集じんろ紙(203×254mm)を47.5φmmの打ち抜き器を用いて12ヶ所計52ヶ所を採取する。これを1ヶ月分まとめ週ごとのかたよりが出ないよう順にU8へ収納する。	24時間集塵し、ろ紙を全量丸めてU8容器に収納する。	シリカゲルに吸着させた水分を全量回収し、十分に混合する。その後、所定量を減圧蒸留する。		採取試料全量を充填	
	前処理でのコンタミ防止とその確認法	U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。		・前処理器具は大気中水分専用器具を使用している。 ・使用するガラス器具類は洗浄後十分に乾燥させたものを使用している。 ・テフロンバイアルは毎回新品を使用している。		U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。	
測定	測定法	原子力規制委員会編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(令和2年9月改訂)		文部科学省編「トリチウム分析法」(平成14年改訂)に定める減圧蒸留法		原子力規制委員会編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(令和2年9月改訂)	
	測定装置	ゲルマニウム半導体検出器を用いたγ線スペクトロメータ		低バックグラウンド液体シンチレーションカウンタ		ゲルマニウム半導体検出器を用いたγ線スペクトロメータ	
	検出器等	ゲルマニウム半導体検出器(キャンベラ製GC3018型他) 多波高分析器(キャンベラ製LYNX DSA MCA型他)		日立製作所製LSC-LB7型他		ゲルマニウム半導体検出器(キャンベラ製GC3018型他) 多波高分析器(キャンベラ製LYNX DSA MCA型他)	
	測定試料状態	生		液体シンチレータ混合物		乾固物	
	測定容器	U8容器		100 mLテフロンバイアル		U8容器	
	供試料量	約18,000m <sup>3</sup>	約1,150m <sup>3</sup>	約50.00 mL		0.5m <sup>2</sup> (大型水盤) または 0.0855m <sup>2</sup> (小型水盤)	
	測定時間	80,000秒	80,000秒	3,000秒×10回の平均値		80,000秒	
	検出下限値	約0.002~0.007mBq/m <sup>3</sup>	約0.03~0.04mBq/m <sup>3</sup>	約1 mBq/m <sup>3</sup> ~10 mBq/m <sup>3</sup>		大型水盤:約0.03~0.2MBq/km <sup>2</sup> 程度 小型水盤:約0.2~0.7MBq/km <sup>2</sup> 程度	
測定におけるコンタミ防止とその確認法	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。		試料毎に新品のバイアル瓶を使用している。検出器の汚染確認は、毎測定時にBG測定で実施。		定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。		
校正	使用線源	Cd-109、Co-57.60、Ce-139、Cr-51、Sr-85、Cs-137、Mn-54、Y-88		H-3		Cd-109、Co-57.60、Ce-139、Cr-51、Sr-85、Cs-137、Mn-54、Y-88	
	線源校正頻度	(年1回)Co線源や混合線源(U8・マリネリ)で幾何効率校正と計数効率校正を実施		(納入時) メーカーにて効率校正(1年毎) メーカーによる簡易点検、精密点検、各1回。精密点検時に、密封線源により効率確認。		(年1回)Co線源や混合線源(U8・マリネリ)で幾何効率校正と計数効率校正を実施	
	BG測定頻度	月1回 試料測定時間の2倍以上		測定の都度		月1回 200,000秒	
備考	平成26年7月:測定開始 平成30年4月:1ヶ月毎の測定に切り換え 令和2年4月:測定時間変更(12,000秒→80,000秒)		平成23年11月:測定開始 平成27年7月:測定時間変更(3,600秒→20,000秒) 平成26年4月:測定時間変更(20,000秒→80,000秒)		平成30年4月:測定開始		
					8地点で大型水盤、4地点で小型水盤を使用している。 平成24年4月:小型水盤による採取開始 平成27年6月:比較対照地点の前処理変更(2L分取→2L濃縮) 平成28年4月:前処理変更(2L分取・2L濃縮→全量蒸発乾固) 比較対照地点の測定時間変更(21,600秒→80,000秒)		

2 環境試料

(全α放射能、全β放射能、Cs-134、Cs-137濃度・H-3濃度・Sr-90濃度・U-234、U-235、U-238濃度・Pu-238、Pu-239+240濃度・Am-241、Cm-244濃度)

項目	試料名	土壌				
		核種	Cs-134、Cs-137	Sr-90	U-234、U-235、U-238	Pu-238、Pu-239+240
試料採取	採取方法	裸未耕土の表層(0mmから50mm)から一地点あたり5箇所以上、計3kg程度になるまで採取する。				
	採取容器等	採土器				
	採取量	3kg程度				
	前処理 (酸などの薬品添加を実施しているか)	なし				
採取器具のコンタミ防止 (試料採取器具を適切に使用しているか)	採土器は共用で、採取の都度洗浄を行っている。					
前処理	方法	一昼夜程度自然乾燥させ、105℃で72時間以上加熱乾燥させる。次にふるいにかけて、十分に混合する。				
	分取、縮分の代表性 (高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	1地点当たり数箇所から採取した試料を混合し、さらに、その試料から均等に分取している。(インクリメント縮分法)				
	前処理でのコンタミ防止 とその確認法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試料毎に前処理皿及びふるいは新品を使用</li> <li>・試料毎に地点専用のSUS製ふるいを使用(比較対照地点)</li> <li>・試料処理毎に汚染がないことを確認</li> <li>・U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。</li> </ul>				
測定	測定法	原子力規制委員会編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(令和2年9月改訂)	文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」(平成15年改訂)に定めるイオン交換法	文部科学省編「ウラン分析法」(平成14年改訂)に定めるTB P(リン酸三ブチル)抽出法	文部科学省編「プルトニウム分析法」(平成2年改訂)に定めるイオン交換法	文部科学省編「アメリシウム分析法」(平成2年)に定めるイオン交換法
	測定装置	ゲルマニウム半導体検出器を用いたγ線スペクトロメータ	低バックグラウンド2πガスフロー計数装置	α線スペクトロメータ		
	検出器等	ゲルマニウム半導体検出器(キャンベラ製GC3018型他)多波高分析器(キャンベラ製LYNX DSA MCA型他)	日立製作所製LBC-4202B型	シリコン半導体検出器(ORTEC製BU-017-450型他)多波高分析器(ORTEC製デジタルMCA(ソフトウェア)他)		
	測定試料状態	乾土	鉄共沈物	酸化物	酸化物	
	測定容器	U8容器	ステンレス皿(25mmφ)	ステンレス板(25mmφ)	ステンレス板(25mmφ)	
	供試料量	約100g	約100g	約10g	約50g	
	測定時間	80,000秒	3,600秒	80,000秒	80,000秒	
	検出下限値	約1~10Bq/kg乾土	約0.2~0.5Bq/kg乾土	約0.1~4Bq/kg乾土	約0.01~0.2 Bg/kg乾土	
測定におけるコンタミ防止 とその確認法	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染がないことを確認している。	試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	試料毎に新品のステンレス板を使用し、検出器の汚染については、毎月BG測定を行っている。	試料毎に新品のステンレス板を使用し、検出器の汚染については、毎月BG測定を行っている。		
校正	使用線源	Cd-109、Co-57,60、Ce-139、Cr-51、Sr-85、Cs-137、Mn-54、Y-88				
		Sr-90				
		Np-237,Am-241,Cm-244				
	Np-237,Am-241,Cm-244					
	Np-237,Am-241,Cm-244					
線源校正頻度	(年1回)Co線源や混合線源(U8・マリネリ)で幾何効率校正と計数効率校正を実施	(納入時)メーカーにて効率校正(1年毎)JCAC分析確認調査時使用試料にて効率確認。	(納入時)メーカーにて効率及びエネルギー校正(1年毎)メーカーによる保守点検1回(毎月)県が密封線源により効率及びエネルギー校正を実施	(納入時)メーカーにて効率及びエネルギー校正(1年毎)メーカーによる保守点検1回(毎月)県が密封線源により効率及びエネルギー校正を実施	(納入時)メーカーにて効率及びエネルギー校正(1年毎)メーカーによる保守点検1回	
BG測定頻度	月1回 200,000秒	測定の都度	月1回 80,000秒	月1回 80,000秒		
備考	平成28年4月:採取方法変更(U8容器→採土器) Cs-134、Cs-137の前処理変更(湿土→乾土)		令和2年5月:測定開始	平成28年4月:採取方法変更(U8容器→採土器) Cs-134、Cs-137の前処理変更(湿土→乾土)		

2 環境試料

(全α放射能、全β放射能、Cs-134、Cs-137濃度・H-3濃度・Sr-90濃度・U-234、U-235、U-238濃度・Pu-238、Pu-239+240濃度・Am-241、Cm-244濃度)

項目	試料名	上水			
	核種	Cs-134、Cs-137	H-3	Sr-90	Pu-238、Pu-239+240
試料採取	採取方法	各地点の上水(水道水)を蛇口より容器に採取する。			
	採取容器等	ポリタンク	ポリビン	ポリタンク	ポリタンク
	採取量	20L	1L	100L	100L
	前処理(酸などの薬品添加を実施しているか)	上水1Lに対し1mLの濃塩酸を添加	なし	上水1Lに対し1mLの濃塩酸を添加	上水1Lに対し1mLの濃硝酸を添加
採取器具のコンタミ防止(試料採取器具を適切に使用しているか)	採取容器については、採取地点毎に新品の容器を使用し、試料水にて共洗いを実施している。				
前処理	方法	加熱濃縮法	減圧蒸留法	イオン交換法	イオン交換法
	分取、縮分の代表性(高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	採取試料全量を加熱濃縮。	1Lポリビンより上澄水100mLを分取。	採取試料全量を加熱濃縮後、イオン交換法により処理。	10分程度蛇口から上水を流しつけた後に採取する。複数の採取容器の上水を、前処理の際に混合し、均一化を図る。
	前処理でのコンタミ防止とその確認法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前処理器具は上水専用または新品を使用もしくは試料毎に十分洗浄して使用</li> <li>・試料処理毎に汚染がないことを確認</li> <li>・U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。</li> <li>・テフロンバイアルは毎回新品を使用している。</li> </ul>			
測定	測定法	原子力規制委員会編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメリー」(令和2年9月改訂)	文部科学省編「トリウム分析法」(平成14年改訂)に定める減圧蒸留法	文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」(平成15年改訂)に定めるイオン交換法	文部科学省編「プルトニウム分析法」(平成2年改訂)に定めるイオン交換法
	測定装置	ゲルマニウム半導体検出器を用いたγ線スペクトロメータ	低バックグラウンド液体シンチレーションカウンタ	低バックグラウンド2πガスフロー計数装置	α線スペクトロメータ
	検出器等	ゲルマニウム半導体検出器(キャンベラ製GC3018型他)多波高分析器(キャンベラ製LYNX DSA MCA型他)	日立製作所製LSC-LB7型他	日立製作所製LBC-4202B型	シリコン半導体検出器(ORTEC製BU-017-450型他)多波高分析器(ORTEC製デジタルMCA(ソフトウェア)他)
	測定試料状態	乾固物	液体シンチレータ混合物	鉄共沈物	酸化物
	測定容器	U8容器	100mLテフロンバイアル	ステンレス皿(25mmφ)	ステンレス板(25mmφ)
	供試料量	20L	約50.00mL	100L	100L
	測定時間	80,000秒	3,000秒×10回の平均値	3,600秒	80,000秒
	検出下限値	約0.001~0.002Bq/L	約0.3~0.5Bq/L	約0.00015~0.0004Bq/L	約0.000003~0.00001 Bq/L
測定におけるコンタミ防止とその確認法	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	試料毎に新品のバイアル瓶を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	試料毎に新品のステンレス板を使用し、検出器の汚染については、毎月BG測定を行っている。	
校正	使用線源	Cd-109、Co-57.60、Ce-139、Cr-51、Sr-85、Cs-137、Mn-54、Y-88	H-3	Sr-90	Np-237、Am-241、Cm-244
		日本アイソトープ協会製造のJCSS校正証明書付きの標準線源を使用している。これによりトレーサビリティを担保している。			
	線源校正頻度	(年1回)Co線源や混合線源(U8-マリネリ)で幾何効率校正と計数効率校正を実施	(納入時)メーカーにて効率校正(1年毎)メーカーによる簡易点検、精密点検、各1回。精密点検時に、密封線源により効率確認。	(納入時)メーカーにて効率校正(1年毎)CAC分析確認調査時使用試料にて効率確認。	(納入時)メーカーにて効率及びエネルギー校正(1年毎)メーカーによる保守点検1回(毎月)県が密封線源により効率及びエネルギー校正を実施
BG測定頻度	月1回 200,000秒	測定の都度	測定の都度	月1回 80,000秒	
備考	平成28年4月：前処理変更(生→加熱濃縮法)				

2 環境試料

(全α放射能、全β放射能、Cs-134、Cs-137濃度・H-3濃度・Sr-90濃度・U-234、U-235、U-238濃度・Pu-238、Pu-239+240濃度・Am-241、Cm-244濃度)

項目	試料名	海水					
		核種	全ベータ放射能	Cs-134、Cs-137	H-3	Sr-90	Pu-238、Pu-239+240
試料採取	採取方法	海面にホースを入れ、表層水(～1m)をポンプにより採取する。					
	採取容器等	ポリビン	ポリタンク	ポリビン		ポリタンク	ポリタンク
	採取量	2L	40L	1L	2L	60L	100L
	前処理(酸などの薬品添加を実施しているか) 採取器具のコンタミ防止(試料採取器具を適切に使用しているか)	なし	海水1Lに対し1mLの濃塩酸を添加	なし		海水1Lに対し1mLの濃塩酸を添加	海水1Lに対し1mLの濃硝酸を添加
		採取容器については、採取地点毎に新品の容器を使用し、試料水にて共洗いを実施している。					
前処理	方法	鉄・バリウム共沈法	リンモリブデン酸アンモニウム-二酸化マンガンを共沈法	減圧蒸留法	電解濃縮法	イオン交換法	イオン交換法
	分取、縮分の代表性(高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	2Lポリビンより上澄水1Lを分取。	20Lポリタンク2本から10Lずつ分取。	1Lポリビンより上澄水100mLを分取。	2Lポリビンより上澄水約1,200mLを分取。	20Lポリタンク3本使用。内2本は全量使用。残る1本は10L分取。	10分程度ポンプから海水を排水した後、採取する。複数の採取容器の海水を、前処理の際に混合し、均一化を図る。
	前処理でのコンタミ防止とその確認法	<ul style="list-style-type: none"> <li>-採取地点毎の専用容器または新品を使用</li> <li>-試料処理毎に汚染がないことを確認</li> <li>-U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。</li> <li>-テフロンバイアルは毎回新品を使用している。</li> </ul>					
測定	測定法	文部科学省編「全ベータ放射能測定法」(昭和51年改訂)	原子力規制委員会編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメリー」(令和2年9月改訂)	文部科学省編「トリチウム分析法」(平成14年改訂)に定める減圧蒸留法	文部科学省編「トリチウム分析法」(平成14年改訂)に定める電解濃縮法	文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」(平成15年改訂)に定めるイオン交換法	文部科学省編「プルトニウム分析法」(平成2年改訂)に定めるイオン交換法
	測定装置	低バックグラウンド2πガスフロー計数装置	ゲルマニウム半導体検出器を用いたγ線スペクトロメータ	低バックグラウンド液体シンチレーションカウンタ		低バックグラウンド2πガスフロー計数装置	α線スペクトロメータ
	検出器等	日立製作所製LBC-4202B型	ゲルマニウム半導体検出器(キャンベラ製GC3018型他)多波高分析器(キャンベラ製LYNX DSA MCA型他)	日立製作所製LSC-LB7型他		日立製作所製LBC-4202B型	シリコン半導体検出器(ORTEC製BU-017-450型他)多波高分析器(ORTEC製デジタルMCA(ソフトウェア)他)
	測定試料状態	鉄・バリウム共沈物	リンモリブデン酸アンモニウムと二酸化マンガンの混合物	液体シンチレータ混合物		鉄共沈物	酸化物
	測定容器	ステンレス皿(25mmφ)	U8容器	100mLテフロンバイアル	20mL低拡散ポリエチレンバイアル	ステンレス皿(25mmφ)	ステンレス板(25mmφ)
	供試料量	1L	20L以上	約50.00mL	約1,000mL	50L	100L
	測定時間	3,600秒×7回のうち最大最小を除いた5回の平均値	80,000秒	3,000秒×10回の平均値		3,600秒	80,000秒
	検出下限値	約0.01Bq/L	約0.001～0.002Bq/L	約0.3～0.5Bq/L	約0.03～0.06Bq/L	約0.0005Bq/L	約0.000003～0.00001Bq/L
測定におけるコンタミ防止とその確認法	<p>試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。</p> <p>定期的Ge半導体検出器においてBG測定を行い、汚染がないことを確認している。</p> <p>試料毎に新品のバイアル瓶を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。</p> <p>試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。</p> <p>試料毎に新品のステンレス板を使用し、検出器の汚染については、毎月BG測定を行っている。</p>						
校正	使用線源	U <sub>238</sub> Sr-90	Cd-109、Co-57.60、Ce-139、Cr-51、Sr-85、Cs-137、Mn-54、Y-88	H-3		Sr-90	Np-237、Am-241、Cm-244
	線源校正頻度	測定の都度	(年1回)Co線源や混合線源(U8・マリネリ)で幾何効率校正と計数効率校正を実施	(納入時)メーカーにて効率校正(1年毎)メーカーによる簡易点検、精密点検、各1回。精密点検時に、密封線源により効率確認。	県にて効率校正(1年毎)メーカーによる簡易点検、精密点検、各1回。精密点検時に、密封線源により効率確認。	(納入時)メーカーにて効率校正(1年毎)JCAC分析確認調査時使用試料にて効率確認。	(納入時)メーカーにて効率及びエネルギー校正(1年毎)メーカーによる保守点検1回(毎月)県が密封線源により効率及びエネルギー校正を実施
	BG測定頻度	測定の都度	月1回 200,000秒	測定の都度		測定の都度	月1回 80,000秒
備考	<p>令和3年4月：測定時間変更(1F周辺3,600秒測定5回のうち最大値→3,600秒測定7回のうち最大最小を除いた5回の平均値)</p> <p>平成28年4月：前処理変更(生リンモリブデン酸アンモニウム-二酸化マンガンを共沈法)</p> <p>令和4年5月：測定開始</p>						

2 環境試料

(全α放射能、全β放射能、Cs-134、Cs-137濃度・H-3濃度・Sr-90濃度・U-234、U-235、U-238濃度・Pu-238、Pu-239+240濃度・Am-241、Cm-244濃度)

項目	試料名	海底土			松葉	
					福島第一原子力発電所から30km圏内	比較対照地点
		核種	Cs-134、Cs-137	Sr-90	Pu-238、Pu-239+240	Cs-134、Cs-137
試料採取	採取方法	船上から採泥器にて採取する。			採取地点付近にある樹木より2年葉を採取する。	
	採取容器等	採泥器			ビニール袋	
	採取量	3kg程度			200g程度	
	前処理(酸などの薬品添加を実施しているか)	なし			なし	
採取器具のコンタミ防止(試料採取器具を適切に使用しているか)	採泥袋は地点毎に新品を使用し、採泥器は使用毎に洗浄している。			採取地点毎に新品の袋に採取		
前処理	方法	一昼夜程度自然乾燥させ、105℃で72時間以上加熱乾燥させる。次にふるいにかけ、十分に混合する。			95℃で所定時間加熱乾燥後、粉砕機により粉砕	
	分取、縮分の代表性(高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	地点当たり数箇所から採取した試料を混合し、さらに、その試料から均等に分取。(インクリメント縮分法)			乾燥後の試料から所定量を均等に分取	
	前処理でのコンタミ防止とその確認法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試料毎に前処理皿及びふるいは新品を使用</li> <li>・試料処理毎に汚染確認を行い、汚染がないことを確認</li> <li>・U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・加熱乾燥に用いるバットは十分洗浄して使用</li> <li>・粉砕器は、地点専用のものを使用</li> <li>・U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。</li> </ul>	
測定	測定法	原子力規制委員会編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(令和2年9月改訂)	文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」(平成15年改訂)に定めるイオン交換法	文部科学省編「プルトニウム分析法」(平成2年改訂)に定めるイオン交換法	原子力規制委員会編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(令和2年9月改訂)	
	測定装置	ゲルマニウム半導体検出器を用いたγ線スペクトロメータ	低バックグラウンド2πガスフロー計数装置	α線スペクトロメータ	ゲルマニウム半導体検出器を用いたγ線スペクトロメータ	
	検出器等	ゲルマニウム半導体検出器(キャンベラ製GC3018型他)多波高分析器(キャンベラ製LYNX DSA MCA型他)	日立製作所製LBC-4202B型	シリコン半導体検出器(ORTEC製BU-017-450型他)多波高分析器(ORTEC製デジタルMCA(ソフトウェア)他)	ゲルマニウム半導体検出器(キャンベラ製GC3018型他)多波高分析器(キャンベラ製LYNX DSA MCA型他)	
	測定試料状態	乾土	鉄共沈物	酸化物	乾燥物	
	測定容器	U8容器	ステンレス皿(25mmφ)	ステンレス板(25mmφ)	U8容器	
	供試料量	約100g	約100g	100g	約50g	
	測定時間	80,000秒	3,600秒	80,000秒	80,000秒	
	検出下限値	約0.5~1.5Bq/kg乾土	約0.15~0.25Bq/kg乾土	約0.01~0.2 Bq/kg	約0.1~2Bq/kg生	
	測定におけるコンタミ防止とその確認法	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	試料毎に新品のステンレス板を使用し、検出器の汚染については、毎月BG測定を行っている。	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	
校正	使用線源	Cd-109、Co-57.60、Ce-139、Cr-51、Sr-85、Cs-137、Mn-54、Y-88	Sr-90	Np-237、Am-241、Cm-244	Cd-109、Co-57.60、Ce-139、Cr-51、Sr-85、Cs-137、Mn-54、Y-88	
	線源校正頻度	(年1回)Co線源や混合線源(U8・マリネリ)で幾何効率校正と計数効率校正を実施	(納入時)メーカーにて効率校正(1年毎)JCAC分析確認調査時使用試料にて効率確認。	(納入時)メーカーにて効率及びエネルギー校正(1年毎)メーカーによる保守点検1回(毎月)県が密封線源により効率及びエネルギー校正を実施	(年1回)Co線源や混合線源(U8・マリネリ)で幾何効率校正と計数効率校正を実施	
	BG測定頻度	月1回 200,000秒	測定の都度	月1回 80,000秒	月1回 200,000秒	
備考	平成27年7月:比較対照地点の測定時間変更(3,600秒→10,800秒) 平成28年4月:前処理変更(生→乾燥) マニュアルに示す減容処理(灰化)は実施していない。除染等により松の木が減少しており、継続的に採取していくには、1回の採取量を抑える必要がある。また、松葉はそのまま測定しても検出可能である地点が多いことから、濃縮度を小さくしても支障ないと考えた。これらの理由から、灰までの濃縮は行わず、乾燥にとどめた。					

2 環境試料

(全 α 放射能、全 β 放射能、Cs-134、Cs-137濃度・H-3濃度・Sr-90濃度・U-234、U-235、U-238濃度・Pu-238、Pu-239+240濃度・Am-241、Cm-244濃度)

項目	試料名	ほんだわら		
	核種	Cs-134, Cs-137	Sr-90	Pu-238, Pu-239+240
試料採取	採取方法	採取地点付近に生息しているほんだわらの葉茎部を採取する。		
	採取容器等	ビニール袋		
	採取量	9kg程度		
	前処理 (酸などの薬品添加を実施しているか)	なし		
採取器具のコンタミ防止 (試料採取器具を適切に使用しているか)	採取地点毎に専用の器具を使用			
前処理	方法	・水洗後水切りし、95℃で所定時間加熱乾燥後、粉碎机により粉碎 ・乾燥後の試料を電気炉で加熱分解し、生成した灰試料をイオン交換法により処理。	・水洗後水切りし、95℃で所定時間加熱乾燥後、粉碎机により粉碎 ・乾燥後の試料を電気炉で加熱分解し、生成した灰試料をイオン交換法により処理。	・水洗後水切りし、95℃で所定時間加熱乾燥後、粉碎机により粉碎 ・乾燥後の試料を電気炉で加熱分解し、生成した灰試料をイオン交換法により処理。
	分取、縮分の代表性 (高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	乾燥後の試料から所定量を均等に分取	灰試料から所定量を均等に分取	灰試料から所定量を均等に分取
	前処理でのコンタミ防止とその確認法	・加熱乾燥に用いるバットは十分に洗浄して使用。 ・粉碎机は、地点専用のものを使用。 ・U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。	・加熱乾燥に用いるバット及び加熱分解に用いる磁性皿は十分に洗浄して使用。 ・粉碎机は、地点専用のものを使用。	・加熱乾燥に用いるバット及び加熱分解に用いる磁性皿は十分に洗浄して使用。 ・粉碎机は、地点専用のものを使用。
測定	測定法	原子力規制委員会編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリ」(令和2年9月改訂)	文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」(平成15年改訂)に定めるイオン交換法	文部科学省編「プルトニウム分析法」(平成2年改訂)に定めるイオン交換法
	測定装置	ゲルマニウム半導体検出器を用いたγ線スペクトロメータ	低バックグラウンド2πガスフロー計数装置	α線スペクトロメータ
	検出器等	ゲルマニウム半導体検出器(キャンベラ製GC3018型他)多波高分析器(キャンベラ製LYNX DSA MCA型他)	日立製作所製LBC-4202B型	シリコン半導体検出器(ORTEC製BU-017-450型他)多波高分析器(ORTEC製デジタルMCA(ソフトウェア)他)
	測定試料状態	乾燥物	鉄共沈物	酸化物
	測定容器	U8容器	ステンレス皿(25mmφ)	ステンレス板(25mmφ)
	供試料量	約100g	約30~40g(生試料1kg相当の灰試料量)	約20~40g(生試料500g~1kg相当の灰試料量)
	測定時間	80,000秒	3,600秒	80,000秒
	検出下限値	約0.1~0.2Bq/kg生	約0.1~0.2Bq/kg生	約1~3 mBq/kg生
	測定におけるコンタミ防止とその確認法	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	試料毎に新品のステンレス板を使用し、検出器の汚染については、毎月BG測定を行っている。
校正	使用線源	Cd-109、Co-57,60、Ce-139、Cr-51、Sr-85、Cs-137、Mn-54、Y-88	Sr-90	Np-237,Am-241,Cm-244
	線源校正頻度	(年1回)Co線源や混合線源(U8・マリネリ)で幾何効率校正と計数効率校正を実施。	(納入時)メーカーにて効率校正(1年毎)JCAC分析確認調査時使用試料にて効率確認	(納入時)メーカーにて効率及びエネルギー校正(1年毎)メーカーによる保守点検1回(毎月)県が密封線源により効率及びエネルギー校正を実施
	BG測定頻度	月1回 200,000秒	測定の都度	月1回 80,000秒
備考				

## 第 4 測定結果

### 4-1 空間放射線

#### 4-1-1 空間線量率

##### (1) ガンマ線

東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所から半径 5km 未満の地域（以下「1F 近傍」という。）で 8 地点、福島第一原子力発電所から概ね半径 5km 以上 30km 未満又は福島第二原子力発電所から概ね半径 30km 未満の地域（以下「1F・2F 周辺」という。）で 31 地点、福島第一及び第二原子力発電所からそれぞれ 30km 以上離れた地域（以下「比較対照地点」という。）で 3 地点、計 42 地点で NaI シンチレーション検出器により空間線量率（ガンマ線）を常時測定しました。各地点の測定結果は以下のとおりです。詳細な測定値は 37～40 ページを参照。

##### ア 月間平均値

各測定地点における月間平均値は、福島第一原子力発電所の事故（以下「事故」という。）の影響により事故前の月間平均値を上回っています。年月の経過とともに減少する傾向にありました。

事故直後の最大値と今期の測定値の最大値を比較すると、減少率の高い順から 1F・2F 周辺、1F 近傍、比較対照地点でした。今期の測定値は、いずれの月も数値の高い順から 1F 近傍、1F・2F 周辺、比較対照地点でした。

各地点の空間線量率（ガンマ線）の月間平均値（単位：nGy/h）

測定 エリア	測定 地点数	各地点の月間平均値の範囲			過去の月間平均値			
		4 月	5 月	6 月	R3～*1	H26～*1	事故直後*1	事故前*1
1F 近傍	8	211～3,480	213～3,490	179～3,490	210～	257～	910～	33～54
		今期最大値は事故直後の最大値から約 1/50 に減少			4,290	18,341	176,000	
1F・2F 周辺	31	41～490	41～494	42～501	41～740	43～	117～	58,454
		今期最大値は事故直後の最大値から約 1/117 に減少			2,547	58,454		
比較対 照地点	3	45～102	45～102	45～103	45～113	61～220	181～	39～42
		今期最大値は事故直後の最大値から約 1/36 に減少			3,716			

(注) \*1 R3～：令和 3 年 4 月から令和 6 年 3 月まで。（次項以降も同じ）  
H26～：平成 26 年 4 月から令和 3 年 3 月まで。（次項以降も同じ）  
事故直後：事故後（平成 23 年 3 月 11 日以降）から平成 26 年 3 月まで。（次項以降も同じ）  
事故前：平成 13 年 4 月から事故前（平成 23 年 3 月 10 日以前）まで。  
なお、測定地点数は年度により異なる。

##### イ 1 時間値の変動状況

各測定地点における 1 時間値の変動は、降雨雪による自然放射線レベルの変動\*があるものの、新たな原子力発電所等に由来する影響\*はありませんでした。

(注) ※については、用語の解説（9～11 ページ）を参照してください。



各地点の空間線量率（ガンマ線）の最大値（1時間値）（単位：nGy/h）

測定 エリア	測定 地点数	各地点の最大値の範囲			過去の最大値			
		4月	5月	6月	R3～	H26～	事故直後	事故前*1
1F 近傍	8	219～3,600	223～3,640	192～3,630	4,440	18,578	1,018,174	157
		今期最大値は事故直後の最大値から約1/280に減少						
1F・2F 周辺	31	60～502	53～507	60～515	805	2,674	1,591,066	
		今期最大値は事故直後の最大値から約1/3089に減少						
比較対 照地点	3	60～116	65～118	72～117	144	232	9,956	88
		今期最大値は事故直後の最大値から約1/84に減少						

(注) \*1 事故前：平成13年4月から事故前（平成23年3月10日以前）まで。  
 なお、測定地点数は年度により異なる。

## (2) 中性子線

1F近傍で2地点、1F・2F周辺で1地点、計3地点で空間線量率（中性子線）を常時測定しました。各測定地点における月間平均値（4 nSv/h）は、事故前の県内の測定結果\*1と同程度\*であり、中性子線量率の異常は確認されませんでした。詳細な測定値は41ページ参照。

※1 環境における中性子線量率の測定結果（平成14年度文部科学省実施）：4.6～14 nSv/h

県内5地点（福島市、猪苗代町、西会津町、いわき市）において、サーベイメータ型レムカウンタ（直径2インチ5気圧<sup>3</sup>He比例計数管）を使用し、地表面より約1mの高さで測定。

URL:<https://www.kankyo-hoshano.go.jp/>（環境放射線データベース）

URL:[https://www.kankyo-hoshano.go.jp/wp-content/themes/jcac/pdf/ers\\_abs45.pdf](https://www.kankyo-hoshano.go.jp/wp-content/themes/jcac/pdf/ers_abs45.pdf)（「第45回環境放射線調査研究成果論文抄録集（平成14年度）文部科学省」I-20 環境における中性子線量率の全国調査）

### 4-1-2 空間積算線量

1F近傍で7地点、1F・2F周辺で57地点、計64地点で電子式線量計により空気中の放射線量を測定しました。詳細な測定値は42～44ページを参照。

90日換算値は、事故の影響により事故前の測定値を上回っていますが、年月の経過とともに減少する傾向にありました。

空間積算線量の90日換算値（単位：mGy/90日）

測定 エリア	測定 地点数	測定値	過去の測定値			
		（令和6年4月4日～令和6年7月4日）*2	R3～	H26～	事故直後	事故前*1
1F 近傍	7	0.47～6.2	0.46～6.2	0.57～45	2.38～ 137.79	0.10～ 0.14
		今期最大値は事故直後の最大値から約1/22に減少				
1F・2F 周辺	57	0.14～9.6	0.14～11	0.15～31	0.18～ 35.84	
		今期最大値は事故直後の最大値から約1/4に減少				

(注) \*1 事故前：事故前から測定していた20地点における平成15年4月から平成22年12月まで。

\*2 令和6年度から測定方法を変更。

## 4-2 環境試料

### 4-2-1 大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能

#### (1) 6時間連続集じん・6時間放置後測定

1F近傍で3地点、1F・2F周辺で14地点、計17地点で6時間連続集じん・6時間放置後の全アルファ放射能及び全ベータ放射能を測定しました。詳細な測定値は45～46ページを参照。

#### ア 月間平均値

全アルファ放射能及び全ベータ放射能の月間平均値は、原子力発電所からの距離に関係なく、いずれの月も事故前の月間平均値とほぼ同程度でした。

(注) ※については、用語の解説(9～11ページ)を参照してください。

各地点の大気浮遊じんの月間平均値 (単位: Bq/m<sup>3</sup>)

測定項目	測定 エリア	測定 地点数	各地点の月間平均値の範囲			過去の月間平均値			
			4月	5月	6月	R3～	H26～*2	事故直後	事故前*1
全アルファ 放射能	1F 近傍	3	0.012～ 0.037	0.010～ 0.024	0.013～ 0.036	0.006～ 0.045	0.004～ 0.059	0.007～ 0.039	0.007～ 0.076
	1F・2F 周辺	14	0.015～ 0.052	0.010～ 0.031	0.013～ 0.044	0.002～ 0.062	0.003～ 0.088	0.009～ 0.046	
全ベータ 放射能	1F 近傍	3	0.044～ 0.13	0.040～ 0.095	0.046～ 0.13	0.028～ 0.16	0.021～ 0.16	0.025～ 0.22	0.018～ 0.12
	1F・2F 周辺	14	0.051～ 0.12	0.039～ 0.081	0.044～ 0.11	0.020～ 0.10	0.017～ 0.13	0.030～ 2.0	

(注) \*1 事故前:平成13年9月から事故前(平成23年3月10日以前)まで。

\*2 大熊町大野の地点は、令和元年度末に局舎を移設したため、令和2年度第1四半期から採取地点を旧大熊町役場敷地内に変更。

#### イ 変動状況

全アルファ放射能及び全ベータ放射能の最大値は事故前の最大値と同程度\*でした。また、空間線量率の高低にかかわらず、全アルファ放射能及び全ベータ放射能に強い相関が見られていることから、これらの変動は、全アルファ放射能及び全ベータ放射能の相関関係\*による自然放射能レベルの変動と考えられました。巻末のグラフ集(102～110ページ)に相関図を示しております。

(注) ※については、用語の解説(9～11ページ)を参照してください。

## 各地点の大気浮遊じん最大の値

(単位：Bq/m<sup>3</sup>)

測定項目	測定 エリア	測定 地点数	各地点の最大の値の範囲			過去の最大の値			
			4月	5月	6月	R3～	H26～*2	事故直後	事故前*1
全アルファ 放射能	1F 近傍	3	0.055～ 0.29	0.056～ 0.23	0.065～ 0.24	0.31	0.26	0.19	0.58
	1F・2F 周辺	14	0.063～ 0.23	0.050～ 0.18	0.059～ 0.16	0.32	0.42	0.34	
全ベータ 放射能	1F 近傍	3	0.13～ 0.86	0.14～ 0.77	0.16～ 0.72	0.97	0.84	1.3	0.78
	1F・2F 周辺	14	0.14～ 0.67	0.12～ 0.38	0.13～ 0.35	0.77	0.71	54	

(注) \*1 事故前：平成13年9月から事故前（平成23年3月10日以前）まで。

\*2 大熊町大野の地点は、令和元年度末に局舎を移設したため、令和2年度第1四半期から採取地点を旧大熊町役場敷地内に変更。

## (2) 集じん中測定

1F近傍で6地点、1F・2F周辺で20地点、計26地点で集じん中の全アルファ放射能及び全ベータ放射能を測定しました。各測定地点における放射能濃度の変動は、ろ紙送り直後や放射能濃度が低い場合※を除き、全ベータ放射能を全アルファ放射能で除した比（ $\beta/\alpha$ 比）がほぼ一定であることから、自然放射能レベルの変動と考えられました。巻末のグラフ集(111～123ページ)に全アルファ放射能及び全ベータ放射能の推移を示しております。

※ ろ紙送り直後のデータは、大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べ高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低い場合は、放射線の計数が小さいことから $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。(放射能測定法シリーズNo.36「大気中放射性物質測定法」より)

### 4-2-2 環境試料の核種濃度（ガンマ線放出核種）

今期に測定した環境試料は、大気浮遊じんが49地点147試料、降下物が12地点36試料、上水が13地点13試料、海水が11地点29試料、海底土が8地点8試料、ほんだわらが2地点2試料の6品目で合計215試料でした。詳細な測定値は47～59ページを参照。

降下物及び海底土の14試料からセシウム-134が、全6品目の165試料からセシウム-137が検出され、そのうち、事故前の測定値を上回った試料は、セシウム-134が14試料、セシウム-137が165試料でした。事故の影響により多くの試料で事故前の測定値を上回りましたが、事故直後と比較すると大幅に低下しており、令和3年度以降の測定値とほぼ同程度でした。

上水の一部（水源は表流水）からセシウム-137が検出（0.017 Bq/L）されています。この値は、食品中の放射性セシウムの基準値のうち、飲料水の基準値※である10 Bq/kg（10 Bq/L）を大きく下回っています。

(注) ※については、用語の解説（9～11ページ）を参照してください。

環境試料のガンマ線放出核種濃度

試料名	核種	採取エリア	地点数	測定値*4	過去の測定値				
					R3～	H26～*2,3	事故直後	事故前*1	
大気浮遊 じん  (mBq/m <sup>3</sup> )	Cs-134	1F 近傍	7	ND	ND～0.034	ND～1.8	0.072～38	ND	
		1F・2F 周辺	35	ND	ND～0.007	ND～0.65	ND～1,100		
		比較対照地点	7	ND	ND	ND～0.13	ND～8.2		—
	Cs-137	1F 近傍	7	0.027～0.28	ND～0.89	ND～5.2	0.14～39	ND	
		1F・2F 周辺	35	ND～0.10	ND～0.38	ND～2.1	ND～990		
		比較対照地点	7	ND～0.046	ND～0.28	ND～0.45	ND～10		—
降下物  (Bq/m <sup>2</sup> (MBq/km <sup>2</sup> ))	Co-60	1F 近傍	2	ND	ND	ND～0.54	ND	ND	
		1F・2F 周辺	8	ND	ND	ND	ND		
		比較対照地点	2	ND	ND	ND	ND		ND
	Sb-125	1F 近傍	2	ND	ND	ND～2.0	ND	ND	
		1F・2F 周辺	8	ND	ND	ND～3.1	ND		
		比較対照地点	2	ND	ND	ND	ND		ND
	Cs-134	1F 近傍	2	0.12～0.54	0.18～5.4	ND～1,200	76～ 5,000,000	ND	
		1F・2F 周辺	8	ND～0.08	ND～2.8	ND～110	ND～ 940,000		
		比較対照地点	2	ND～0.11	ND～1.1	ND～180	ND～ 140,000		ND
	Cs-137	1F 近傍	2	9.0～34	7.7～240	13～4,300	170～ 5,600,000	ND～0.15	
		1F・2F 周辺	8	0.13～13	0.24～64	ND～670	ND～ 1,000,000		
		比較対照地点	2	ND～6.1	0.084～26	ND～620	ND～ 150,000		ND～0.093
	土 壤  (Bq/kg乾(事 故直後及び H26～H27は Bq/kg湿))	Co-60	1F 近傍	2	ND	ND～2.9	ND～5.3	ND	ND
			1F・2F 周辺	13	測定中	ND	ND～1.9	ND	
			比較対照地点	7	ND	ND	ND	ND	
Sb-125		1F 近傍	2	ND	ND	ND～130	ND	ND	
		1F・2F 周辺	13	測定中	ND	ND	ND		
		比較対照地点	7	ND	ND	ND～28	ND		ND
Cs-134		1F 近傍	2	160～3,900	510～ 14,000	1,500～ 49,000	2,700～ 230,000	ND	
		1F・2F 周辺	13	測定中	ND～300	ND～7,800	32～12,000		
		比較対照地点	7	ND～26	ND～84	ND～690	14～9,200		ND
Cs-137		1F 近傍	2	10,000～ 250,000	25,000～ 400,000	20,000～ 330,000	3,100～ 310,000	ND～16	
		1F・2F 周辺	13	測定中	27～10,000	7.7～52,000	75～26,000		
		比較対照地点	7	59～1,600	27～2,100	33～4,500	18～14,000		ND～30

(注) 「—」は測定値なし。

\*1 事故前：平成13年4月から事故前（平成23年3月10日以前）まで。

\*2 大気浮遊じんの1F近傍の大熊町大野の地点は、令和元年度末に局舎を移設したため、令和2年度から採取地点を旧大熊町役場敷地内に変更。

\*3 土壌の1F近傍の大熊町夫沢の地点は、中間貯蔵施設工事により採取不可能になったため、令和2年度第3四半期から採取地点を大熊町小入野に変更。

\*4 土壌13地点13試料でCo-60、Sb-125、Cs-134及びCs-137を測定中。

試料名	核種	採取エリア	地点数	測定値	過去の測定値			
					R3～*3	H26～*2	事故直後	事故前*1
上水 (Bq/L)	Cs-134	1F 近傍	1	ND	ND	ND	—	ND
		1F・2F 周辺	12	ND	ND～0.001	ND～0.062	ND～0.17	
		比較対照地点	2	—	ND	ND～0.002	ND	ND
	Cs-137	1F 近傍	1	ND	ND～0.003	ND～0.003	—	ND
		1F・2F 周辺	12	ND～0.017	ND～0.036	ND～0.18	ND～0.29	
		比較対照地点	2	—	ND～0.005	ND～0.011	ND	ND
海水 (Bq/L)	Cs-134	1F 放取水口	3	ND	ND～0.010	ND～0.35	ND～2.4	ND
		1F 沖合	3	ND	ND	ND～0.067	ND～0.094	
		ALPS 処理水 放水口周辺	3	ND	ND	—	—	
		2F 放水口	2	ND	ND	ND～0.012	ND～0.20	
		松川浦	1	—	ND	ND～0.005	ND	
	Cs-137	1F 放取水口	3	0.010～ 0.11	0.003～ 0.31	ND～1.1	ND～5.0	ND～ 0.003
		1F 沖合	3	0.003～0.017	0.002～ 0.025	ND～0.31	ND～0.19	
		ALPS 処理水 放水口周辺	3	0.004～ 0.032	0.002～ 0.033	—	—	
		2F 放水口	2	0.011～ 0.013	0.005～ 0.032	ND～0.12	0.12～0.42	
		松川浦	1	—	0.005～ 0.020	ND～0.028	ND	
海底土 (Bq/kg 乾)	Mn-54	1F 放取水口	3	ND	ND	ND～1.1	ND～1.3	ND
		1F 沖合	3	ND	ND	ND	ND～0.62	
		2F 放水口	2	ND	ND	ND	ND	
		松川浦	1	—	ND	ND	ND	
	Co-60	1F 放取水口	3	ND	ND	ND～1.0	ND～1.3	ND
		1F 沖合	3	ND	ND	ND	ND	
		2F 放水口	2	ND	ND	ND	ND	
		松川浦	1	—	ND	ND	ND	
	Cs-134	1F 放取水口	3	2.3～4.9	2.8～11	8.7～320	120～450	ND
		1F 沖合	3	ND～1.3	ND～3.3	ND～130	25～72	
		2F 放水口	2	ND～0.82	ND～2.5	3.0～68	47～230	
		松川浦	1	—	ND	ND～4.4	1.3	
	Cs-137	1F 放取水口	3	150～310	130～350	140～870	230～1,000	ND～0.97
		1F 沖合	3	23～92	20～240	17～630	61～170	
		2F 放水口	2	31～50	28～120	50～200	100～470	
		松川浦	1	—	2.6～6.6	1.8～13	2.6	

(注) 「—」は測定値なし。

\*1 事故前：平成13年4月から事故前（平成23年3月10日以前）まで。

\*2 上水の1F・2F周辺の犬熊町の地点は令和元年度から再開。1F近傍の双葉町の地点は令和2年度第3四半期から再開。

\*3 海水のALPS処理水放水口周辺の測点は、令和4年度から測定を実施。

試料名	核種	採取エリア	地点数	測定値	過去の測定値			
					R3～	H26～*2	事故直後	事故前*1
ほんだわら	Cs-134	1F 海域	1	ND	ND～0.16	0.40～0.50	—	ND
		2F 海域	1	ND	ND～0.12	ND	—	ND
(Bq/kg 生)	Cs-137	1F 海域	1	0.98	2.7～5.2	3.5～8.7	—	ND
		2F 海域	1	0.38	0.77～4.3	0.34～0.47	—	ND

(注)「—」は測定値なし。

\*1 事故前：平成13年4月から事故前（平成23年3月10日以前）まで。

\*2 ほんだわらは令和元年度から再開。

#### 4-2-3 環境試料の核種濃度（ベータ線放出核種）

海水11地点29試料について、全ベータ放射能を調査した結果、事故前の測定値（ND～0.05 Bq/L）と同程度\*でした。詳細な測定値は57ページを参照。

大気中水分6地点18試料、上水13地点13試料、海水11地点29試料の合計60試料について、トリチウムを調査した結果、大気中水分6地点15試料、上水2地点2試料、海水9地点26試料から検出されました。大気中水分のトリチウムの測定値は、事故前の測定値（大気中水分：ND～12 mBq/m<sup>3</sup>、上水：ND～1.3 Bq/L、海水：ND～2.9 Bq/L）とほぼ同程度でした。詳細な測定値は52、57ページを参照。

土壌22地点22試料、海水11地点29試料、海底土6地点6試料、ほんだわら2地点2試料について、ストロンチウム-90を調査した結果、土壌19地点19試料、海水9地点21試料、海底土1地点1試料、ほんだわら1地点1試料から検出されました。海底土のストロンチウム-90の測定値は、令和3年度以降の測定値（ND～0.51 Bq/kg 乾）を上回りましたが、事故直後と比較すると低下しており、平成26年度から令和2年度までの測定値（ND～4.6 Bq/kg 乾）と同程度でした。土壌のストロンチウム-90の測定値は、一部の地点で令和3年度以降の測定値（ND～3.4 Bq/kg 乾）を上回りましたが、採取地点の変更によるものであるため、今後の推移を確認していきます。海水のストロンチウム-90の測定値は、一部の地点でこれまでの測定値の範囲を上回りましたが、他の地点も含めた令和3年度以降の測定値（ND～0.035 Bq/L）と同程度\*でした。ほんだわらのストロンチウム-90の測定値は、事故前の測定値（0.04～0.19 Bq/kg 生）と同程度\*でした。詳細な測定値は56～59ページを参照。

ALPS処理水の海洋放出後に開始した速報のためのトリチウムの迅速分析については、令和6年4月12日から令和6年6月6日までに実施した結果は、全て検出下限値未満でした。詳細は60ページを参照。

(注) ※については、用語の解説（9～11ページ）を参照してください。

環境試料のベータ線放出核種濃度

試料名	核種	採取エリア	地点数	測定値	過去の測定値			
					R3～	H26～*2	事故直後	事故前*1
大気中水分 (mBq/m <sup>3</sup> )	H-3	1F 近傍	3	ND～25	ND～68	ND～70	—	ND～23
		1F・2F 周辺	2	ND～7.4	ND～12	ND～14	—	ND～14
		比較対照地点	1	5.8～14	ND～12	ND～21	ND～41	ND～12

(注)「—」は測定値なし。

\*1 事故前：平成20年度から事故前（平成23年3月10日以前）まで。

\*2 大気中水分の1F近傍、1F・2F周辺は平成30年度から再開。

試料名	核種	採取エリア	地点数	測定値*5	過去の測定値				
					R3~*4	H26~*2	事故直後	事故前*1,3	
土 壤 (Bq/kg 乾)	Sr-90	1F 近傍	2	14~17	16~55	19~61	15~81	ND~3.5	
		1F・2F 周辺	13	ND~6.8	ND~3.4	0.22~17	ND~14		
		比較対照地点	7	ND~1.3	ND~6.2	0.42~16	ND~32	1.8~4.3	
上 水 (Bq/L)	H-3	1F 近傍	1	ND	ND~0.45	ND~0.37	—	ND~1.2	
		1F・2F 周辺	12	ND~0.52	ND~0.60	ND~0.94	ND~0.96		
		比較対照地点	2	—	ND~0.46	ND~0.85	ND~1.4	ND~1.3	
海 水 (Bq/L)	全ベータ 放射能	1F 放取水口	3	0.01~0.02	ND~0.07	ND~0.38	0.02~1.7	ND~0.05	
		1F 沖合	3	0.01~0.02	ND~0.07	ND~0.05	ND~0.14		
		ALPS 処理水 放水口周辺	3	0.01~0.02	0.01~0.03	—	—		
		2F 放水口	2	0.01	0.01~0.07	0.01~0.06	0.02~0.05		
		松川浦	1	—	0.04~0.06	0.02~0.06	0.02	ND~0.03	
	H-3	1F 放取水口	減圧 蒸留法	3	—	ND~1.4	ND~2.6	ND~6.2	ND~2.9
			電解 濃縮法	3	0.06~0.68	ND~0.66	—	—	
		1F 沖合	減圧 蒸留法	3	—	ND~0.41	ND~0.91	ND~0.58	
			電解 濃縮法	3	0.05~0.07	ND~0.63	—	—	
		ALPS 処理水 放水口周辺	減圧 蒸留法	3	—	ND	—	—	
			電解 濃縮法	3	ND~0.09	ND~1.6	—	—	
		2F 放水口	2	減圧 蒸留法	ND	ND	ND~0.86	ND~0.56	
		松川浦	1	減圧 蒸留法	—	ND~0.37	ND	ND	
	Sr-90	1F 放取水口	3	0.0003~0.0066	ND~0.035	ND~0.76	0.005~2.9	ND~0.002	
		1F 沖合	3	ND~0.0012	ND~0.0017	ND~0.031	0.001~0.26		
		ALPS 処理水 放水口周辺	3	ND~0.0027	ND~0.0013	—	—		
		2F 放水口	2	ND	0.0007~ 0.0009	0.0008~ 0.0030	0.033~ 0.034		
		松川浦	1	—	ND~0.0018	0.0010~ 0.0011	0.001		0.001~ 0.002

(注) 「—」は測定値なし。

\*1 事故前：平成13年4月から事故前（平成23年3月10日以前）まで。

\*2 土壌の1F近傍の大熊町夫沢の地点は、中間貯蔵施設工事により採取不可能になったため、令和2年度第3四半期から採取地点を大熊町小入野に変更。

上水の1F・2F周辺の大熊町の地点は令和元年度から再開。1F近傍の双葉町の地点は令和2年度第3四半期から再開。

\*3 海水のH-3の測定は、減圧蒸留法による。（検出下限値：約0.3~0.5 Bq/L）

\*4 海水のALPS処理水放水口周辺の測点は、令和4年度から測定を実施。1F放取水口、1F沖合及びALPS処理水放水口周辺のH-3は令和4年度から電解濃縮法による測定を実施。（検出下限値：0.03~0.06 Bq/L）

\*5 土壌の1F・2F周辺の南相馬市馬場の地点は、従来の採取地が芝生の植栽等の環境整備により採取不可能になったため、令和6年度第1四半期から採取地点を変更した。

試料名	核種	採取エリア	地点数	測定値	過去の測定値			
					R3～	H26～*2	事故直後	事故前*1,3
海底土 (Bq/kg 乾)	Sr-90	1F 放取水口	3	ND～0.75	ND～0.51	ND～4.6	ND～1.2	ND
		1F 沖合	3	ND	ND～0.28	ND～0.71	ND～0.19	
		2F 放水口	2	ND	ND	ND～0.32	ND～0.21	
		松川浦	1	—	ND～0.28	ND～0.21	ND	ND～0.02
ほんだわら (Bq/kg 生)	Sr-90	1F 海域	1	0.043	0.075～0.14	0.12～0.20	—	0.04～0.13
		2F 海域	1	0.029	ND～0.088	0.026～ 0.030	—	0.05～0.19

(注) 「—」は測定値なし。

\*1 事故前：平成13年4月から事故前（平成23年3月10日以前）まで。

\*2 ほんだわらは令和元年度から再開。

\*3 海水のH-3の測定は、減圧蒸留法による。（検出下限値：約0.3～0.5 Bq/L）

#### 速報のためのトリチウム迅速分析結果（令和6年4月12日～令和6年6月6日実施分）

試料名	核種	採取エリア	地点数	測定値	過去の測定値			
					R3～	H26～	事故直後	事故前
海水 (Bq/L)	H-3	1F 放取水口	3	ND	ND	—	—	—
		1F 沖合	3	ND	ND	—	—	—
		ALPS 処理水 放水口周辺	3	ND	ND	—	—	—

(注) 速報のためのトリチウム迅速分析は、検出下限値の目標値を10Bq/L程度としており、当該期間の検出下限値は3.4～4.4 Bq/Lであった。

#### 4-2-4 環境試料の核種濃度（アルファ線放出核種）

土壌22地点22試料について、ウラン-234、ウラン-235及びウラン-238を調査した結果、16地点16試料からウラン-234、ウラン-235、ウラン-238が検出されましたが、いずれの核種の放射能比も天然ウランの放射能比※1と同程度であり、土壌中のウランは天然ウランに由来するものと考えられます。詳細な測定値は56、59ページを参照。

土壌22地点22試料、海水9地点27試料、海底土6地点6試料、ほんだわら2地点2試料の合計57試料について、プルトニウム-238を調査した結果、土壌4地点4試料からプルトニウム-238が検出されました。土壌のプルトニウム-238の測定値は、事故前の測定値（ND～0.08 Bq/kg 乾）と同程度※でした。詳細な測定値は56～59ページを参照。

土壌22地点22試料、海水9地点27試料、海底土6地点6試料、ほんだわら2地点2試料の合計55試料について、プルトニウム-239+240を調査した結果、土壌16地点16試料、海水3地点3試料、海底土8地点8試料、ほんだわら1地点1試料からプルトニウム-239+240が検出されました。土壌、海水、海底土及びほんだわらのプルトニウム-239+240の測定値は、事故前の測定値（土壌：ND～2.6 Bq/kg 乾、海水：ND～0.013 Bq/L、海底土：0.15～0.61 Bq/kg 乾、ほんだわら：0.0035～0.022 Bq/kg 生）と同程度※でした。詳細な測定値は、56～59ページを参照。

(注) ※については、用語の解説（9～11ページ）を参照してください。

※1 天然ウランの放射能費（ウラン-234：ウラン-235：ウラン-238＝1：0.047：1）出典：文部科学省発行 放射能測定法シリーズ No.14 ウラン分析法



環境試料のアルファ線放出核種濃度

試料名	核種	採取エリア	地点数	測定値*3,4	過去の測定値			
					R3～	H26～*2	事故直後	事故前*1
土 壤 (Bq/kg 乾)	U-234	1F 近傍	2	11～16	12～16	11～15	—	—
		1F・2F 周辺	13	3.5～24	3.1～25	3.2～28	—	—
		比較対照地点	1	8.1	6.1～7.6	8.1	—	—
	U-235	1F 近傍	2	0.46～0.69	0.56～0.79	0.51～0.56	—	—
		1F・2F 周辺	13	0.13～1.6	0.13～1.7	0.11～1.6	—	—
		比較対照地点	1	0.35	0.25～0.39	0.38	—	—
	U-238	1F 近傍	2	11～16	11～17	10～13	—	—
		1F・2F 周辺	13	3.2～36	3.0～34	3.1～35	—	—
		比較対照地点	1	7.9	5.3～8.4	8.2	—	—
	Pu-238	1F 近傍	2	0.02	ND～0.10	ND～0.09	ND～0.03	ND～0.03
		1F・2F 周辺	13	ND～0.01	ND～0.02	ND～0.05	ND～0.05	
		比較対照地点	7	ND～0.01	ND～0.03	ND～0.03	ND～0.18	ND～0.08
	Pu-239+240	1F 近傍	2	0.04～0.49	0.04～0.30	0.05～0.37	0.20～0.34	ND～0.44
		1F・2F 周辺	13	ND～0.30	ND～0.36	ND～0.97	ND～0.66	
		比較対照地点	7	ND～0.66	ND～0.85	ND～1.2	ND～4.8	ND～2.6
	Am-241	1F 近傍	2	測定中	0.02～0.20	0.02～0.19	0.02～0.16	—
		1F・2F 周辺	13	測定中	ND～0.14	ND～0.44	ND～0.25	
		比較対照地点	1	0.06	0.07～0.14	0.06～0.41	0.11	—
	Cm-244	1F 近傍	2	測定中	ND～0.02	ND～0.02	ND	—
		1F・2F 周辺	13	測定中	ND	ND～0.03	ND	
		比較対照地点	1	ND	ND	ND	ND	—

(注) 「—」は測定値なし。

\*1 事故前：平成13年4月から事故前（平成23年3月10日以前）まで。

\*2 土壌のU-234、U-235、U-238は令和2年度から調査を実施。1F近傍の大熊町夫沢の地点は、中間貯蔵施設工事により採取不可能になったため、令和2年度第3四半期から採取地点を大熊町小入野に変更。

\*3 土壌の1F・2F周辺の南相馬市馬場の地点は、従来の採取地が芝生の植栽等の環境整備により採取不可能になったため、令和6年度第1四半期から採取地点を変更した。

\*4 土壌15地点15試料でAm-241及びCm-244を測定中。

試料名	核種	採取エリア	地点数	測定値	過去の測定値			
					R3～*2	H26～*3	事故直後	事故前*1
海水 (mBq/L)	Pu-238	1F 放取水口	3	ND	ND	ND～0.010	ND	—
		1F 沖合	3	ND	ND	ND	ND	
		ALPS 処理水 放水口周辺	3	ND	ND	—	—	
		2F 放水口	2	ND	ND	ND	ND	
		松川浦	1	—	ND	ND	ND	
	Pu- 239+240	1F 放取水口	3	ND～0.012	ND～0.019	ND～0.018	ND～0.014	ND～0.013
		1F 沖合	3	ND	ND～0.016	ND～0.011	ND～0.010	
		ALPS 処理水 放水口周辺	3	ND	ND～0.010	—	—	
		2F 放水口	2	0.010～ 0.011	ND～0.015	ND～0.020	ND～0.011	
		松川浦	1	—	ND	ND	ND	
海底土 (Bq/kg 乾)	Pu-238	1F 放取水口	3	ND	ND	ND	ND	—
		1F 沖合	3	ND	ND～0.01	ND～0.02	ND～0.02	—
		2F 放水口	2	—	ND	ND	ND	
		松川浦	1	—	ND	ND	ND	
	Pu- 239+240	1F 放取水口	3	0.17～0.26	0.09～0.40	0.09～0.43	0.08～0.32	
		1F 沖合	3	0.35～0.51	0.19～0.50	0.21～0.61	0.33～0.52	
		2F 放水口	2	—	0.13～0.27	0.14～0.36	0.21～0.25	
		松川浦	1	—	0.20～0.23	0.18～0.31	0.20	0.13～0.40
ほんだわら (Bq/kg 生)	Pu-238	1F 海域	1	ND	ND	ND	—	ND
		2F 海域	1	ND	ND	ND	—	ND
	Pu- 239+240	1F 海域	1	0.0027	0.0045～ 0.0094	0.0038～ 0.0053	—	0.0035～ 0.021
		2F 海域	1	ND	0.0029～ 0.0059	ND～0.0010	—	0.0067～ 0.022

(注) 「—」は測定値なし。

\*1 事故前：平成13年4月から事故前（平成23年3月10日以前）まで。

\*2 海水のALPS処理水放水口周辺の測点は令和4年度から測定を実施。

\*3 ほんだわらは令和元年度から再開。

第5 原子力発電所周辺環境放射能測定値一覧表

5-1 空間放射線

単位:線量率:μGy/h 測定時間:h  
上段:平均値(下段):最大値

No.	測定地点名	R6.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R7.1		2		3	
		線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間
1	いわき市小川	47 (60)	720	44 (53)	744	42 (60)	720																		
2	いわき市久之浜	77 (90)	720	77 (89)	744	77 (92)	720																		
3	いわき市千桶売	47 (61)	720	47 (58)	744	47 (61)	720																		
4	いわき市川前	60 (79)	720	60 (68)	744	60 (75)	720																		
5	田村市都路馬洗戸	66 (77)	720	66 (80)	744	67 (83)	720																		
6	広野町二ツ沼	69 (83)	720	69 (80)	744	69 (90)	720																		
7	広野町小滝平	66 (76)	720	66 (76)	744	67 (82)	720																		
8	楢葉町山田岡	69 (88)	720	69 (81)	744	69 (88)	720																		
9	楢葉町木戸タム	59 (72)	720	59 (70)	744	60 (76)	720																		
10	楢葉町繁岡	92 (107)	720	92 (104)	744	92 (110)	720																		
11	楢葉町松館	114 (126)	720	114 (125)	744	114 (130)	720																		
12	楢葉町波倉	146 (156)	720	146 (158)	744	146 (160)	720																		

No.	測定年月 測定項目 測定地点名	R6.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R7.1		2		3	
		線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間
13	富岡町 上郡山	187 (198)	720	188 (203)	744	188 (208)	720																		
14	富岡町 下郡山	117 (130)	720	117 (131)	744	118 (141)	720																		
15	富岡町 深谷*	110 (127)	720	110 (131)	744	110 (141)	720																		
16	富岡町 富岡	93 (106)	720	93 (106)	744	94 (114)	720																		
17	富岡町 夜の森	161 (175)	720	162 (178)	744	161 (185)	720																		
18	川内村 川内	103 (115)	720	103 (118)	744	103 (122)	720																		
19	大熊町 向畑	498 (519)	720	498 (527)	744	504 (530)	720																		
20	大熊町 熊川*	687 (734)	720	691 (753)	744	705 (754)	720																		
21	大熊町 南台	3,480 (3600)	720	3,490 (3640)	744	3,490 (3630)	718																		
22	大熊町 大野	211 (219)	720	213 (223)	744	215 (231)	720																		
23	大熊町 夫沢	1,960 (2020)	720	1,960 (2050)	744	1,970 (2050)	717																		
24	双葉町 山田	2,680 (2860)	720	2,700 (2920)	744	2,750 (2920)	717																		
25	双葉町 郡山	246 (256)	720	246 (260)	744	246 (263)	720																		
26	双葉町 新山	249 (263)	720	217 (268)	744	179 (192)	720																		
27	双葉町 上羽鳥	255 (266)	720	256 (268)	744	257 (276)	720																		

No.	測定年月	測定項目 測定地点名	R6.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R7.1		2		3			
			線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間
28		浪江町 請 <sup>ケ</sup> 戸 <sup>※1</sup>	87 (101)	720	88 (108)	744	89 (110)	720																				
29		浪江町 棚 <sup>※1</sup>	62 (79)	720	62 (77)	744	62 (83)	720																				
30		浪江町 浪 <sup>カ</sup> 江 <sup>カ</sup>	111 (127)	720	111 (123)	744	113 (135)	720																				
31		浪江町 幾 <sup>キ</sup> 世 <sup>セ</sup> 橋	74 (85)	720	74 (83)	744	74 (90)	720																				
32		浪江町 大 <sup>オホ</sup> 柿 <sup>カキ</sup> ダ <sup>タ</sup> ム	490 (502)	720	494 (507)	744	501 (515)	720																				
33		浪江町 南 <sup>ミナミ</sup> 津 <sup>ツ</sup> 島	350 (363)	720	351 (370)	744	352 (367)	720																				
34		葛尾村 夏 <sup>ナツ</sup> 湯	107 (118)	720	107 (117)	744	107 (130)	720																				
35		南相馬市 泉 <sup>イヅミ</sup> 沢	83 (100)	720	83 (95)	744	83 (100)	720																				
36		南相馬市 榎 <sup>エノキ</sup> 川 <sup>カハ</sup> ダ <sup>タ</sup> ム	155 (162)	720	157 (167)	744	158 (171)	720																				
37		南相馬市 萱 <sup>カヤ</sup> 浜	41 (60)	720	41 (54)	744	42 (66)	720																				
38		飯館村 伊 <sup>イ</sup> 丹 <sup>ニ</sup> 沢	114 (122)	720	115 (130)	744	114 (134)	720																				
39		川俣町 山 <sup>ヤマ</sup> 木 <sup>キ</sup> 屋	104 (111)	720	104 (119)	744	104 (125)	720																				

注) 1 No.の網掛け部分は東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所から半径5km未満の地域

5-1-1(2) 空間線量率 (比較対照地点)

No.	測定地点名	測定項目	測定年月		R6.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R7.1		2		3		
			線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	
1	福島市 杉 葉 っ 葉		45 (60)	720	45 (65)	744	45 (76)	705																					
2	郡山市 日 和 田		102 (116)	720	102 (118)	744	103 (117)	715																					
3	いわき市		59 (70)	720	59 (71)	744	59 (72)	715																					

単位: 線量率=μSv/h, 測定時間=h  
上段: 平均値 (下段): 最大値

5-1-1(3) 中性子線量率

測定年月		R6.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R7.1		2		3	
		測定項目		線量率	測定日数	線量率	測定日数	線量率	測定日数	線量率	測定日数	線量率	測定日数	線量率	測定日数	線量率	測定日数	線量率	測定日数	線量率	測定日数	線量率	測定日数	線量率	測定日数
		No.	測定地点名	単位:線量率=nsv/h,測定時間=day 上段:平均値(下段):最大値																					
1	大熊町 おおの野	4 (4)	30	4 (4)	31	4 (4)	30																		
2	大熊町 おとさわ	4 (5)	30	4 (5)	31	4 (5)	30																		
3	南相馬市 かいぼ	4 (4)	30	4 (4)	31	4 (4)	30																		

注) No.の網掛け部分は東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所から半径5km未満の地域  
環境中の中性子線強度が低いために1時間値では測定値のばらつきが大きいことから、1日間値を掲載している

(単位 mGy)

No.	測定地点名	測定期間		測定日数	積算線量	測定日数	積算線量	測定日数	積算線量
		R6. 4. 4	～R6. 7. 4						
測定項目		積算線量	測定日数	積算線量	測定日数	積算線量	測定日数	積算線量	測定日数
1	いわき市 石森	0.16 (0.16)	91						
2	いわき市 西ヶ倉	0.20 (0.20)	91						
3	いわき市 大野	0.18 (0.18)	91						
4	いわき市 福岡	0.21 (0.21)	91						
5	いわき市 大久	0.18 (0.18)	91						
6	いわき市 末碓	0.21 (0.21)	91						
7	いわき市 上小川	0.27 (0.26)	91						
8	いわき市 志田	0.29 (0.29)	91						
9	いわき市 小白井	0.17 (0.16)	91						
10	田村市 場々	0.28 (0.28)	91						
11	田村市 古道	0.22 (0.22)	91						
12	田村市 岩井沢	0.17 (0.17)	91						
13	広野町 下浅見川	0.16 (0.16)	91						
14	広野町 帯平	0.21 (0.21)	91						
15	檜葉町 山田岡	0.15 (0.15)	91						
16	檜葉町 乙次郎	0.21 (0.20)	91						
17	檜葉町 井出	0.19 (0.18)	91						
18	檜葉町 上繁岡	0.28 (0.28)	91						
19	富岡町 太田	0.33 (0.32)	91						
20	富岡町 赤木	0.31 (0.31)	91						
21	富岡町 小良ヶ浜	2.2 (2.2)	91						
22	富岡町 夜の森北	0.38 (0.38)	91						



(単位 mGy)

No.	測定地点名	R6. 4. 4 ~ R6. 7. 4		測定日数		積算線量	測定日数	積算線量	測定日数
		積算線量	測定日数	積算線量	測定日数				
23	富岡町 上手岡	0.47	(0.46)	91					
24	川内村 三ツ石	0.44	(0.43)	91					
25	川内村 貝ノ坂	0.62	(0.61)	91					
26	川内村 五枚沢	0.22	(0.22)	91					
27	川内村 上川内	0.19	(0.19)	91					
28	大熊町 大川原	0.27	(0.27)	91					
29	大熊町 旭ヶ丘	0.35	(0.34)	91					
30	大熊町 野の上	1.07	(1.1)	91					
31	大熊町 熊川	2.5	(2.5)	91					
32	大熊町 大野	0.47	(0.47)	91					
33	大熊町 夫沢	6.24	(6.2)	91					
34	大熊町 湯の神	1.02	(1.0)	91					
35	大熊町 長者原	4.1	(4.0)	91					
36	双葉町 清戸迫	0.69	(0.69)	91					
37	双葉町 郡山	0.55	(0.54)	91					
38	双葉町 長塚	0.76	(0.75)	91					
39	浪江町 井手	10	(9.6)	91					
40	浪江町 請戸	0.22	(0.22)	91					
41	浪江町 小野田	0.6	(0.6)	91					
42	浪江町 幾世橋	0.21	(0.21)	91					
43	浪江町 菊宿	0.57	(0.57)	91					
44	浪江町 昼菅根	3.1	(3.0)	91					

(単位 mGy)

No.	測定地点名	R6. 4. 4 ~ R6. 7. 4					
		積算線量	測定日数	積算線量	測定日数	積算線量	測定日数
45	浪江町 津島	1.0 (1.0)	91				
46	葛尾村 大放	0.25 (0.25)	91				
47	葛尾村 落合	0.40 (0.39)	91				
48	葛尾村 野行	1.17 (1.2)	91				
49	南相馬市 浦尻	0.19 (0.19)	91				
50	南相馬市 耳谷	0.22 (0.22)	91				
51	南相馬市 川房	0.66 (0.65)	91				
52	南相馬市 関場	0.36 (0.35)	91				
53	南相馬市 関高	0.15 (0.15)	91				
54	南相馬市 大木戸	0.15 (0.15)	91				
55	南相馬市 萱浜	0.14 (0.14)	91				
56	南相馬市 大原	0.29 (0.29)	91				
57	南相馬市 川子	0.19 (0.19)	91				
58	飯館村 藤平	0.56 (0.55)	91				
59	飯館村 長泥	0.35 (0.34)	91				
60	飯館村 飯樋	0.45 (0.44)	91				
61	飯館村 臼右	0.77 (0.76)	91				
62	飯館村 草野	0.66 (0.65)	91				
63	川俣町 山木屋坂下	0.65 (0.64)	91				
64	川俣町 山木屋	0.26 (0.26)	91				

注) 1 ( ) 内は90日換算値

2 No. の網掛け部分は東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所から半径5km未満の地域

5-2-1 大気浮遊じんの中のアルファ放射能及び全ベータ放射能

単位:放射能濃度: Bq/m<sup>3</sup> 測定時間:h  
上段:平均値(下段):最大値

No.	測定地点名	測定年月	測定項目	R6.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R7.1		2		3		
				測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値
1	いわき市 <small>いわき</small>	小 <small>こ</small> 川 <small>がわ</small>	全アルファ放射能	0.036 (0.14)	720	0.027 (0.16)	744	0.032 (0.13)	708																			
			全ベータ放射能	0.091 (0.31)	720	0.075 (0.32)	744	0.084 (0.27)	708																			
2	田村市 <small>たむら</small>	都 <small>つ</small> 馬 <small>ま</small> 洗 <small>せん</small> 声 <small>こゑ</small>	全アルファ放射能	0.020 (0.10)	720	0.011 (0.063)	744	0.014 (0.059)	708																			
			全ベータ放射能	0.057 (0.21)	720	0.042 (0.14)	744	0.046 (0.13)	708																			
3	広野町 <small>ひろの</small>	小 <small>こ</small> 川 <small>がわ</small>	全アルファ放射能	0.016 (0.070)	720	0.012 (0.058)	744	0.017 (0.076)	708																			
			全ベータ放射能	0.053 (0.16)	720	0.044 (0.14)	744	0.054 (0.17)	708																			
4	楢葉町 <small>のば</small>	米 <small>こめ</small> 戸 <small>と</small> タ <small>た</small> ム <small>む</small>	全アルファ放射能	0.024 (0.098)	720	0.015 (0.081)	726	0.022 (0.096)	708																			
			全ベータ放射能	0.063 (0.21)	720	0.047 (0.18)	726	0.059 (0.21)	708																			
5	楢葉町 <small>のば</small>	繁 <small>しげ</small> 小 <small>こ</small> 川 <small>がわ</small>	全アルファ放射能	0.021 (0.20)	720	0.012 (0.093)	744	0.014 (0.075)	720																			
			全ベータ放射能	0.081 (0.67)	720	0.053 (0.32)	744	0.059 (0.24)	720																			
6	富岡町 <small>とみ</small>	富 <small>とみ</small> 小 <small>こ</small> 川 <small>がわ</small>	全アルファ放射能	0.020 (0.095)	720	0.013 (0.083)	744	0.016 (0.084)	720																			
			全ベータ放射能	0.071 (0.28)	720	0.053 (0.27)	744	0.059 (0.26)	720																			
7	川内村 <small>かわうち</small>	川 <small>がわ</small> 内 <small>うち</small> 内 <small>うち</small>	全アルファ放射能	0.032 (0.14)	720	0.020 (0.11)	744	0.028 (0.12)	708																			
			全ベータ放射能	0.089 (0.32)	720	0.064 (0.26)	744	0.081 (0.29)	708																			
8	大熊町 <small>おほくま</small>	大 <small>おほ</small> 野 <small>の</small>	全アルファ放射能	0.037 (0.29)	720	0.024 (0.23)	744	0.036 (0.24)	720																			
			全ベータ放射能	0.13 (0.86)	720	0.095 (0.77)	744	0.13 (0.72)	720																			

No.	測定地点名	測定年月		RG.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R7.1		2		3		
		測定項目	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間
9	大塚町 おとつき 大	全アルファ放射能	0.015 (0.094)	720	0.012 (0.083)	744	0.017 (0.093)	654																				
10	双葉町 ふたば 郡	全アルファ放射能	0.012 (0.055)	720	0.010 (0.056)	744	0.013 (0.065)	720																				
11	浪江町 なげ 幾世橋	全アルファ放射能	0.024 (0.11)	720	0.017 (0.10)	744	0.020 (0.11)	642																				
12	浪江町 なげ 大柵ダム	全アルファ放射能	0.051 (0.20)	720	0.039 (0.17)	744	0.044 (0.18)	642																				
13	葛尾村 なげ 夏湯	全アルファ放射能	0.034 (0.11)	720	0.025 (0.12)	732	0.037 (0.13)	720																				
14	南相馬市 なげ 泉	全アルファ放射能	0.052 (0.23)	720	0.031 (0.18)	732	0.044 (0.16)	720																				
15	南相馬市 なげ 重	全アルファ放射能	0.017 (0.063)	720	0.013 (0.050)	732	0.017 (0.076)	720																				
16	飯館村 い 伊丹	全アルファ放射能	0.052 (0.14)	720	0.044 (0.12)	732	0.052 (0.17)	720																				
17	川俣町 か 山木	全アルファ放射能	0.019 (0.10)	720	0.014 (0.085)	744	0.016 (0.089)	720																				
		全アルファ放射能	0.084 (0.35)	720	0.071 (0.30)	744	0.076 (0.32)	720																				
		全アルファ放射能	0.015 (0.086)	720	0.010 (0.052)	744	0.013 (0.077)	720																				
		全アルファ放射能	0.065 (0.26)	720	0.050 (0.18)	744	0.060 (0.25)	720																				
		全アルファ放射能	0.020 (0.10)	720	0.014 (0.093)	744	0.018 (0.094)	720																				
		全アルファ放射能	0.077 (0.29)	720	0.060 (0.28)	744	0.072 (0.30)	720																				

注) 1 No.の網掛け部分は東京電力株式会社福島第一原子力発電所から半径5km未満の地域



No.	地点名	採取期間	核種濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )																
			<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>125</sup> Sb	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce					
13	葛尾村 夏湯 (連続ダストモニタ)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	0.005	ND	
14	南相馬市 泉沢 (連続ダストモニタ)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	0.006	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.010	0.010	ND	
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	0.005	ND	
15	南相馬市 萱浜 (連続ダストモニタ)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.016	0.016	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.018	0.018	ND	
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
16	飯館村 伊丹沢 (連続ダストモニタ)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.021	0.021	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.016	0.016	ND	
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
17	川俣町 山木屋 (連続ダストモニタ)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.013	0.013	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.013	0.013	ND	
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
18	いわき市 久之浜 (リアルタイム ダストモニタ)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
19	いわき市 下桶売 (リアルタイム ダストモニタ)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
20	いわき市 川前 (リアルタイム ダストモニタ)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
21	大熊町 向畑 (リアルタイム ダストモニタ)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.027	0.027	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.043	0.043	ND	
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.044	0.044	ND	
22	双葉町 山田 (リアルタイム ダストモニタ)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.077	0.077	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.065	0.065	ND	
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.096	0.096	ND	
23	双葉町 新山 (リアルタイム ダストモニタ)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.072	0.072	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.036	0.036	ND	
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.072	0.072	ND	
24	双葉町 上羽鳥 (リアルタイム ダストモニタ)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.031	0.031	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.050	0.050	ND	
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.058	0.058	ND	

No.	地点名	採取期間	核種濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )															
			<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>125</sup> Sb	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce				
25	浪江町 <small>なみののしま</small> 南津島 (リアルタイム ダストモニタ)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.048	ND	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.10	ND	ND	
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.025	ND	ND	
26	南相馬市 <small>なごら</small> 横川ダム (リアルタイム ダストモニタ)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.052	ND	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.10	ND	ND	
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.034	ND	ND	
27	広野町 <small>おのの</small> 二ツ沼 (ダストサンブラー)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
28	榎葉町 <small>えのは</small> 山田岡 (ダストサンブラー)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
29	榎葉町 <small>えのは</small> 松館 (ダストサンブラー)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.020	ND	ND	ND	
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
30	榎葉町 <small>えのは</small> 波倉 (ダストサンブラー)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.019	ND	ND	ND	
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
31	富岡町 <small>とみおか</small> 上郡山 (ダストサンブラー)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.021	ND	ND	ND	
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
32	富岡町 <small>とみおか</small> 下郡山 (ダストサンブラー)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.019	ND	ND	ND	
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
33	富岡町 <small>とみおか</small> 夜の森 (ダストサンブラー)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.041	ND	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.029	ND	ND	ND	
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.037	ND	ND	ND	
34	大熊町 <small>おほくま</small> 南台 (ダストサンブラー)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.12	ND	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.21	ND	ND	ND	
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.19	ND	ND	ND	
35	浪江町 <small>なみの</small> 浪江 (ダストサンブラー)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.038	ND	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.046	ND	ND	ND	
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.044	ND	ND	ND	
36	田村市 <small>たむら</small> 滝根 (簡易型ダスト サンブラー)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

No.	地点名	採取期間	核種濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )													
			<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>125</sup> Sb	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce		
37	田田市 船引 (簡易型ダスト サンプラー)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	ND	ND
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	ND	ND
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
38	田田市 上移 (簡易型ダスト サンプラー)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.009	ND	ND
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3 <sup>*2</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	ND	ND
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003	ND	ND
39	川内村 上川内 (簡易型ダスト サンプラー)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1 <sup>*1</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.008	ND	ND
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3 <sup>*3</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	ND	ND
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.009	ND	ND
40	南相馬市 馬場 (簡易型ダスト サンプラー)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.033	ND	ND
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3 <sup>*4</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.054	ND	ND
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1 <sup>*5</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.036	ND	ND
41	南相馬市 大木戸 (簡易型ダスト サンプラー)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.024	ND	ND
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.044	ND	ND
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.023	ND	ND
42	南相馬市 榑原 (簡易型ダスト サンプラー)	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.019	ND	ND
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.029	ND	ND
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.018	ND	ND

(注) 1 「ND」：検出下限値未満 「-」：欠測

- \* 1 簡易型ダストサンプラーが停電のため、R6. 4. 19 16:05 ~ R6. 4. 19 16:05まで停止した。
- \* 2 簡易型ダストサンプラーが停電のため、R6. 5. 21 13:21 ~ R6. 5. 21 14:31まで停止した。
- \* 3 簡易型ダストサンプラーが停電のため、R6. 5. 7 11:11 ~ R6. 5. 7 11:20まで停止した。
- \* 4 簡易型ダストサンプラーが停電のため、R6. 5. 2 5:40 ~ R6. 5. 2 5:50まで停止した。
- \* 5 簡易型ダストサンプラーが停電のため、R6. 7. 20 13:54 ~ R6. 7. 20 13:55まで停止した。



5-2-2(2) 大気浮遊じん核種濃度 (比較対照地点)

No.	地点名	採取期間	核種濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )														
			<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>96</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>125</sup> Sb	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce			
1	福島市 方木田 (簡易型ダスト サンプリャー)	R6. 4. 8 ~ R6. 4. 9	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R6. 5. 8 ~ R6. 5. 9	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 6. 4 ~ R6. 6. 5	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
2	会津若松市 追手町 (簡易型ダスト サンプリャー)	R6. 4. 2 ~ R6. 4. 3	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 5. 7 ~ R6. 5. 8	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 7. 1 ~ R6. 7. 2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
3	郡山市 麗山 (簡易型ダスト サンプリャー)	R6. 4. 4 ~ R6. 4. 5	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 5. 9 ~ R6. 5. 10	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.046	ND	ND	ND
		R6. 7. 3 ~ R6. 7. 4	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
4	白河市 昭和町 (簡易型ダスト サンプリャー)	R6. 4. 2 ~ R6. 4. 3	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 5. 7 ~ R6. 5. 8	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 7. 1 ~ R6. 7. 2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
5	相馬市 玉野 (簡易型ダスト サンプリャー)	R6. 4. 4 ~ R6. 4. 5	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 5. 9 ~ R6. 5. 10	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 7. 3 ~ R6. 7. 4	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
6	伊達市 富成 (簡易型ダスト サンプリャー)	R6. 4. 4 ~ R6. 4. 5	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 5. 9 ~ R6. 5. 10	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 7. 3 ~ R6. 7. 4	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
7	南会津町 田島 (簡易型ダスト サンプリャー)	R6. 4. 2 ~ R6. 4. 3	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 5. 7 ~ R6. 5. 8	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 7. 1 ~ R6. 7. 2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

(注) 1 「ND」: 検出下限値未満 「-」: 欠測  
 2 上記の他、人工放射性核種は検出されなかった。  
 3 ろ紙の灰化処理はせず、ろ紙を直接18容器で測定した。

5-2-3(1) 大気中水分のトリチウム濃度

No.	地点名	採取期間	トリチウム濃度		備考
			大気中濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )	捕集水濃度 (Bq/L)	
1	檜葉町 しげ おか 繁岡	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	9.1
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	5.5	0.50	11
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	6.8	0.47	14
2	富岡町 とみ おか 富岡	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	9.1
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	7.4	0.67	11
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	7.2	0.50	15
3	大熊町 おお の 野	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	9.0
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	7.6	0.68	11
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	9.1	0.60	15
4	大熊町 おと さか 沢	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	15	1.6	9.3
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	22	2.0	11
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	24	1.7	15
5	双葉町 こおり やま 郡山	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	7.3	0.78	9.4
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	18	1.5	11
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	25	1.6	15

注) 1 No.の網掛け部分は東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所から半径5km未満の地域

2 「ND」：検出下限値未満 「-」：欠測

3 検出限界値はおおむね5mBq/m<sup>3</sup>以下

5-2-3(2) 大気中水分のトリチウム濃度 (比較対照地点)

No.	地点名	採取期間	トリチウム濃度		備考
			大気中濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )	捕集水濃度 (Bq/L)	
1	福島市 方木 <sup>ほうき</sup> 田 <sup>だ</sup>	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	5.8	0.69	大気中水分量 (g/m <sup>3</sup> )
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	9.4	0.91	
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	14	0.92	

(注) 「ND」: 検出下限値未満

数値は有効数字2桁にて表記

5-2-4(1) 降下物の核種濃度

No.	地点名	採取期間	核種濃度 (Bq/m <sup>2</sup> (MBq/km <sup>2</sup> ))																	
			<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>125</sup> Sb	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce						
1	いわき市 久之浜	R6. 4. 2 ~ R6. 5. 2 R6. 5. 2 ~ R6. 6. 4 R6. 6. 4 ~ R6. 7. 2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.48	ND	ND	
2	田村市 都路	R6. 4. 2 ~ R6. 5. 2 R6. 5. 2 ~ R6. 6. 4 R6. 6. 4 ~ R6. 7. 2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.96	ND	ND
3	富岡町 富岡	R6. 4. 2 ~ R6. 5. 1 R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3 R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	4.1	ND	ND
4	大熊町 大野	R6. 4. 2 ~ R6. 5. 1 R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3 R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	19	ND	ND
5	双葉町 郡山	R6. 4. 2 ~ R6. 5. 1 R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3 R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	32	ND	ND
6	南相馬市 萱浜	R6. 4. 2 ~ R6. 5. 1 R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3 R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.3	ND	ND
7	浪江町 浪江	R6. 4. 2 ~ R6. 5. 2 R6. 5. 2 ~ R6. 6. 4 R6. 6. 4 ~ R6. 7. 2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	5.0	ND	ND
8	浪江町 津島	R6. 4. 2 ~ R6. 5. 2 R6. 5. 2 ~ R6. 6. 4 R6. 6. 4 ~ R6. 7. 2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	8.4	ND	ND
9	葛尾村 柏原	R6. 4. 2 ~ R6. 5. 2 R6. 5. 2 ~ R6. 6. 4 R6. 6. 4 ~ R6. 7. 2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	13	ND	ND
10	川俣町 山木屋	R6. 4. 2 ~ R6. 5. 2 R6. 5. 2 ~ R6. 6. 4 R6. 6. 4 ~ R6. 7. 2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	4.8	ND	ND

注) 1 No.の網掛け部分は東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所から半径5km未満の地域

2 「ND」: 検出下限値未満

5-2-4(2) 降下物の核種濃度 (比較対照地点)

No	地点名	採取期間	核種濃度 (Bq/m <sup>2</sup> (MBq/km <sup>2</sup> ))																	
			<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>96</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>125</sup> Sb	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce						
1	福島市 ほうきだ 方木田	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
2	三春町 はるか 深作	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

(注) 1 [ND]: 検出下限値未満  
 2 上記の他、人工放射性核種は検出されなかった。











5-2-5(3) 環境試料中の核種濃度（速報のためのトリウム迅速分析結果）

(単位：Bq/L)

採水日	調査地点										検出下限値	
	第一(発)南放水口付近	第一(発)北放水口付近	第一(発)取水口付近	第一(発)沖合2km	夫沢・熊川沖2km	双葉・前田川沖2km	ALPS処理水放水口北2km西0.5km	ALPS処理水放水口北1km	ALPS処理水放水口南1km	ALPS処理水放水口南1km		
R6. 4. 12	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.7~4.0
R6. 4. 23	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.4~3.7
R6. 5. 10	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	4.0~4.4
R6. 5. 20	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.5~4.0
R6. 5. 28	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.4~3.8
R6. 6. 6	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.7~4.0

■ : ALPS処理水放出期間中の採水

5-3 試料採取時の付帯データ集  
(原子力発電所周辺等環境放射能測定)

1 上水

No.	採取地点名	採取年月日	気温 (°C)	水温 (°C)	pH
1	いわき市	R6. 4. 2	19.4	12.0	7.0
2	田村市	R6. 4. 2	14.4	17.8	7.7
3	広野町	R6. 4. 3	14.7	11.5	7.3
4	檜葉町	R6. 4. 3	13.6	12.9	7.0
5	富岡町	R6. 4. 3	15.3	14.9	7.4
6	川内村	R6. 4. 1	15.5	14.8	7.3
7	大熊町	R6. 4. 4	21.6	13.6	7.3
8	双葉町	R6. 4. 4	18.1	12.6	7.0
9	浪江町	R6. 4. 4	21.9	11.9	7.6
10	葛尾村	R6. 4. 4	16.0	11.5	7.0
11	南相馬市	R6. 4. 4	17.3	14.0	7.1
12	飯館村	R6. 4. 4	13.8	11.0	7.0
13	川俣町	R6. 4. 4	17.4	10.6	6.9

2 海水

No.	採取地点名	採取年月日	気温 (°C)	水温 (°C)	pH	Cl <sup>-</sup> (‰)
1	第一(発)南放水口付近	R6. 4. 12	14.5	13.0	8.0	21.1
		R6. 5. 10	17.0	14.5	8.0	21.0
		R6. 6. 6	22.0	18.5	8.1	20.5
2	第一(発)北放水口付近	R6. 4. 12	14.0	13.0	8.1	21.3
		R6. 5. 10	15.5	14.0	8.0	20.5
		R6. 6. 6	20.0	18.0	8.0	20.1
3	第一(発)取水口付近 (港湾出入口の外側)	R6. 4. 12	14.0	13.0	8.1	21.2
		R6. 5. 10	17.0	14.5	7.9	20.7
		R6. 6. 6	20.0	18.0	8.1	20.0
4	第一(発)沖合 2 km	R6. 4. 12	12.0	13.0	8.1	20.8
		R6. 5. 10	14.0	14.5	8.0	20.5
		R6. 6. 6	19.0	17.5	8.1	20.0
5	夫沢・熊川沖 2 km	R6. 4. 12	11.5	13.0	8.1	21.0
		R6. 5. 10	14.0	14.0	8.0	20.5
		R6. 6. 6	18.0	17.5	8.1	20.0
6	双葉・前田川沖 2 km	R6. 4. 12	11.5	12.5	8.1	21.0
		R6. 5. 10	14.5	14.5	8.0	20.5
		R6. 6. 6	20.0	17.5	8.1	19.9
7	ALPS 処理水放水口 北 2 km 西 0.5 km	R6. 4. 12	12.5	13.0	8.1	21.1
		R6. 5. 10	14.5	14.5	8.0	20.7
		R6. 6. 6	19.0	17.5	8.1	19.9
8	ALPS 処理水放水口 北 1 km	R6. 4. 12	12.0	13.0	8.1	20.9
		R6. 5. 10	15.5	14.5	8.0	20.6
		R6. 6. 6	20.0	18.0	8.1	19.8
9	ALPS 処理水放水口 南 1 km	R6. 4. 12	14.0	13.5	8.1	21.8
		R6. 5. 10	18.0	14.5	8.0	20.6
		R6. 6. 6	21.0	18.0	8.1	19.8
10	第二(発)南放水口	R6. 5. 17	25.0	15.9	7.8	18.7
11	第二(発)北放水口	R6. 5. 17	23.6	15.7	7.9	18.9

令和6年度月別降水データ表

富岡町富岡

月	日数	時間(h)	降水量(mm)
R6.4	8	58	90.0
5	12	77	123.0
6	9	37	38.5
7			
8			
9			
10			
11			
12			
R7.1			
2			
3			
合計	29	172	251.5

大熊町大野

月	日数	時間(h)	降水量(mm)
R6.4	8	57	83.5
5	10	77	123.5
6	7	33	35.0
7			
8			
9			
10			
11			
12			
R7.1			
2			
3			
合計	25	167	242.0

南相馬市萱浜

月	日数	時間(h)	降水量(mm)
R6.4	9	47	67.5
5	8	62	79.5
6	8	30	31.0
7			
8			
9			
10			
11			
12			
R7.1			
2			
3			
合計	25	139	178

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日	
			全α・β	γ
大気浮遊じん	いわき市 小川	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 22
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 15
	田村市 都路馬洗戸	R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 23
		R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 23
	広野町 小滝平	R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 21
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 24
	檜葉町 木戸ダム	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 16
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 17
	檜葉町 繁岡	R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 20
		R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 17
	富岡町 富岡	R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 18
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 21
	川内村 下川内	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 18
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 22
	大熊町 大野	R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 21
		R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 24
	大熊町 夫沢	R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 20
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 24
	双葉町 郡山	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 19
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 20
浪江町 幾世橋	R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 19	
	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 17	
浪江町 大柿ダム	R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 18	
	R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 19	
葛尾村 夏湯	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 23	
	R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 23	
南相馬市 泉沢	R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 24	
	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 17	
南相馬市 菅浜	R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 21	
	R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 19	
飯館村 伊丹沢	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 26	
	R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 22	
川俣町 山木屋	R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 25	
	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 17	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 14
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 12
		R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 18
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 15
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 13
		R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 19
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 16
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 14

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日	
			全α・β	γ
大気浮遊じん	いわき市 久之浜	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 13
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 12
	いわき市 下桶売	R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 11
		R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 13
	いわき市 川前	R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 12
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 11
	大熊町 向畑	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 10
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 7
	双葉町 山田	R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 8
		R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 11
	双葉町 新山	R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 8
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 8
	双葉町 上羽鳥	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 12
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 9
	浪江町 南津島	R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 9
		R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 11
	南相馬市 横川ダム	R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 10
		R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 9
	広野町 二ツ沼	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 12
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 11
檜葉町 山田岡	R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 5. 13	
	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 6. 12	
檜葉町 松館	R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 7. 9	
	R6. 6. 1 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 5. 2	
檜葉町 波倉	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 6. 4	
	R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 7. 2	
富岡町 上郡山	R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 2	
	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 3	
富岡町 下郡山	R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 5	
	R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 3	
富岡町 夜の森	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 4	
	R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 6	
大熊町 南台	R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 4	
	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 5	
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 7
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 6. 7
		R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 7. 5
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 5. 6
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 6. 8
		R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 7. 6
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 5. 7
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 6. 9
		R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 7. 7
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 7. 7
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 5. 8
		R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 6. 10
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 3
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 7. 8
		R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 5. 10
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 1	連続	R6. 6. 11
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	連続	R6. 5. 10
		R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	連続	R6. 6. 11

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日	
			全α・β	γ
大気浮遊じん	浪江町 浪江	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1		R6. 5. 11
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3		R6. 6. 12
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1		R6. 7. 10
	田村市 滝根	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1		R6. 5. 2
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3		R6. 6. 7
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1		R6. 7. 4
	田村市 船引	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1		R6. 5. 3
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3		R6. 6. 8
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1		R6. 7. 4
	田村市 上移	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1		R6. 5. 4
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3		R6. 6. 7
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1		R6. 7. 4
	川内村 上川内	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1		R6. 5. 3
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3		R6. 6. 8
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1		R6. 7. 4
	南相馬市 馬場	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1		R6. 5. 3
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3		R6. 6. 9
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1		R6. 7. 5
	南相馬市 大木戸	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1		R6. 5. 2
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3		R6. 6. 9
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1		R6. 7. 5
	南相馬市 榎原	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1		R6. 5. 21
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3		R6. 6. 9
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1		R6. 7. 5
	福島市 方木田	R6. 4. 8 ~ R6. 4. 9		R6. 4. 12
		R6. 5. 8 ~ R6. 5. 9		R6. 5. 13
		R6. 6. 4 ~ R6. 6. 5		R6. 6. 10
	会津若松市 追手町	R6. 4. 2 ~ R6. 4. 3		R6. 4. 9
		R6. 5. 7 ~ R6. 5. 8		R6. 5. 14
		R6. 7. 1 ~ R6. 7. 2		R6. 7. 9
	郡山市 麓山	R6. 4. 4 ~ R6. 4. 5		R6. 4. 10
		R6. 5. 9 ~ R6. 5. 10		R6. 5. 14
	R6. 7. 3 ~ R6. 7. 4		R6. 7. 9	
白河市 昭和町	R6. 4. 2 ~ R6. 4. 3		R6. 4. 8	
	R6. 5. 7 ~ R6. 5. 8		R6. 5. 10	
	R6. 7. 1 ~ R6. 7. 2		R6. 7. 5	
相馬市 玉野	R6. 4. 4 ~ R6. 4. 5		R6. 4. 9	
	R6. 5. 9 ~ R6. 5. 10		R6. 5. 10	
	R6. 7. 3 ~ R6. 7. 4		R6. 7. 5	
伊達市 富成	R6. 4. 4 ~ R6. 4. 5		R6. 4. 10	
	R6. 5. 9 ~ R6. 5. 10		R6. 5. 13	
	R6. 7. 3 ~ R6. 7. 4		R6. 7. 8	
南会津町 田島	R6. 4. 2 ~ R6. 4. 3		R6. 4. 8	
	R6. 5. 7 ~ R6. 5. 8		R6. 5. 13	
	R6. 7. 1 ~ R6. 7. 2		R6. 7. 8	

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日
			<sup>3</sup> H
大気中水分	檜葉町 繁岡	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	R6. 6. 1
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	R6. 6. 29
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	R6. 7. 20
	富岡町 富岡	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	R6. 6. 2
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	R6. 6. 30
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	R6. 7. 21
	大熊町 大野	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	R6. 6. 2
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	R6. 6. 30
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	R6. 7. 21
	大熊町 夫沢	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	R6. 6. 3
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	R6. 7. 1
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	R6. 7. 22
	双葉町 郡山	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	R6. 6. 3
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	R6. 7. 1
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	R6. 7. 22
	福島市 方木田	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	R6. 5. 17
R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3		R6. 6. 14	
R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1		R6. 7. 12	

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日	
			γ	Am, Cm
降下物	いわさき市 久之浜	R6. 4. 2 ~ R6. 5. 2	R6. 5. 15	測定中
		R6. 5. 2 ~ R6. 6. 4	R6. 6. 17	測定中
		R6. 6. 4 ~ R6. 7. 2	R6. 7. 9	測定中
		R6. 4. 2 ~ R6. 5. 2	R6. 5. 15	測定中
	田村市 都路	R6. 5. 2 ~ R6. 6. 4	R6. 6. 14	測定中
		R6. 6. 4 ~ R6. 7. 2	R6. 7. 11	測定中
		R6. 4. 2 ~ R6. 5. 1	R6. 5. 16	測定中
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	R6. 6. 18	測定中
	富岡町 富岡	R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	R6. 7. 6	測定中
		R6. 4. 2 ~ R6. 5. 1	R6. 5. 16	測定中
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	R6. 6. 17	測定中
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	R6. 7. 7	測定中
	双葉町 郡山	R6. 4. 2 ~ R6. 5. 1	R6. 5. 16	測定中
		R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	R6. 6. 18	測定中
		R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	R6. 7. 8	測定中
		R6. 4. 2 ~ R6. 5. 1	R6. 5. 16	測定中
南相馬市 萱浜	R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	R6. 6. 17	測定中	
	R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	R6. 7. 6	測定中	
	R6. 4. 2 ~ R6. 5. 2	R6. 5. 11	測定中	
	R6. 5. 2 ~ R6. 6. 4	R6. 6. 11	測定中	
浪江町 浪江	R6. 4. 2 ~ R6. 5. 2	R6. 5. 10	測定中	
	R6. 5. 2 ~ R6. 6. 4	R6. 6. 14	測定中	
	R6. 6. 4 ~ R6. 7. 2	R6. 7. 10	測定中	
	R6. 4. 2 ~ R6. 5. 2	R6. 5. 10	測定中	
浪江町 津島	R6. 5. 2 ~ R6. 6. 4	R6. 6. 13	測定中	
	R6. 6. 4 ~ R6. 7. 2	R6. 7. 6	測定中	
	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	R6. 5. 21	測定中	
	R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	R6. 6. 24	測定中	
葛尾村 柏原	R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	R6. 7. 19	測定中	
	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	R6. 5. 9	測定中	
	R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	R6. 6. 10	測定中	
	R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	R6. 7. 8	測定中	
川俣町 山木屋	R6. 4. 2 ~ R6. 5. 2	R6. 5. 11	測定中	
	R6. 5. 2 ~ R6. 6. 4	R6. 6. 11	測定中	
	R6. 6. 4 ~ R6. 7. 2	R6. 7. 12	測定中	
	R6. 4. 2 ~ R6. 5. 2	R6. 5. 10	測定中	
福島市 方木田	R6. 5. 2 ~ R6. 6. 4	R6. 6. 13	測定中	
	R6. 6. 4 ~ R6. 7. 2	R6. 7. 6	測定中	
	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	R6. 5. 21	測定中	
	R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	R6. 6. 24	測定中	
三春町 深作	R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	R6. 7. 19	測定中	
	R6. 4. 1 ~ R6. 5. 1	R6. 5. 9	測定中	
	R6. 5. 1 ~ R6. 6. 3	R6. 6. 10	測定中	
	R6. 6. 3 ~ R6. 7. 1	R6. 7. 8	測定中	

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日				
			y	Sr	U	Pu	Am, Cm
土壌	いわさき市 久之浜	R6. 5. 27	測定中	R6. 8. 6	R6. 7. 19	R6. 7. 26	測定中
	田村市 古道	R6. 5. 24	測定中	R6. 8. 10	R6. 7. 19	R6. 7. 26	測定中
	広野町 下北追	R6. 5. 27	測定中	R6. 8. 10	R6. 7. 19	R6. 8. 26	測定中
	楢葉町 波倉	R6. 5. 27	測定中	R6. 8. 6	R6. 7. 19	R6. 7. 26	測定中
	富岡町 小浜	R6. 5. 1	測定中	R6. 8. 6	R6. 7. 19	R6. 7. 26	測定中
	川内村 上川内	R6. 5. 24	測定中	R6. 8. 10	R6. 8. 2	R6. 8. 28	測定中
	大熊町 小入野	R6. 5. 30	R6. 6. 22	R6. 8. 2	R6. 6. 25	R6. 7. 26	測定中
	双葉町 郡山	R6. 5. 2	R6. 6. 23	R6. 8. 2	R6. 6. 25	R6. 8. 30	測定中
	浪江町 北幾世橋	R6. 5. 2	測定中	R6. 8. 10	R6. 7. 22	R6. 7. 30	測定中
	葛尾村 柏原	R6. 5. 24	測定中	R6. 8. 16	R6. 7. 22	R6. 8. 23	測定中
	南相馬市 浦尻	R6. 5. 2	測定中	R6. 8. 16	R6. 8. 2	R6. 7. 30	測定中
	南相馬市 馬場	R6. 5. 2	測定中	R6. 8. 16	R6. 8. 2	R6. 8. 27	測定中
	飯盛村 蔵平	R6. 5. 15	測定中	R6. 8. 16	R6. 8. 6	R6. 8. 23	測定中
	飯盛村 長泥	R6. 5. 15	測定中	R6. 8. 16	R6. 8. 6	R6. 8. 26	測定中
	川俣町 山木屋	R6. 5. 15	測定中	R6. 8. 16	R6. 8. 6	R6. 8. 26	測定中
	福島市 荒井	R6. 5. 14	R6. 5. 23	R6. 7. 19	R6. 6. 6	R6. 6. 3	R6. 7. 1
	郡山市 逢瀬町	R6. 5. 14	R6. 5. 24	R6. 7. 11	R6. 6. 12	R6. 6. 12	測定中
	いわさき市 川部町	R6. 5. 15	R6. 5. 25	R6. 7. 11	R6. 6. 12	R6. 6. 12	測定中
	白河市 大信濃戸	R6. 5. 14	R6. 5. 26	R6. 7. 11	R6. 6. 12	R6. 6. 12	測定中
	相馬市 中村	R6. 5. 15	R6. 5. 24	R6. 7. 12	R6. 6. 12	R6. 6. 12	測定中
会津若松市 一箕町	R6. 5. 14	R6. 5. 25	R6. 7. 12	R6. 6. 12	R6. 6. 12	測定中	
南会津町 糸沢	R6. 5. 14	R6. 5. 26	R6. 7. 12	R6. 6. 12	R6. 6. 12	測定中	

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日			
			γ	<sup>3</sup> H	Sr	Pu
上水	いづき市	R6. 4. 2	R6. 4. 19	R6. 4. 30		
	田村市	R6. 4. 2	R6. 4. 12	R6. 4. 30		
	広野町	R6. 4. 3	R6. 4. 24	R6. 5. 1		
	楢葉町	R6. 4. 3	R6. 4. 17	R6. 5. 2		
	富岡町	R6. 4. 3	R6. 4. 24	R6. 5. 3		
	川内村	R6. 4. 1	R6. 4. 23	R6. 5. 3		
	大熊町	R6. 4. 4	R6. 4. 28	R6. 5. 4		
	双葉町	R6. 4. 4	R6. 4. 17	R6. 5. 5		
	浪江町	R6. 4. 4	R6. 4. 24	R6. 5. 5		
	葛尾村	R6. 4. 4	R6. 5. 7	R6. 4. 26		
	南相馬市	R6. 4. 4	R6. 4. 28	R6. 5. 6		
	飯館村	R6. 4. 4	R6. 5. 9	R6. 4. 27		
	川俣町	R6. 4. 4	R6. 5. 7	R6. 4. 27		

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日				
			全β	γ	<sup>90</sup> Sr	Pu	
海水	第一(発)南放水口付近	R6. 4. 12	R6. 4. 16	R6. 4. 18	R6. 5. 11	R6. 6. 24	R6. 4. 25
		R6. 5. 10	R6. 5. 14	R6. 5. 24	R6. 6. 15	R6. 6. 28	R6. 5. 23
	第一(発)北放水口付近	R6. 6. 6	R6. 6. 11	R6. 6. 19	R6. 7. 5	R6. 7. 26	R6. 6. 14
		R6. 4. 12	R6. 4. 16	R6. 4. 18	R6. 5. 11	R6. 6. 24	R6. 4. 30
	第一(発)取水口付近 (港湾出入口の外側)	R6. 5. 10	R6. 5. 14	R6. 5. 25	R6. 6. 15	R6. 6. 28	R6. 5. 23
		R6. 6. 6	R6. 6. 11	R6. 6. 19	R6. 7. 5	R6. 7. 26	R6. 6. 14
	第一(発)沖合2km	R6. 4. 12	R6. 4. 16	R6. 4. 18	R6. 5. 12	R6. 6. 24	R6. 4. 25
		R6. 5. 10	R6. 5. 14	R6. 5. 26	R6. 6. 16	R6. 6. 28	R6. 5. 23
	夫沢・熊川沖2km (大熊町)	R6. 6. 6	R6. 6. 11	R6. 6. 19	R6. 7. 6	R6. 7. 26	R6. 6. 14
		R6. 4. 12	R6. 4. 16	R6. 4. 25	R6. 5. 13	R6. 6. 24	R6. 4. 25
	双葉町・前田川沖2km (双葉町)	R6. 5. 10	R6. 5. 14	R6. 5. 25	R6. 6. 17	R6. 6. 28	R6. 6. 3
		R6. 6. 6	R6. 6. 11	R6. 6. 20	R6. 7. 7	R6. 7. 26	R6. 6. 14
	A L P S 処理水放水口 北2km西0.5km	R6. 4. 12	R6. 4. 16	R6. 4. 19	R6. 5. 14	R6. 6. 25	R6. 5. 23
		R6. 5. 10	R6. 5. 14	R6. 5. 26	R6. 6. 18	R6. 6. 28	R6. 5. 23
	A L P S 処理水放水口 北1km	R6. 6. 6	R6. 6. 11	R6. 6. 20	R6. 7. 8	R6. 7. 27	R6. 6. 14
		R6. 4. 12	R6. 4. 16	R6. 4. 23	R6. 5. 14	R6. 6. 25	R6. 4. 30
	A L P S 処理水放水口 南1km	R6. 5. 10	R6. 5. 14	R6. 6. 3	R6. 6. 18	R6. 6. 29	R6. 6. 3
		R6. 6. 6	R6. 6. 11	R6. 6. 26	R6. 7. 8	R6. 7. 27	R6. 6. 18
	第二(発)南放水口	R6. 4. 12	R6. 4. 17	R6. 4. 23	R6. 5. 15	R6. 6. 25	R6. 5. 23
		R6. 5. 10	R6. 5. 15	R6. 6. 4	R6. 6. 19	R6. 6. 29	R6. 5. 23
	第二(発)北放水口	R6. 6. 6	R6. 6. 12	R6. 6. 26	R6. 7. 9	R6. 7. 27	R6. 6. 18
		R6. 4. 12	R6. 4. 17	R6. 4. 23	R6. 5. 15	R6. 6. 25	R6. 4. 30
	第一(発)南放水口	R6. 5. 10	R6. 5. 15	R6. 6. 3	R6. 6. 20	R6. 6. 29	R6. 5. 24
		R6. 6. 6	R6. 6. 12	R6. 6. 26	R6. 7. 10	R6. 7. 27	R6. 6. 18
	第一(発)北放水口	R6. 5. 17	R6. 5. 28	R6. 6. 3	R6. 6. 4	R6. 6. 29	R6. 6. 5
		R6. 5. 17	R6. 5. 28	R6. 6. 3	R6. 6. 5	R6. 6. 29	R6. 6. 5

(注) 1 「/」：対象外核種「-」：測定値なし

2 トリチウム濃度の測定は、福島第一原子力発電所周辺海域の海水は電解濃縮法、ほかには減圧蒸留法による。



試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日		
			γ	Sr	Pu
海底土	第一(発)南放水口付近	R6. 5. 10	R6. 6. 21	R6. 7. 23	R6. 6. 20
	第一(発)北放水口付近	R6. 5. 10	R6. 6. 21	R6. 7. 23	R6. 6. 20
	第一(発)取水口付近 (港灣出入口の外側)	R6. 5. 10	R6. 6. 21	R6. 7. 23	R6. 6. 20
	第一(発)沖合2km	R6. 5. 10	R6. 6. 21	R6. 7. 23	R6. 6. 20
	夫沢・龍川沖2km (大熊町)	R6. 5. 10	R6. 6. 22	R6. 7. 23	R6. 6. 20
	双葉町・前田川沖2km (双葉町)	R6. 5. 10	R6. 6. 23	R6. 7. 23	R6. 6. 20
	第二(発)南放水口	R6. 5. 17	R6. 7. 17	R6. 8. 6	R6. 8. 2
	第二(発)北放水口	R6. 5. 17	R6. 7. 18	R6. 8. 10	R6. 8. 2

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日			
			γ	BaI	Sr	Pu
ほんだわら	第一(発)海城	R6. 5. 23	R6. 6. 5	R6. 5. 24	R6. 8. 28	R6. 7. 3
	第二(発)海城	R6. 5. 22	R6. 6. 5	R6. 5. 23	R6. 8. 28	R6. 7. 3

## 第6 参考資料

### 6-1 福島第一原子力発電所における地下水バイパス水等の海域への排出に伴う海水モニタリング結果（公表資料）

#### 【地下水バイパス水関係】

県では、福島第一原子力発電所における地下水バイパス水の海域への排出に際し、南放水口付近（T-2）の海域において、海水モニタリングを実施していますので、最新の公表資料を添付します。

測定項目・・・全ベータ放射能、放射性セシウム、トリチウム  
添付資料・・・令和6年8月29日公表資料

#### 【サブドレン・地下水ドレン処理水関係】

県では、福島第一原子力発電所におけるサブドレン・地下水ドレン処理水の海域への排出に際し、福島第一原子力発電所港湾口付近の海域において、海水モニタリングを実施していますので、最新の公表資料を添付します。

測定項目・・・全ベータ放射能、放射性セシウム、トリチウム  
添付資料・・・令和6年8月29日公表資料

福島第一原子力発電所における地下水バイパス水の  
海域への排出に伴う海水モニタリングの結果について（6月調査分）

県では、福島第一原子力発電所における地下水バイパス水の海域への排出に際し、環境への影響を確認するため、海水モニタリングを定期的を実施しております。

【調査結果の概要】

今回は福島第一原子力発電所南放水口付近（T-2）<sup>※1</sup>の海域1地点における、地下水バイパス水の海域への排出に伴う海水モニタリングの結果です。

採取した海水中の放射能濃度（単位：Bq/L）は、全ベータ放射能は0.01、セシウム-134、セシウム-137及びトリチウムは検出下限値未満でした。

なお、今回の調査を含め調査開始以降、東京電力の運用目標値、排水に関する国の安全規制の基準及びWHOの飲料水の基準を大幅に下回っています。

○6月調査分における海水の放射能濃度（単位：Bq/L）

排出 時刻9時56分～16時00分、排出量1,708 m<sup>3</sup>

	全ベータ放射能	セシウム-134	セシウム-137	トリチウム
6月19日 11:35	0.01 (検出下限値未満 ～0.22)	検出下限値未満 (<0.069) (検出下限値未満 ～0.54)	検出下限値未満 (<0.054) (検出下限値未満 ～1.6)	検出下限値未満 (<0.39) (検出下限値未満 ～8.8)

( )内は初回排出から前回調査分までの放射能濃度の範囲

	全ベータ放射能	セシウム-134	セシウム-137	トリチウム
東京電力の運用目標値	5	1	1	1,500
排水に関する国の安全規制の基準	30 <sup>※2</sup>	60	90	60,000
WHOの飲料水の基準	10 <sup>※2</sup>	10	10	10,000

※1 試料採取作業の安全確保ができないため、令和6年6月から採取地点を南放水口から南側に約1300mの地点に一時的に変更。（詳細な位置図は別紙「採水地点及び排水地点」参照）

※2 放射性ストロンチウム(Sr-90)についての値

## 福島第一原子力発電所における地下水バイパス水の排出に伴う海水モニタリングの結果

○今回の公表分は黄色網掛け部分です。

令和6年8月29日 福島県放射線監視室

試料名	地点名	採取年月日	福島県による測定結果 (Bq/L)			
			全β放射能※	セシウム-134	セシウム-137	トリチウム
海水	南放水口付近 (T-2) (地下水排出中)	R6. 6. 19	0.01	検出下限値未満 (<0.069)	検出下限値未満 (<0.054)	検出下限値未満 (<0.39)
		令和5年度	0.01~0.03	検出下限値未満	検出下限値未満 ~0.082	検出下限値未満 ~0.54
		令和4年度	0.02~0.04	検出下限値未満	検出下限値未満 ~0.069	検出下限値未満
		令和3年度	0.02~0.03	検出下限値未満	0.056~0.14	検出下限値未満 ~4.9
		令和2年度	0.02~0.04	検出下限値未満	検出下限値未満 ~0.063	検出下限値未満 ~3.3
		令和元年度	0.02	検出下限値未満	検出下限値未満 ~0.072	検出下限値未満 ~8.6
		平成30年度	0.02~0.03	検出下限値未満	検出下限値未満	検出下限値未満 ~7.9
		平成29年度	検出下限値未満 ~0.04	検出下限値未満	検出下限値未満 ~0.13	検出下限値未満 ~8.8
		平成28年度	0.03~0.15	検出下限値未満	0.061~0.19	検出下限値未満 ~3.0
		平成27年度	0.03~0.13	検出下限値未満 ~0.11	0.080~0.40	検出下限値未満 ~0.86
		平成26年度	0.04~0.22	検出下限値未満 ~0.54	0.12~1.6	検出下限値未満 ~3.5

○東京電力ホールディングス(株)の測定結果については次のホームページで確認できます。

<http://www.tepco.co.jp/decommission/planaction/monitoring/index-j.html>

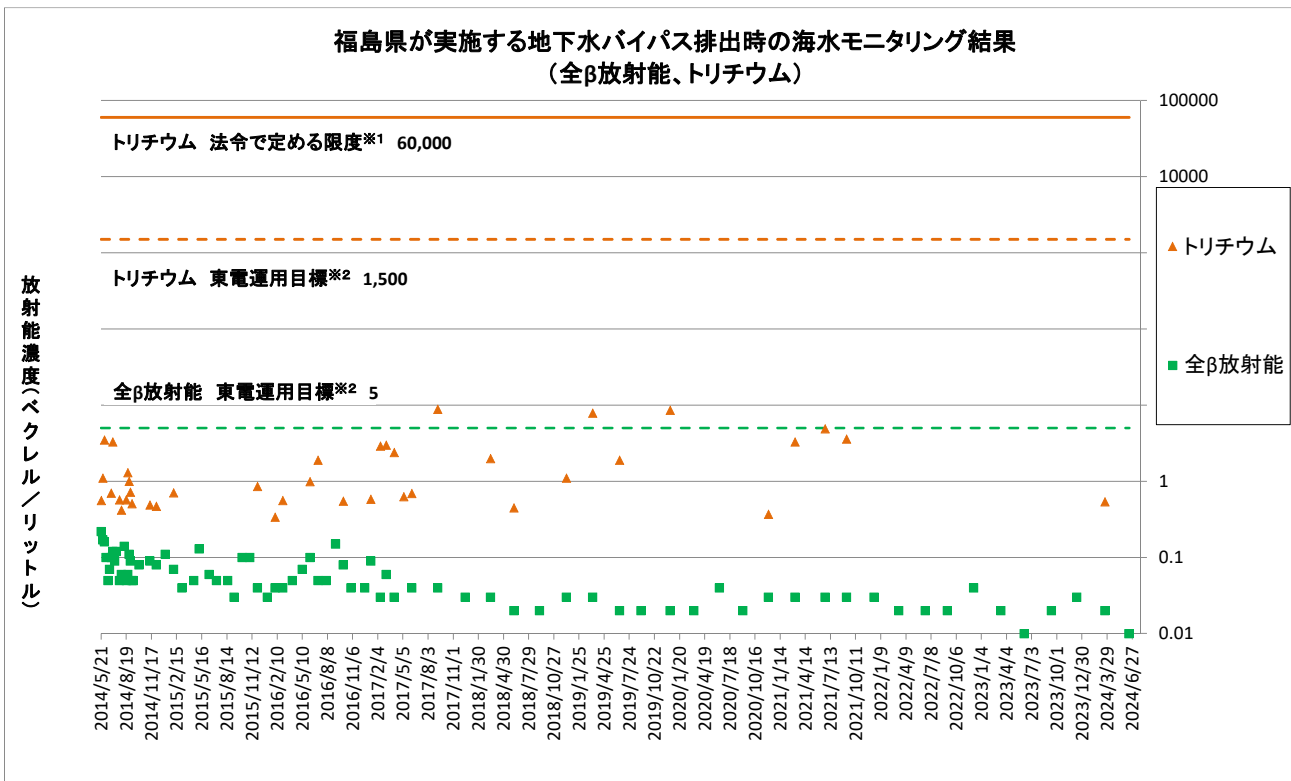
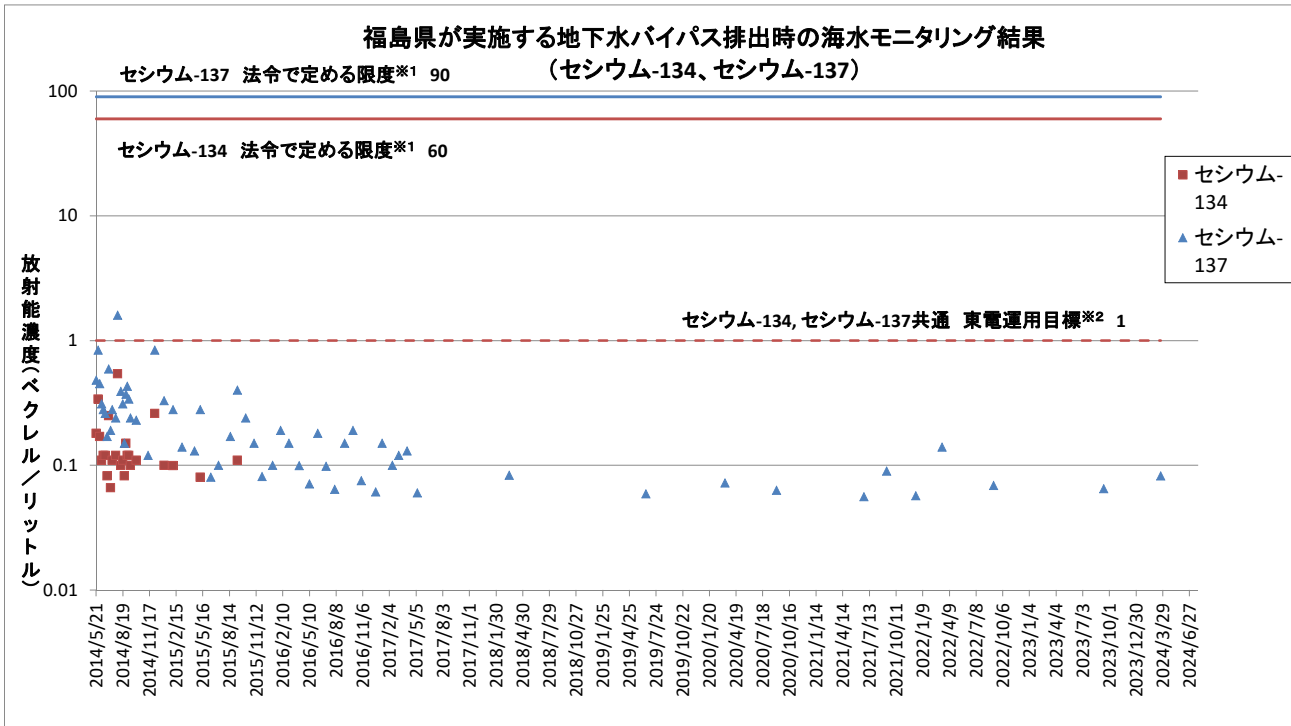
## 平成26年5月21日(初回排出日)以前のモニタリング結果

試料名	地点名	採取年月日	福島県による測定結果 (Bq/L)			
			全β放射能※	セシウム-134	セシウム-137	トリチウム
(参考) 県が平成25年度以降に実施した海域モニタリングにおける測定値の範囲	南放水口付近 (T-2) (陸側から採取)	H25. 10. 3、H25. 10. 17 H25. 10. 21、H27. 2. 25	0.16~0.48	0.082~0.80	0.33~1.8	検出下限値未満 ~0.69
	南放水口付近 (T-2-1) (陸側から採取)	H25. 6. 27 H27. 2. 25	0.07	0.31~0.36	0.59~1.2	0.32~0.91
	南放水口付近 (F-P01) (船舶から採取)	H25. 7. 31~H28. 12. 12	0.02~0.64	検出下限値未満 ~0.35	検出下限値未満 ~0.71	検出下限値未満 ~2.4
(参考) 県が測定した原発事故前の値	発電所周辺海域	平成13~22年度	検出下限値未満 ~0.05	検出下限値未満	検出下限値未満 ~0.003	検出下限値未満 ~2.9

※全β放射能の測定法については、文部科学省放射能測定法シリーズ1「全ベータ放射能測定法」に記載されている鉄バリウム共沈法により実施しています。

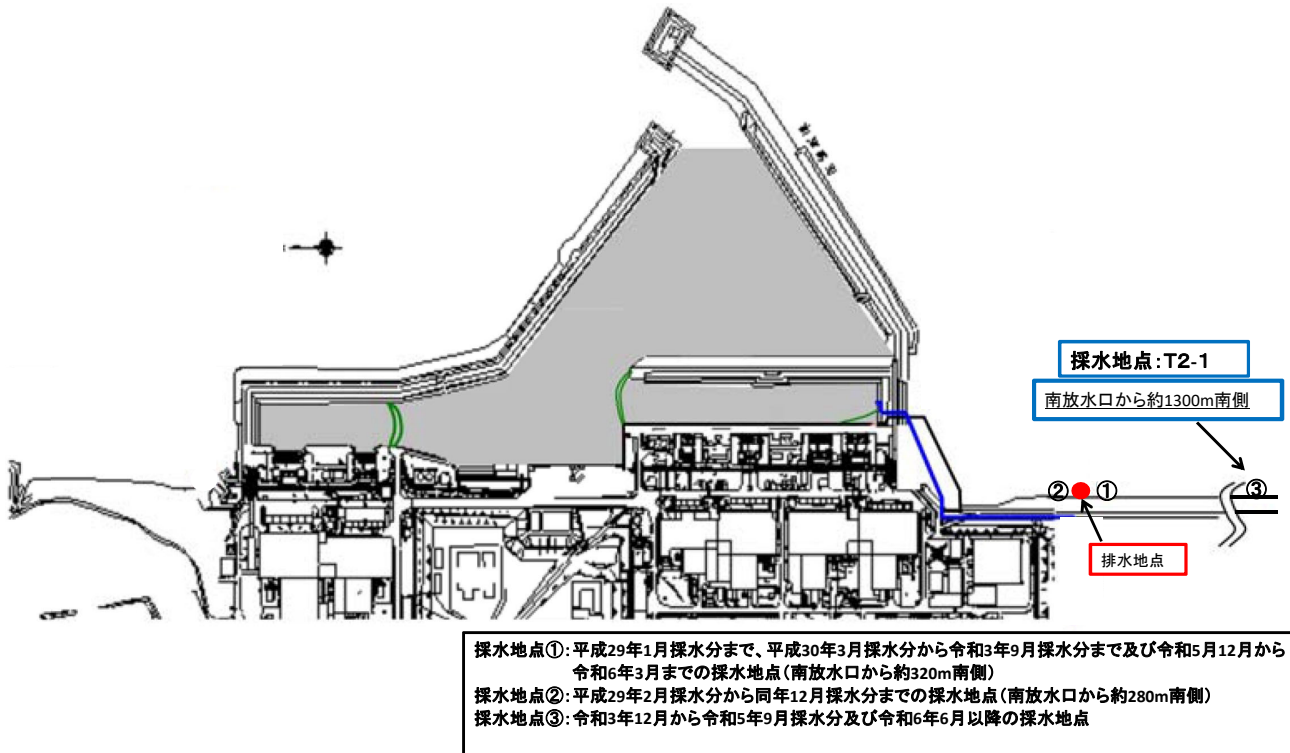
測定値と法令で定める限度及び東電運用目標との比較

注: 検出下限値未満の場合はプロットされません。



※1 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める排水の告示濃度限度  
 ※2 福島第一原子力発電所 地下水バイパス水一時貯留タンクの運用目標値  
 ※3 平成26年9月13日排水時まで排出毎に調査実施。但し、平成26年7月21日及び8月5日の排出時の海水試料は採取できず。平成26年9月13日以降は毎月1回、平成29年6月6日以降は四半期1回のモニタリングに変更しています。

採水地点及び排水地点（東京電力資料より）



福島第一原子力発電所におけるサブドレン・地下水ドレン処理済み水の  
海域への排出に伴う海水モニタリングの結果について（6月調査分）

県では、福島第一原子力発電所におけるサブドレン・地下水ドレン処理済み水の海域への排出に際し、環境への影響を継続的に監視するため、海水モニタリングを定期的に実施しております。

【調査結果の概要】

今回は福島第一原子力発電所港湾口付近の海域1地点における、サブドレン・地下水ドレン処理済み水の海域への排出に伴う海水モニタリングの結果です。

採取した海水中の放射能濃度（単位：Bq/L）は、全ベータ放射能は0.01、セシウム-137、セシウム-134及びトリチウムは検出下限値未満でした。

なお、今回の調査を含め調査開始以降、東京電力の運用目標値、排水に関する国の安全規制の基準及びWHOの飲料水の基準を大幅に下回っています。

○6月調査分における海水の放射能濃度（単位：Bq/L）

排出時刻10時53分～13時36分、排出量401m<sup>3</sup>

	全ベータ放射能	セシウム-134	セシウム-137	トリチウム
6月19日 12:06	0.01 (0.01～0.10)	検出下限値未満 (<0.065) (検出下限値未満 ～0.10)	検出下限値未満 (<0.051) (検出下限値未満 ～0.44)	検出下限値未満 (<0.39) (検出下限値未満 ～2.3)

( )内は初回排出から前回調査分までの放射能濃度の範囲

	全ベータ放射能	セシウム-134	セシウム-137	トリチウム
東京電力の運用目標値	3	1	1	1,500
排水に関する国の安全規制の基準	30 <sup>※</sup>	60	90	60,000
WHOの飲料水の基準	10 <sup>※</sup>	10	10	10,000

※ 放射性ストロンチウム(Sr-90)についての値

## 福島第一原子力発電所におけるサブドレン・地下水ドレン 処理済み水の排出に伴う海水モニタリングの結果

○今回の公表分は黄色網掛け部分です。

令和6年8月29日 福島県放射線監視室

試料名	地点名	採取年月日	福島県による測定結果 (Bq/L)			
			全ベータ放射能 <sup>※1</sup>	セシウム-134	セシウム-137	トリチウム
海水	港湾口付近 <sup>※2</sup> (処理済み水排出中)	R6. 6. 19	0.01	検出下限値未満 (<0.065)	検出下限値未満 (<0.051)	検出下限値未満 (<0.39)
		令和5年度	0.02~0.03	検出下限値未満	0.081~0.11	検出下限値未満
		令和4年度	0.01~0.07	検出下限値未満	0.083~0.14	検出下限値未満 ~0.80
	北放水口付近 (T-1) (処理済み水排出中)	令和3年度	0.02~0.04	検出下限値未満	検出下限値未満 ~0.28	検出下限値未満 ~0.71
		令和2年度	0.02~0.04	検出下限値未満	検出下限値未満 ~0.15	検出下限値未満 ~1.3
		令和元年度	0.02~0.03	検出下限値未満	0.098~0.27	検出下限値未満 ~0.70
		平成30年度	0.02~0.04	検出下限値未満	検出下限値未満 ~0.22	検出下限値未満 ~0.55
		平成29年度	0.02~0.04	検出下限値未満 ~0.068	検出下限値未満 ~0.36	検出下限値未満 ~1.5
		平成28年度	0.04~0.10	検出下限値未満 ~0.068	0.064~0.44	検出下限値未満 ~2.3
		H27. 9. 14~H28. 3. 2	0.03~0.09	検出下限値未満 ~0.10	0.14~0.41	検出下限値未満 ~1.7

○東京電力ホールディングス(株)の測定結果については次のホームページで確認できます。

<http://www.tepco.co.jp/decommission/planaction/monitoring/index-j.html>

### 平成27年9月14日(初回排出日)以前のモニタリング結果

試料名	地点名	採取年月日	福島県による測定結果 (Bq/L)			
			全ベータ放射能 <sup>※1</sup>	セシウム-134	セシウム-137	トリチウム
(参考) 県が平成25~26年 度を実施した海域 モニタリングにお ける測定値の範囲	北放水口付近 (T-1) (陸側から採取)	H25. 6. 27、H25. 9. 27 H26. 4. 4、H27. 2. 25	0.10~0.49	0.26~2.4	0.84~5.0	0.61~1.1
	北放水口付近 (F-P02) (船舶から採取)	H25. 7. 31~H27. 3. 3	0.03~0.51	検出下限値未満 ~0.24	検出下限値未満 ~0.56	検出下限値未満 ~2.5
(参考) 県が測定し た原発事故前の値	発電所周辺海域	平成13~22年度	検出下限値未満 ~0.05	検出下限値未満	検出下限値未満 ~0.003	検出下限値未満 ~2.9

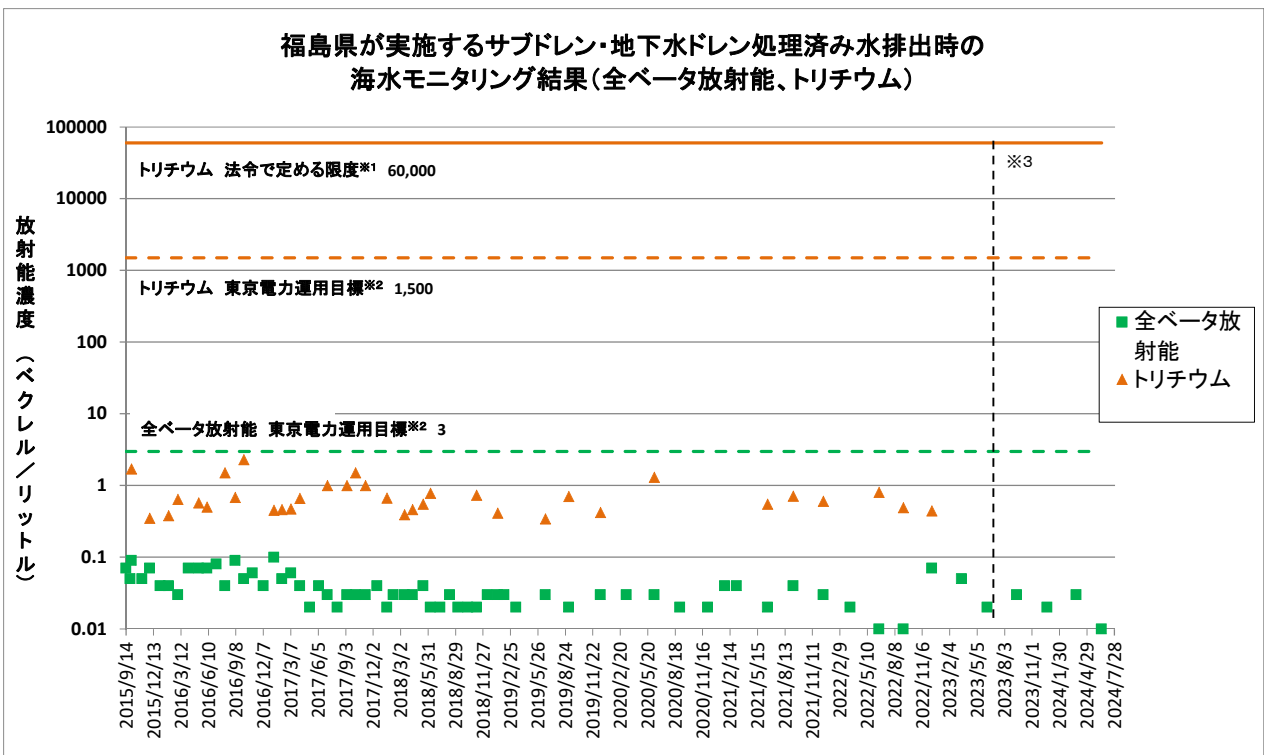
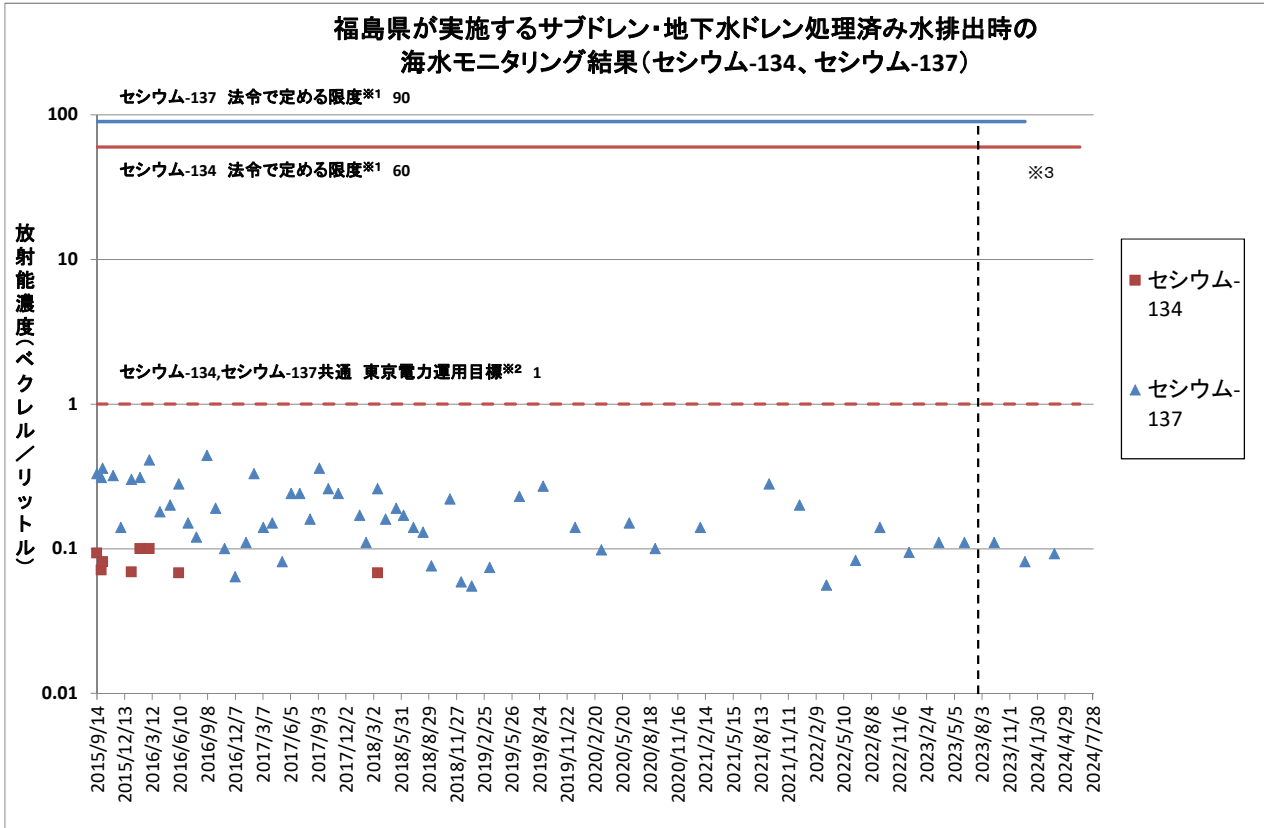
※1 全ベータ放射能の測定法については、文部科学省放射能測定法シリーズ1「全ベータ放射能測定法」に記載されている鉄バリウム共沈法により実施しています。

※2 ALPS処理水海洋放出に係る取水設備(仕切堤)の設置に伴い、令和5年3月採取分より「5,6号機放水口北側」から「港湾口付近」へ地点を変更しています。



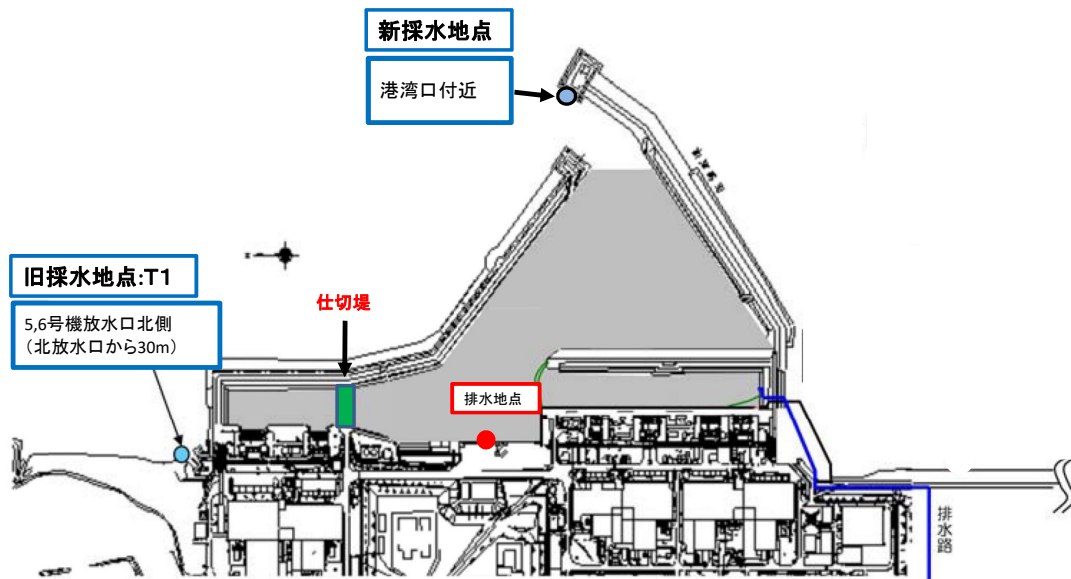
測定値と法令で定める限度及び東電運用目標との比較

注：検出限界値未満の場合はプロットされません。



※1 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める排水の告示濃度限度  
 ※2 福島第一原子力発電所 サブドレン・地下水ドレン浄化水一時貯留タンクの運用目標値  
 ※3 ALPS処理水海洋放出に係る取水設備(仕切堤)の設置に伴い、令和5年3月採取分より「5,6号機放水口北側」から「港湾口付近」へ地点を変更

## 採水地点及び排水地点（東京電力資料より）



ALPS処理水海洋放出に係る取水設備（仕切堤）の設置に伴い、令和5年3月採取分より「5,6号機放水口北側」から「港湾口付近」へ地点変更

# 各地点の空間線量率等の変動グラフ

令和6年4月～令和6年6月

福島県

# 目次

## 空間線量率

1 いわき市小川 (1m) . . . . .	80
2 いわき市久之浜 (1m) . . . . .	80
3 いわき市下桶売 (1m) . . . . .	81
4 いわき市川前 (1m) . . . . .	81
5 田村市都路馬洗戸 (1m) . . . . .	82
6 広野町二ツ沼 (3m) . . . . .	82
7 広野町小滝平 (1m) . . . . .	83
8 檜葉町山田岡 (1m) . . . . .	83
9 檜葉町木戸ダム (1m) . . . . .	84
10 檜葉町繁岡 (3m) . . . . .	84
11 檜葉町松館 (3m) . . . . .	85
12 檜葉町波倉 (3m) . . . . .	85
13 富岡町上郡山 (3m) . . . . .	86
14 富岡町下郡山 (3m) . . . . .	86
15 富岡町深谷 (1m) . . . . .	87
16 富岡町富岡 (3m) . . . . .	87
17 富岡町夜の森 (3m) . . . . .	88
18 川内村下川内 (1m) . . . . .	88
19 大熊町向畑 (3m) . . . . .	89
20 大熊町熊川 (1m) . . . . .	89
21 大熊町南台 (3m) . . . . .	90
22 大熊町大野 (1m) . . . . .	90
23 大熊町夫沢 (3m) . . . . .	91
24 双葉町山田 (3m) . . . . .	91
25 双葉町郡山 (3m) . . . . .	92
26 双葉町新山 (3m) . . . . .	92
27 双葉町上羽鳥 (3m) . . . . .	93
28 浪江町請戸 (1m) . . . . .	93
29 浪江町棚塩 (1m) . . . . .	94
30 浪江町浪江 (3m) . . . . .	94
31 浪江町幾世橋 (3m) . . . . .	95
32 浪江町大柿ダム (1m) . . . . .	95
33 浪江町南津島 (1m) . . . . .	96
34 葛尾村夏湯 (1m) . . . . .	96
35 南相馬市泉沢 (1m) . . . . .	97
36 南相馬市横川ダム (1m) . . . . .	97
37 南相馬市萱浜 (1m) . . . . .	98
38 飯舘村伊丹沢 (1m) . . . . .	98
39 川俣町山木屋 (1m) . . . . .	99

## 空間線量率 (比較対照)

1 福島市杉妻 (1m) . . . . .	100
2 郡山市日和田 (1m) . . . . .	100
3 いわき市平 (1m) . . . . .	101

## 大気浮遊じん(6時間放置後測定)

### 推移

1 いわき市小川 . . . . .	102
2 田村市都路馬洗戸 . . . . .	102
3 広野町小滝平 . . . . .	103
4 檜葉町木戸ダム . . . . .	103
5 檜葉町繁岡 . . . . .	104
6 富岡町富岡 . . . . .	104
7 川内村下川内 . . . . .	105
8 大熊町大野 . . . . .	105
9 大熊町夫沢 . . . . .	106
10 双葉町郡山 . . . . .	106
11 浪江町幾世橋 . . . . .	107
12 浪江町大柿ダム . . . . .	107
13 葛尾村夏湯 . . . . .	108
14 南相馬市泉沢 . . . . .	108
15 南相馬市萱浜 . . . . .	109
16 飯舘村伊丹沢 . . . . .	109
17 川俣町山木屋 . . . . .	110

### 相関図

1 いわき市小川 . . . . .	111
2 田村市都路馬洗戸 . . . . .	111
3 広野町小滝平 . . . . .	112
4 檜葉町木戸ダム . . . . .	112
5 檜葉町繁岡 . . . . .	113
6 富岡町富岡 . . . . .	113
7 川内村下川内 . . . . .	114
8 大熊町大野 . . . . .	114
9 大熊町夫沢 . . . . .	115
10 双葉町郡山 . . . . .	115
11 浪江町幾世橋 . . . . .	116
12 浪江町大柿ダム . . . . .	116
13 葛尾村夏湯 . . . . .	117
14 南相馬市泉沢 . . . . .	117
15 南相馬市萱浜 . . . . .	118
16 飯舘村伊丹沢 . . . . .	118
17 川俣町山木屋 . . . . .	119

※ 図中の「事故前の最大値」は、平成23年3月10日までに観測された最大値

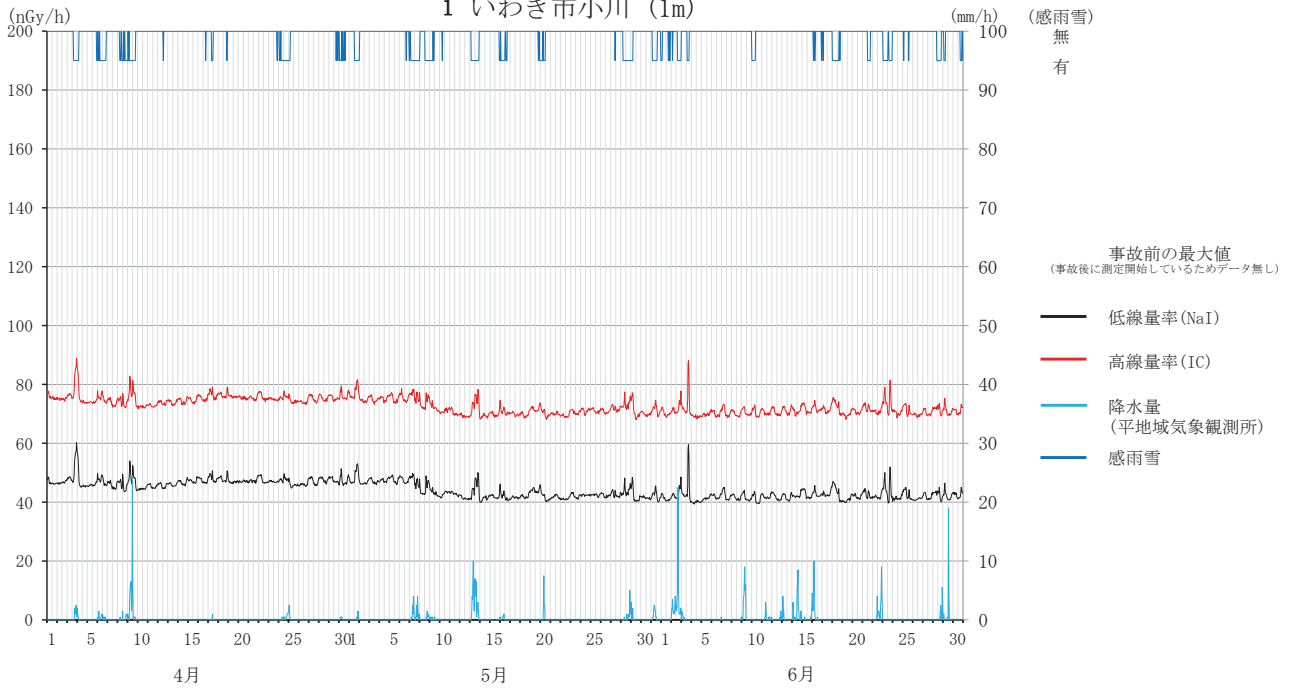
# 目次

## 大気浮遊じん(集じん中測定)

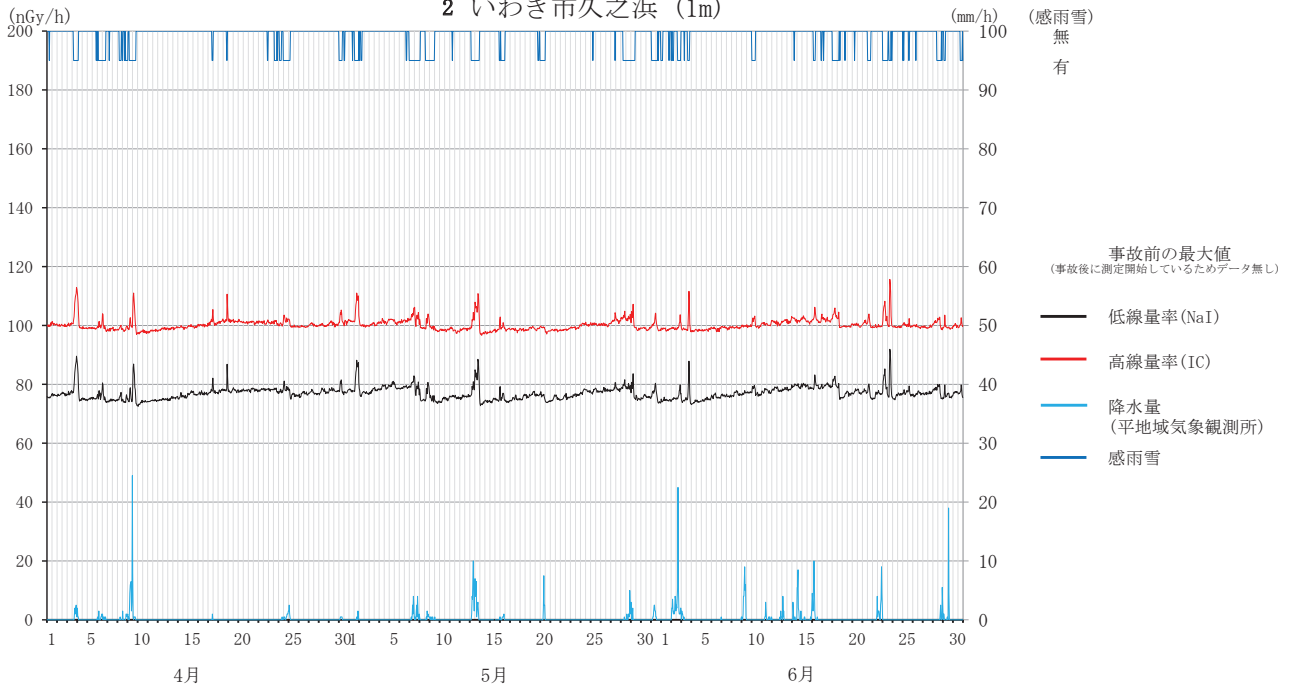
### 推移

1	いわき市小川	120
2	田村市都路馬洗戸	120
3	広野町小滝平	121
4	檜葉町木戸ダム	121
5	檜葉町繁岡	122
6	富岡町富岡	122
7	川内村下川内	123
8	大熊町大野	123
9	大熊町夫沢	124
10	双葉町郡山	124
11	浪江町幾世橋	125
12	浪江町大柿ダム	125
13	葛尾村夏湯	126
14	南相馬市泉沢	126
15	南相馬市萱浜	127
16	飯舘村伊丹沢	127
17	川俣町山木屋	128
18	いわき市久之浜	128
19	いわき市下桶売	129
20	いわき市川前	129
21	大熊町向畑	130
22	双葉町山田	130
23	双葉町新山	131
24	双葉町上羽鳥	131
25	浪江町南津島	132
26	南相馬市横川ダム	132

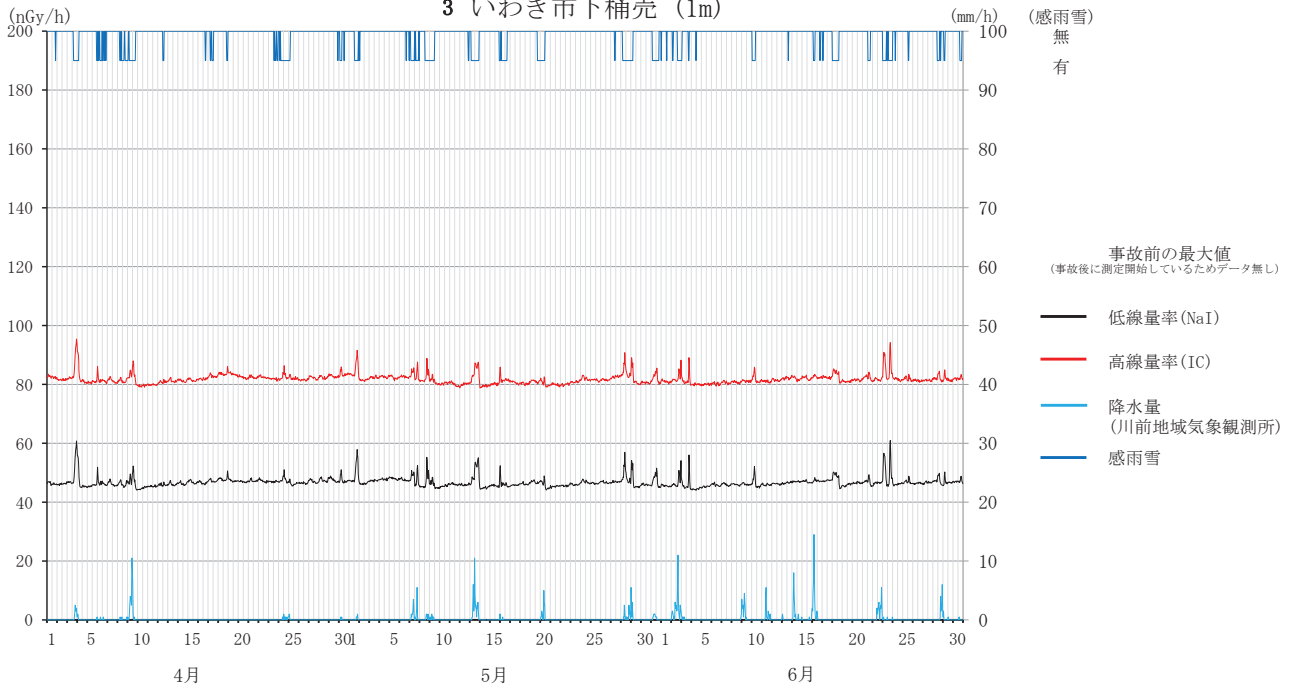
空間線量率の変動グラフ  
1 いわき市小川 (1m)



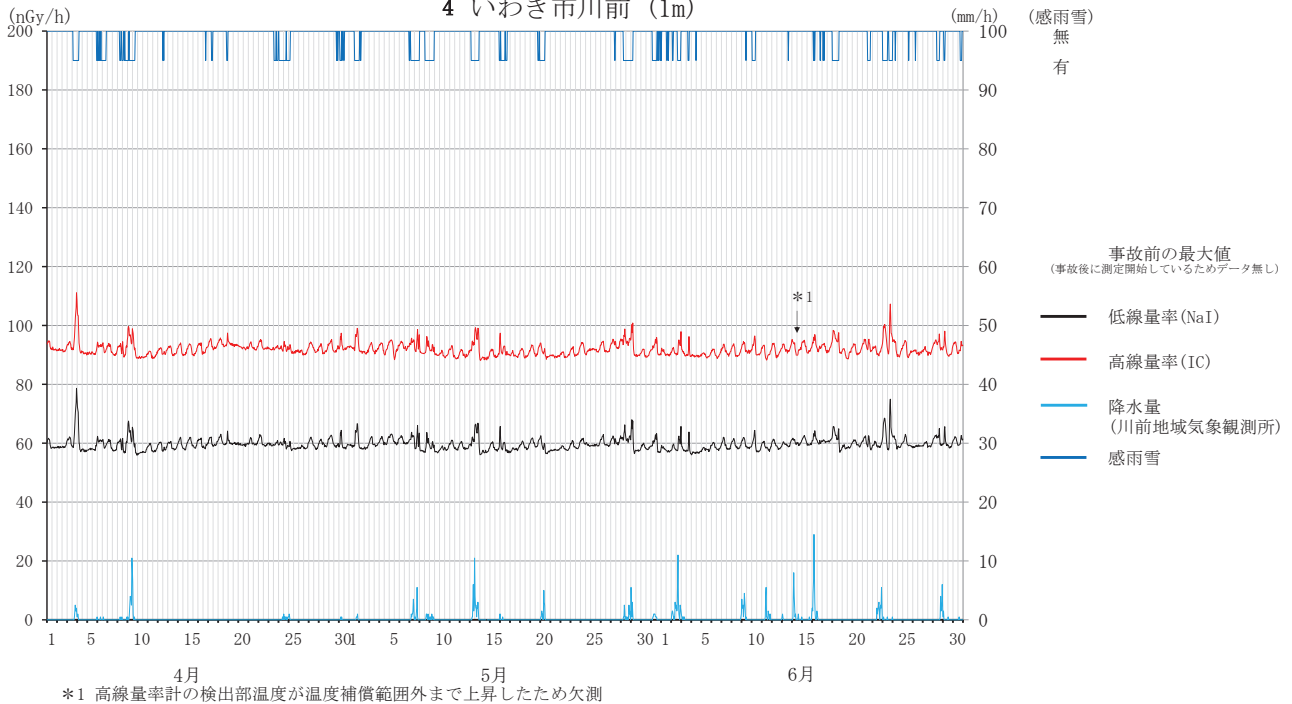
空間線量率の変動グラフ  
2 いわき市久之浜 (1m)



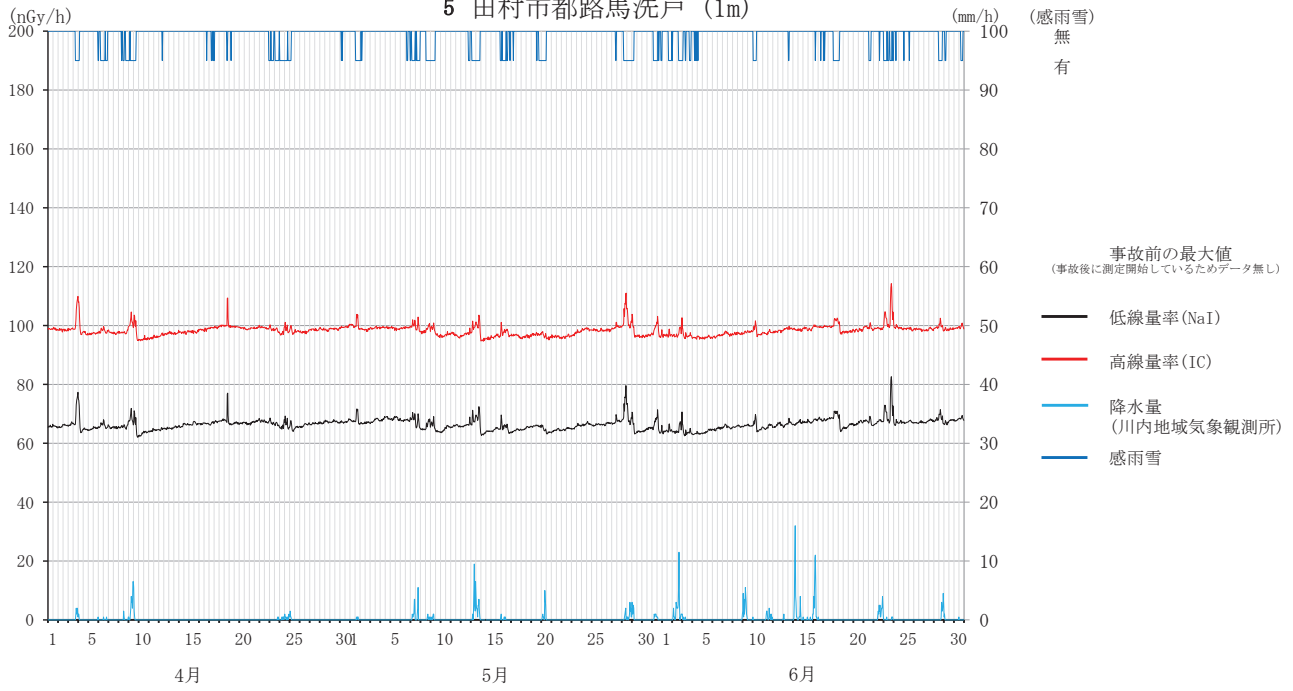
空間線量率の変動グラフ  
3 いわき市下桶売 (1m)



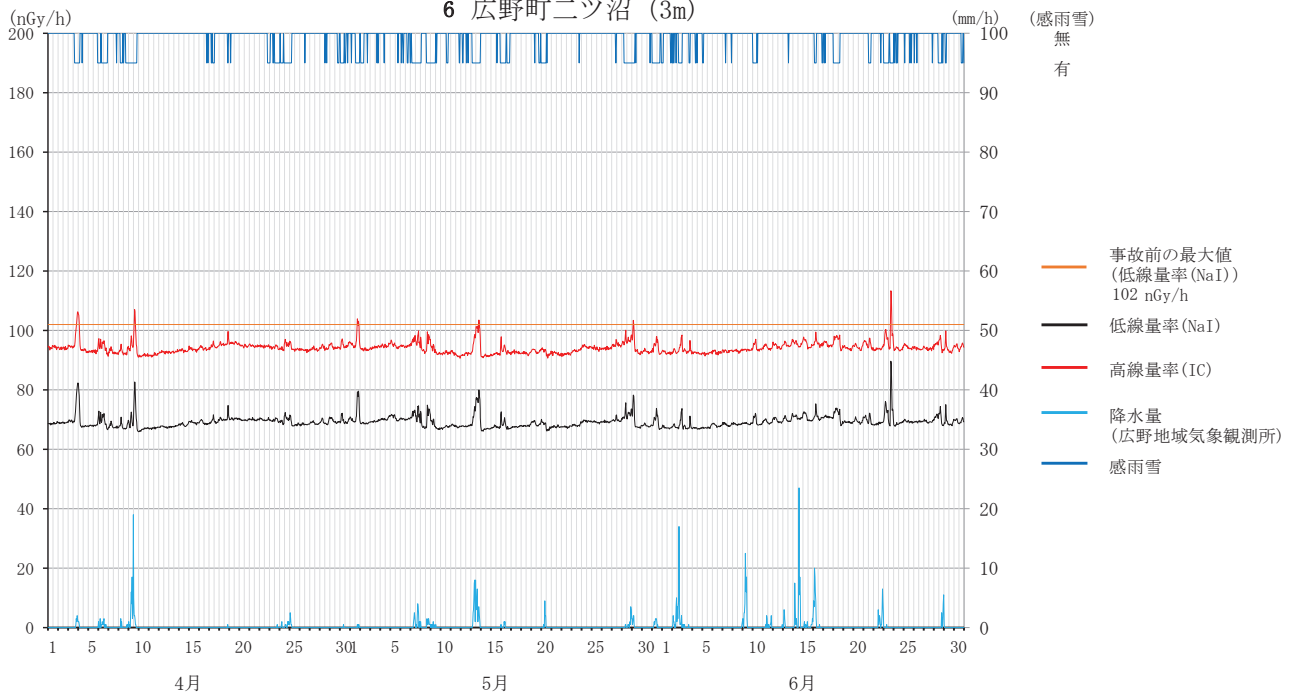
空間線量率の変動グラフ  
4 いわき市川前 (1m)



空間線量率の変動グラフ  
5 田村市都路馬洗戸 (1m)

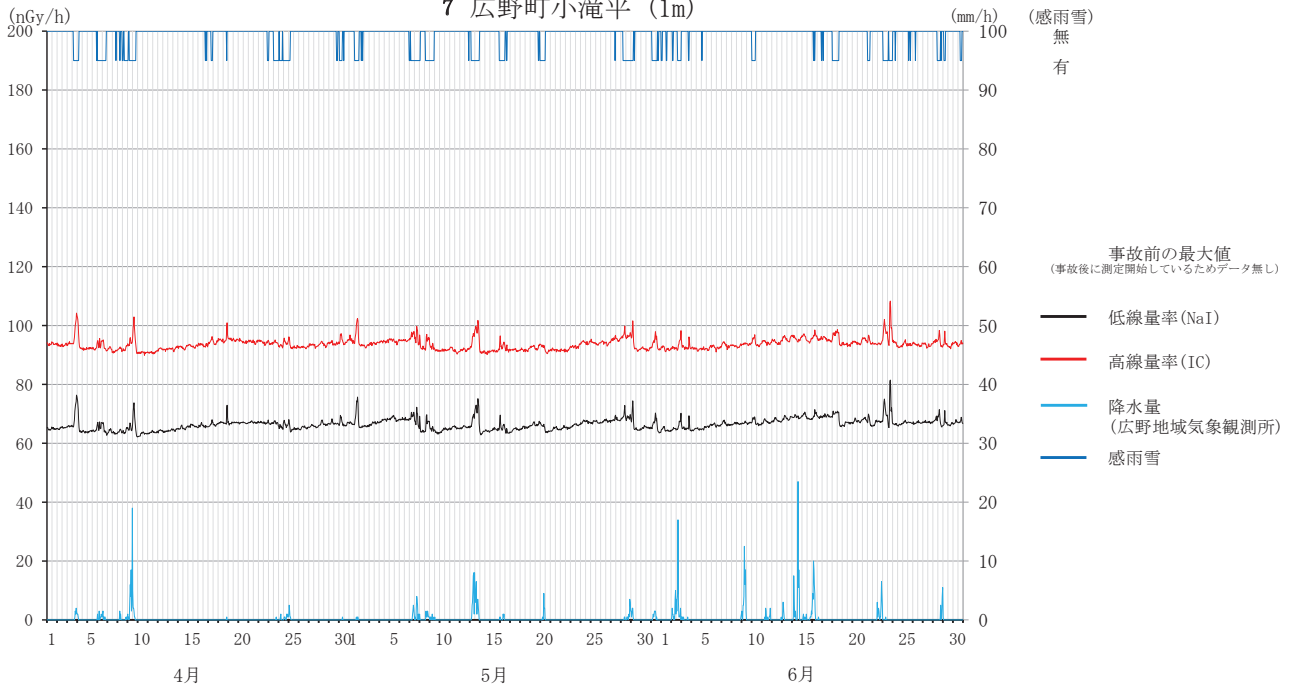


空間線量率の変動グラフ  
6 広野町二ツ沼 (3m)

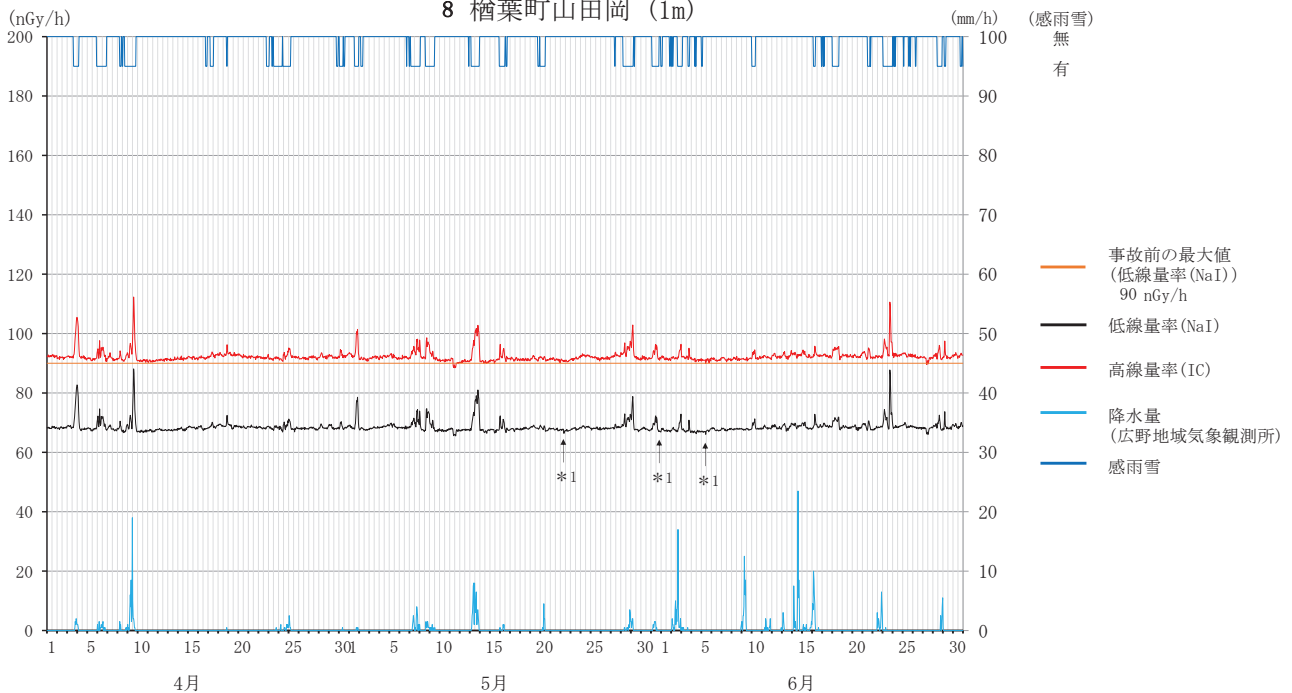




空間線量率の変動グラフ  
7 広野町小滝平 (1m)

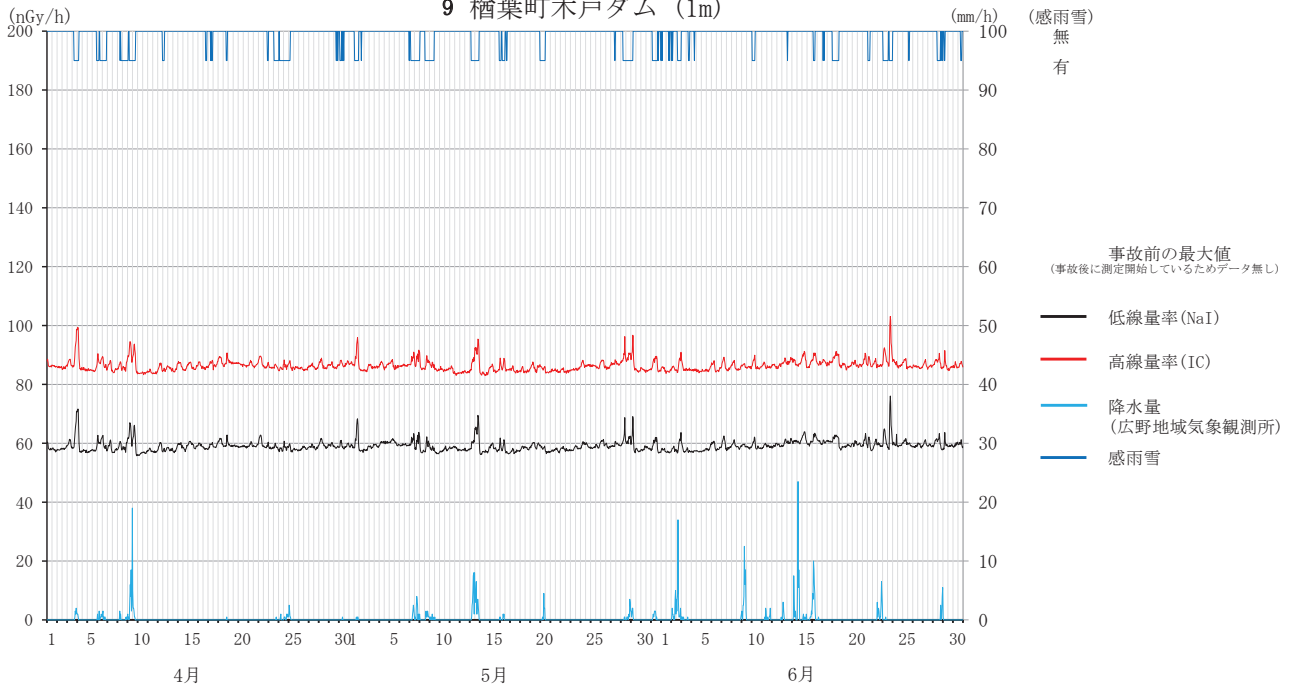


空間線量率の変動グラフ  
8 檜葉町山田岡 (1m)

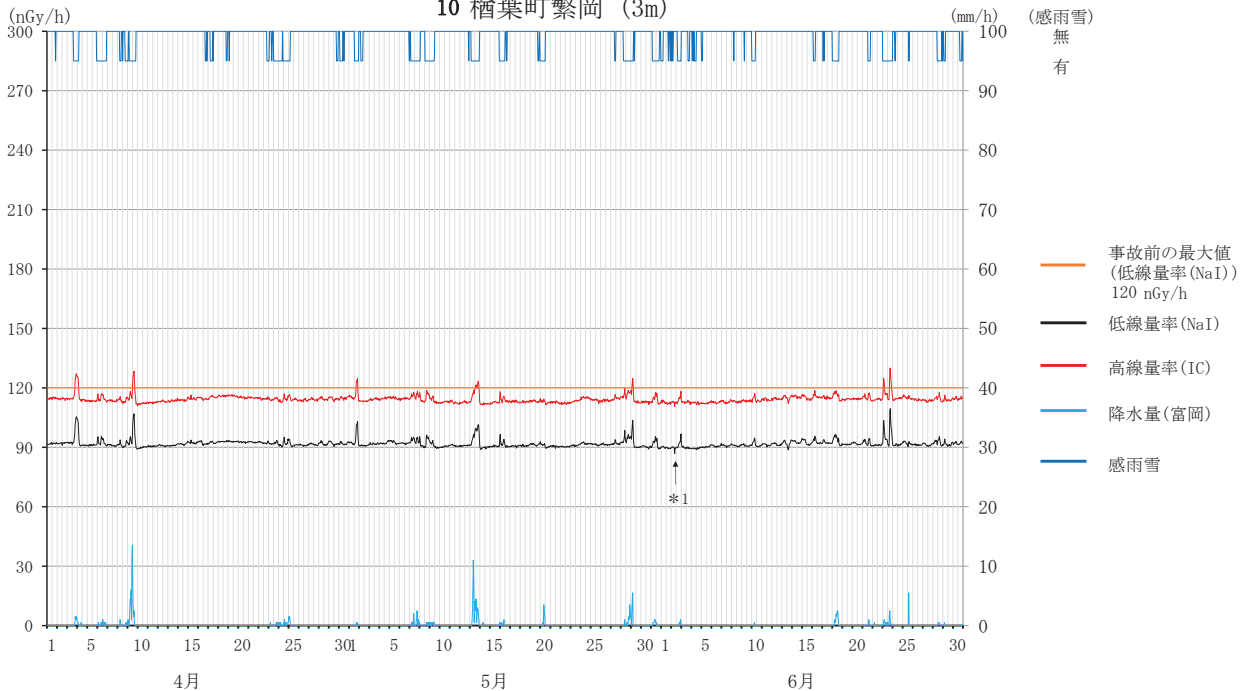


\*1 局舎周辺停車車両による遮へい

空間線量率の変動グラフ  
9 檜葉町木戸ダム (1m)

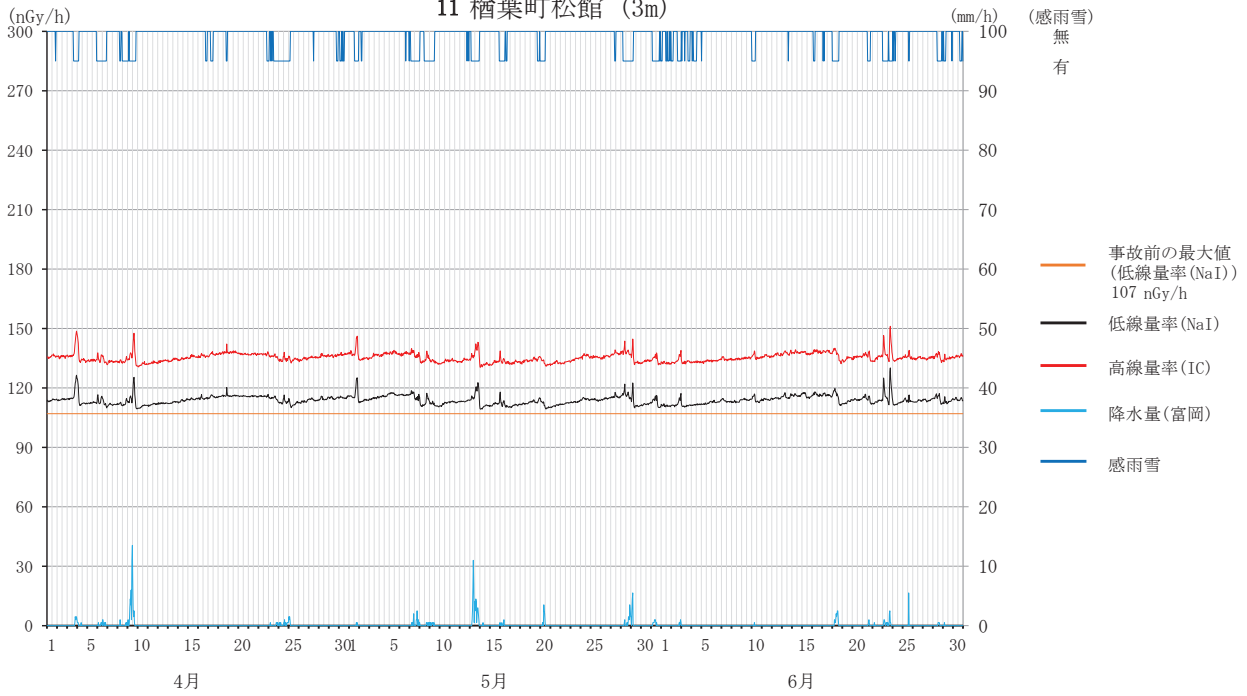


空間線量率の変動グラフ  
10 檜葉町繁岡 (3m)

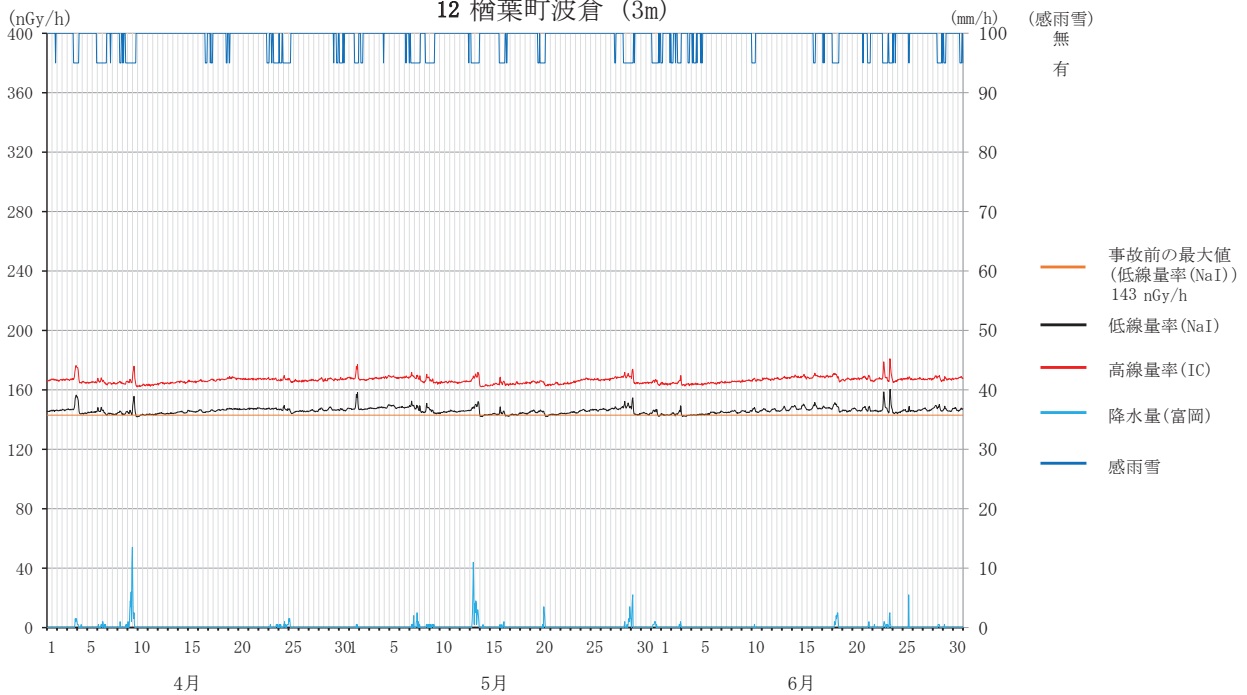


\*1 局舎周辺停車車両による遮へい

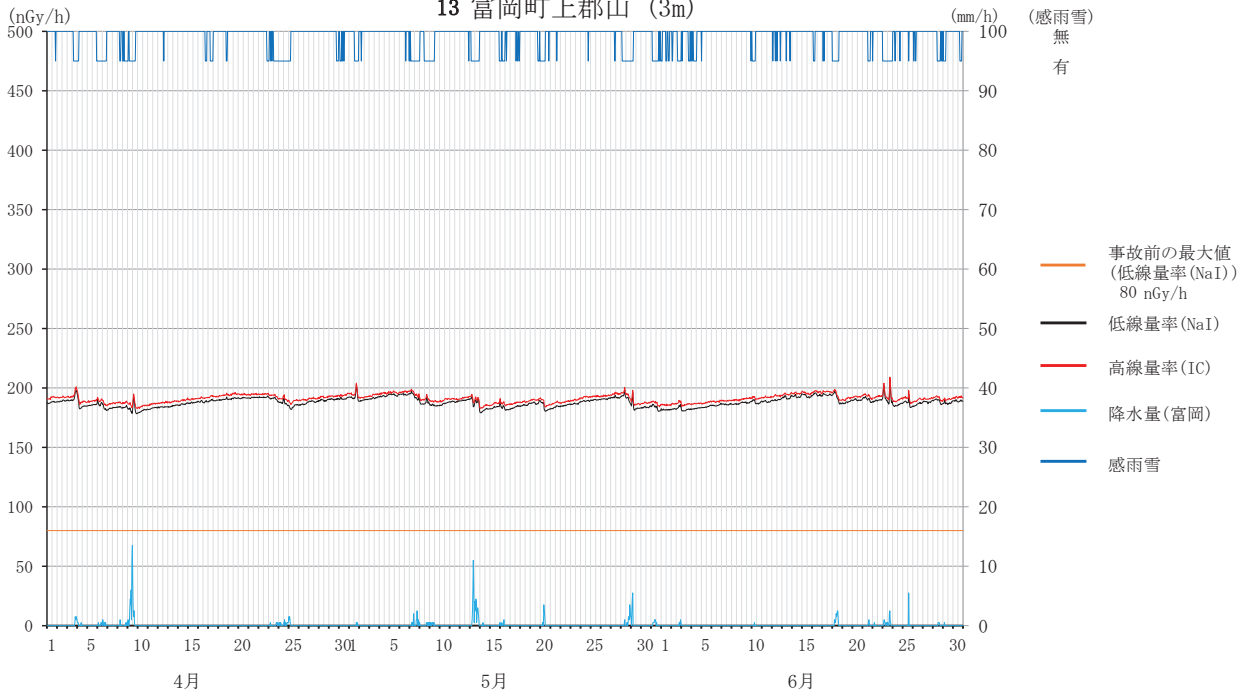
空間線量率の変動グラフ  
11 檜葉町松館 (3m)



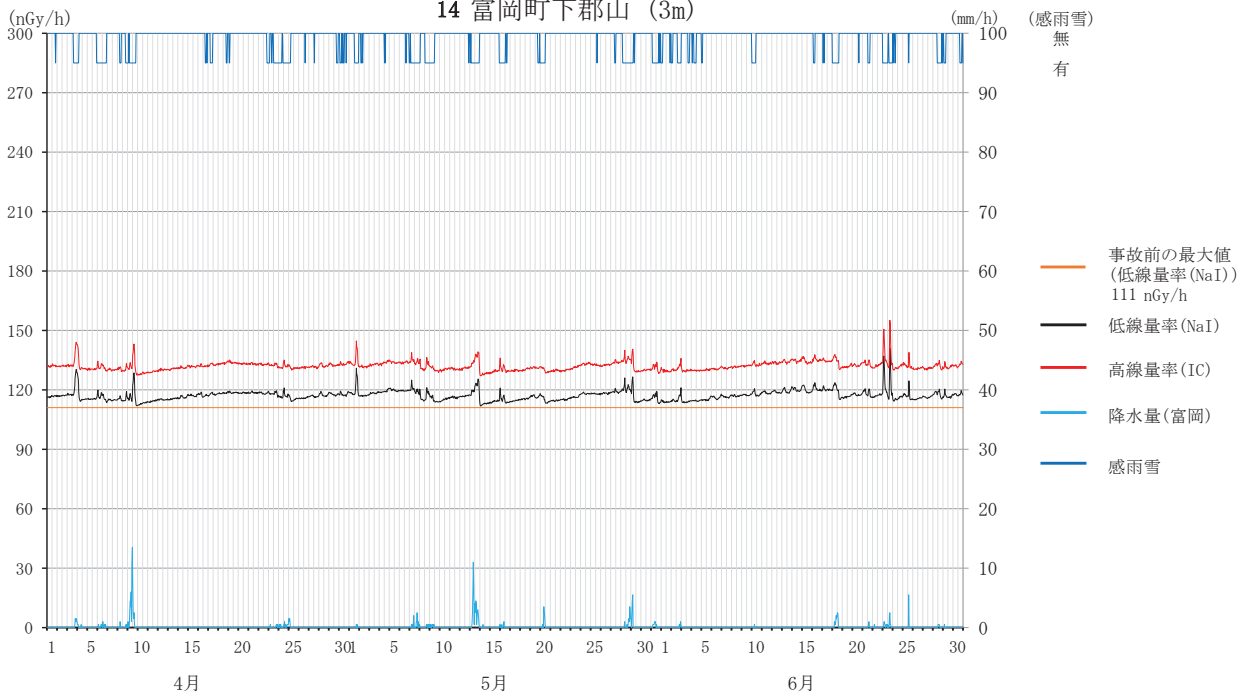
空間線量率の変動グラフ  
12 檜葉町波倉 (3m)



空間線量率の変動グラフ  
13 富岡町上郡山 (3m)

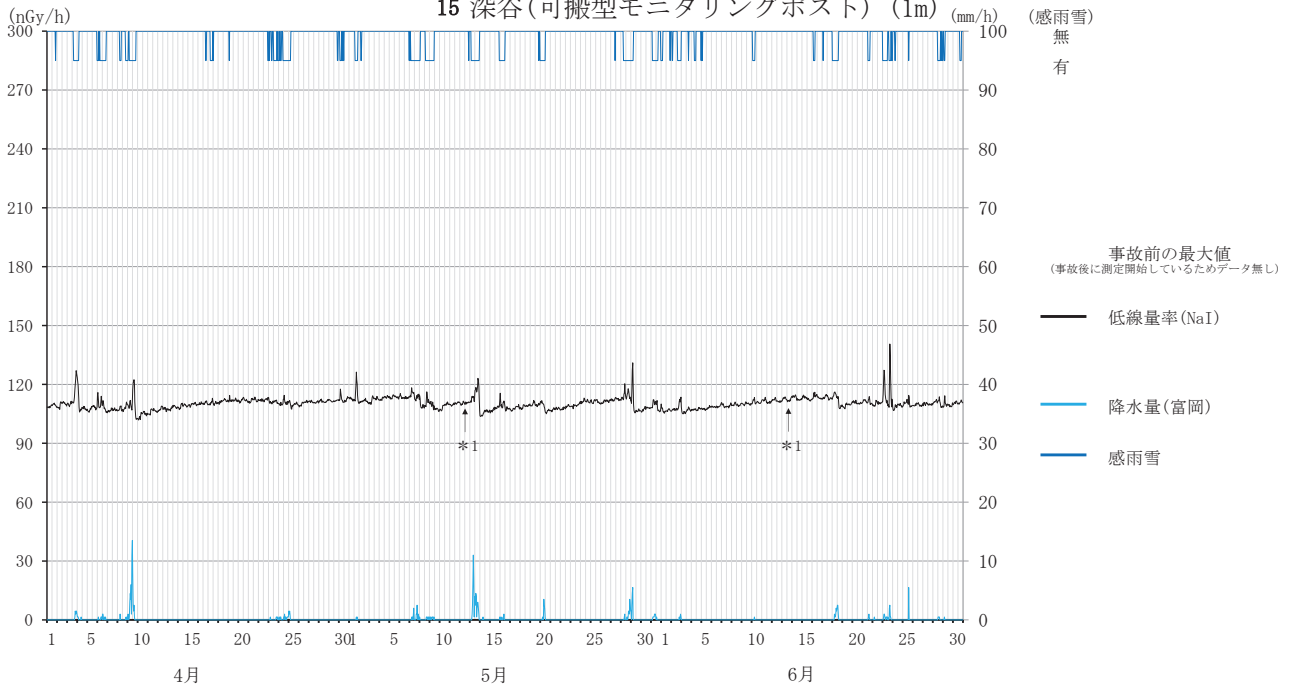


空間線量率の変動グラフ  
14 富岡町下郡山 (3m)



空間線量率の変動グラフ

15 深谷(可搬型モニタリングポスト) (1m) (mm/h)

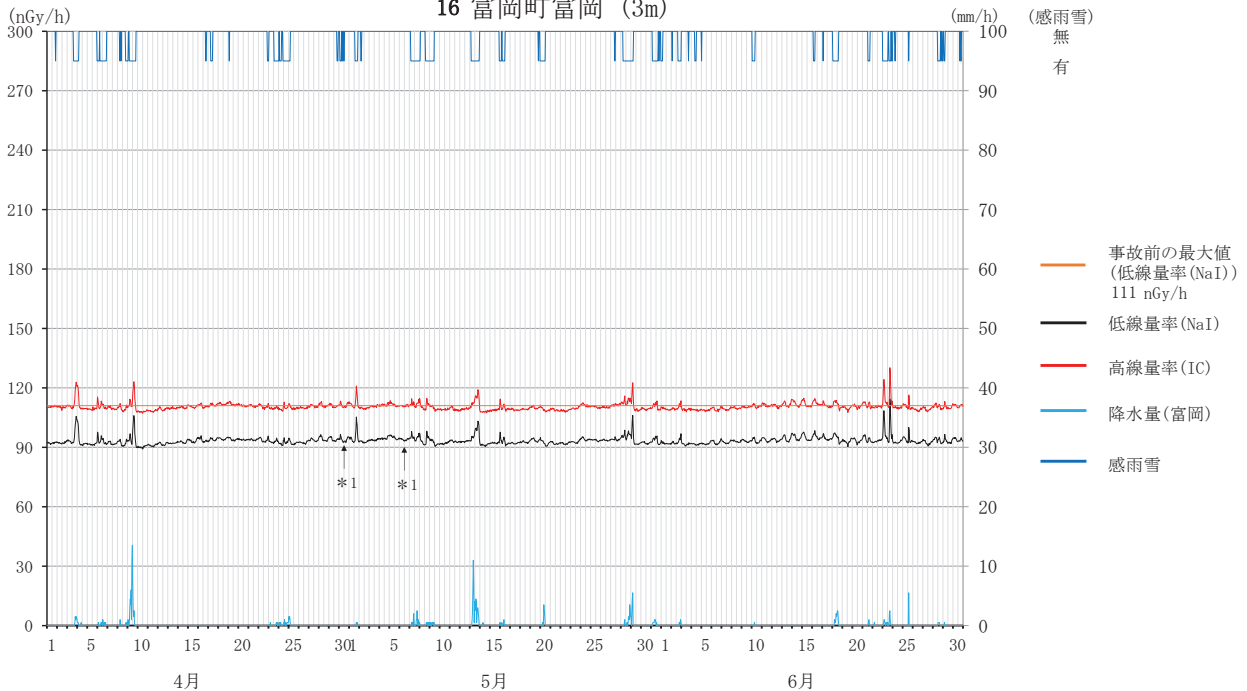


\*1 検出器周辺に滞留した人による遮へい

可搬型モニタリングポストには温度制御装置が装備されていないため、線量率が気温の変動による影響を受けて日周期で変動する。

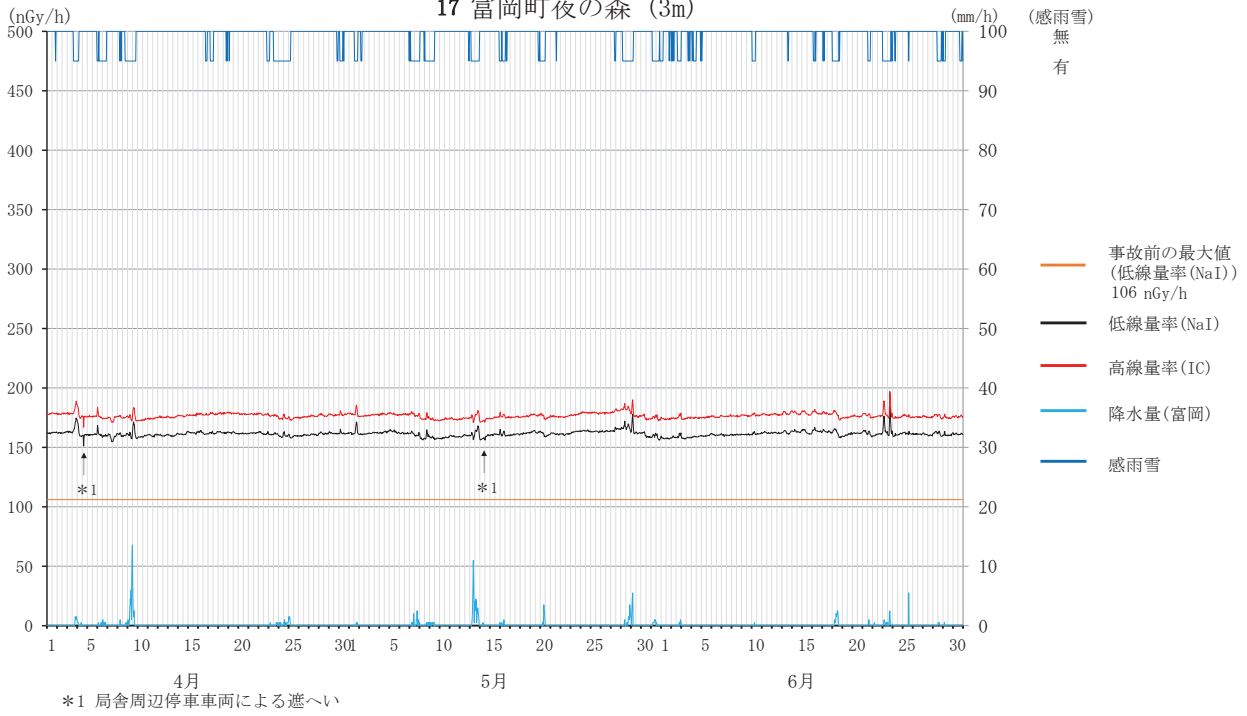
空間線量率の変動グラフ

16 富岡町富岡 (3m)

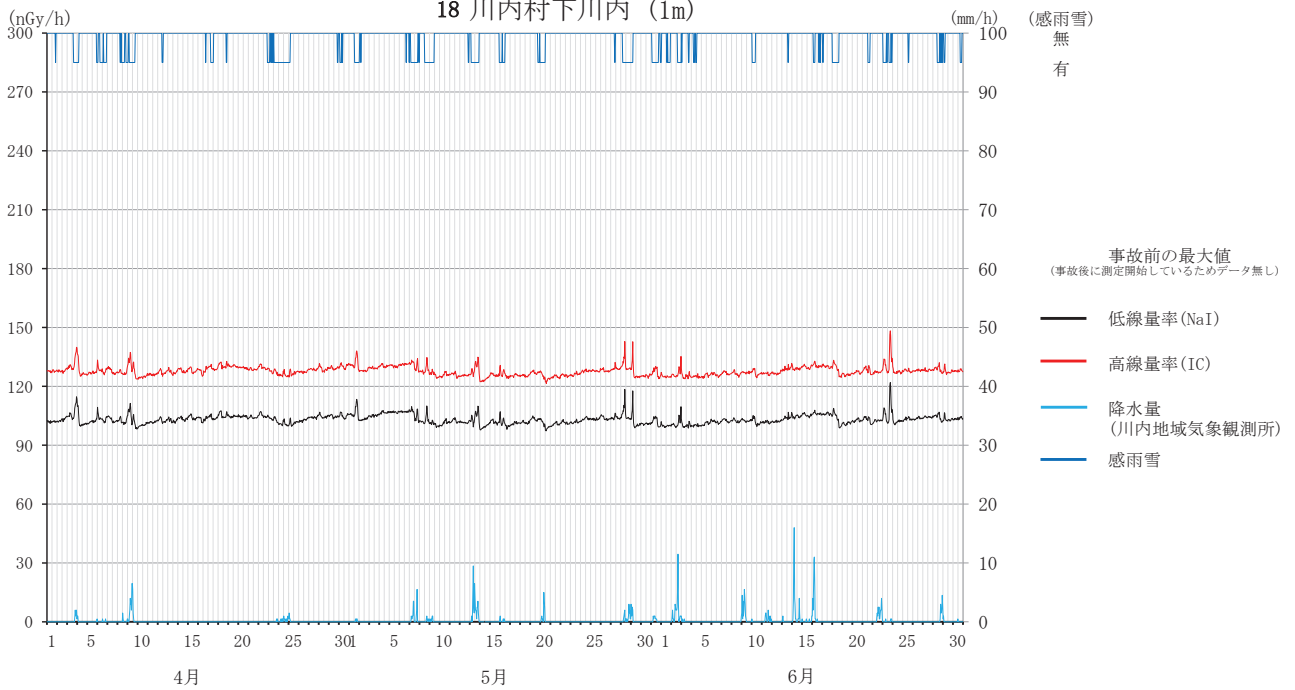


\*1 局舎周辺停車車両による遮へい

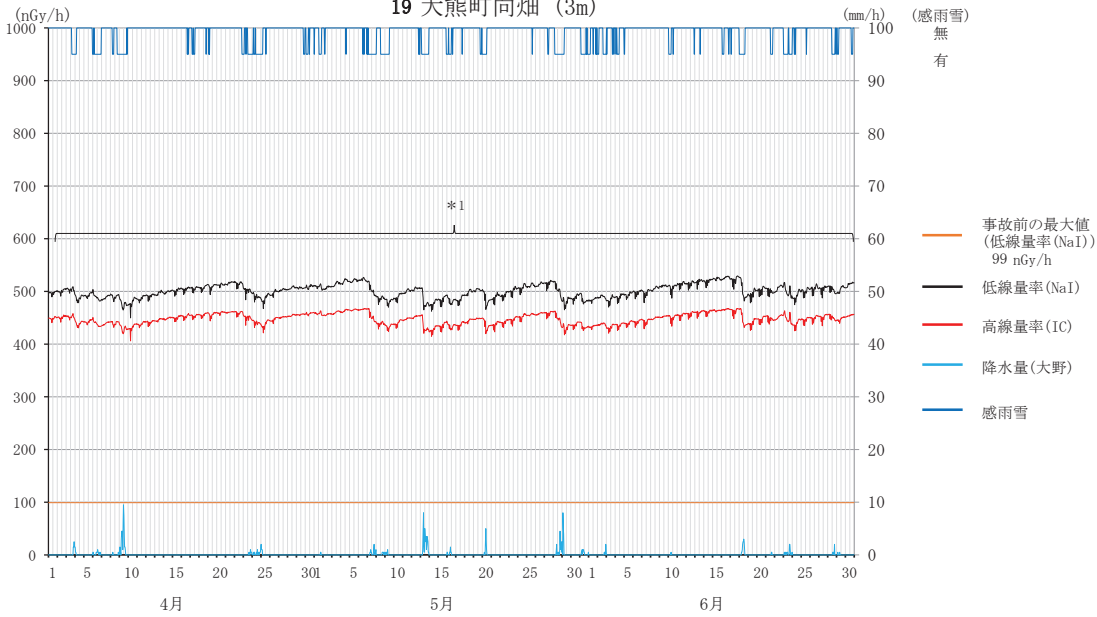
空間線量率の変動グラフ  
17 富岡町夜の森 (3m)



空間線量率の変動グラフ  
18 川内村下川内 (1m)



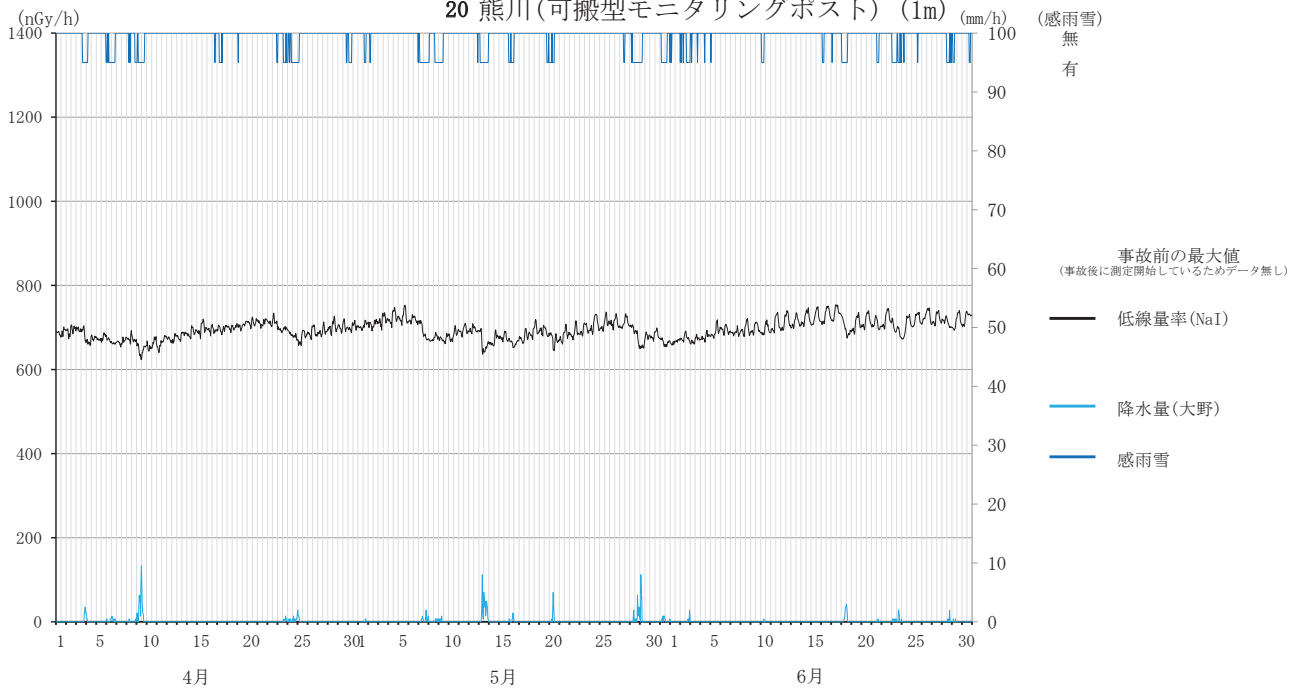
空間線量率の変動グラフ  
19 大熊町向畑 (3m)



\*1 局舎付近に帰還困難区域入退域ゲートがあり、朝夕の渋滞時の車両の遮へいにより、線量率低下が発生

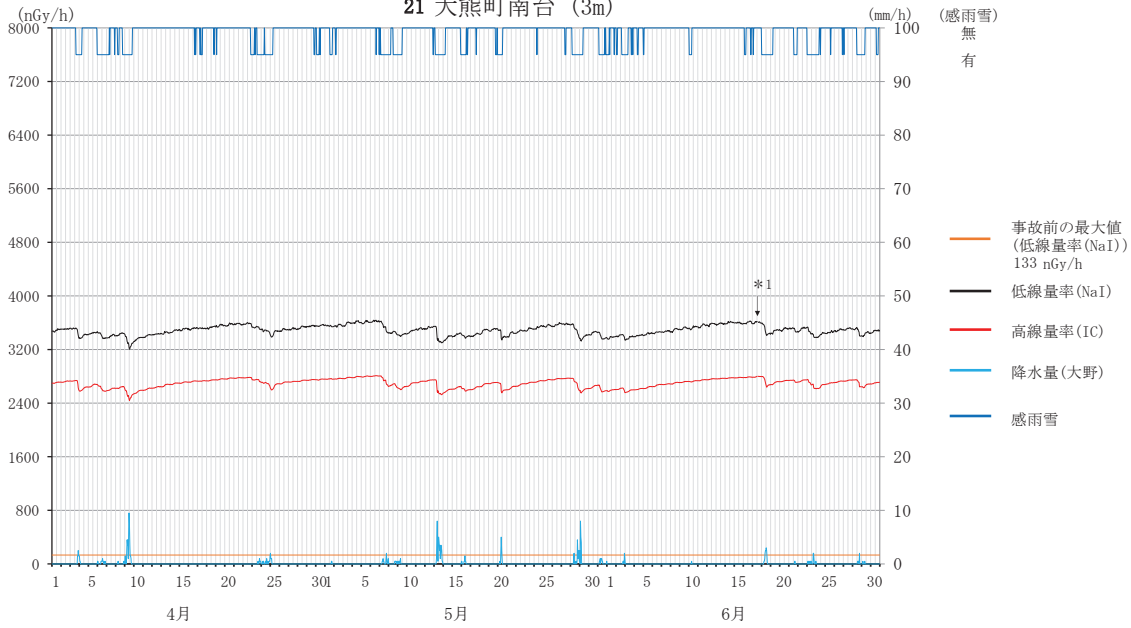
電離箱式検出器 (IC) は高エネルギーの宇宙線についても測定できることから、線量率が低レベルのときの測定値はNaI (TI) シンチレーション式検出器より30nGy/h程度高くなる。また電離箱式検出器は、検出器の形状が球形であり方向特性が良好である一方、NaI (TI)シンチレーション式検出器の形状は21mφ×2inの円柱状であるため、鉛直方向の方向特性を1とした場合、90度方向では1.1程度となる。線量率が数百nGy/h以上の地点では、福島第一原子力発電所の事故により沈着したCs-134及びCs-137による地表面方向 (90度から180度) からの放射線が大部分を占めるため、検出器の方向特性の違いによる影響がより顕著に現れ、電離箱式検出器と比較してNaI (TI) シンチレーション式検出器の測定値が高い傾向となる。

空間線量率の変動グラフ  
20 熊川(可搬型モニタリングポスト) (1m)



可搬型モニタリングポストには温度制御装置が装備されていないため、線量率が気温の変動による影響を受けて日周期で変動する。

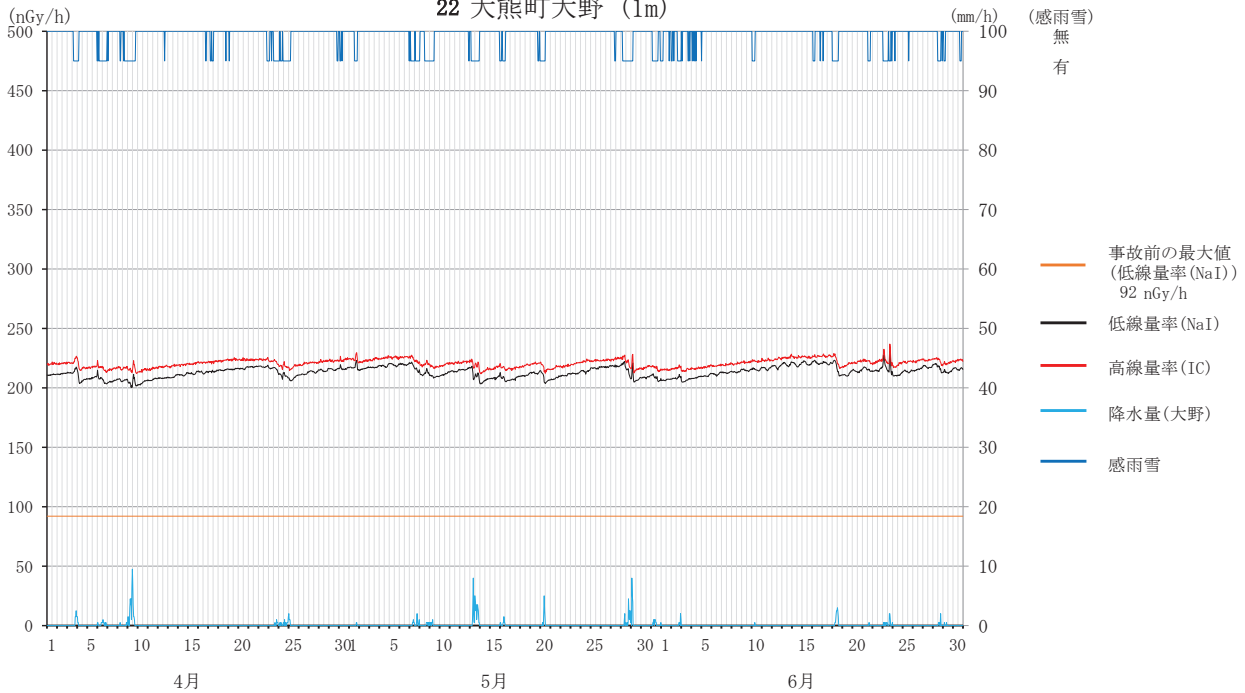
空間線量率の変動グラフ  
21 大熊町南台 (3m)



\*1 点検による欠測

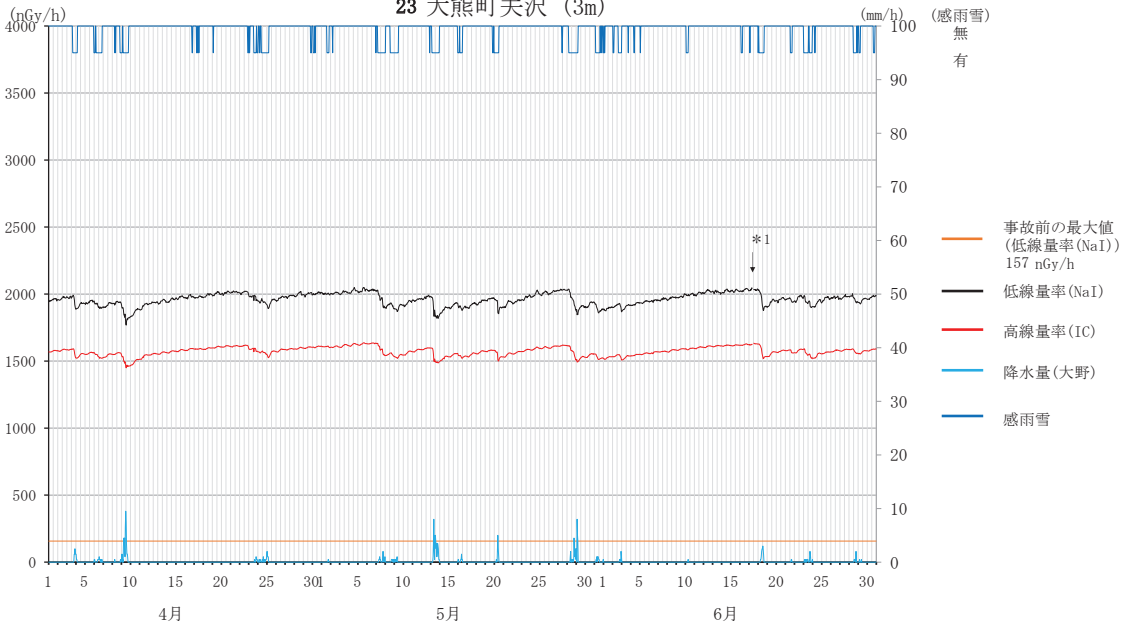
電離箱式検出器 (IC) は高エネルギーの宇宙線についても測定できることから、線量率が低レベルのときの測定値はNaI (TI) シンチレーション式検出器より30nGy/h程度高くなる。また電離箱式検出器は、検出器の形状が球形であり方向特性が良好である一方、NaI (TI) シンチレーション式検出器の形状は2inφ×2inの円柱状であるため、鉛直方向の方向特性を1とした場合、90度方向では1.1程度となる。線量率が数百nGy/h以上の地点では、福島第一原子力発電所の事故により沈着したCs-134及びCs-137による地表面方向 (90度から180度) からの放射線が大部分を占めるため、検出器の方向特性の違いによる影響がより顕著に現れ、電離箱式検出器と比較してNaI (TI) シンチレーション式検出器の測定値が高い傾向となる。

空間線量率の変動グラフ  
22 大熊町大野 (1m)





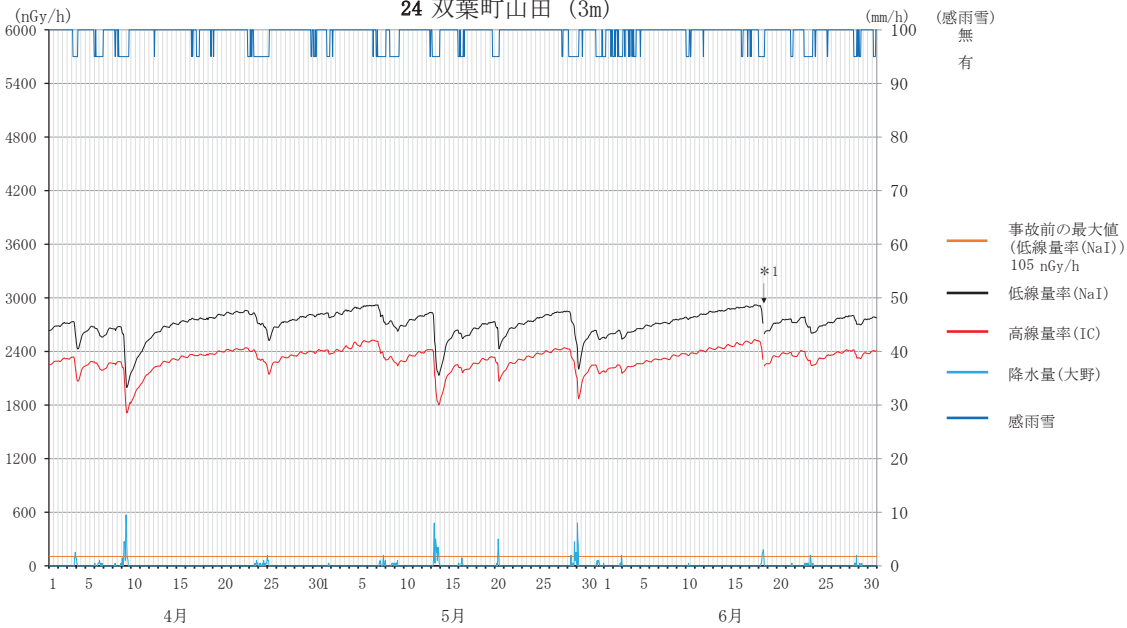
空間線量率の変動グラフ  
23 大熊町大沢 (3m)



\*1 点検による欠測

電離箱式検出器 (IC) は高エネルギーの宇宙線についても測定できることから、線量率が低レベルのときの測定値はNaI (TI) シンチレーション式検出器より30nGy/h程度高くなる。また電離箱式検出器は、検出器の形状が球形であり方向特性が良好である一方、NaI (TI) シンチレーション式検出器の形状は2inφ×2inの円柱状であるため、鉛直方向の方向特性を1とした場合、90度方向では1.1程度となる。線量率が数百nGy/h以上の地点では、福島第一原子力発電所の事故により沈着したCs-134及びCs-137による地表面方向 (90度から180度) からの放射線が大部分を占めるため、検出器の方向特性の違いによる影響がより顕著に現れ、電離箱式検出器と比較してNaI (TI) シンチレーション式検出器の測定値が高い傾向となる。

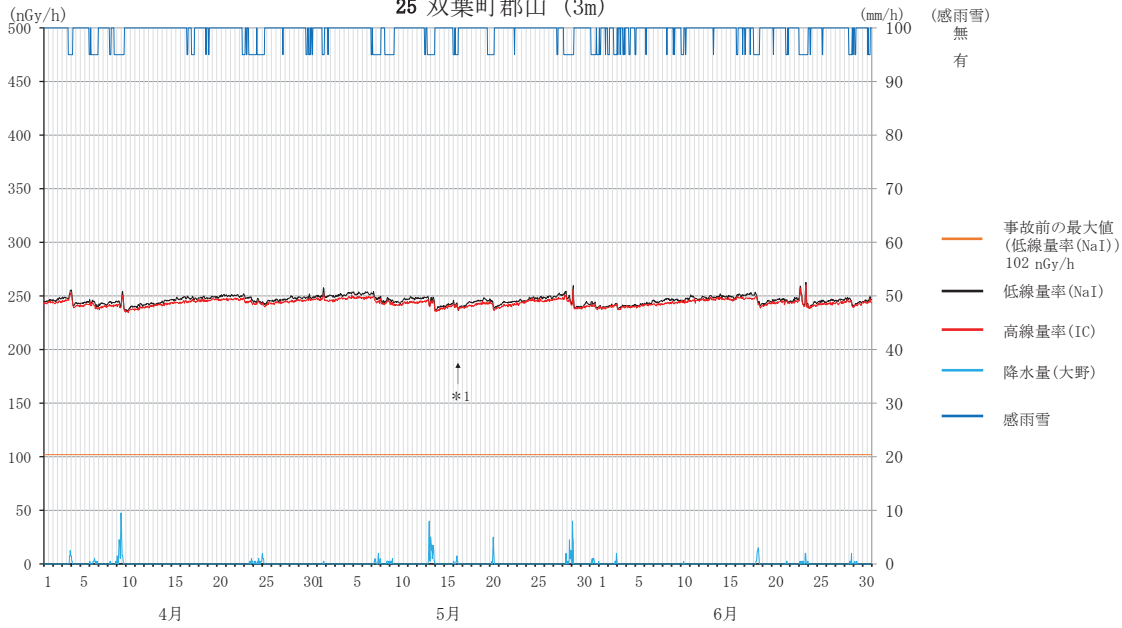
空間線量率の変動グラフ  
24 双葉町山田 (3m)



\*1 点検による欠測

電離箱式検出器 (IC) は高エネルギーの宇宙線についても測定できることから、線量率が低レベルのときの測定値はNaI (TI) シンチレーション式検出器より30nGy/h程度高くなる。また電離箱式検出器は、検出器の形状が球形であり方向特性が良好である一方、NaI (TI) シンチレーション式検出器の形状は2inφ×2inの円柱状であるため、鉛直方向の方向特性を1とした場合、90度方向では1.1程度となる。線量率が数百nGy/h以上の地点では、福島第一原子力発電所の事故により沈着したCs-134及びCs-137による地表面方向 (90度から180度) からの放射線が大部分を占めるため、検出器の方向特性の違いによる影響がより顕著に現れ、電離箱式検出器と比較してNaI (TI) シンチレーション式検出器の測定値が高い傾向となる。

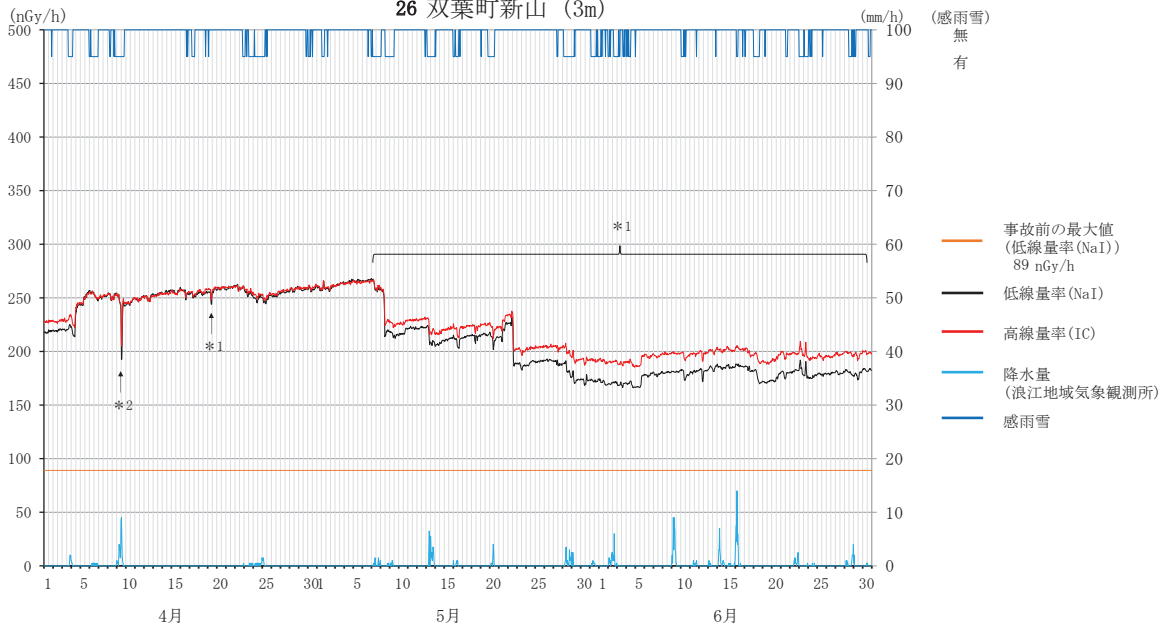
空間線量率の変動グラフ  
25 双葉町郡山 (3m)



\*1 検出器周辺に滞留した人による遮へい

電離箱式検出器 (IC) は高エネルギーの宇宙線についても測定できることから、線量率が低レベルのときの測定値はNaI (TI) シンチレーション式検出器より30nGy/h程度高くなる。また電離箱式検出器は、検出器の形状が球形であり方向特性が良好である一方、NaI (TI) シンチレーション式検出器の形状は2inφ×2inの円柱状であるため、鉛直方向の方向特性を1とした場合、90度方向では1.1程度となる。線量率が数百nGy/h以上の地点では、福島第一原子力発電所の事故により沈着したCs-134及びCs-137による地表面方向 (90度から180度) からの放射線が大部分を占めるため、検出器の方向特性の違いによる影響がより顕著に現れ、電離箱式検出器と比較してNaI (TI) シンチレーション式検出器の測定値が高い傾向となる。

空間線量率の変動グラフ  
26 双葉町新山 (3m)

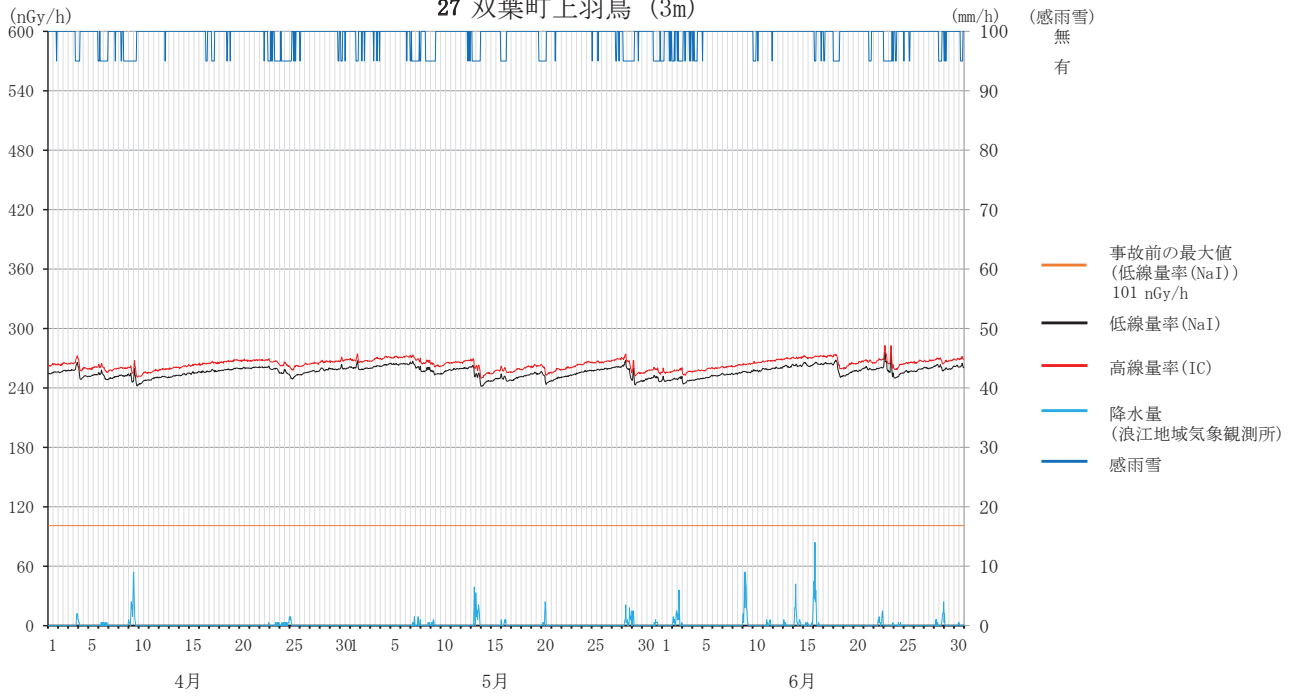


\*1 局舎周辺橋梁下部工工事における工事資材 (土砂含む) 及び工事車両による遮へい

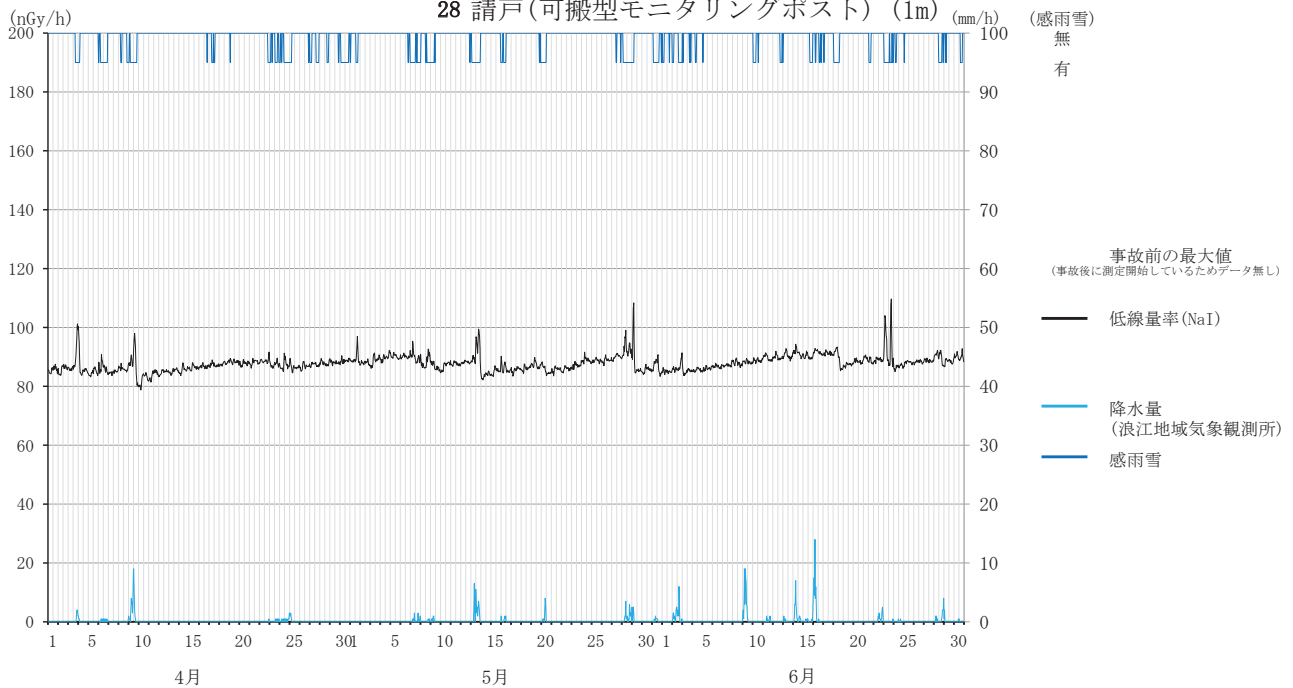
\*2 局舎周辺雨水の水溜まりによる遮へいの影響で線量率低下

電離箱式検出器 (IC) は高エネルギーの宇宙線についても測定できることから、線量率が低レベルのときの測定値はNaI (TI) シンチレーション式検出器より30nGy/h程度高くなる。また電離箱式検出器は、検出器の形状が球形であり方向特性が良好である一方、NaI (TI) シンチレーション式検出器の形状は2inφ×2inの円柱状であるため、鉛直方向の方向特性を1とした場合、90度方向では1.1程度となる。線量率が数百nGy/h以上の地点では、福島第一原子力発電所の事故により沈着したCs-134及びCs-137による地表面方向 (90度から180度) からの放射線が大部分を占めるため、検出器の方向特性の違いによる影響がより顕著に現れ、電離箱式検出器と比較してNaI (TI) シンチレーション式検出器の測定値が高い傾向となる。

空間線量率の変動グラフ  
27 双葉町上羽鳥 (3m)



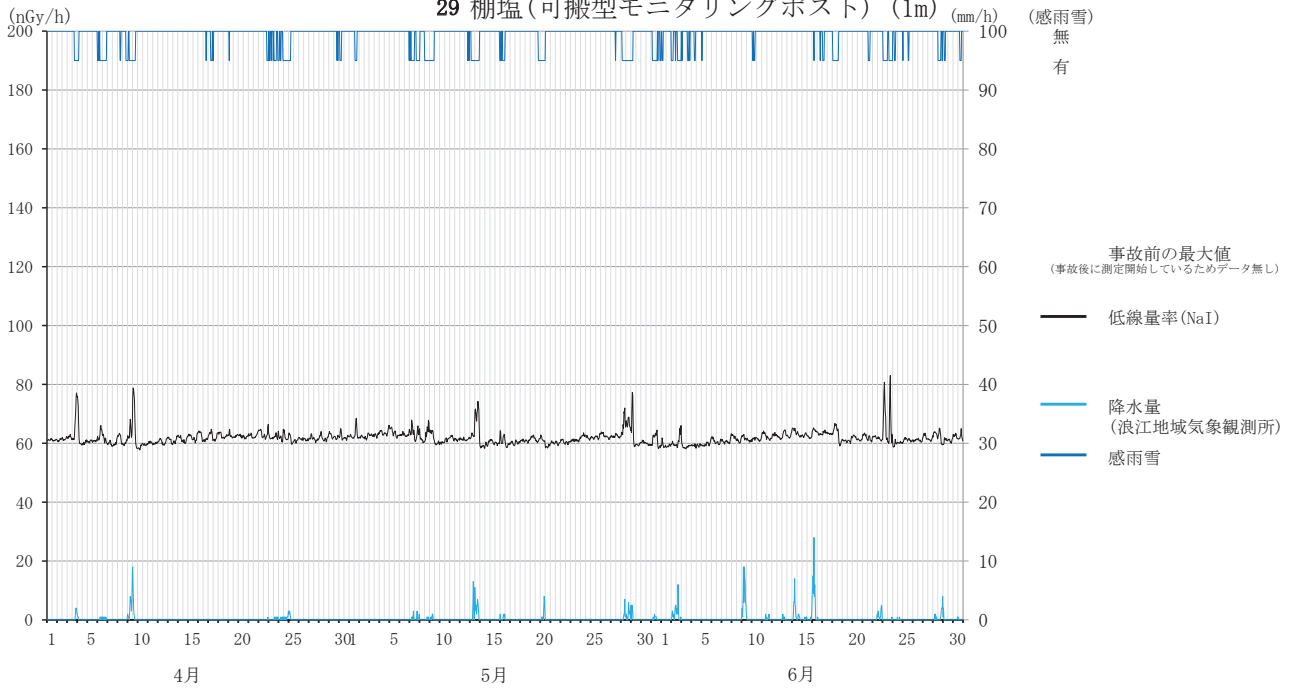
空間線量率の変動グラフ  
28 請戸(可搬型モニタリングポスト) (1m)



可搬型モニタリングポストには温度制御装置が装備されていないため線量率が気温の変動による影響を受けて日周期で変動する。

空間線量率の変動グラフ

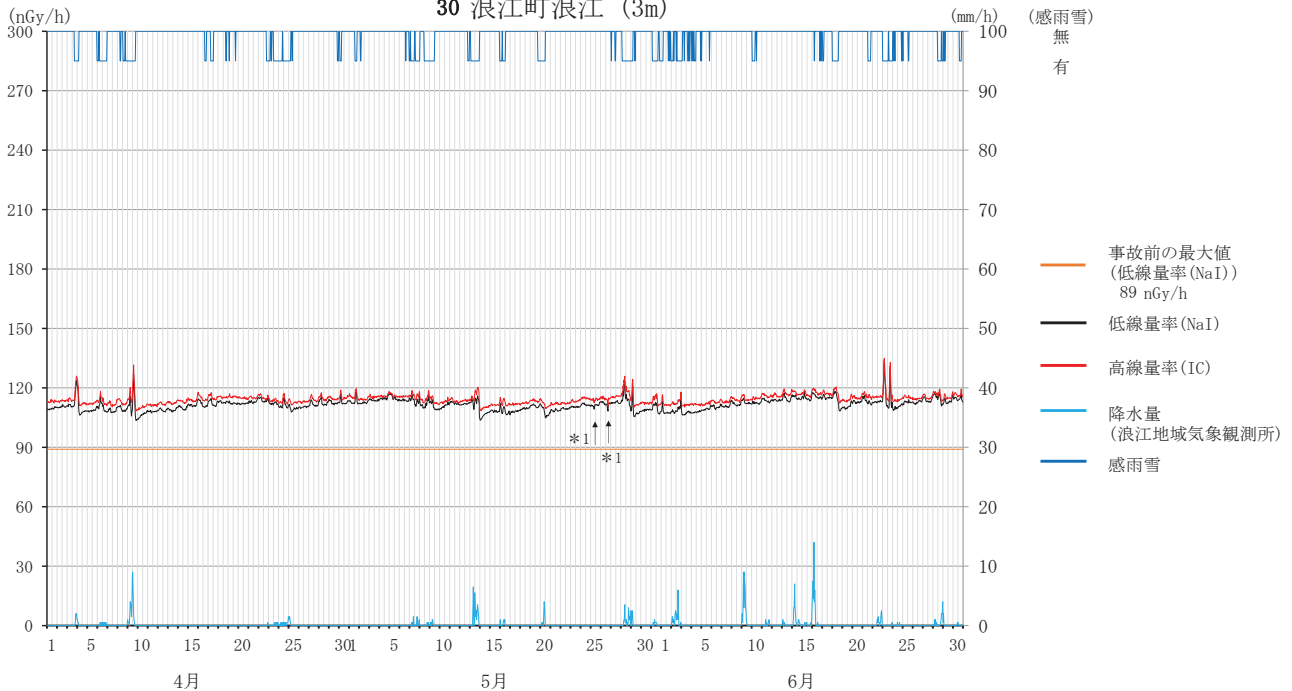
29 棚塩(可搬型モニタリングポスト) (1m) (mm/h)



可搬型モニタリングポストには温度制御装置が装備されていないため線量率が気温の変動による影響を受けて日周期で変動する。

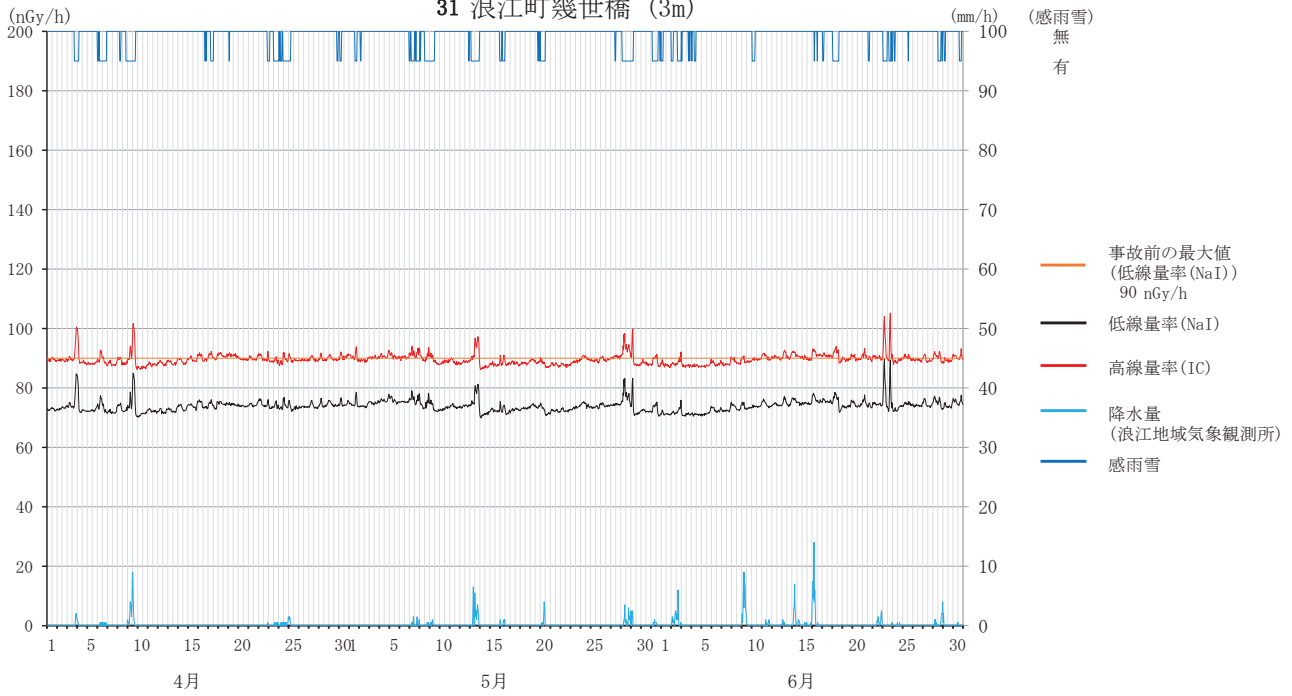
空間線量率の変動グラフ

30 浪江町浪江 (3m)

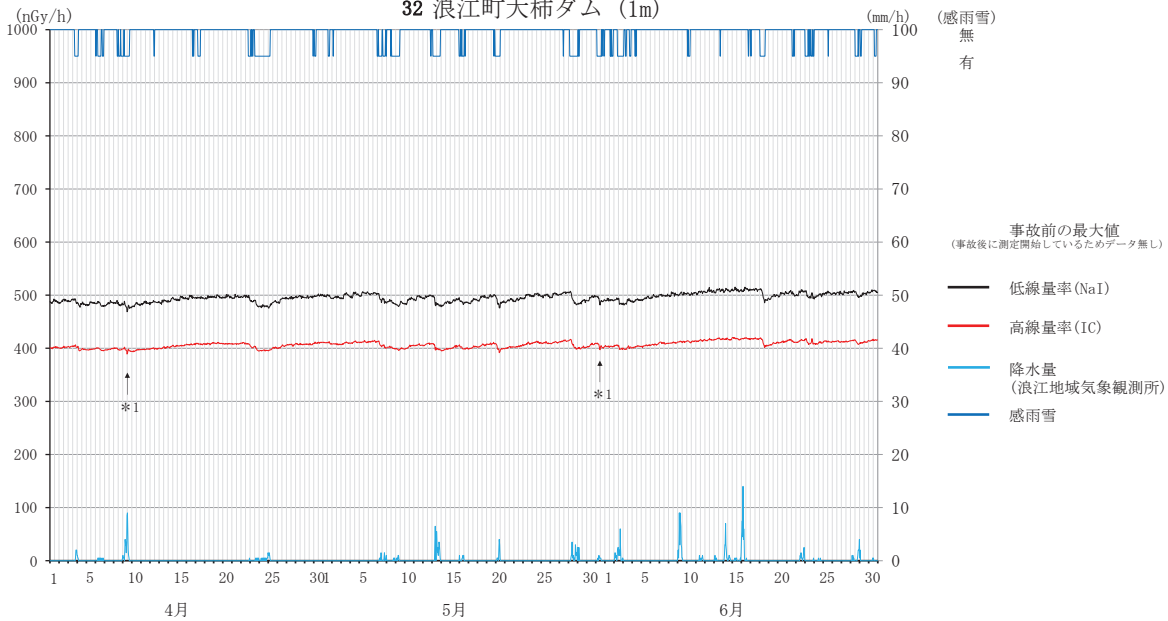


\*1 検出器周辺に滞留した人による遮へい

空間線量率の変動グラフ  
31 浪江町幾世橋 (3m)



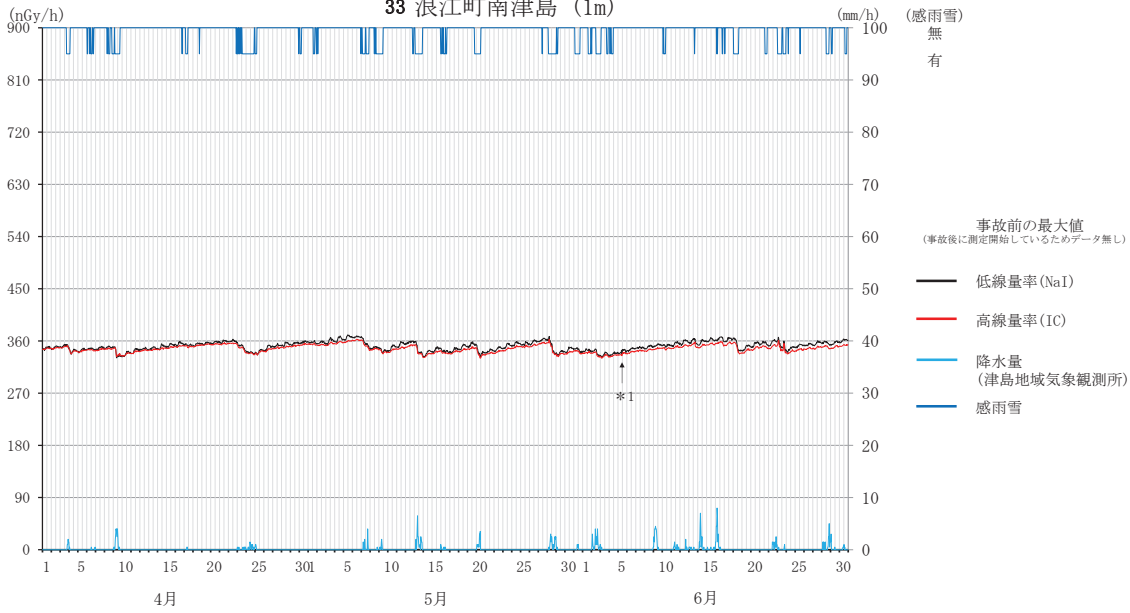
空間線量率の変動グラフ  
32 浪江町大柿ダム (1m)



\*1 局舎周辺停車車両による遮へい

電離箱式検出器 (IC) は高エネルギーの宇宙線についても測定できることから、線量率が低レベルのときの測定値はNaI (TI) シンチレーション式検出器より30nGy/h程度高くなる。また電離箱式検出器は、検出器の形状が球形であり方向特性が良好である一方、NaI (TI) シンチレーション式検出器の形状は2inφ×2inの円柱状であるため、鉛直方向の方向特性を1とした場合、90度方向では1.1程度となる。線量率が数百nGy/h以上の地点では、福島第一原子力発電所の事故により沈着したCs-134及びCs-137による地表面方向（90度から180度）からの放射線が大部分を占めるため、検出器の方向特性の違いによる影響がより顕著に現れ、電離箱式検出器と比較してNaI (TI) シンチレーション式検出器の測定値が高い傾向となる。

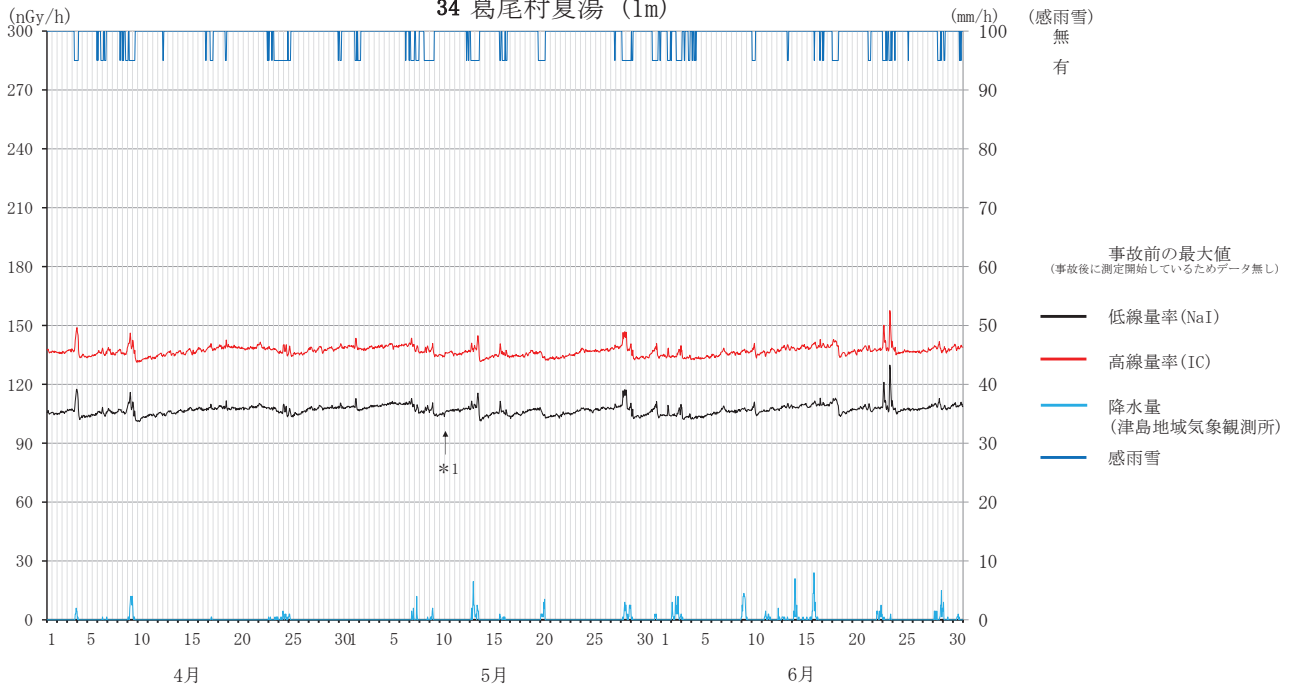
空間線量率の変動グラフ  
33 浪江町南津島 (1m)



\*1 検出器周辺に滞留した人による遮へい

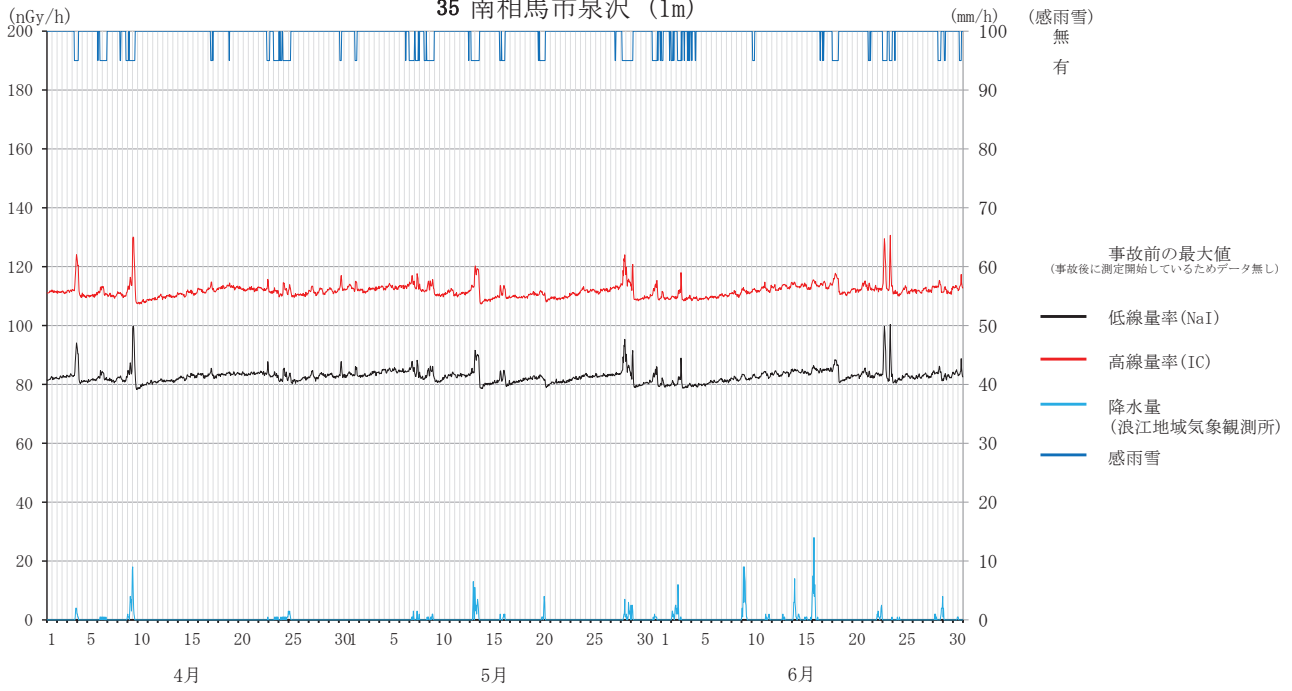
電離箱式検出器 (IC) は高エネルギーの宇宙線についても測定できることから、線量率が低レベルのときの測定値はNaI (TI) シンチレーション式検出器より30nGy/h程度高くなる。また電離箱式検出器は、検出器の形状が球形であり方向特性が良好である一方、NaI (TI) シンチレーション式検出器の形状は2inφ×2inの円柱状であるため、鉛直方向の方向特性を1とした場合、90度方向では1.1程度となる。線量率が数百nGy/h以上の地点では、福島第一原子力発電所の事故により沈着したCs-134及びCs-137による地表面方向 (90度から180度) からの放射線が大部分を占めるため、検出器の方向特性の違いによる影響がより顕著に現れ、電離箱式検出器と比較してNaI (TI) シンチレーション式検出器の測定値が高い傾向となる。

空間線量率の変動グラフ  
34 葛尾村夏湯 (1m)

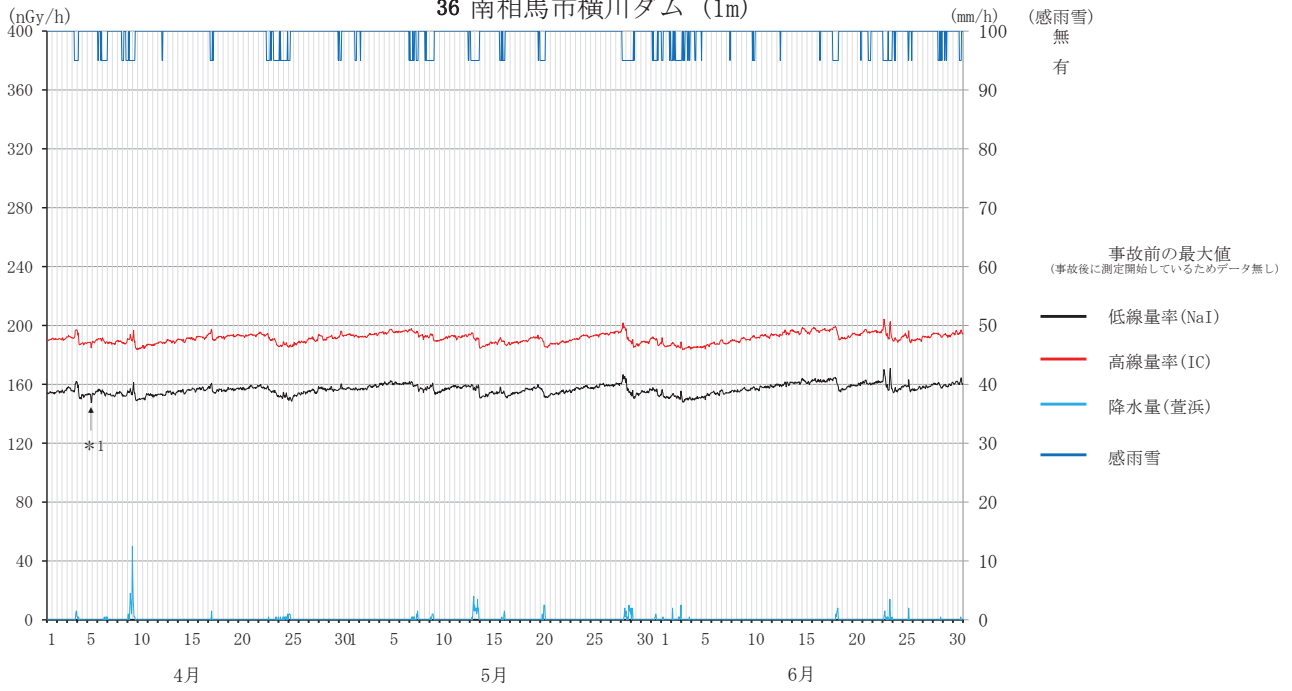


\*1 検出器周辺に滞留した人による遮へい

空間線量率の変動グラフ  
35 南相馬市泉沢 (1m)

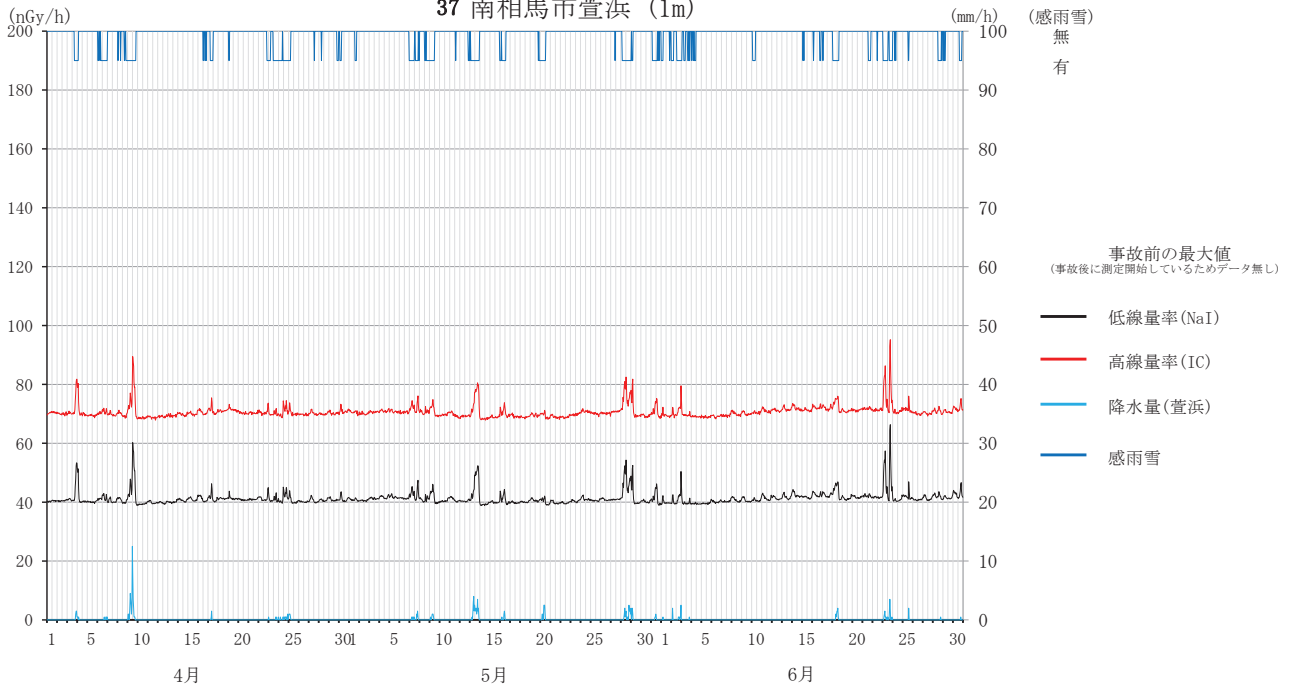


空間線量率の変動グラフ  
36 南相馬市横川ダム (1m)

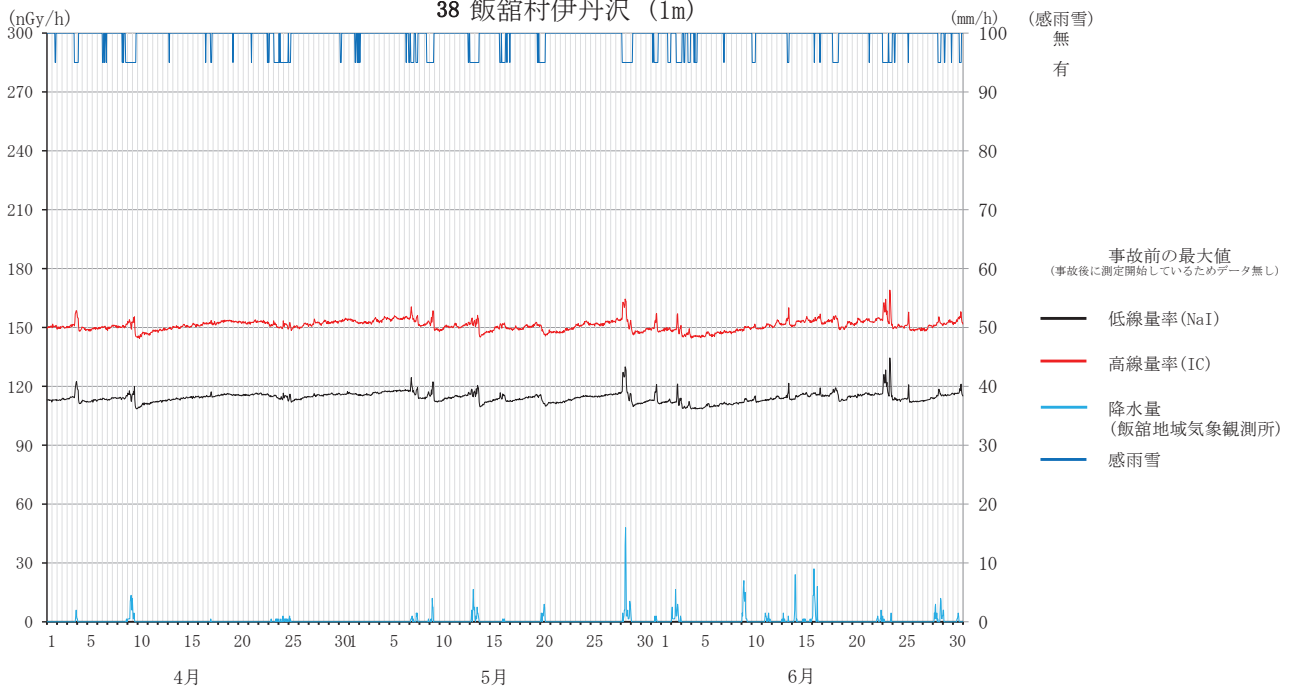


\*1 局舎周辺停車車両による遮へい

空間線量率の変動グラフ  
37 南相馬市萱浜 (1m)

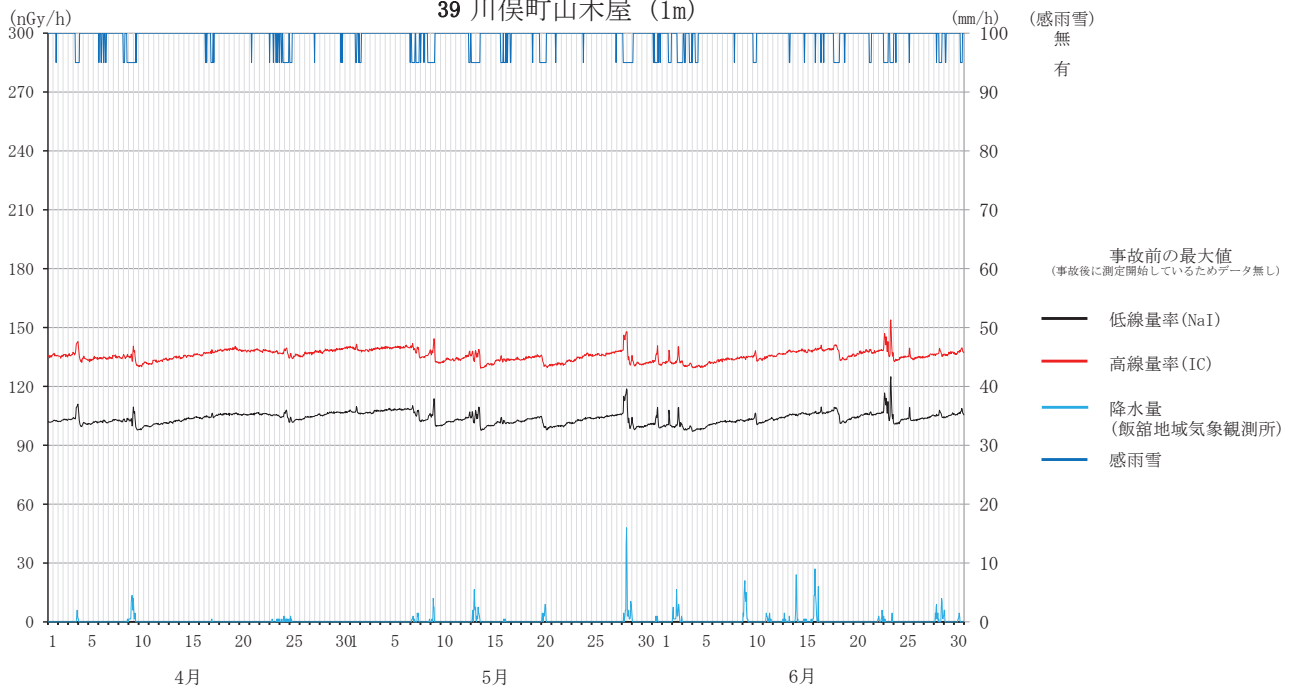


空間線量率の変動グラフ  
38 飯館村伊丹沢 (1m)

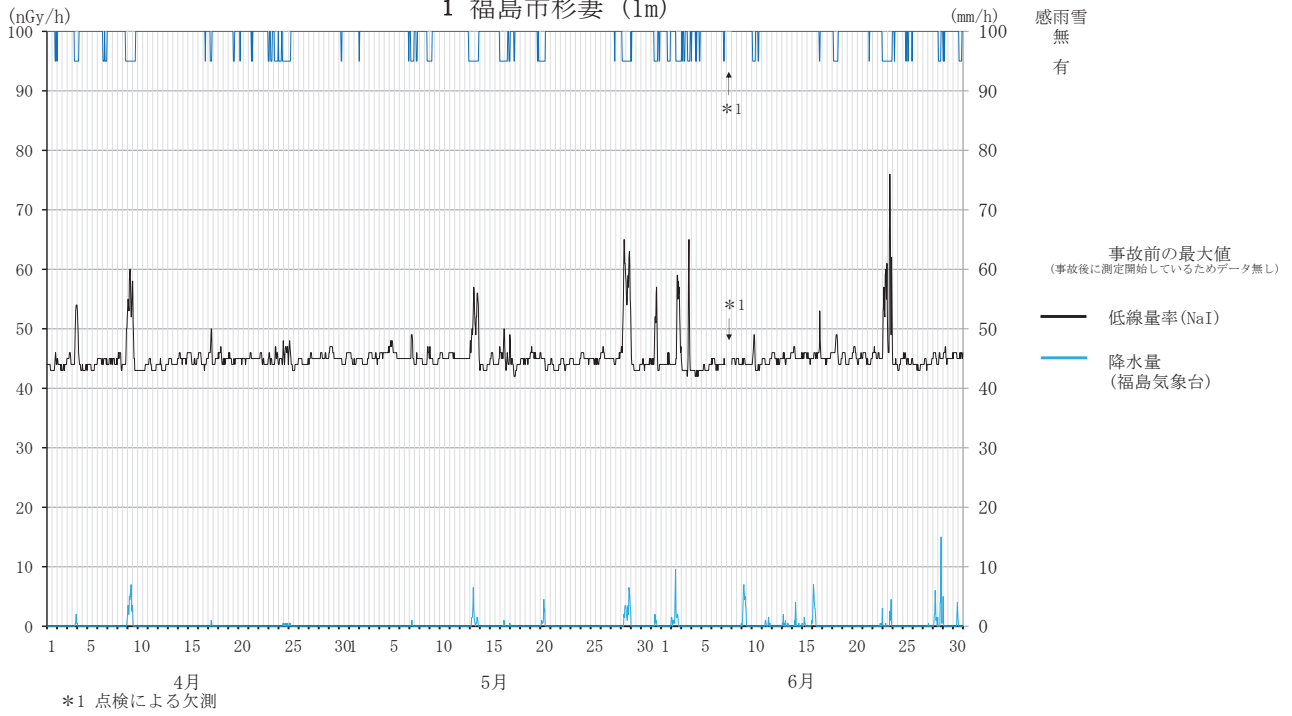




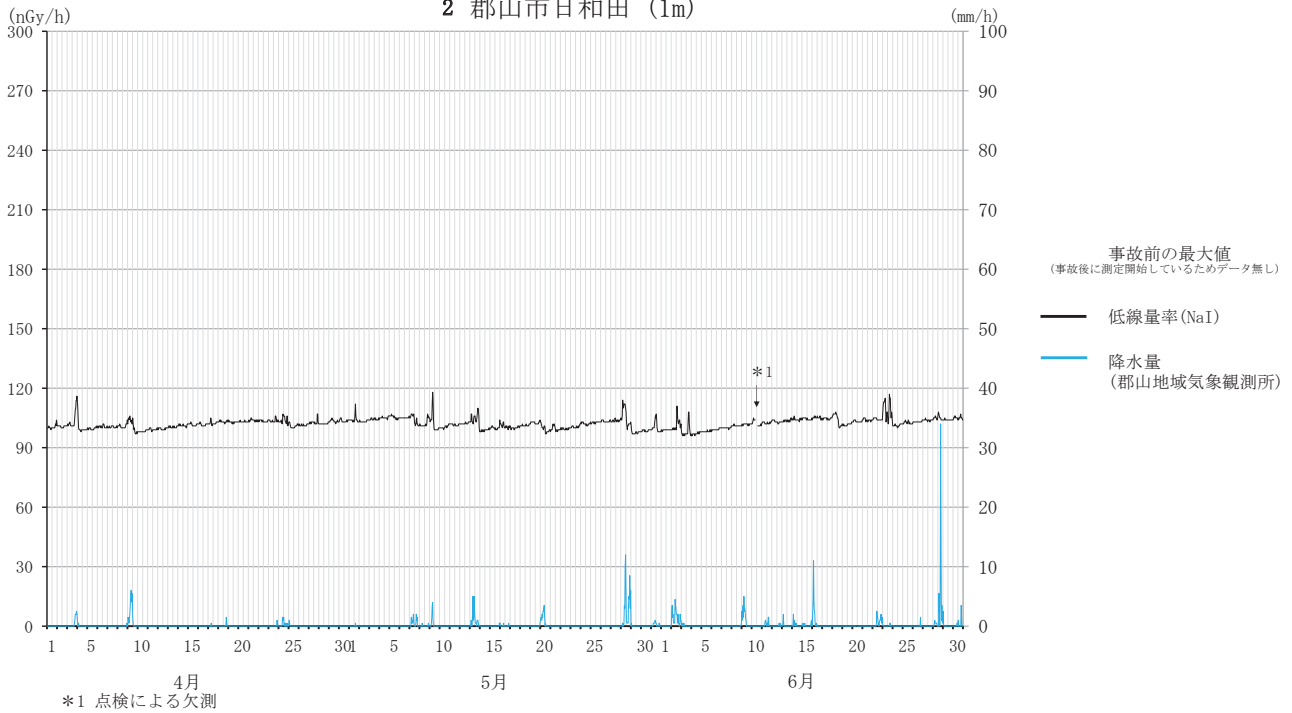
空間線量率の変動グラフ  
39 川俣町山木屋 (1m)



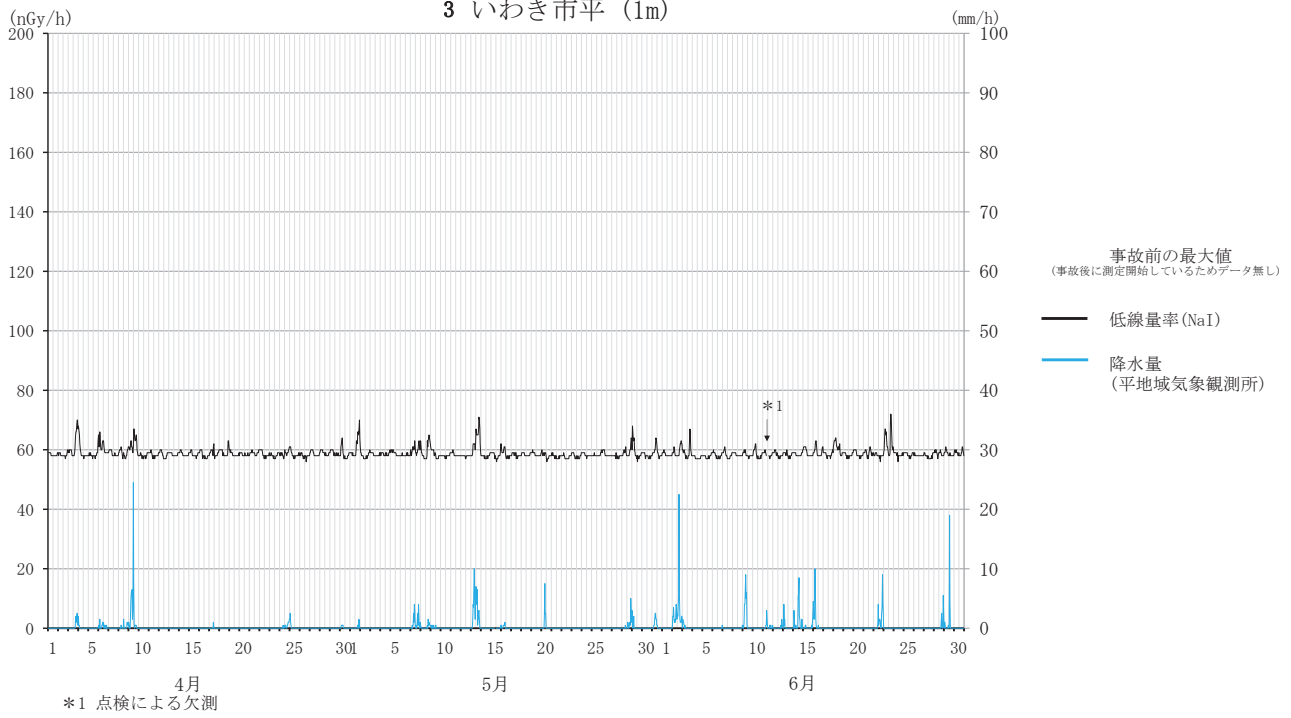
空間線量率の変動グラフ  
1 福島市杉妻 (1m)



空間線量率の変動グラフ  
2 郡山市日和田 (1m)



空間線量率の変動グラフ  
3 いわき市平 (1m)

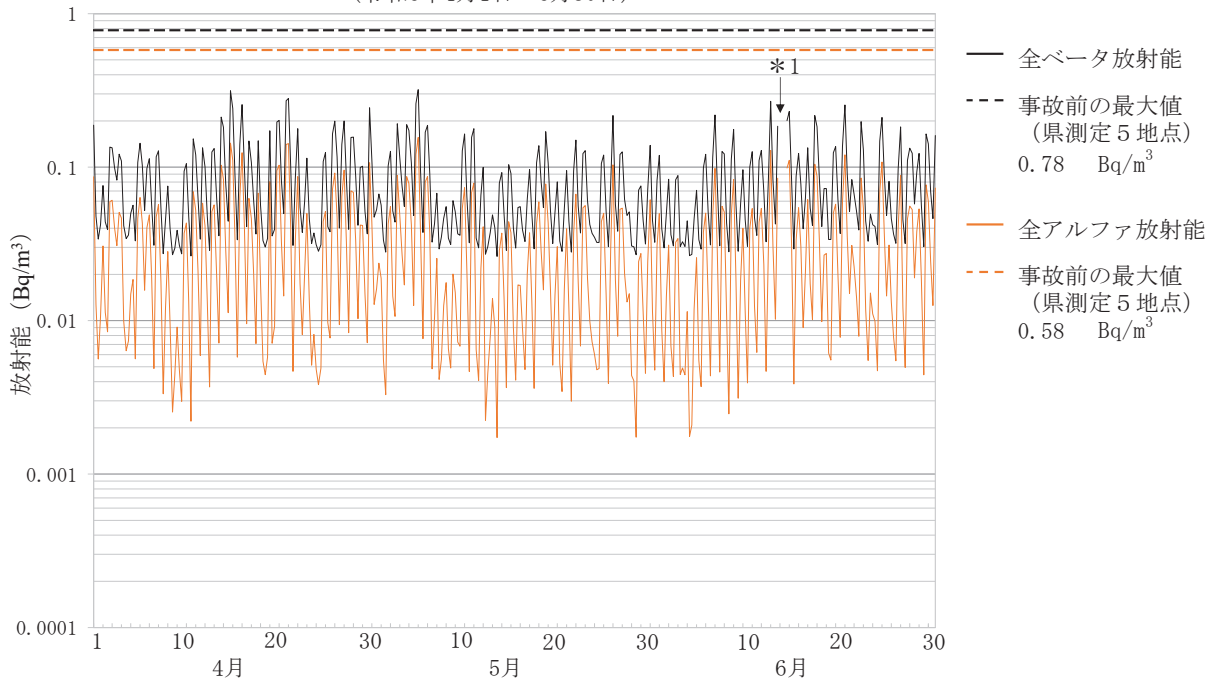


大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

(6時間連続集じん・6時間放置後測定)

1 いわき市小川

(令和6年4月1日～6月30日)



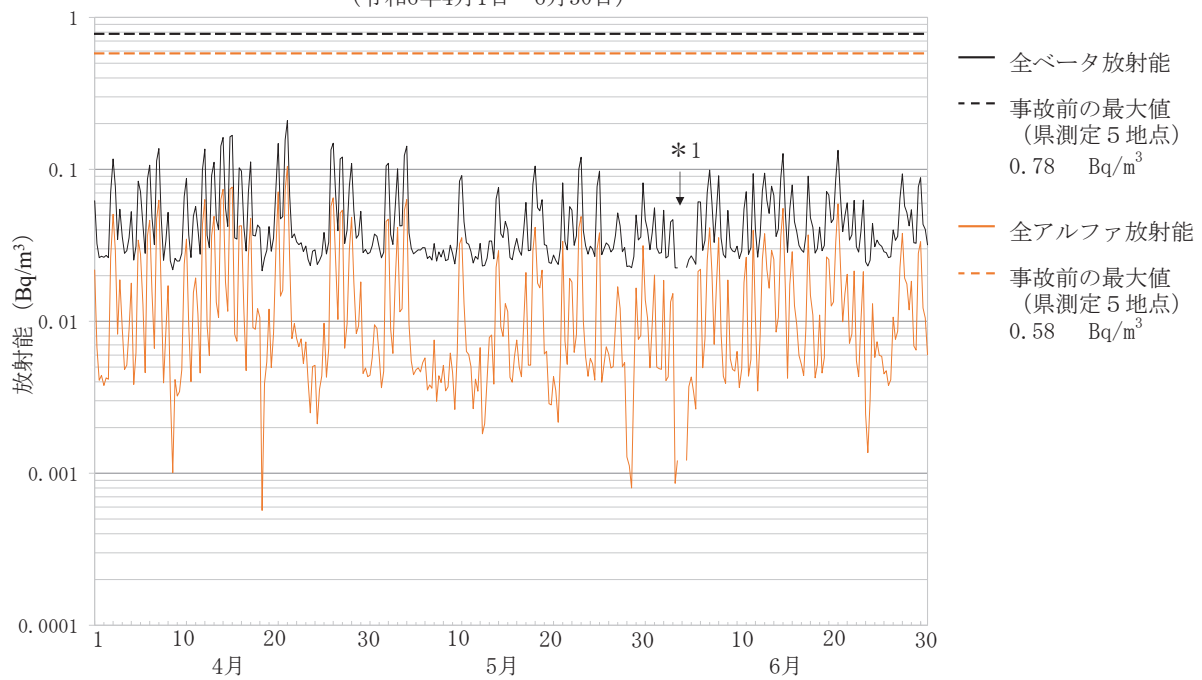
\*1 点検による欠測

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

(6時間連続集じん・6時間放置後測定)

2 田村市都路馬洗戸

(令和6年4月1日～6月30日)



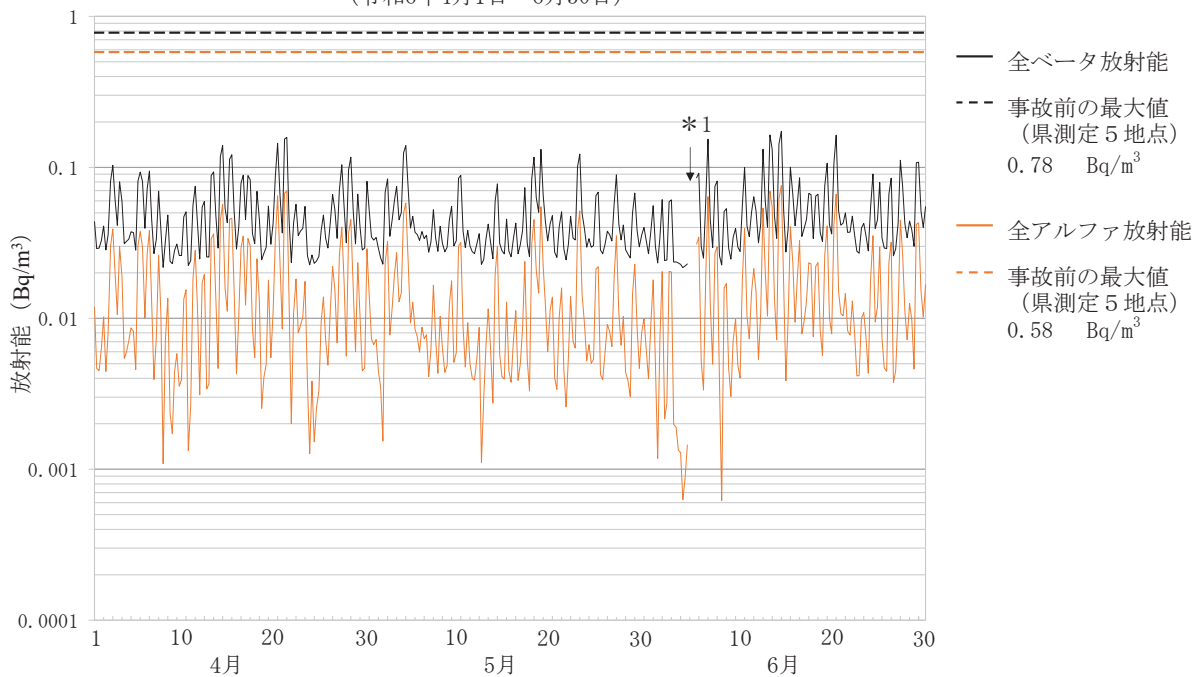
\*1 点検による欠測

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

(6時間連続集じん・6時間放置後測定)

3 広野町小滝平

(令和6年4月1日～6月30日)



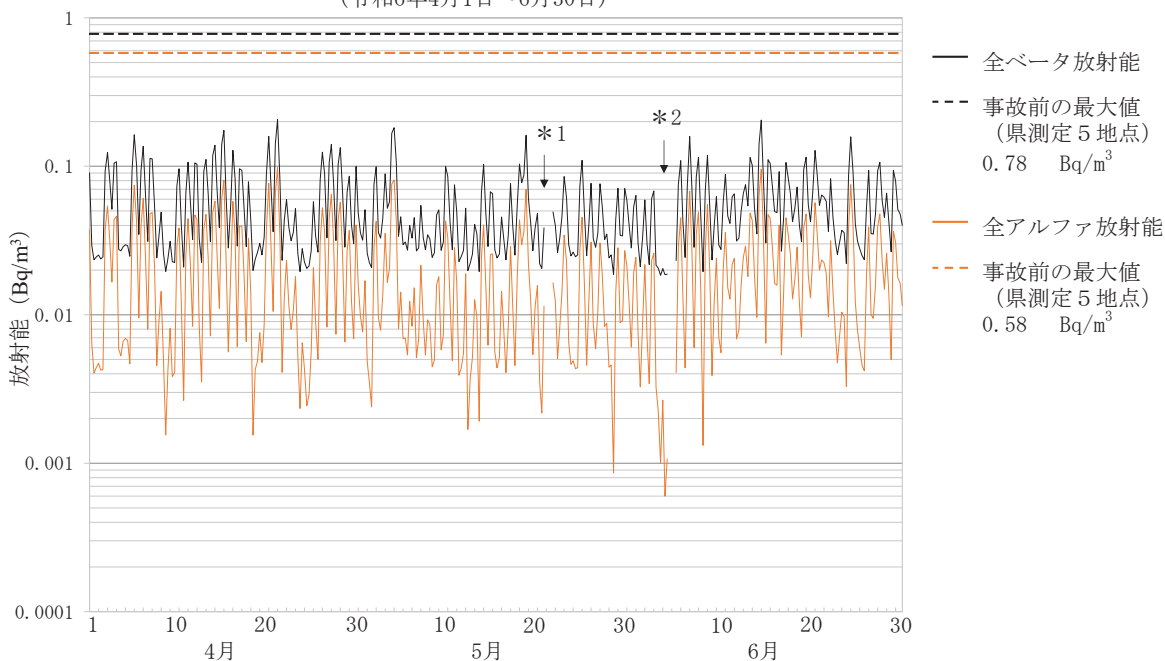
\*1 点検による欠測

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

(6時間連続集じん・6時間放置後測定)

4 檜葉町木戸ダム

(令和6年4月1日～6月30日)

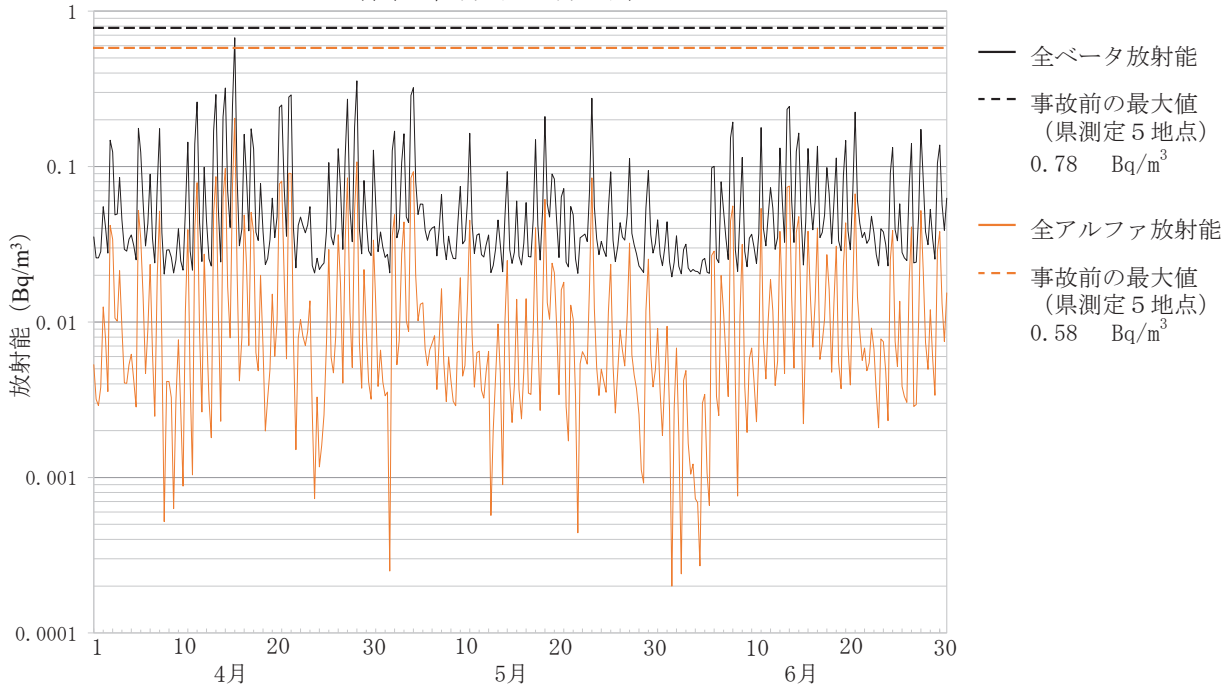


\*1 ろ紙送り不良による欠測

\*2 点検による欠測

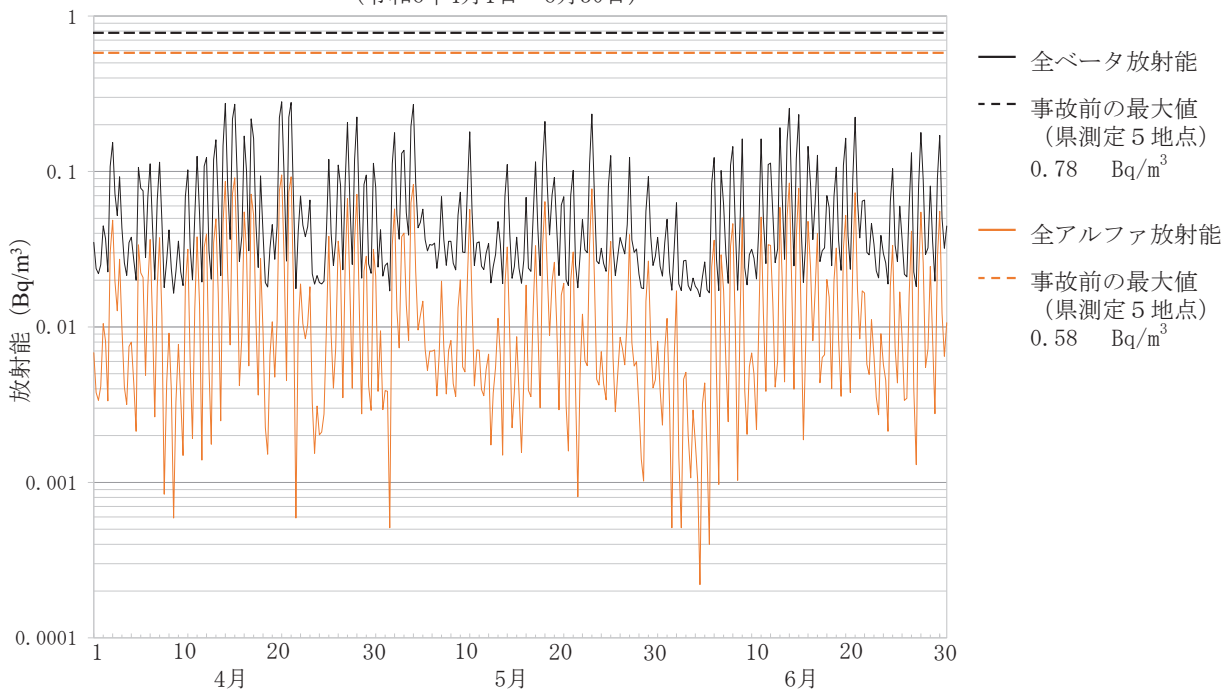
大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

(6時間連続集じん・6時間放置後測定)  
 5 檜葉町繁岡  
 (令和6年4月1日～6月30日)

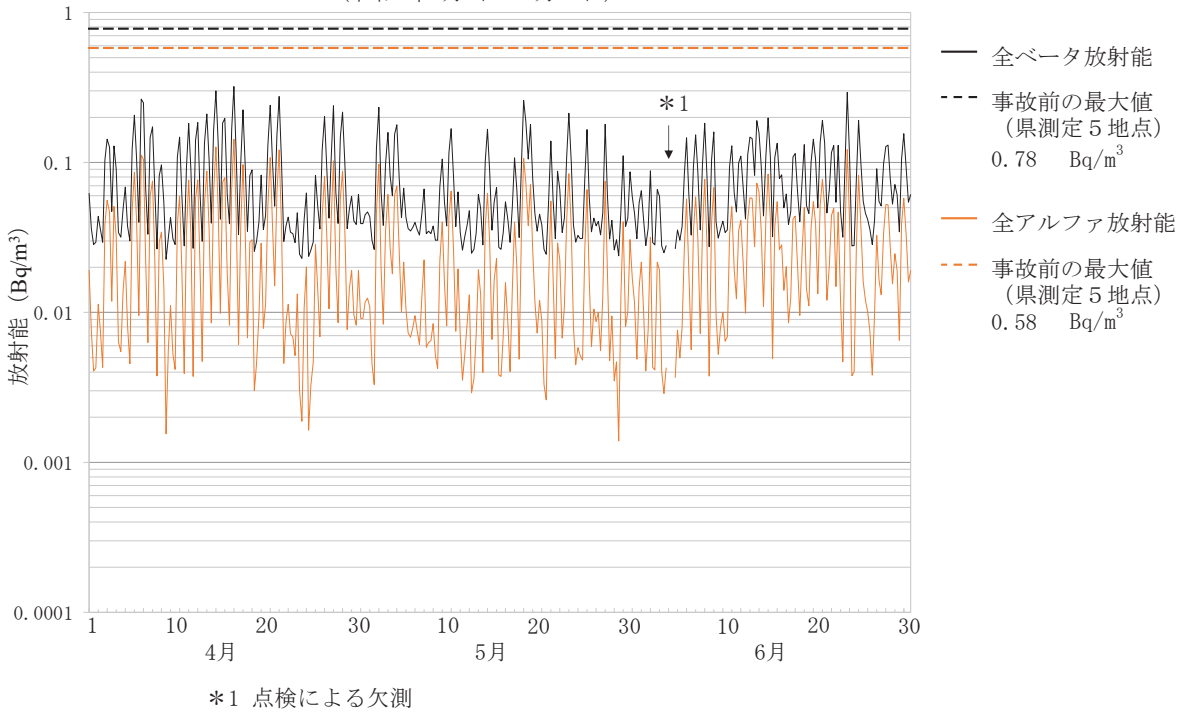


大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

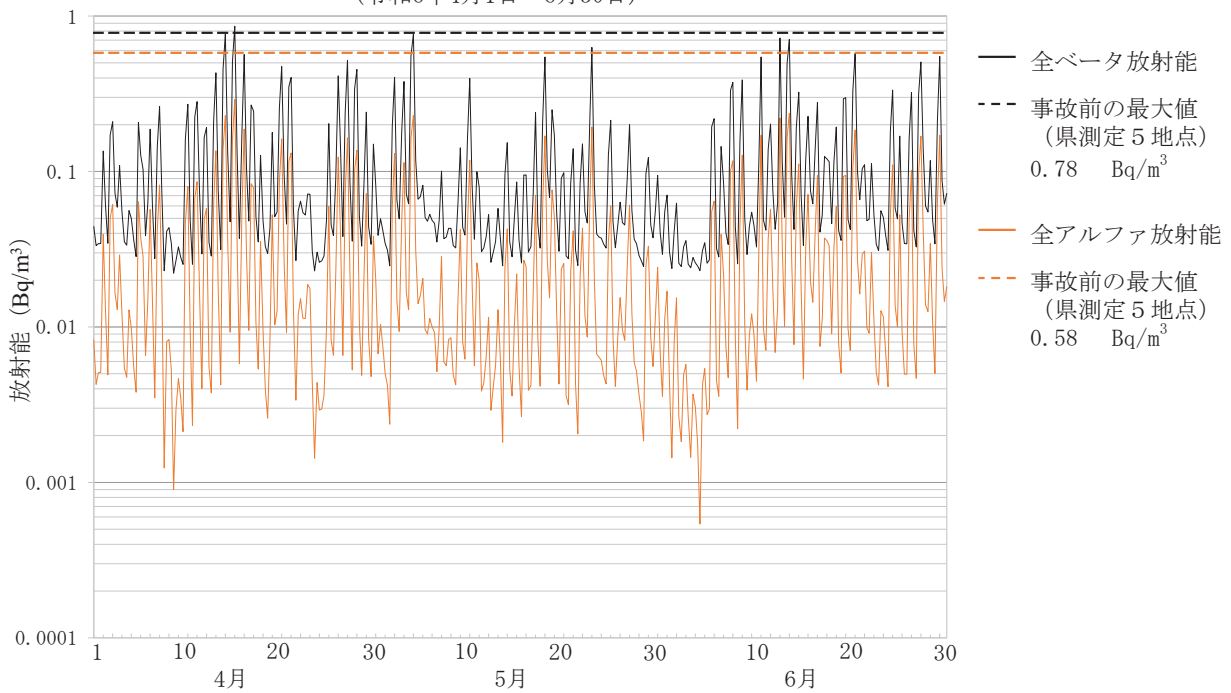
(6時間連続集じん・6時間放置後測定)  
 6 富岡町富岡  
 (令和6年4月1日～6月30日)



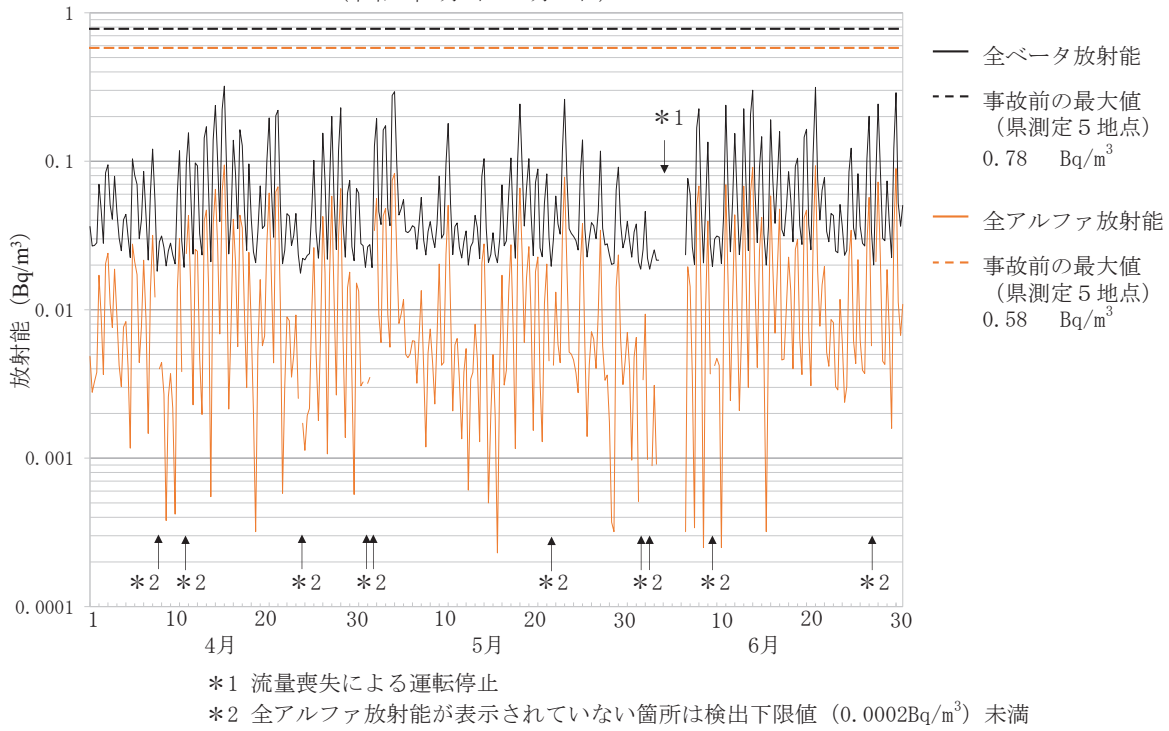
大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移  
 (6時間連続集じん・6時間放置後測定)  
 7 川内村下川内  
 (令和6年4月1日～6月30日)



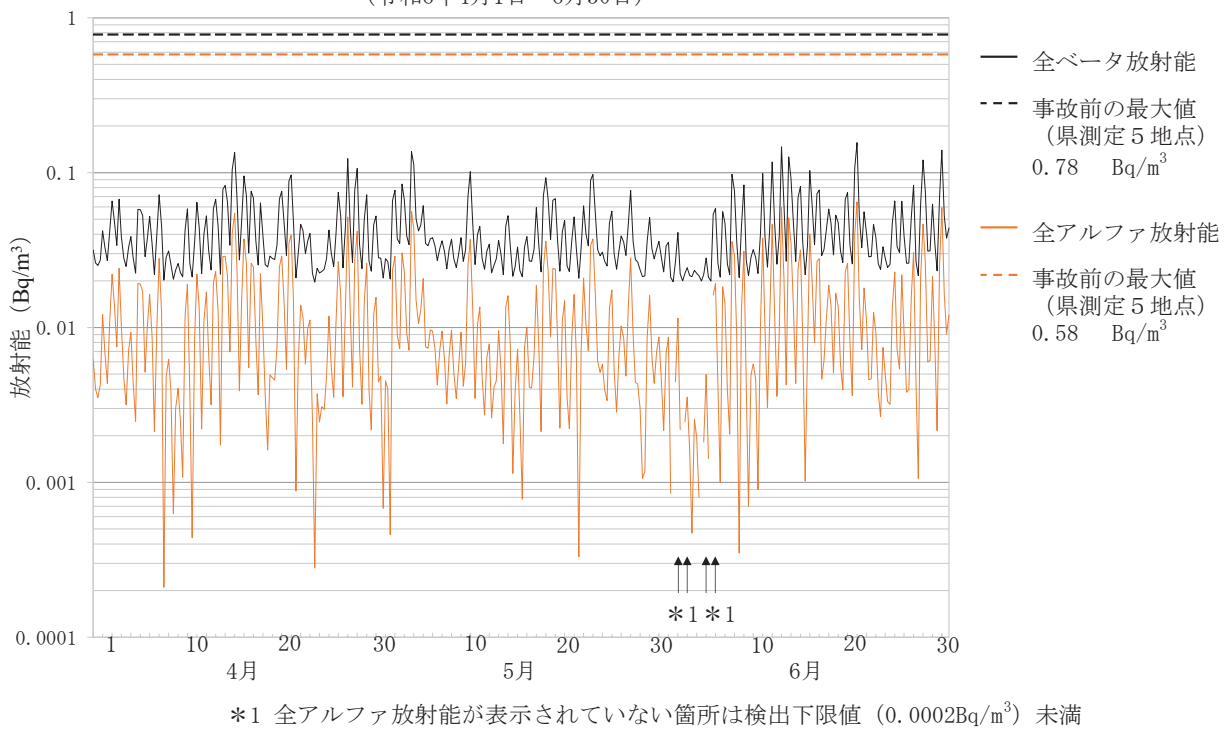
大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移  
 (6時間連続集じん・6時間放置後測定)  
 8 大熊町大野  
 (令和6年4月1日～6月30日)



大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移  
 (6時間連続集じん・6時間放置後測定)  
 9 大熊町夫沢  
 (令和6年4月1日～6月30日)



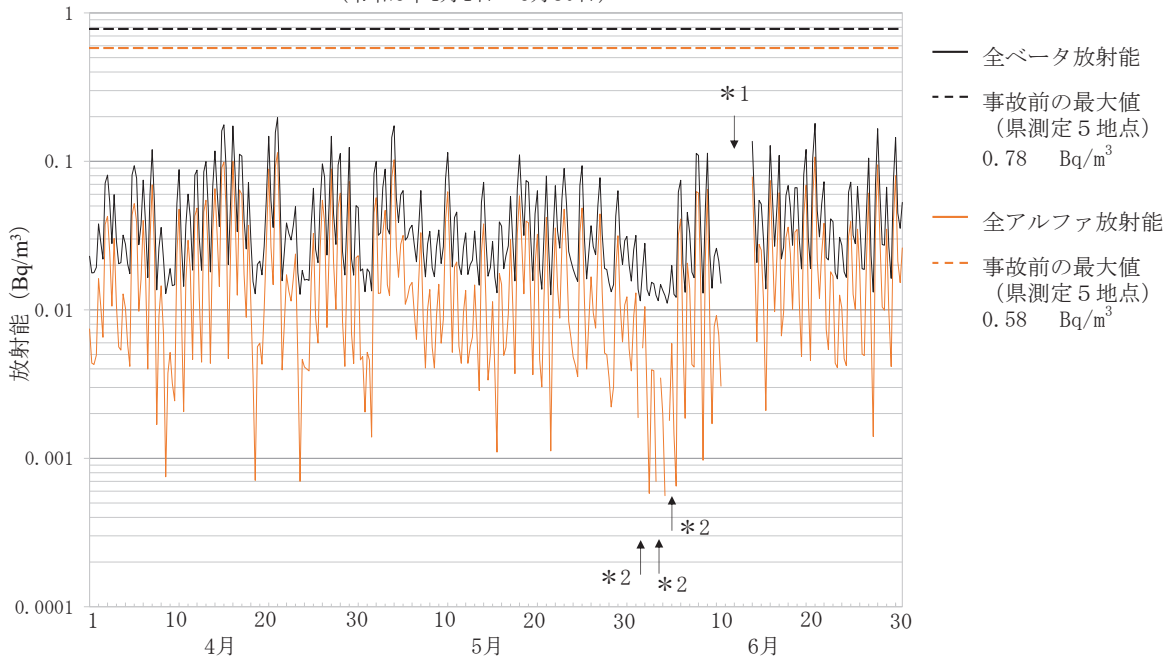
大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移  
 (6時間連続集じん・6時間放置後測定)  
 10 双葉町郡山  
 (令和6年4月1日～6月30日)





大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

(6時間連続集じん・6時間放置後測定)  
 11 浪江町幾世橋  
 (令和6年4月1日～6月30日)

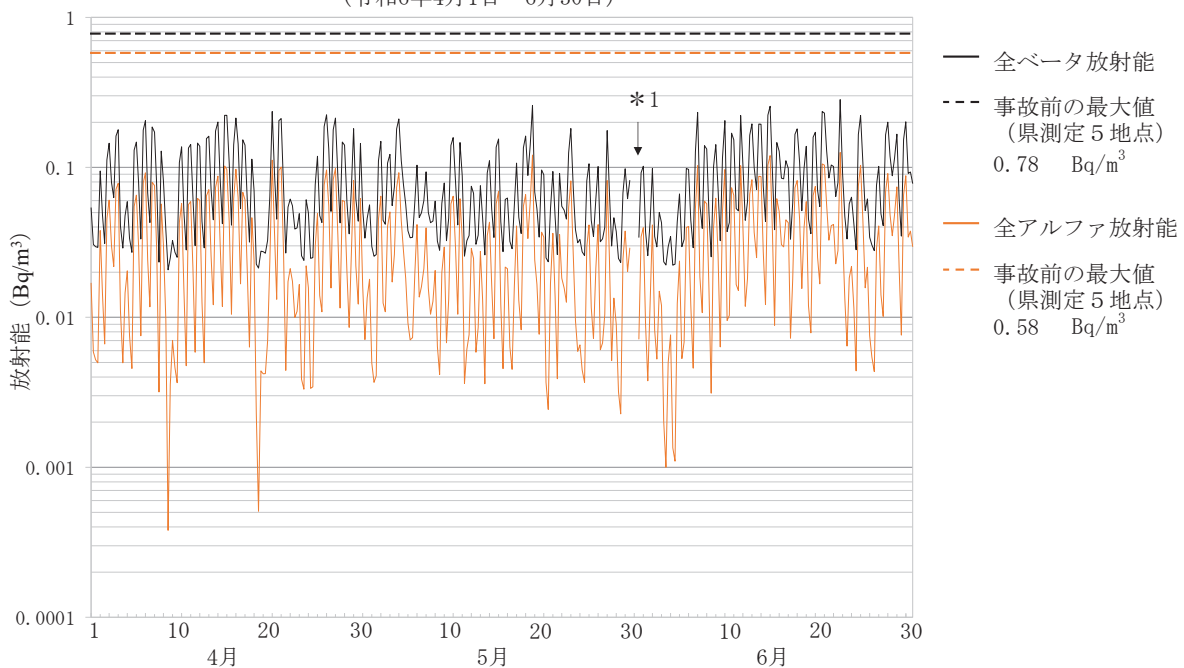


\*1 点検による欠測

\*2 全アルファ放射能が表示されていない箇所は検出下限値 (0.0002Bq/m<sup>3</sup>) 未満

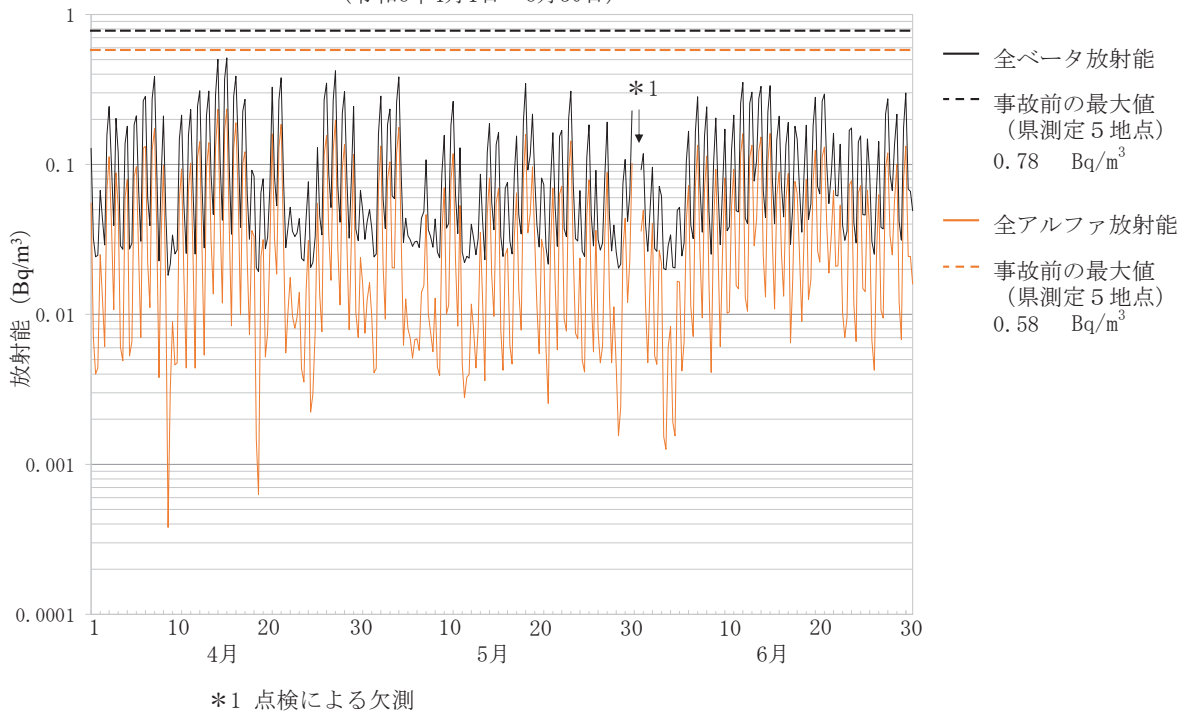
大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

(6時間連続集じん・6時間放置後測定)  
 12 浪江町大柿ダム  
 (令和6年4月1日～6月30日)

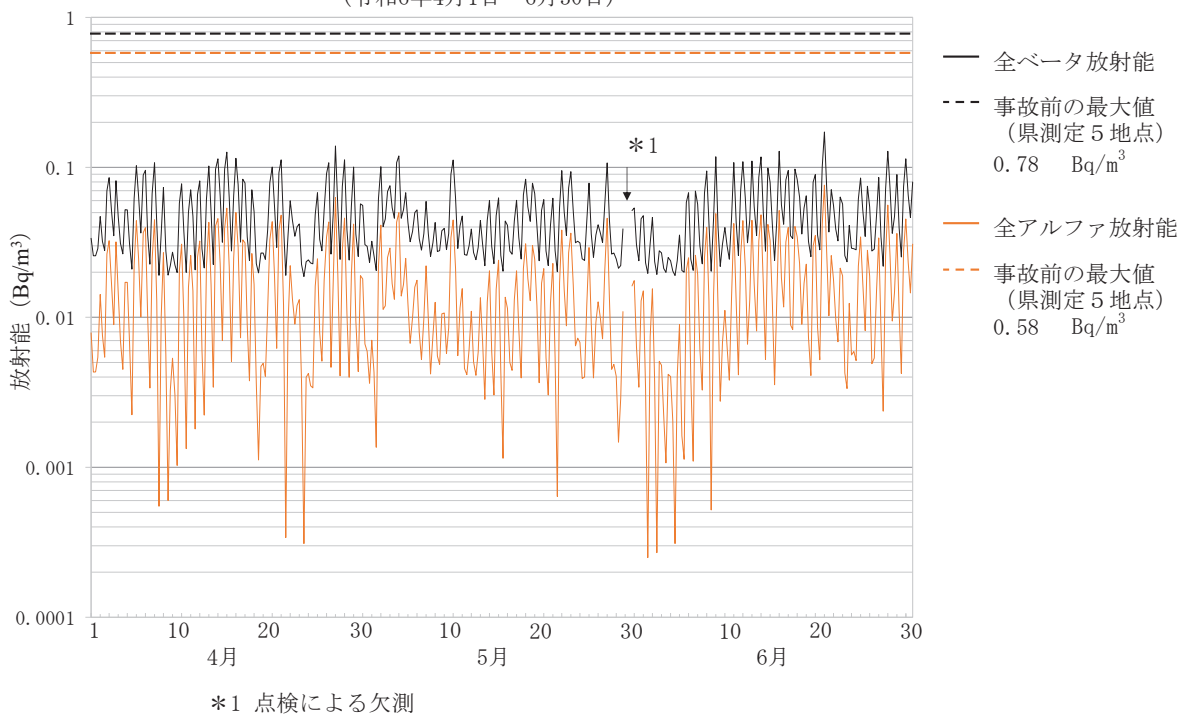


\*1 点検による欠測

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移  
 (6時間連続集じん・6時間放置後測定)  
 13 葛尾村夏湯  
 (令和6年4月1日～6月30日)

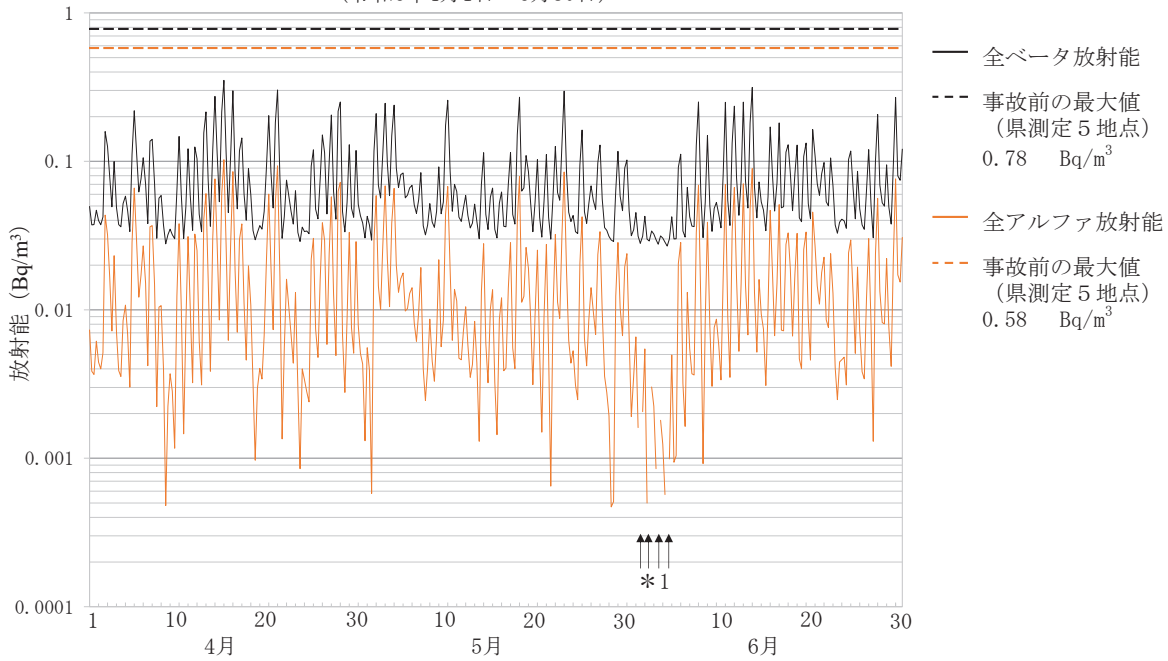


大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移  
 (6時間連続集じん・6時間放置後測定)  
 14 南相馬市泉沢  
 (令和6年4月1日～6月30日)



大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

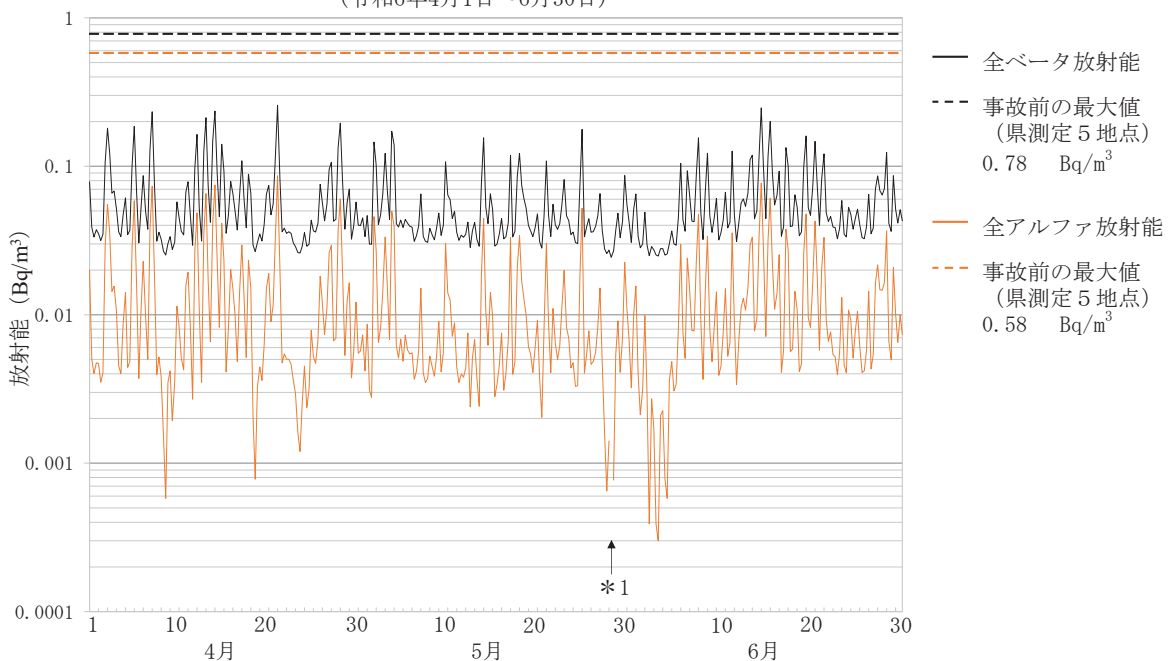
(6時間連続集じん・6時間放置後測定)  
15 南相馬市萱浜  
(令和6年4月1日～6月30日)



\*1 全アルファ放射能が表示されていない箇所は検出下限値 (0.0002Bq/m<sup>3</sup>) 未満

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

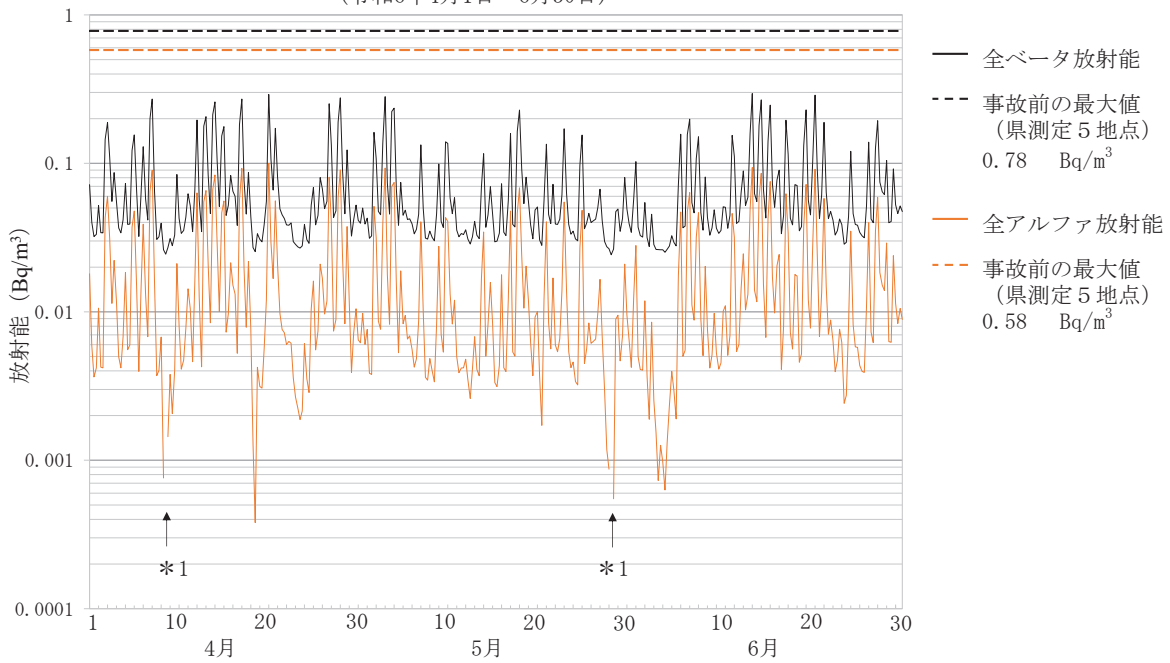
(6時間連続集じん・6時間放置後測定)  
16 飯館村伊丹沢  
(令和6年4月1日～6月30日)



\*1 全アルファ放射能が表示されていない箇所は検出下限値 (0.0002Bq/m<sup>3</sup>) 未満

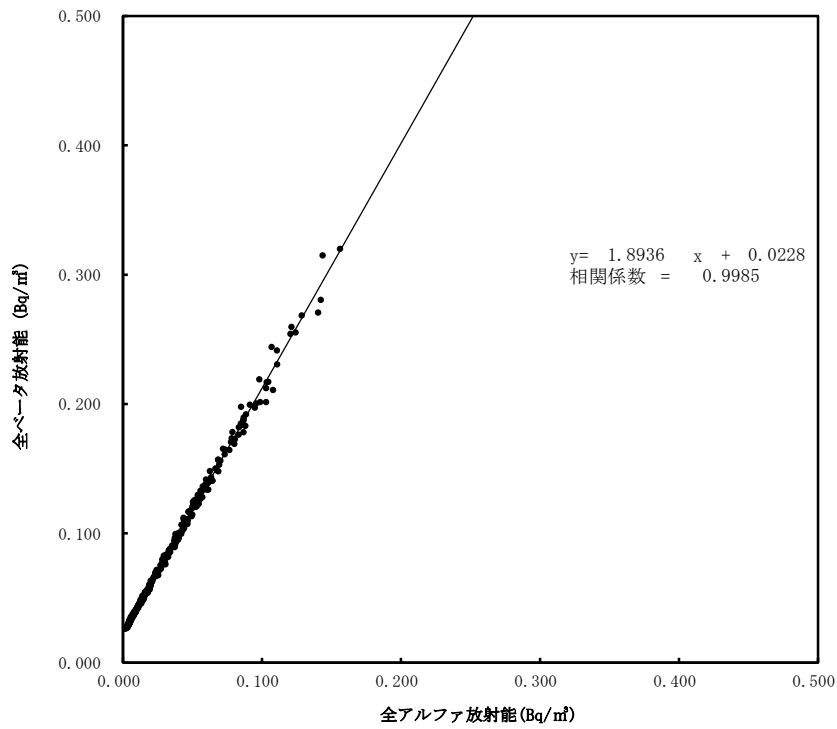
大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

(6時間連続集じん・6時間放置後測定)  
 17 川俣町山木屋  
 (令和6年4月1日～6月30日)

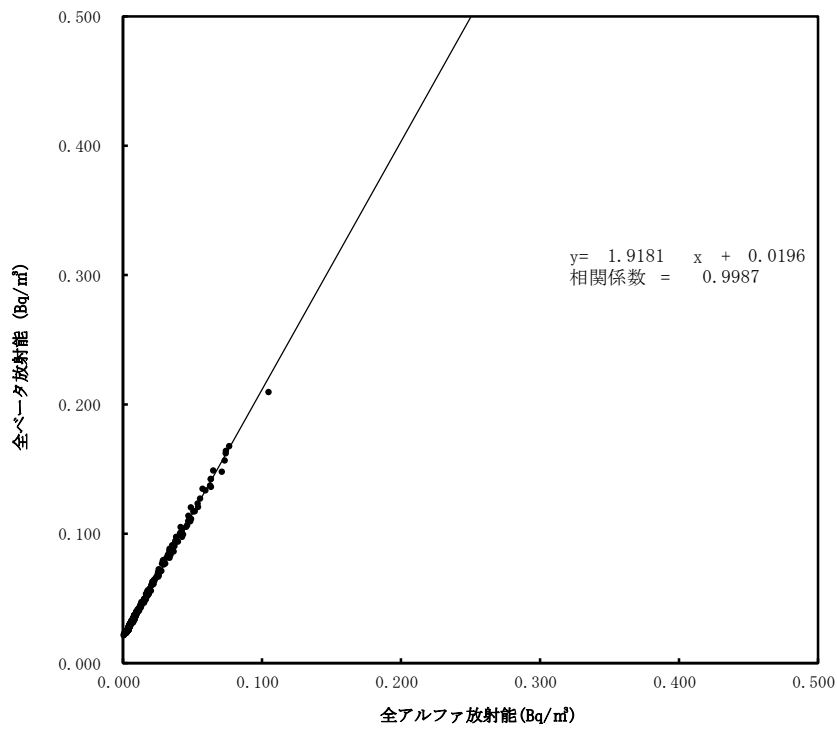


\*1 全アルファ放射能が表示されていない箇所は検出下限値 (0.0002Bq/m<sup>3</sup>) 未満

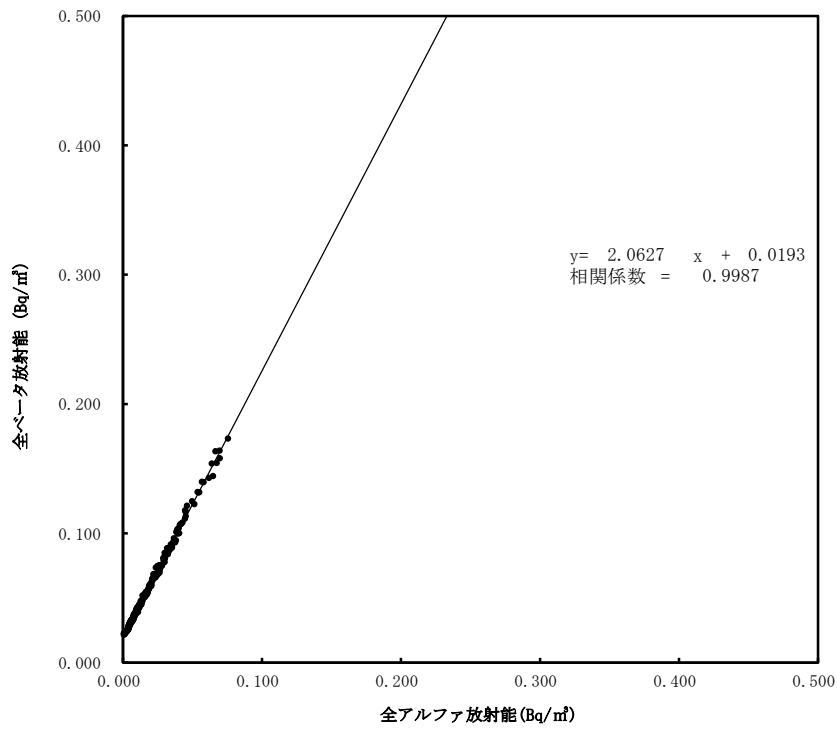
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (6時間連続集じん・6時間放置後)  
 (令和6年4月～6月)  
 (いわき市小川)



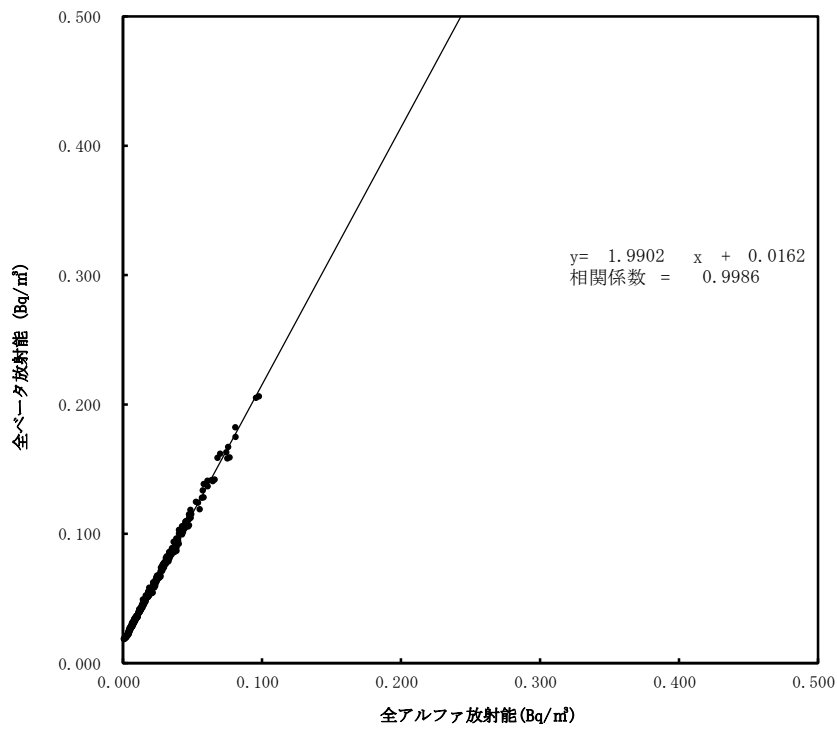
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (6時間連続集じん・6時間放置後)  
 (令和6年4月～6月)  
 (田村市都路馬洗戸)



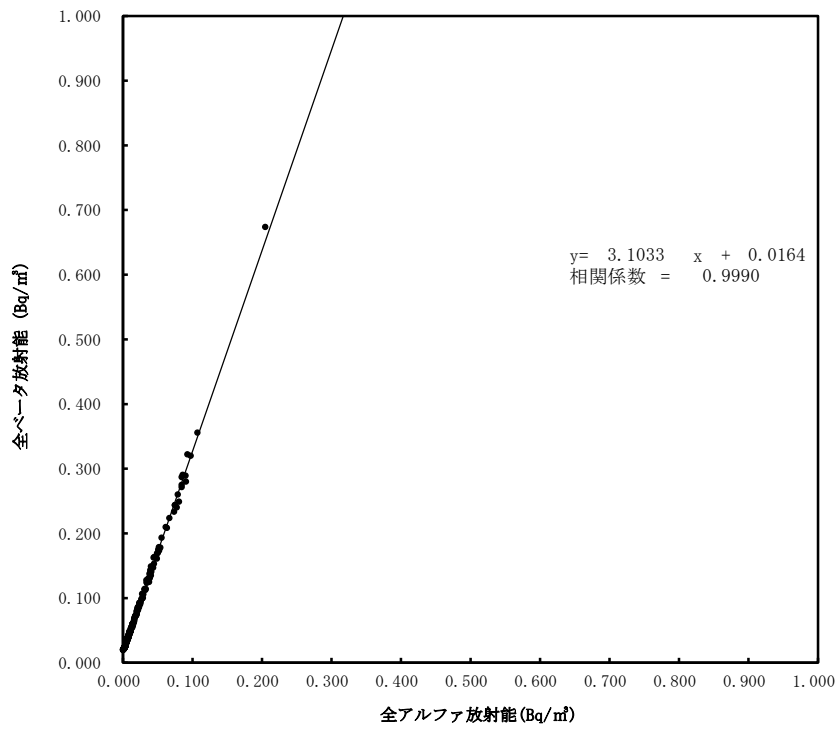
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (6時間連続集じん・6時間放置後)  
 (令和6年4月～6月)  
 (広野町小滝平)



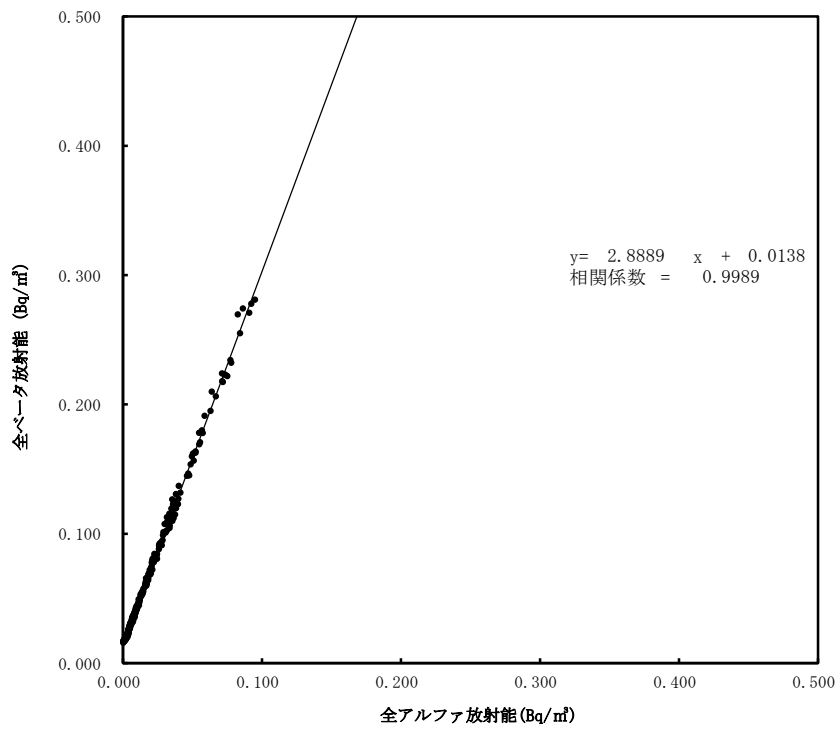
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (6時間連続集じん・6時間放置後)  
 (令和6年4月～6月)  
 (檜葉町木戸ダム)



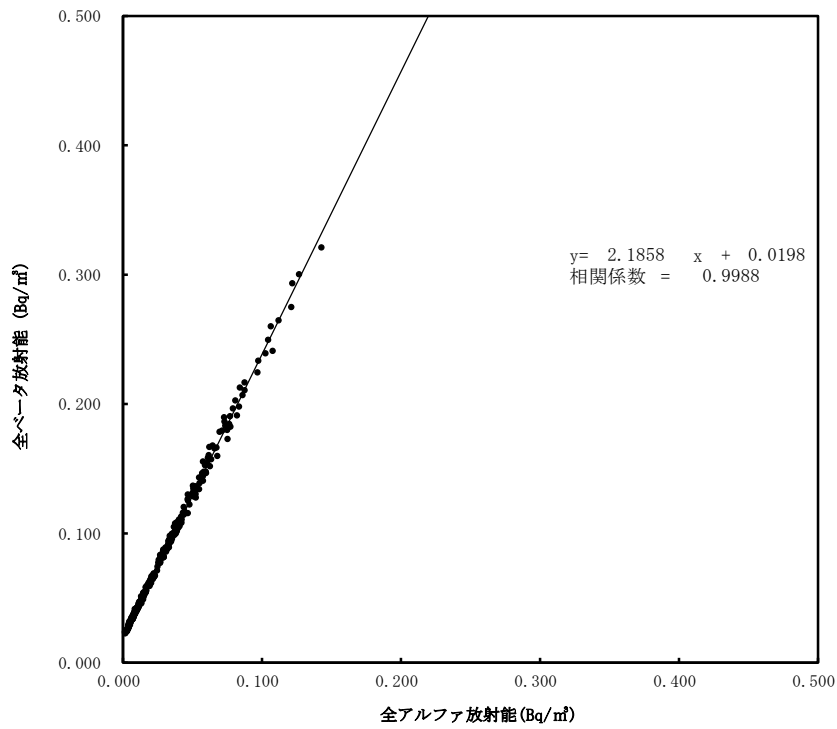
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (6時間連続集じん・6時間放置後)  
 (令和6年4月～6月)  
 (檜葉町繁岡)



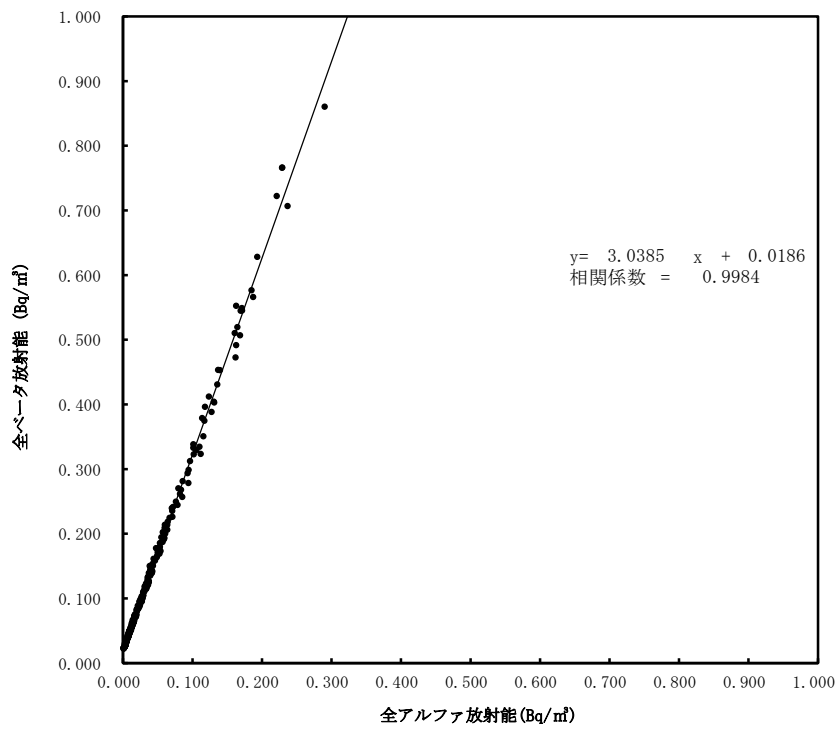
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (6時間連続集じん・6時間放置後)  
 (令和6年4月～6月)  
 (富岡町富岡)



大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (6時間連続集じん・6時間放置後)  
 (令和6年4月～6月)  
 (川内村下川内)

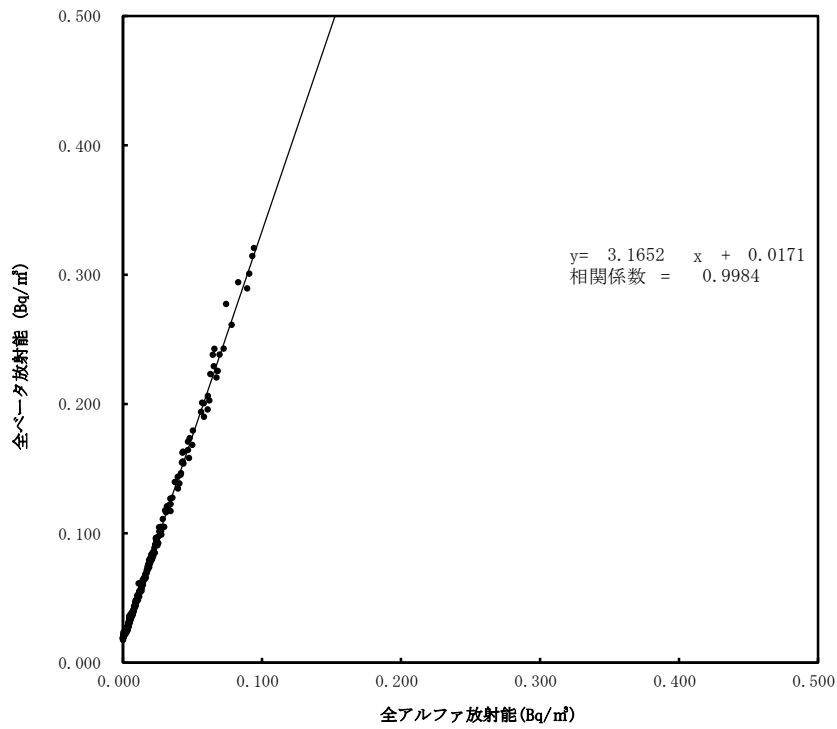


大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (6時間連続集じん・6時間放置後)  
 (令和6年4月～6月)  
 (大熊町大野)

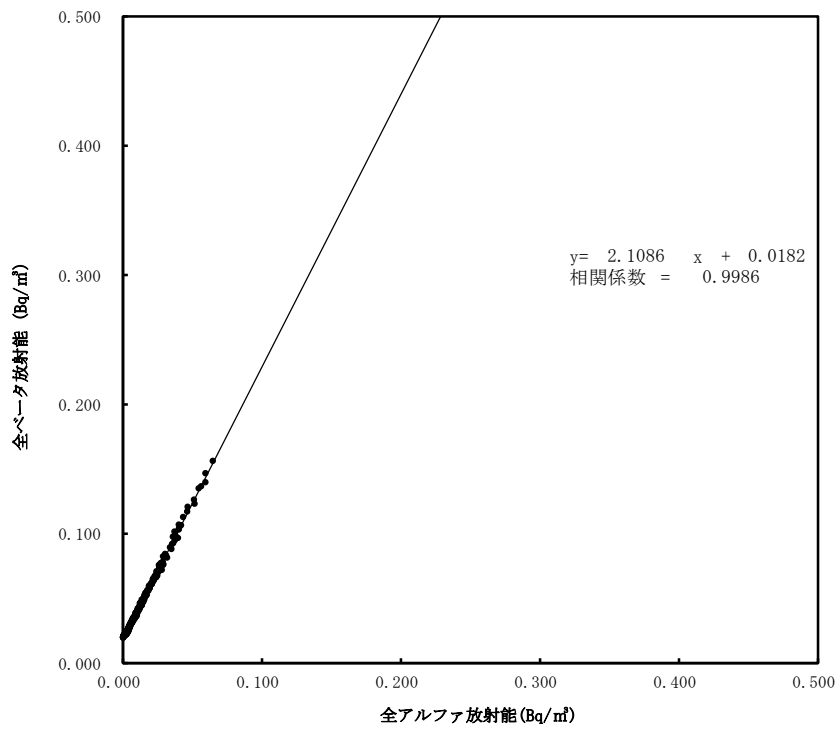




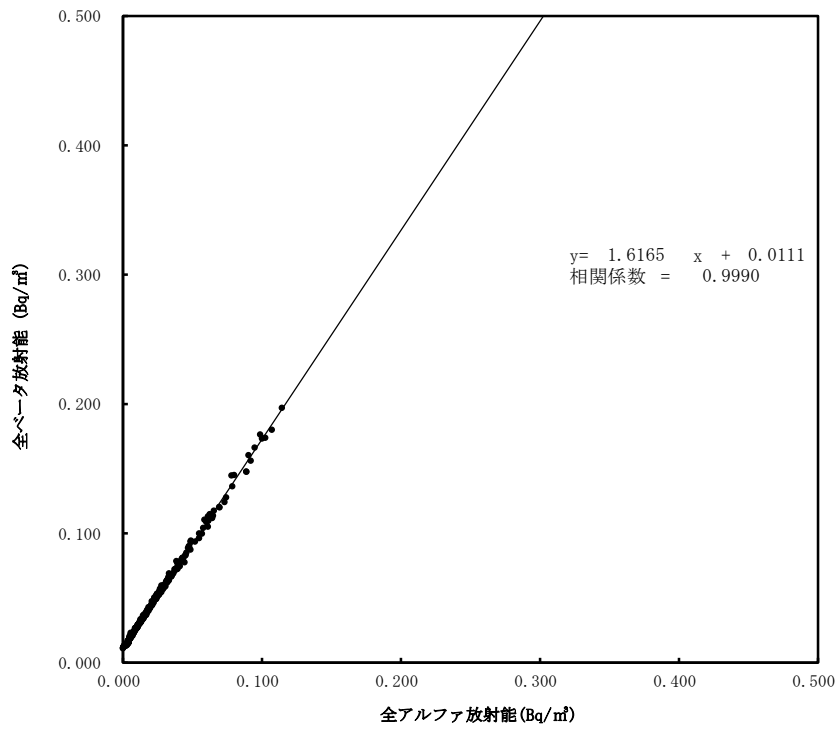
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (6時間連続集じん・6時間放置後)  
 (令和6年4月～6月)  
 (大熊町水沢)



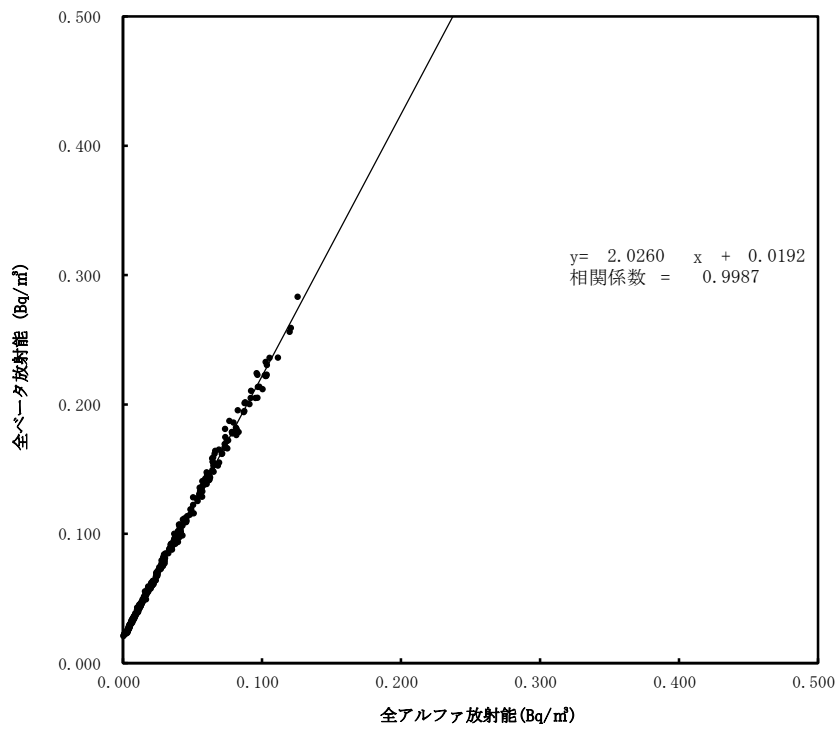
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (6時間連続集じん・6時間放置後)  
 (令和6年4月～6月)  
 (双葉町郡山)



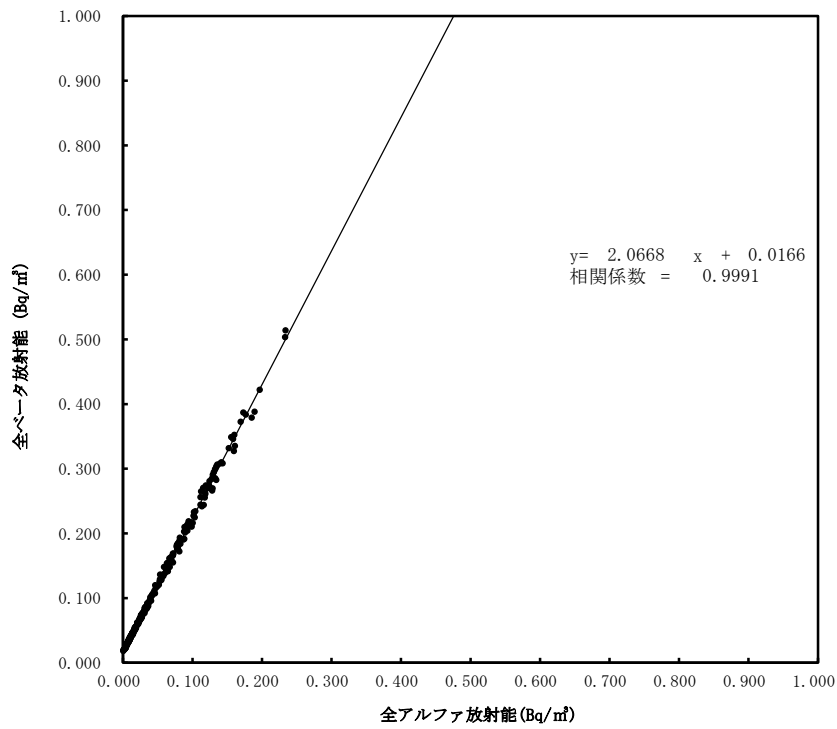
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (6時間連続集じん・6時間放置後)  
 (令和6年4月～6月)  
 (浪江町幾世橋)



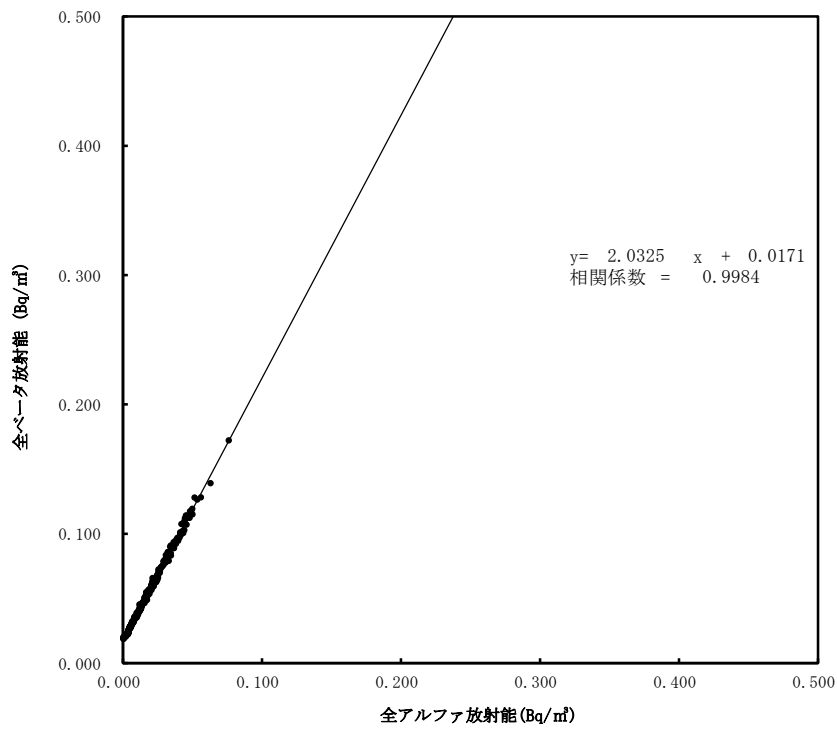
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (6時間連続集じん・6時間放置後)  
 (令和6年4月～6月)  
 (浪江町大柿ダム)



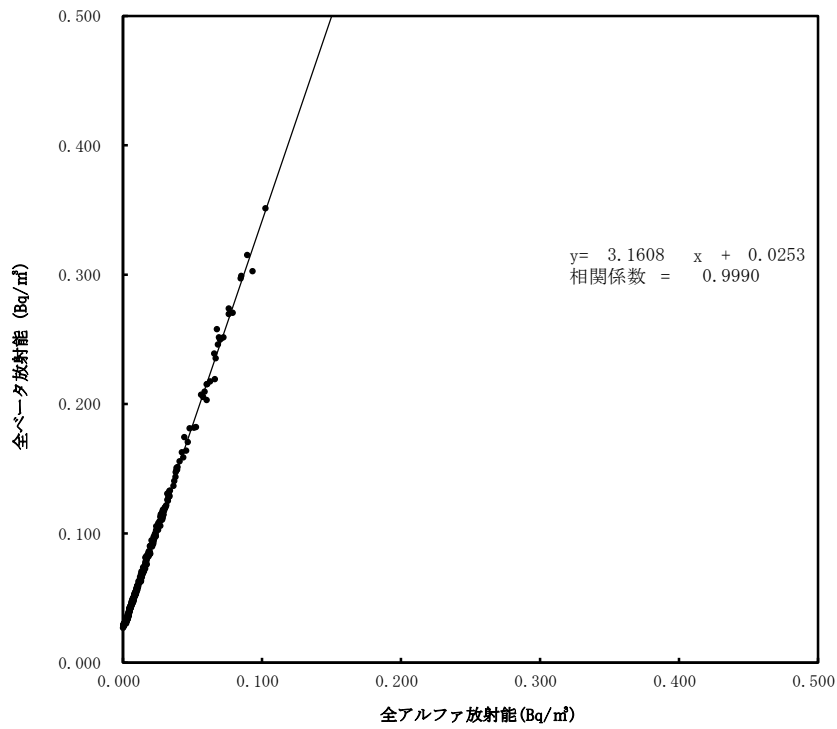
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (6時間連続集じん・6時間放置後)  
 (令和6年4月～6月)  
 (葛尾村夏湯)



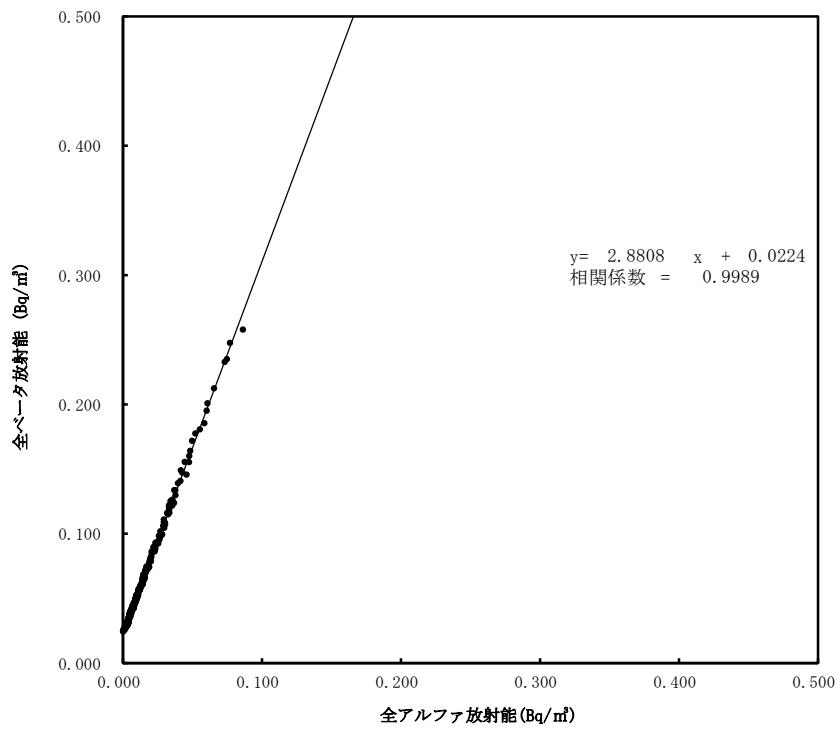
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (6時間連続集じん・6時間放置後)  
 (令和6年4月～6月)  
 (南相馬市泉沢)



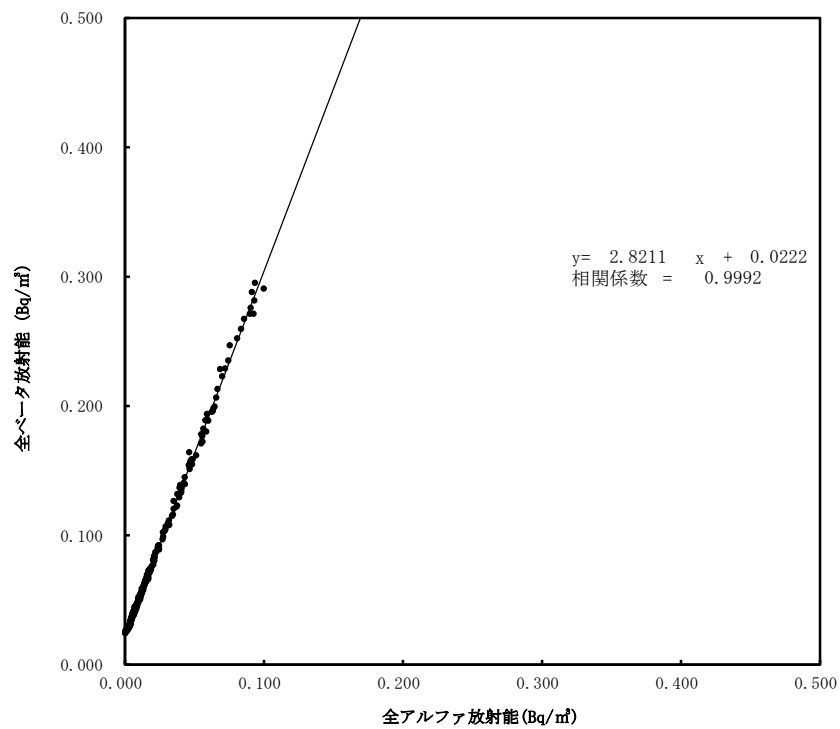
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (6時間連続集じん・6時間放置後)  
 (令和6年4月～6月)  
 (南相馬市萱浜)



大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (6時間連続集じん・6時間放置後)  
 (令和6年4月～6月)  
 (飯館村伊丹沢)



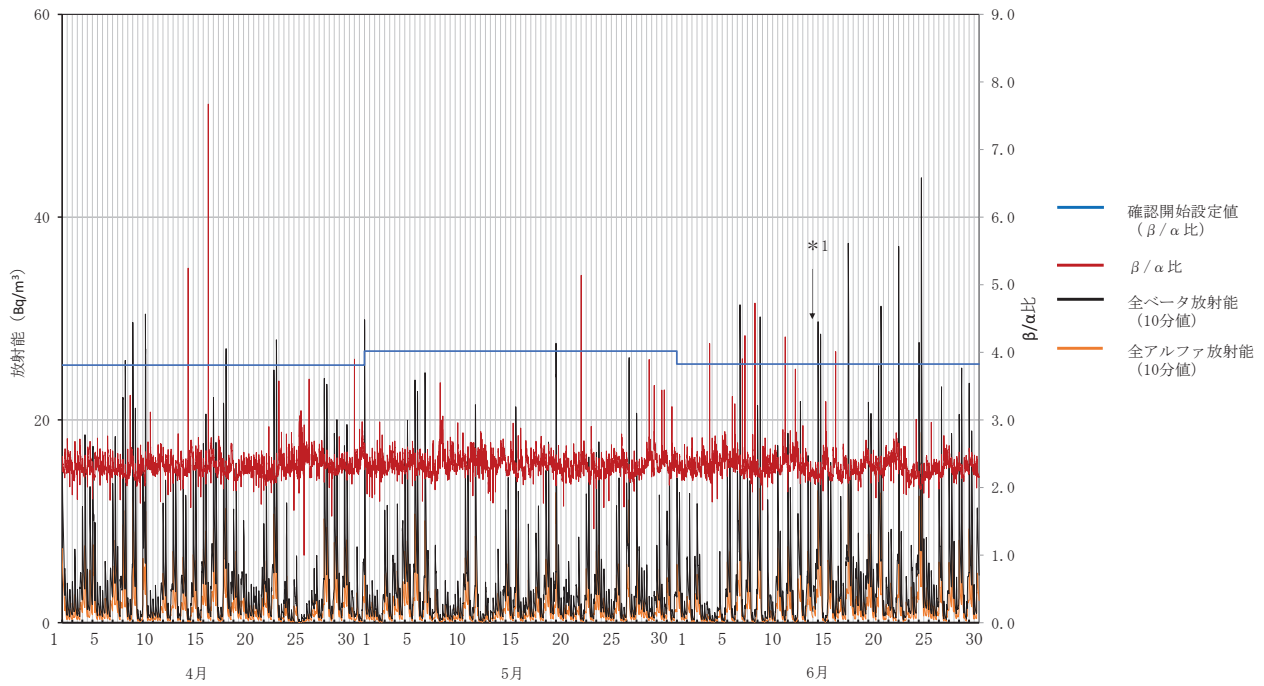
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
(6時間連続集じん・6時間放置後)  
(令和6年4月～6月)  
(川俣町山木屋)



大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移（集じん中測定）

福島県環境放射線センター

1 いわき市小川  
（令和6年4月1日～6月30日）

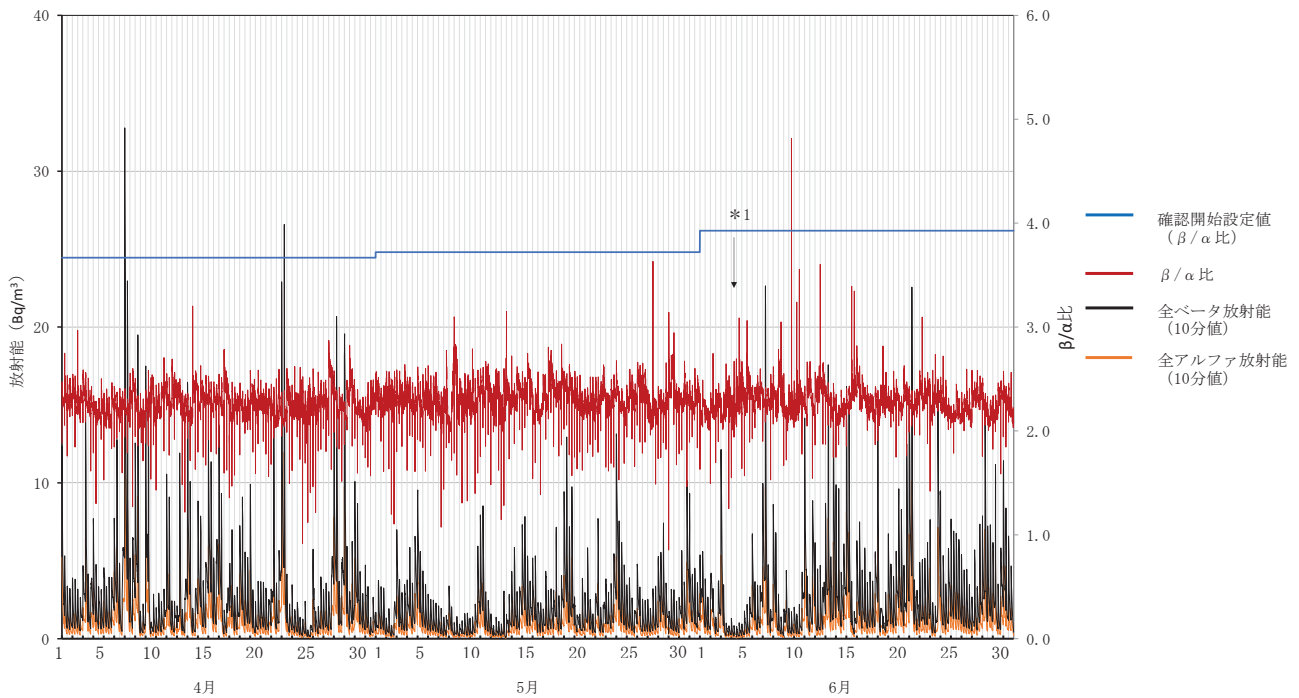


\*1 点検による欠測  
ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移（集じん中測定）

福島県環境放射線センター

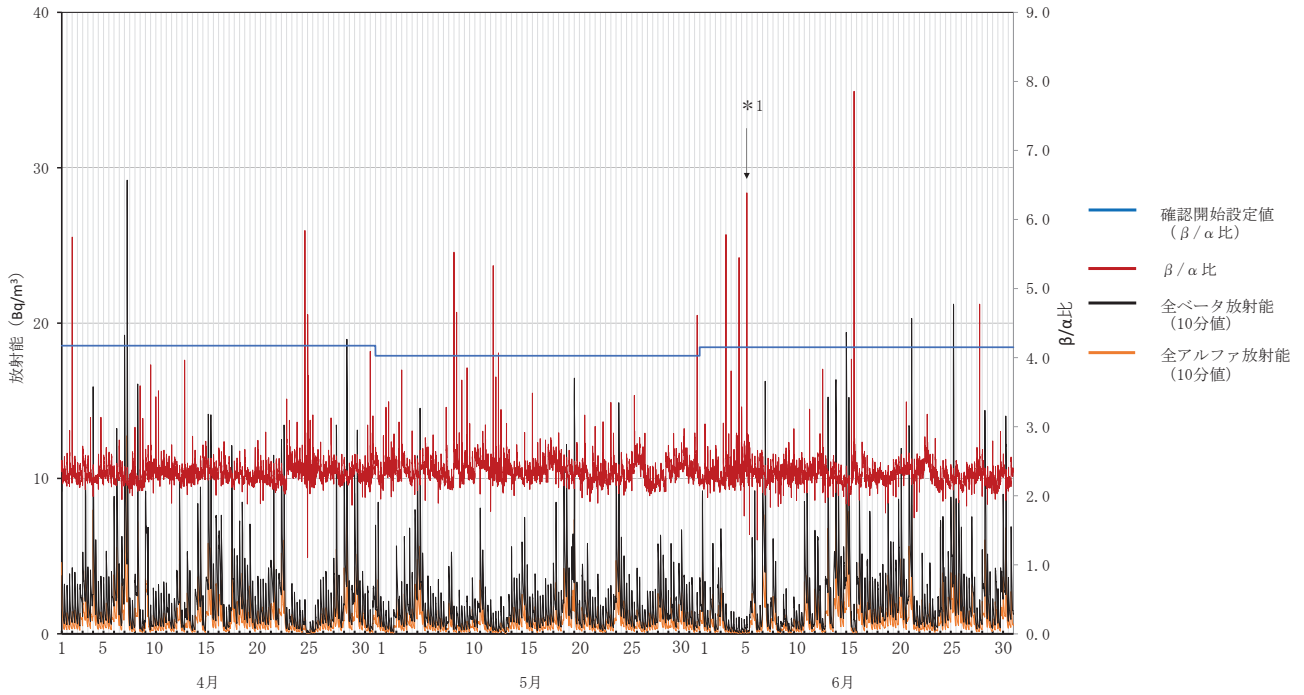
2 田村市都路馬洗戸  
（令和6年4月1日～6月30日）



\*1 点検による欠測  
ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)  
 3 広野町小滝平  
 (令和6年4月1日～6月30日)

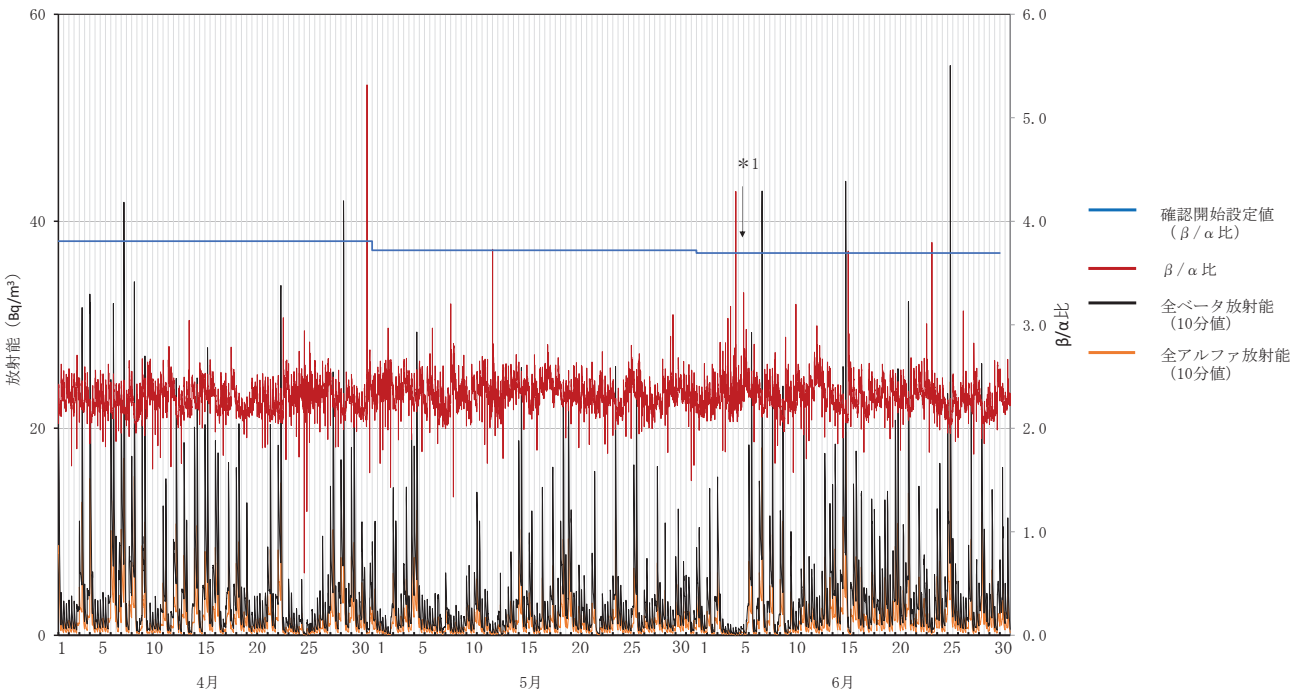
福島県環境放射線センター



\*1 点検による欠測  
 ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)  
 4 檜葉町木戸ダム  
 (令和6年4月1日～6月30日)

福島県環境放射線センター

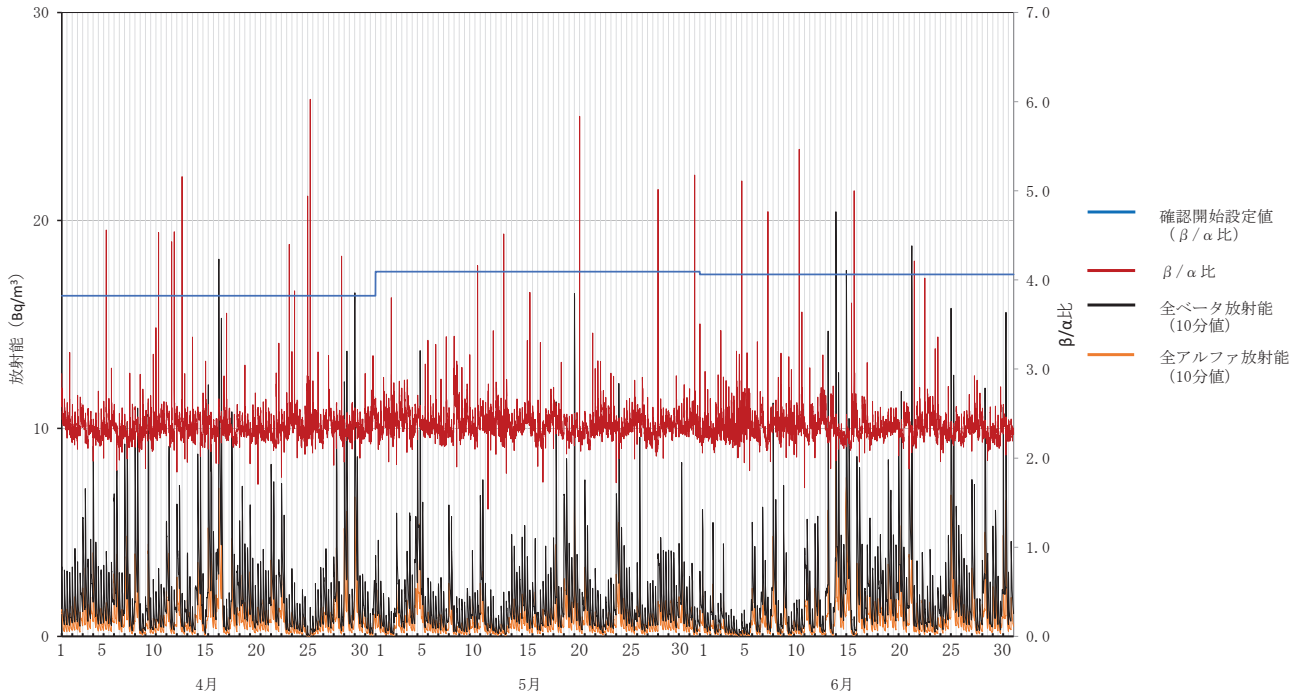


\*1 点検による欠測  
 ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの大気全アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)

福島県環境放射線センター

5 楡葉町繁岡  
(令和6年4月1日～6月30日)

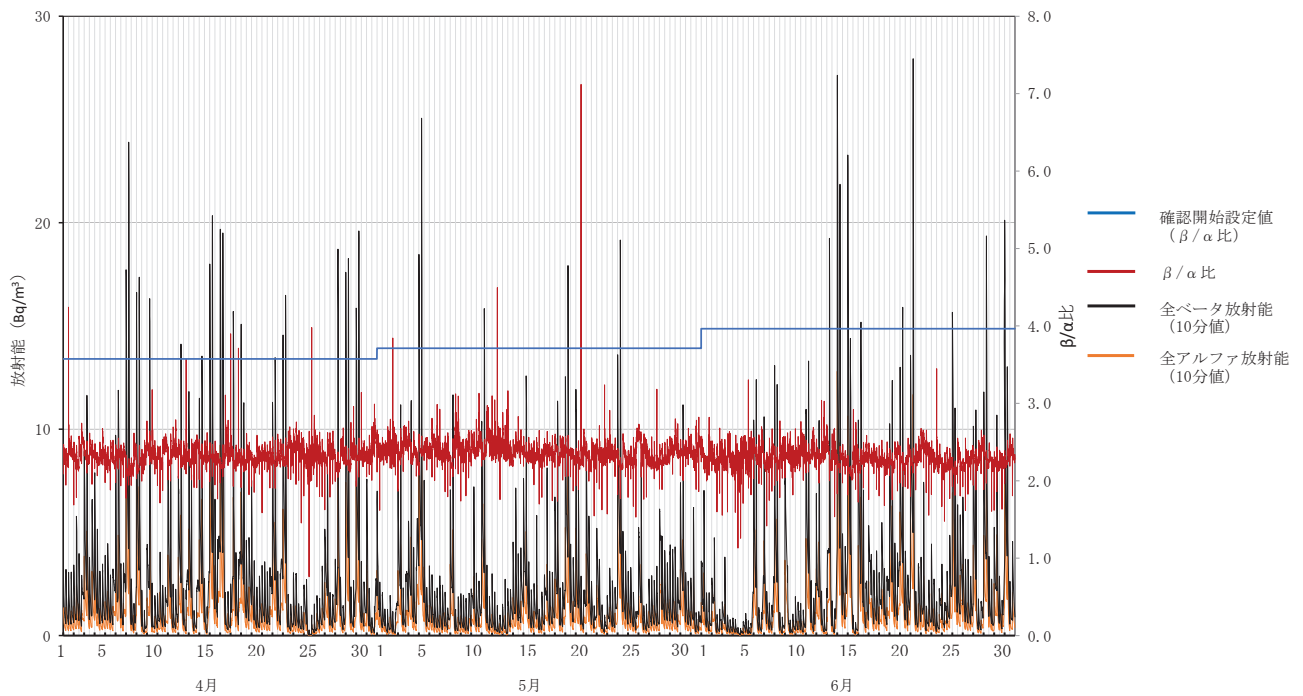


ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの大気全アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)

福島県環境放射線センター

6 富岡町富岡  
(令和6年4月1日～6月30日)



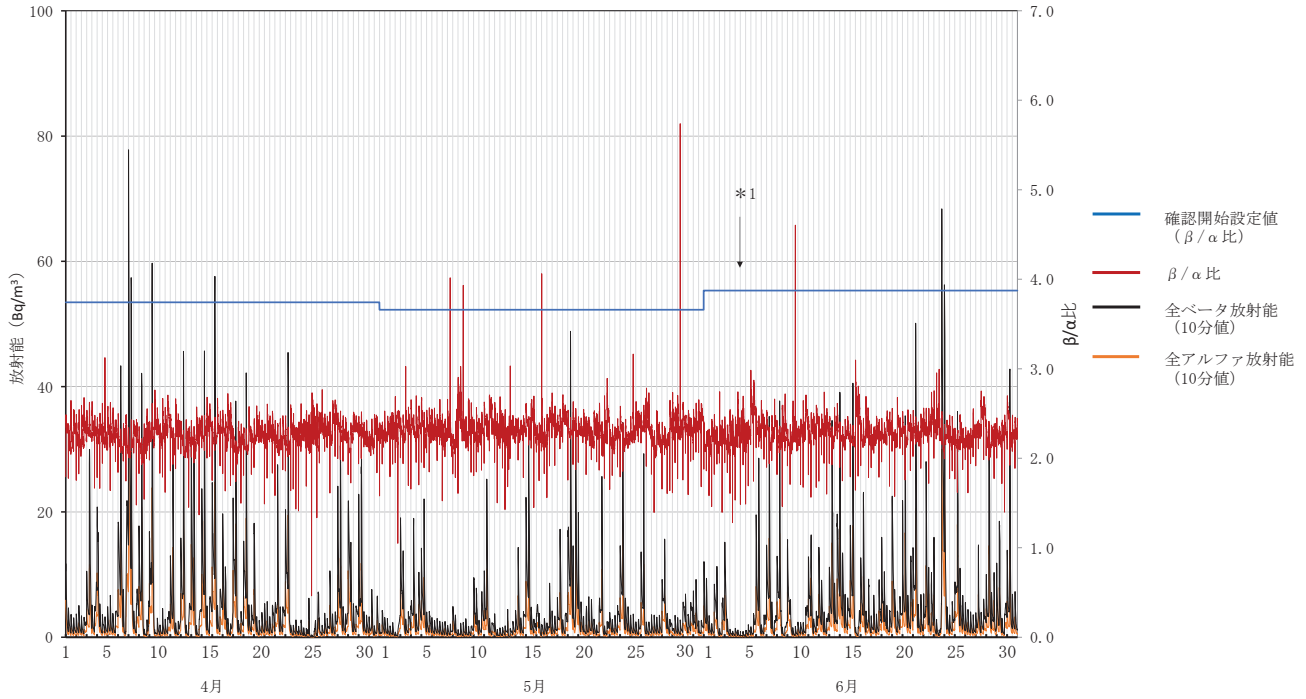
ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。



大気浮遊じんの大アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)

福島県環境放射線センター

7 川内村下川内  
(令和6年4月1日～6月30日)



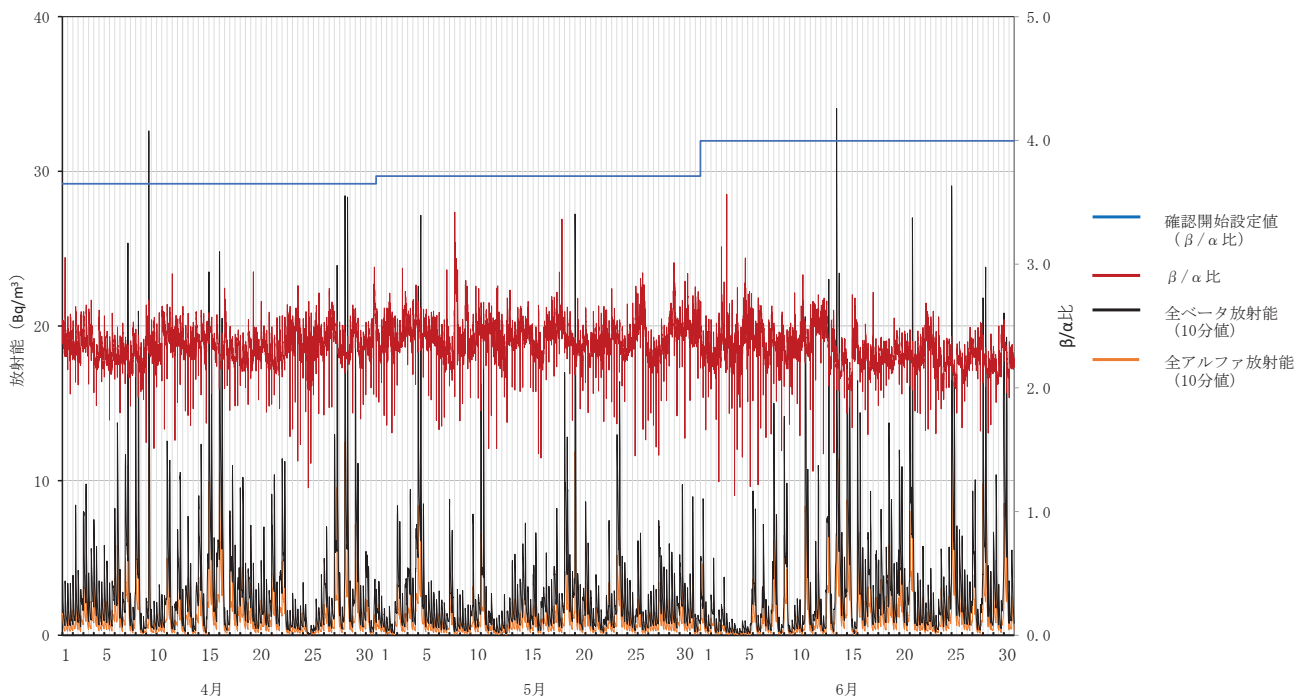
\*1 点検による欠測

ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの大アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)

福島県環境放射線センター

8 大熊町大野  
(令和6年4月1日～6月30日)

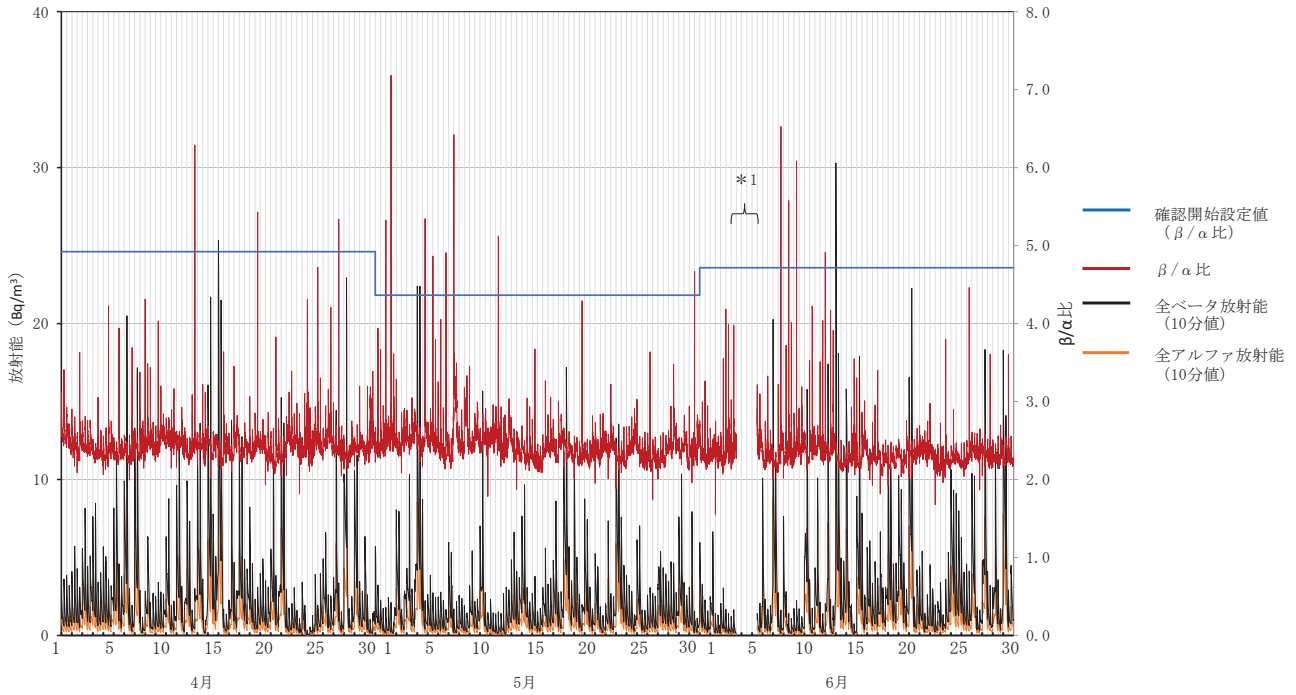


ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移（集じん中測定）

福島県環境放射線センター

9 大熊町夫沢  
(令和6年4月1日～6月30日)

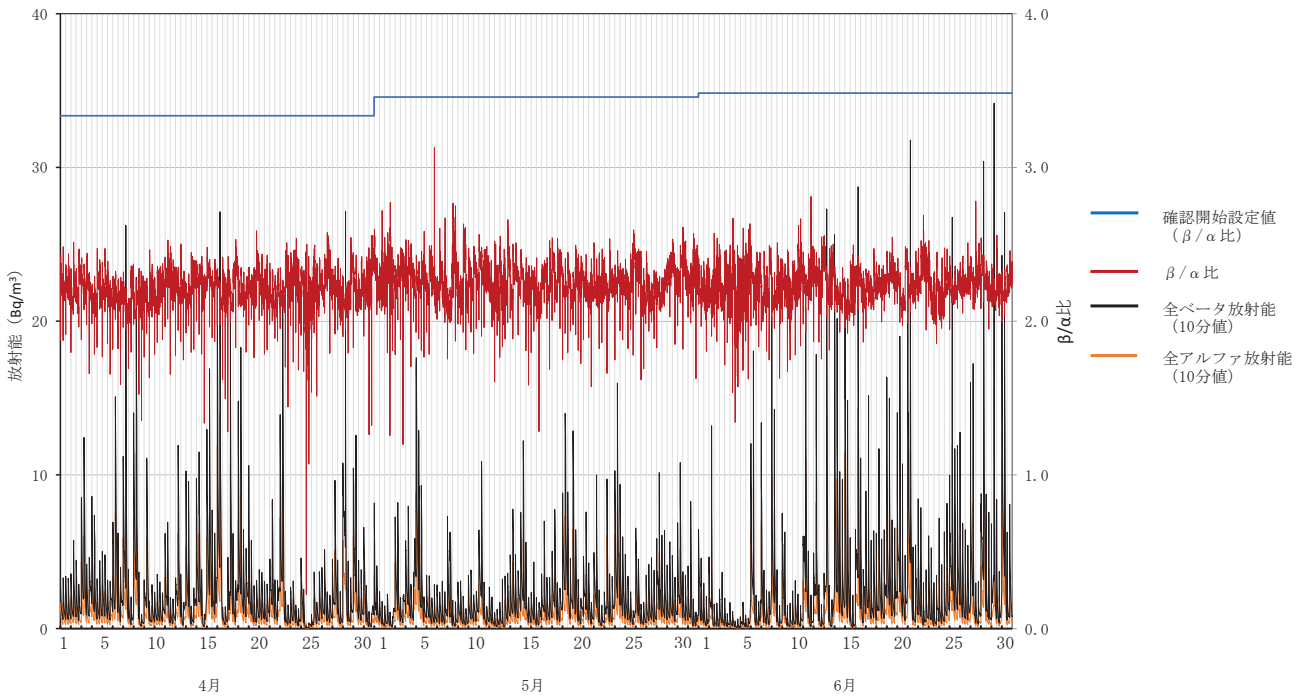


\*1 流量喪失による運転停止  
ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移（集じん中測定）

福島県環境放射線センター

10 双葉町郡山  
(令和6年4月1日～6月30日)

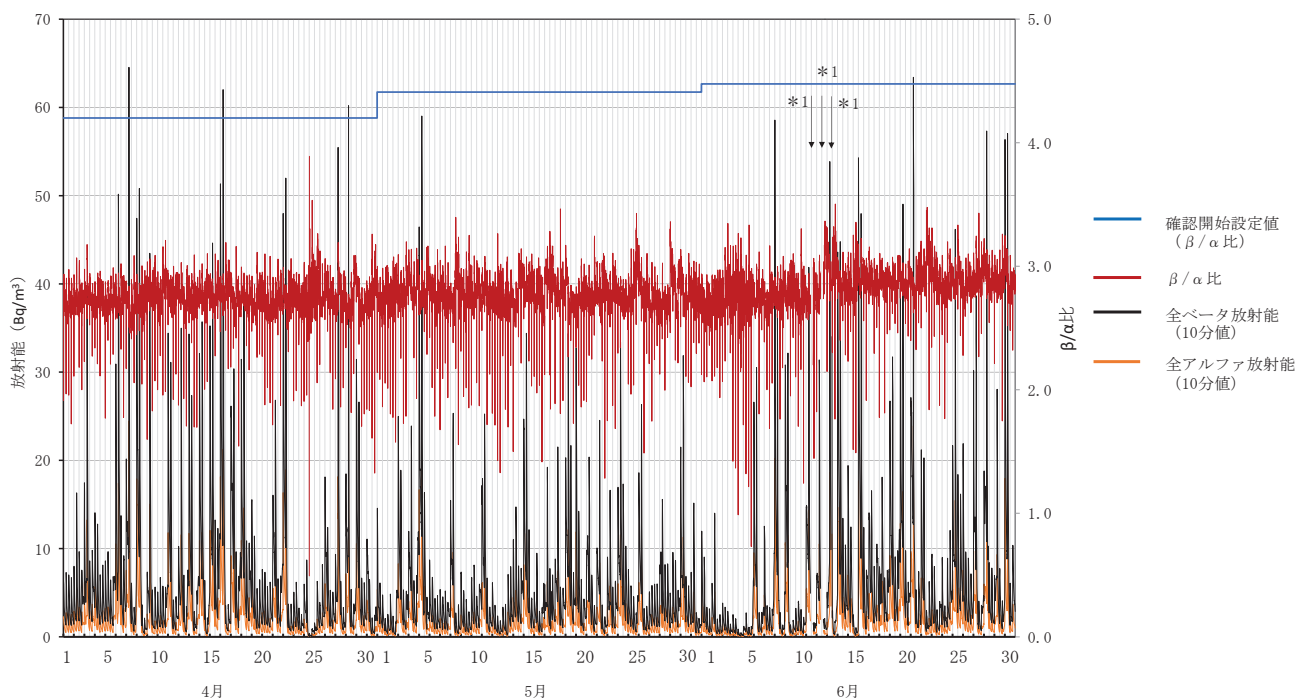


ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)

福島県環境放射線センター

11 浪江町幾世橋  
(令和6年4月1日～6月30日)

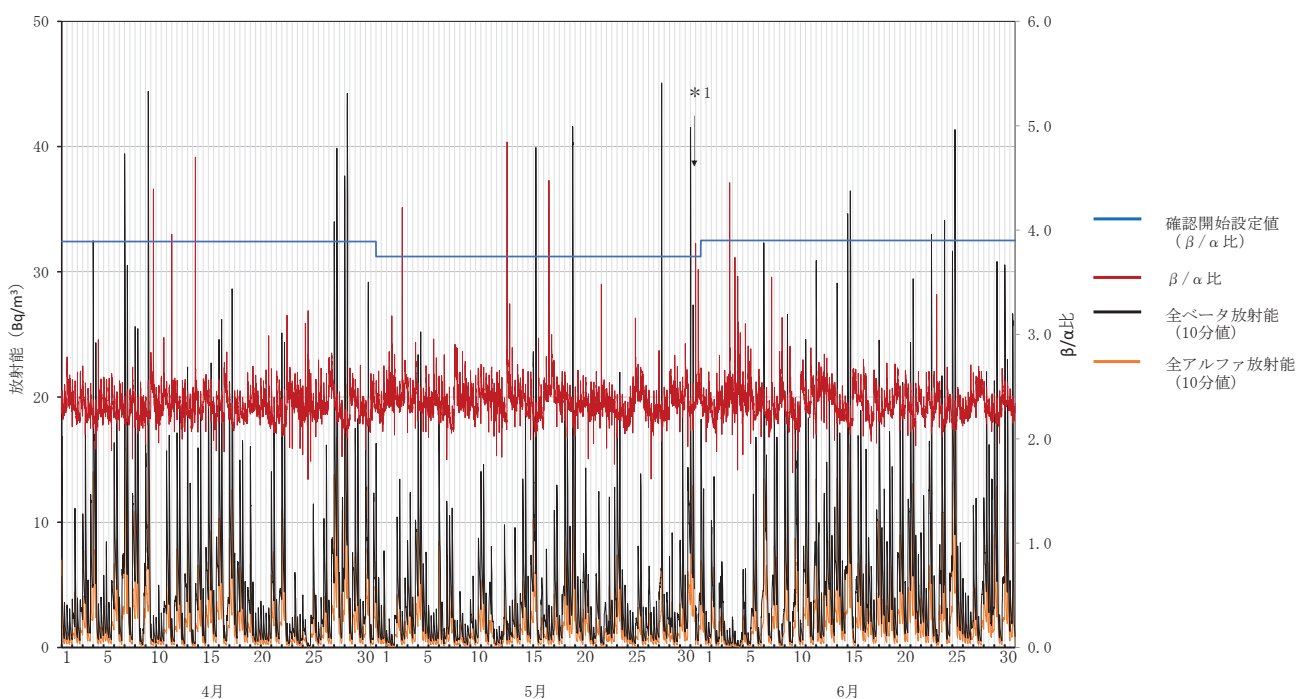


\*1 点検による欠測  
ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)

福島県環境放射線センター

12 浪江町大柿ダム  
(令和6年4月1日～6月30日)

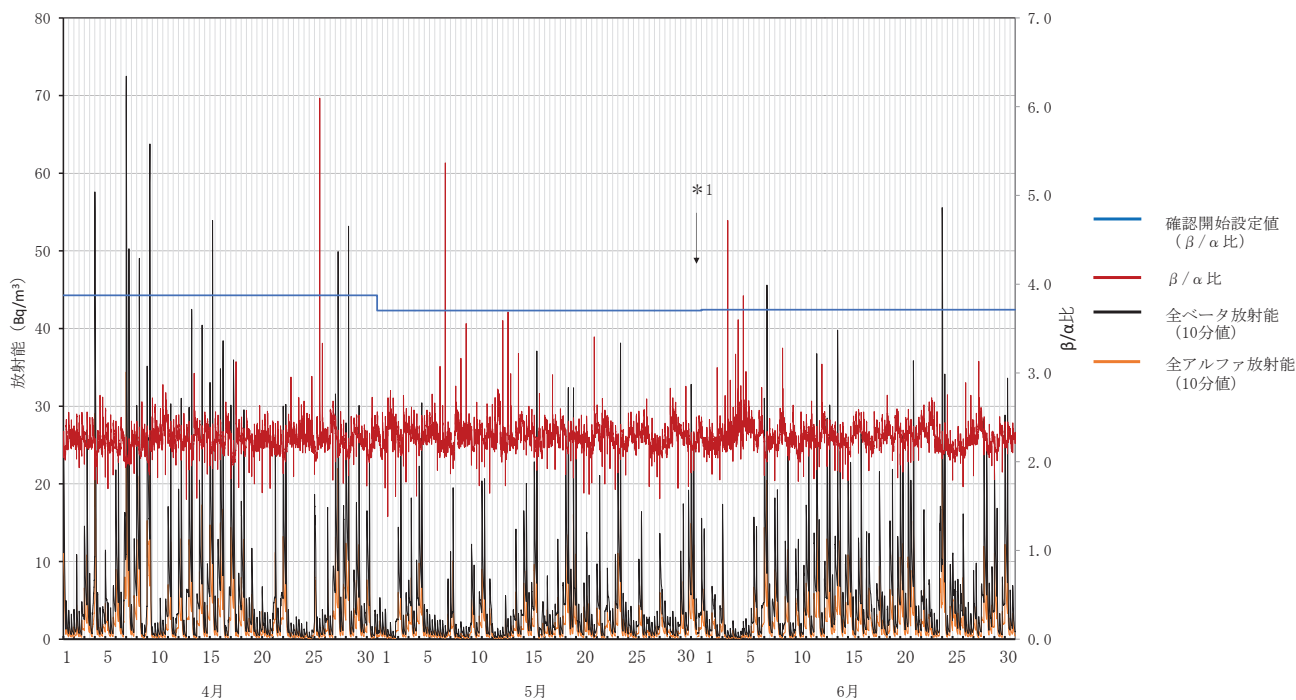


\*1 点検による欠測  
ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)

福島県環境放射線センター

13 葛尾村夏湯  
(令和6年4月1日～6月30日)

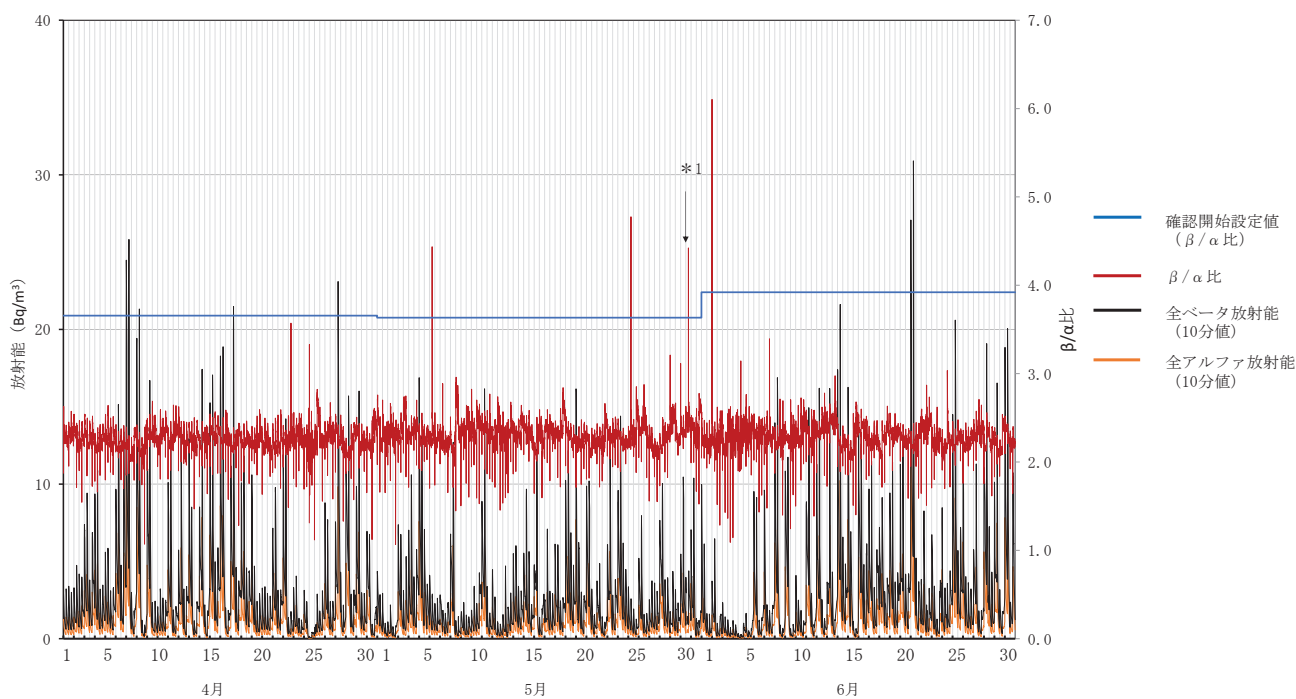


\*1 点検による欠測  
ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)

福島県環境放射線センター

14 南相馬市泉沢  
(令和6年4月1日～6月30日)

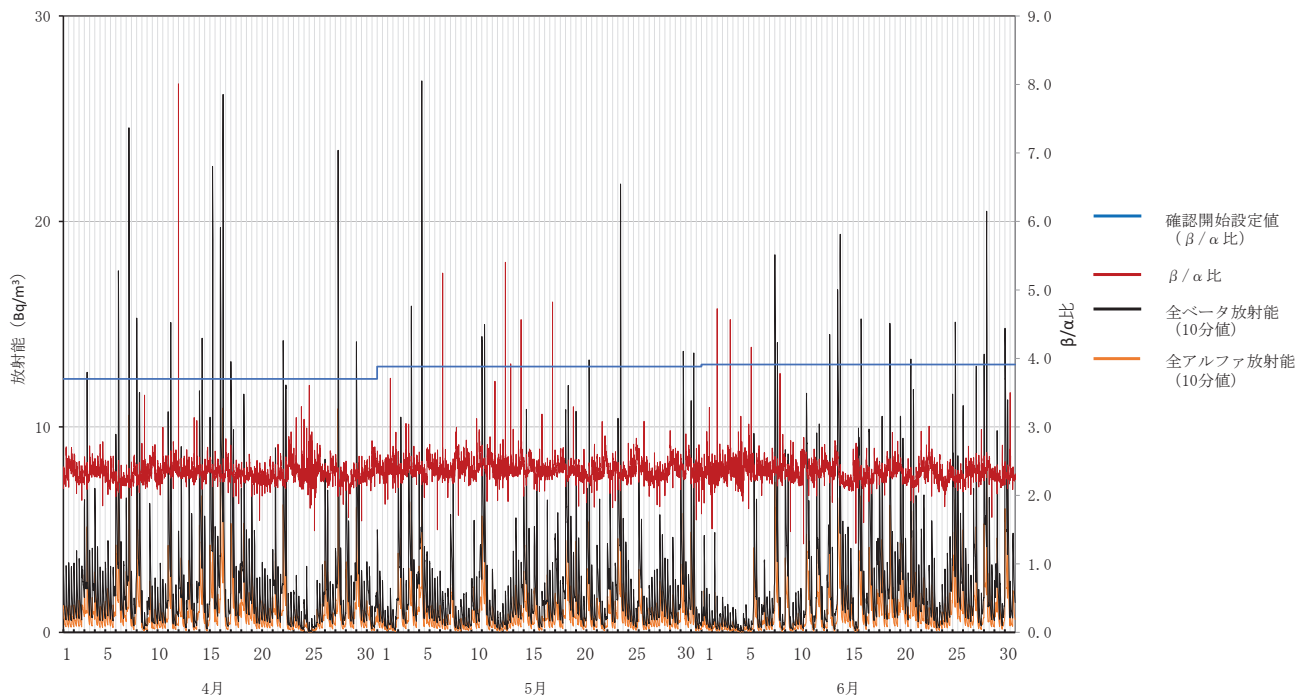


\*1 点検による欠測  
ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの大アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)

福島県環境放射線センター

15 南相馬市萱浜  
(令和6年4月1日～6月30日)

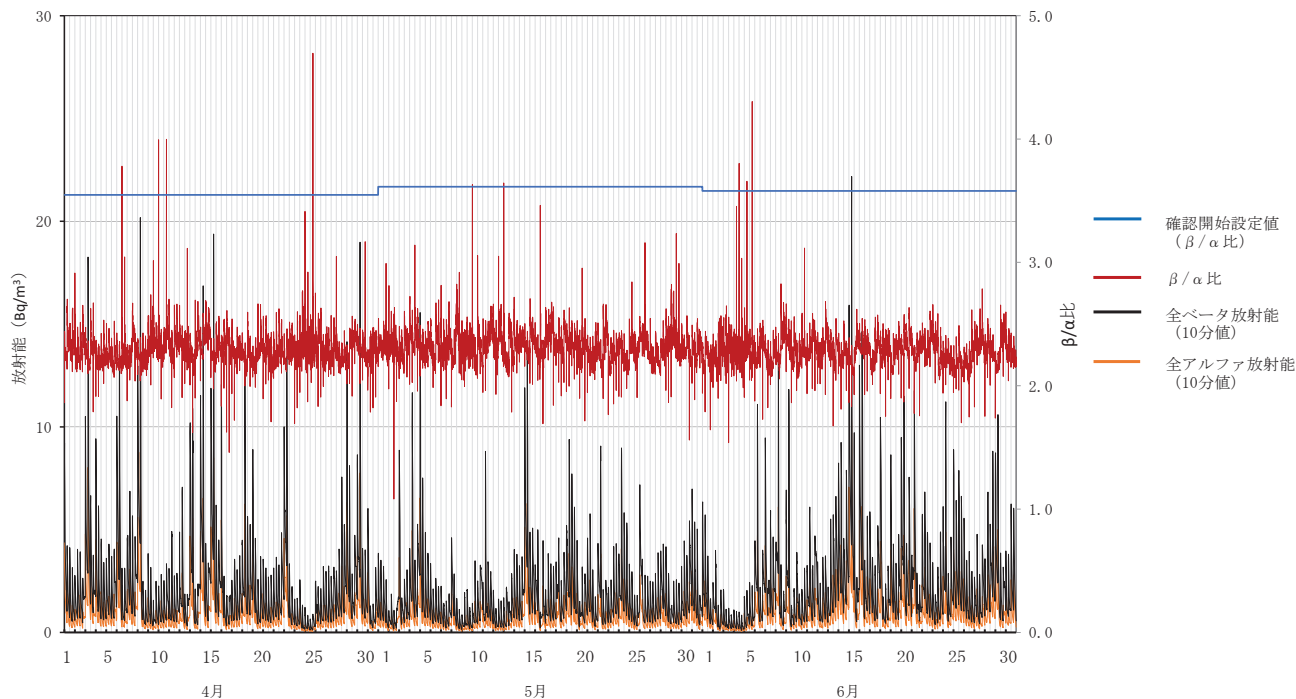


ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの大アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)

福島県環境放射線センター

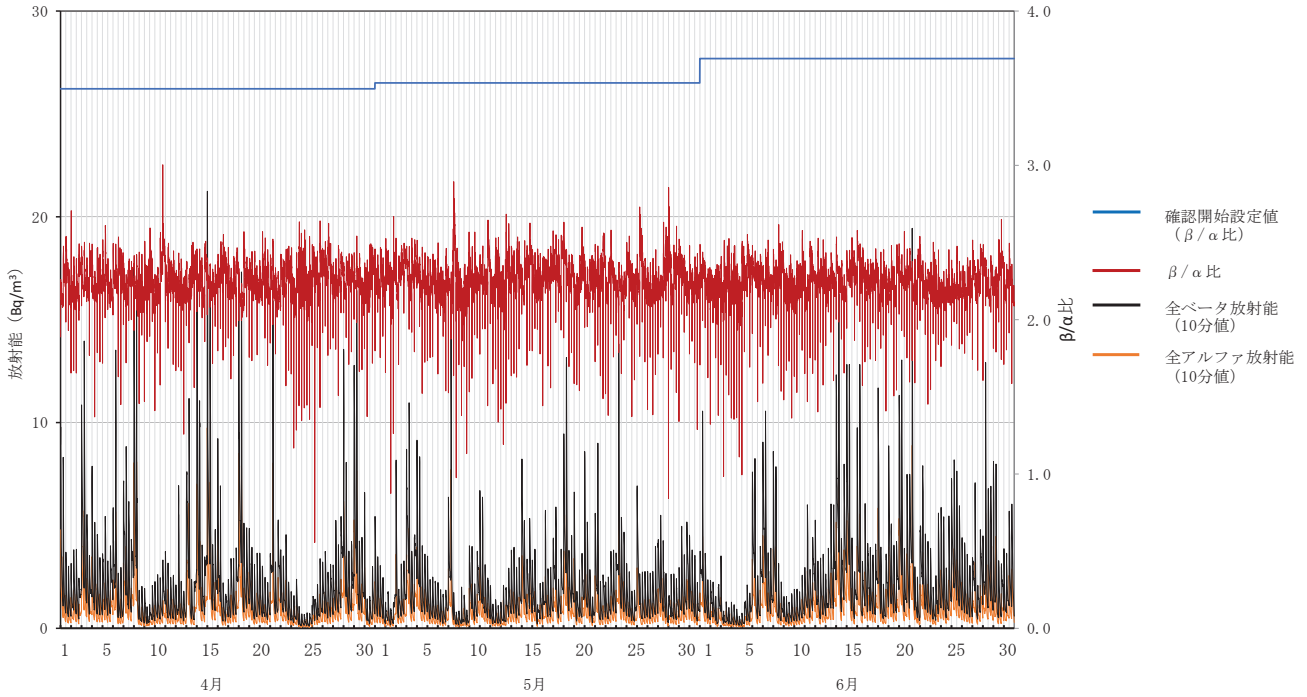
16 飯館村伊丹沢  
(令和6年4月1日～6月30日)



ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの大アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)  
 17 川俣町山木屋  
 (令和6年4月1日～6月30日)

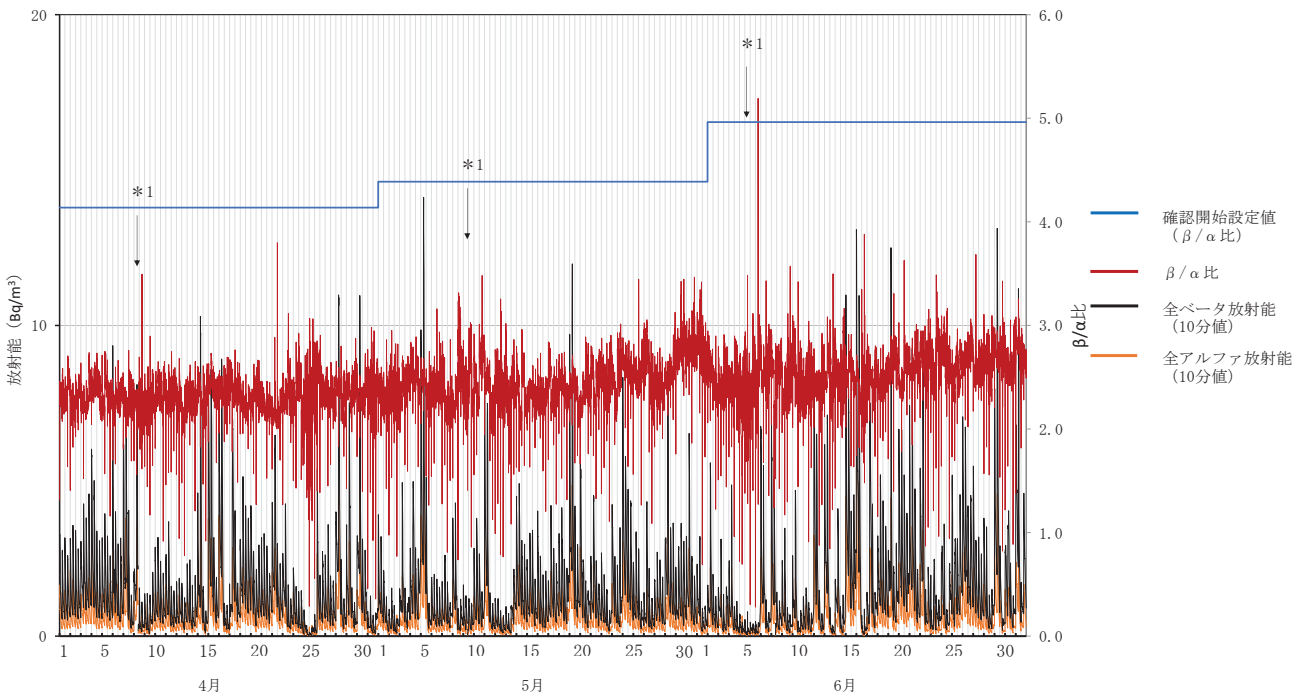
福島県環境放射線センター



ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの大アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)  
 18 いわき市久之浜  
 (令和6年4月1日～6月30日)

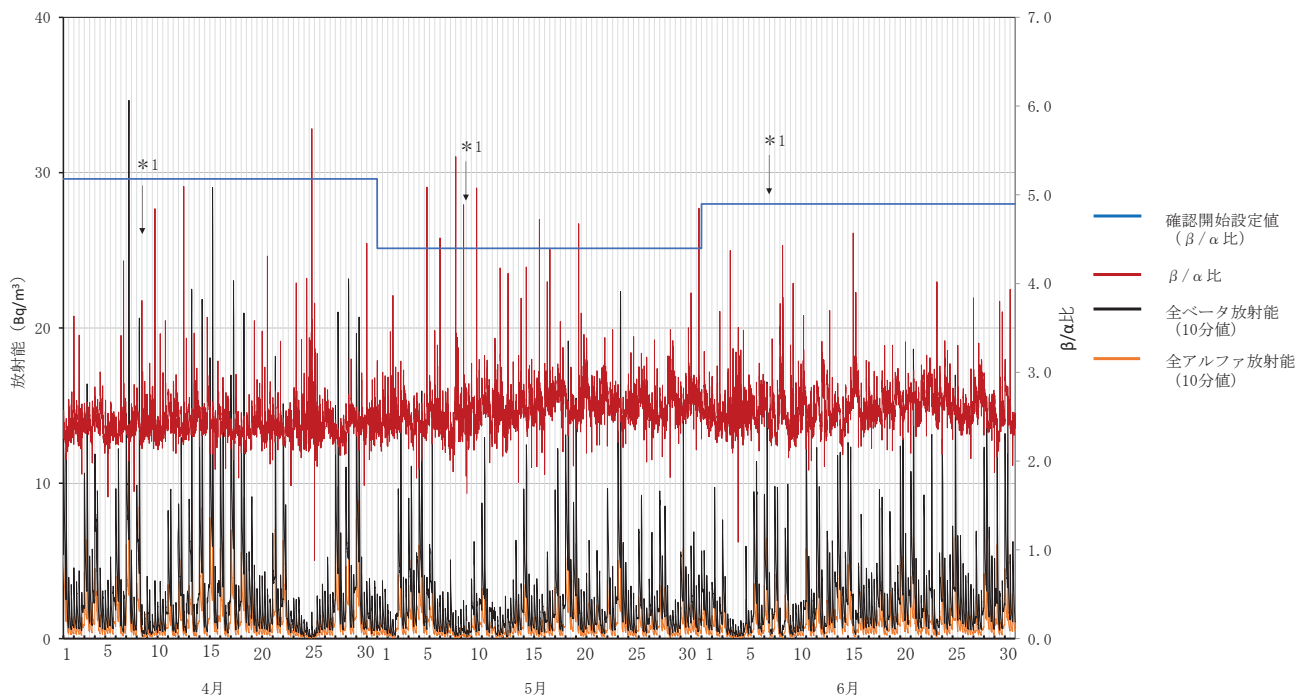
福島県環境放射線センター



\*1 点検による欠測  
 ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)  
 19 いわき市下桶売  
 (令和6年4月1日～6月30日)

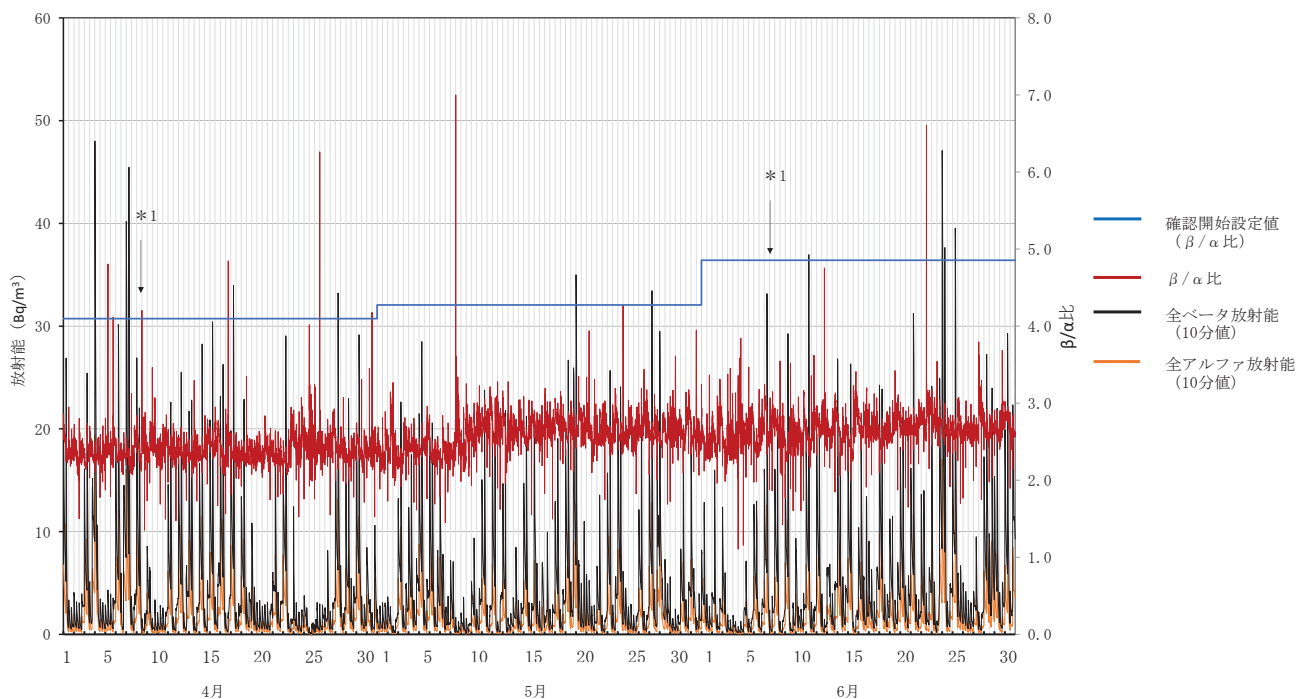
福島県環境放射線センター



\*1 点検による欠測  
 ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)  
 20 いわき市川前  
 (令和6年4月1日～6月30日)

福島県環境放射線センター

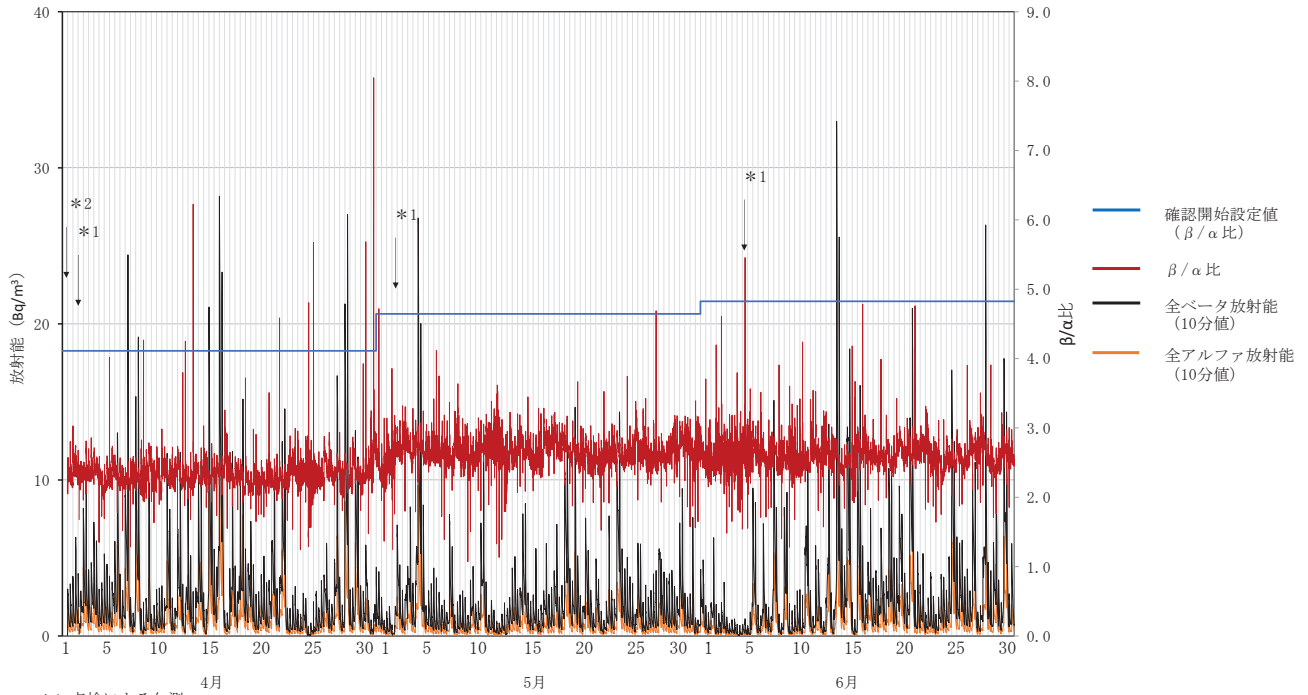


\*1 点検による欠測  
 ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。



大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)  
 21 大熊町向畑  
 (令和6年4月1日～6月30日)

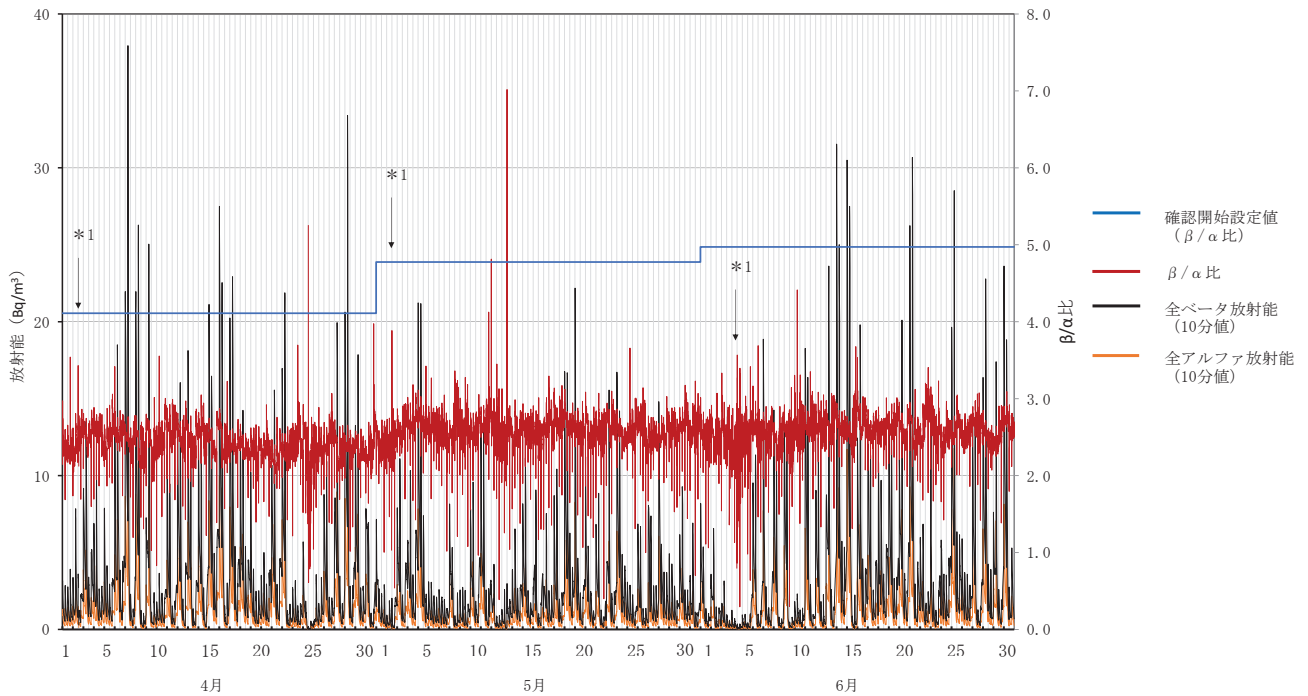
福島県環境放射線センター



\*1 点検による欠測  
 \*2 ろ紙送り不良による欠測  
 ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)  
 22 双葉町山田  
 (令和6年4月1日～6月30日)

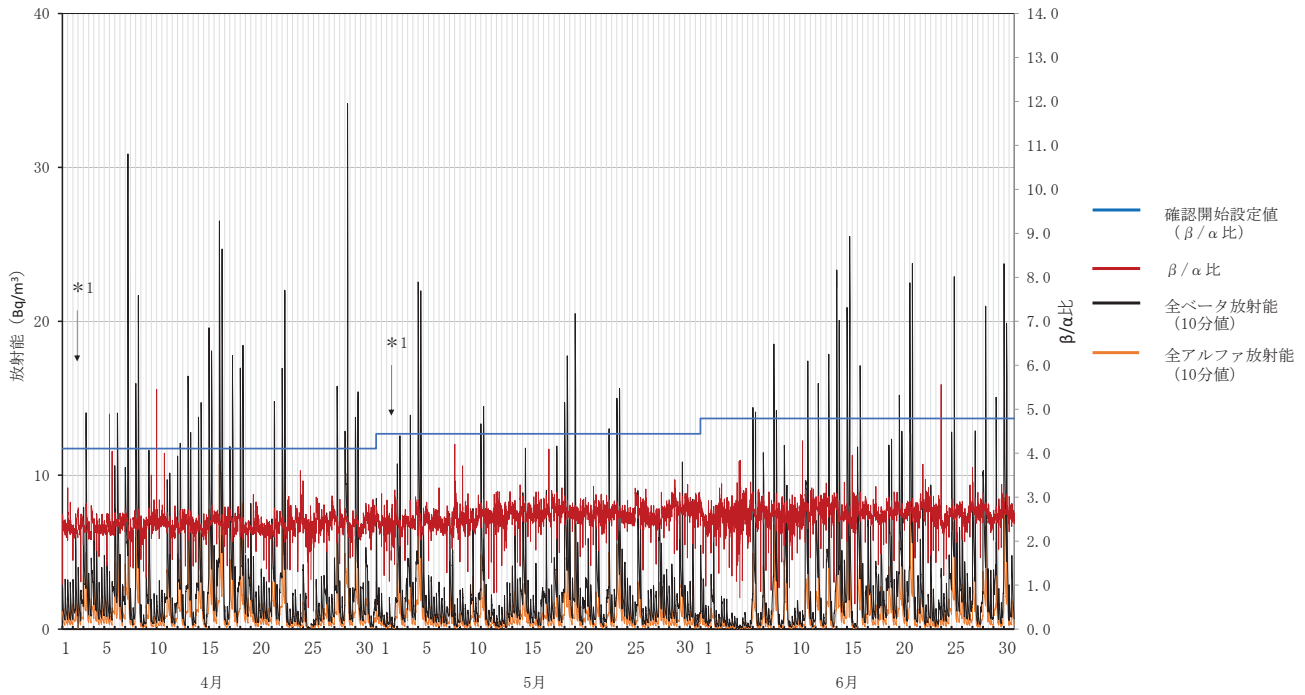
福島県環境放射線センター



\*1 点検による欠測  
 ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

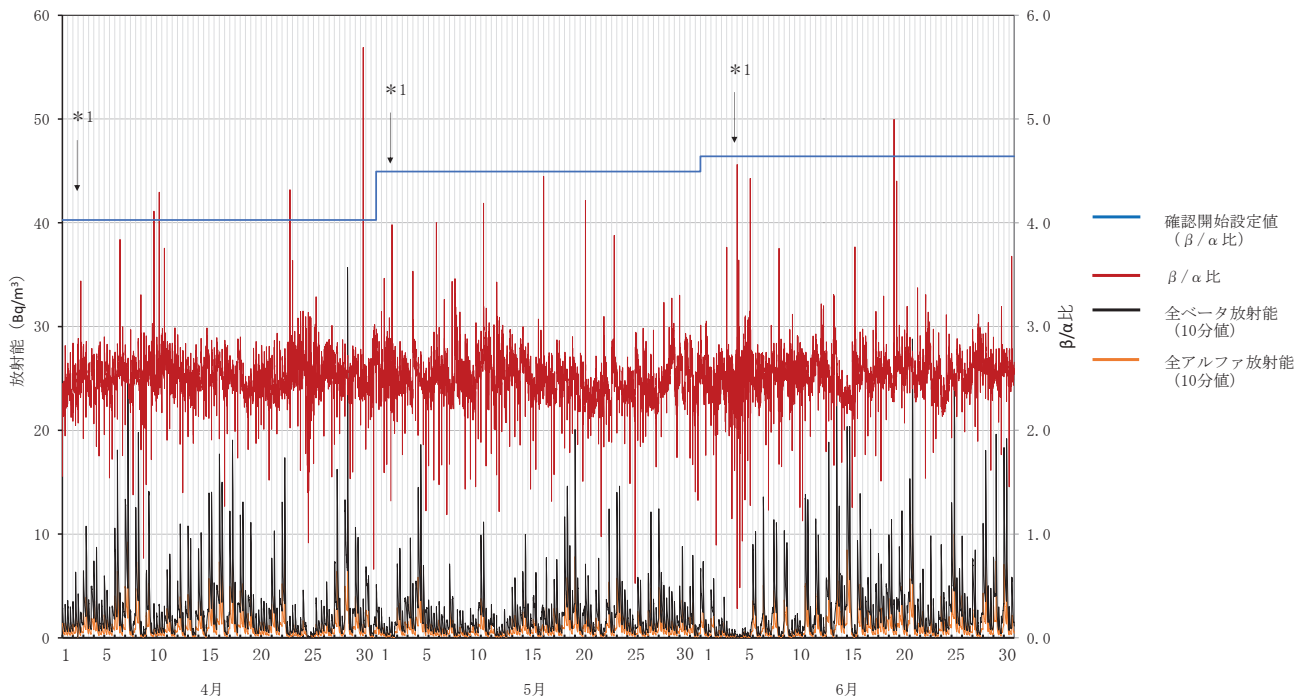


大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)  
 23 双葉町新山  
 (令和6年4月1日～6月30日)



\*1 点検による欠測  
 ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

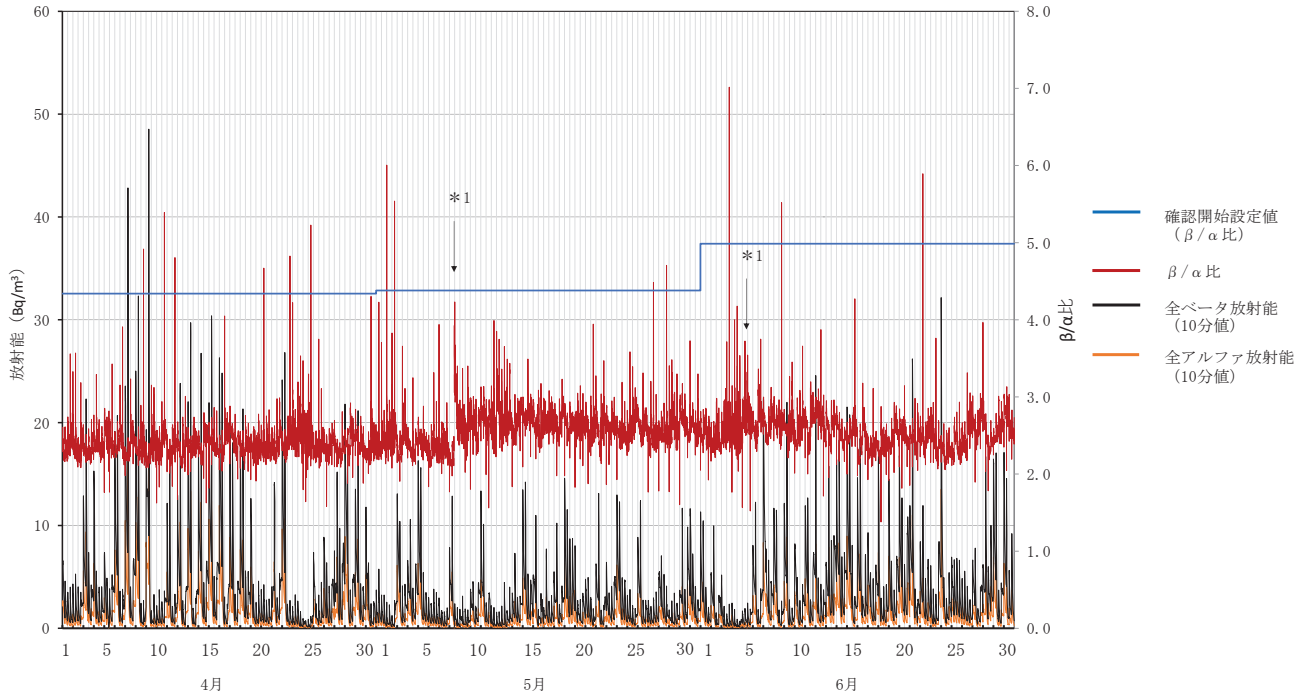
大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)  
 24 双葉町上羽鳥  
 (令和6年4月1日～6月30日)



\*1 点検による欠測  
 ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの大アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)  
 25 浪江町南津島  
 (令和6年4月1日～6月30日)

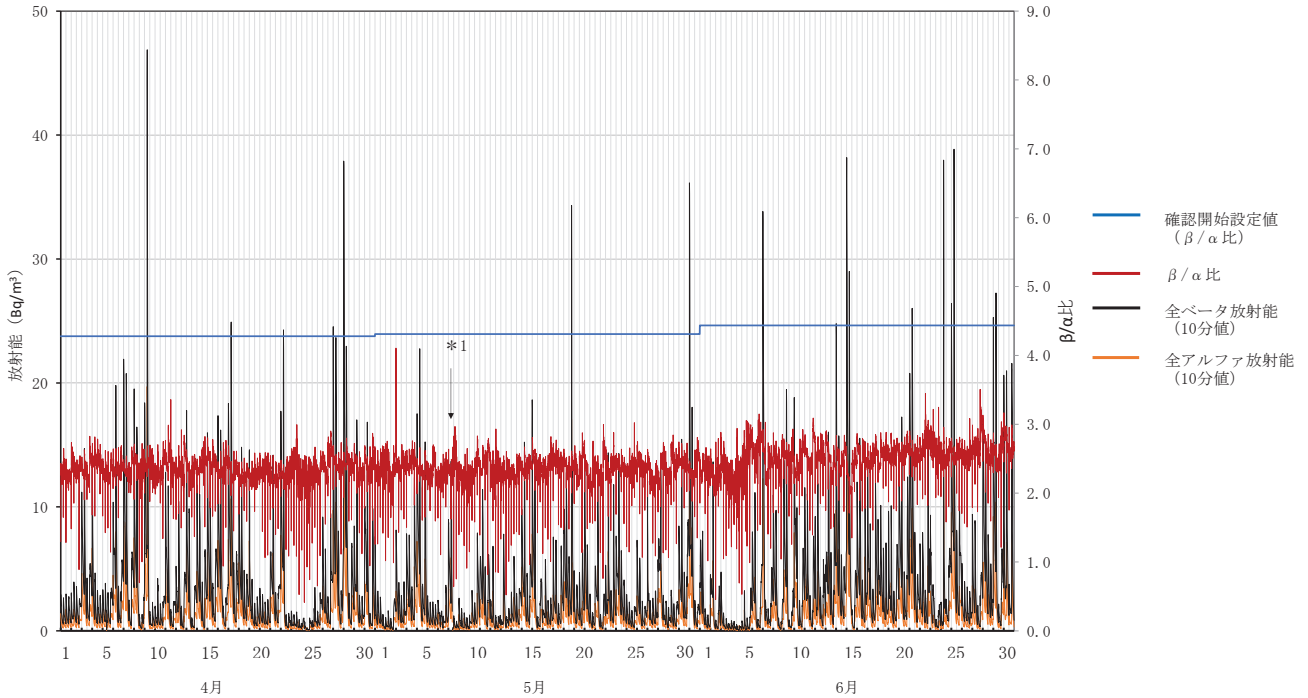
福島県環境放射線センター



\*1 点検による欠測  
 ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。

大気浮遊じんの大アルファ及び全ベータ放射能の推移 (集じん中測定)  
 26 南相馬市横川ダム  
 (令和6年4月1日～6月30日)

福島県環境放射線センター



\*1 点検による欠測  
 ろ紙送り直後は大気浮遊じんがろ紙の内部に入り込み、見かけ上相対的に全ベータ放射能が全アルファ放射能に比べて高くなり、 $\beta/\alpha$ 比が高く算出される場合があること、また、放射能濃度が低いことにより $\beta/\alpha$ 比のばらつきが大きくなる場合があるとされています。